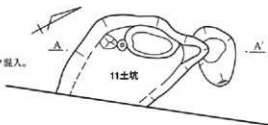
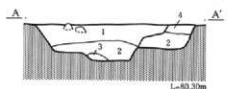


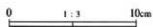
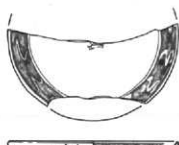
1. 黒褐色土 砂質土。軽石を含む。炭化物をごく微量に含む。(4号溝フク土)
2. 灰黄褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。黄褐色土ブロック混入。
3. にぶい黄褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。黄褐色土粒混入。
4. 褐灰色土 砂質土。軽石・炭化物をごく微量に含む。
5. 褐色土 砂質土。川砂を多く含む。暗褐色土粒質土混入。F P 配流ブロック混入。
6. 暗褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。F P 配流ブロック混入。
7. 灰黄褐色土 砂質土。川砂が混入。軽石を微量に含む。



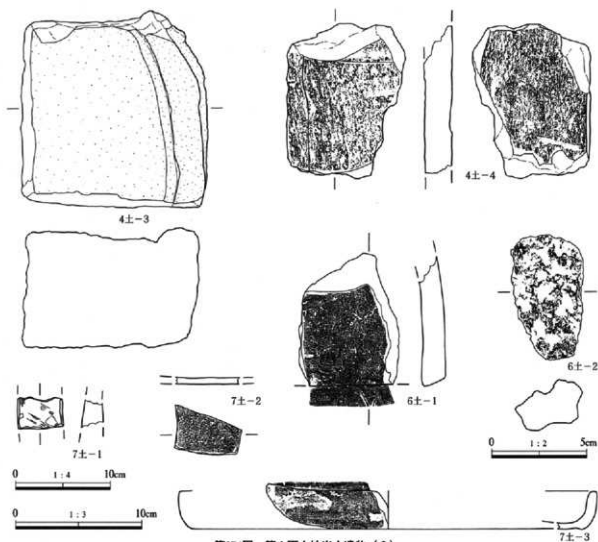
1. 灰黄褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。



1. 黒褐色土 砂質土。礫混じる。軽石を微量に含む。
2. 灰黄褐色土 砂質土。暗褐色土が混入。軽石を微量に含む。
3. にぶい黄褐色土 砂質土。暗褐色土がブロック状に混入。
4. 褐灰色土 砂質土。粒子細かい。軽石を微量に含む。礫を含む。(29号ピットフク土)



第273図 第1面土坑(3)・土坑出土遺物(1)



第274図 第1面土坑出土遺物(2)

第1面 土坑出土遺物観察表(第273・274図、PL121)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
3土	磁器	フク土	①-②-③(3.1)	磁物見えず。重。締。還元。灰白色。	外面に、ヘロ産による染付施文あり。薄作。割れ口シャープ。19世紀。肥前系。
1	染付小坏	口縁部片			
4土	磁器、青磁	-2	①(12.0)②-③(2.8)	磁物見えず。重。締。還元。胎土淡々灰色。緑灰	口縁部に桜花の刻目あり。単位不明。青磁物は厚くなく暗い胎手の発色。貫入有。葉口傾向。使用側破。割れ口シャープ
1	磁轆花	口縁部片			
4土	磁器	+5	①(6.8)②(7.6)	磁物見えず。重。締。還元。灰白色。	内外面に染付。墨はじき施文あり。割れ口シャープ。18世紀後半。肥前系。
2	染付皿	1/3	③(2.9)		
4土	石製品	+9	長さ(20.5)cm、幅(20.0)cm、厚さ12.7cm。		緩やかなカーブの縁に一段下がつて塔身部。
3	石塔	破片	重さ7.4kg	石材：粗粒舞石安山岩	
4土	石製品	+9	長(16.2)、幅12.5、厚3.0、重(1.0)kg		背面ノミ痕僅かに見られる。
4	板碑	破片	石材：緑色片岩		
6土	瓦	フク土	長さ一、幅(10.2)	黒・白色磁物産。並。還元と明焼。黄灰色。	断面に雲母粒らしき磁物見える。割れ口消耗大。19・20世紀。群馬・埼玉。
1	椀瓦	破片	厚さ(1.9)		
6土	生産関連	フク土	長(6.8)、幅3.9cm、厚(2.7)cm、重80.8g		胎時欠損。意識的かやや重い。酸化の進行少。両平面側は裏面。裏面に炉底痕あり。後形洋。鍛冶洋。18世紀以前。
2	鉄洋				
7土	石製品	フク土	長一、幅3.7cm、厚2.4cm、重(23.3)g		砥石域。中砥級。器表面黒ずむ。割れ口胎時欠損で消耗あり。使用は、表・裏・側部の4面。
1	砥石	破片			
2	軟質陶器	+7	①-②-③-	黒・白磁物含。軟。酸。酸化。にぶい橙色。	7土-3と同一個体か?
1	底部片				
7土	軟質陶器	フク土	①(32.8)②(31.0)	黒・白色磁物含。軟。酸。酸化。橙色。	底面型肌様と砂付面。若干僅かか。内外面横溝で。割れ口消耗あり。19世紀。小泉焼。
3	焙烙	口~底部片	③3.0		

5) 井戸

調査区内で7基の井戸を検出した。4号井戸のように近現代の遺構も含まれる。各井戸とも散在し、家屋敷等の関係はわからない。

1号井戸(第275図、PL92)は、14号・15号溝と7号溝に挟まれ、7号溝を掘り込み作られている。掘り方は平面隅丸方形形状を呈し、80cm程全体を掘り下げ後、中央部を1m程の方形に掘り下げ始め、下方は円形に掘り下げている。

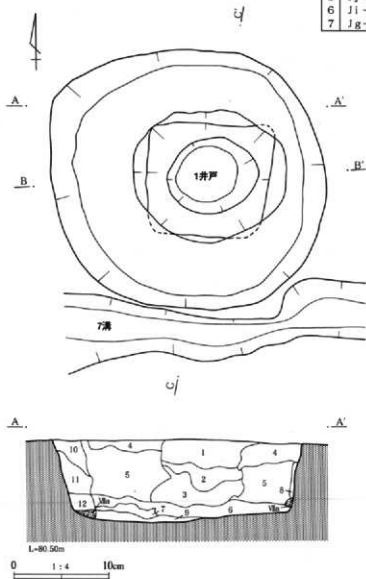
2号井戸(第277図、PL92)は、調査区北西端部で検出し、1号溝を掘り込む。井戸掘削はまず1号井

戸同様に全体を40cm前後掘り下げ、中央部を径1m程の円形状に更に掘り下げている。

3号井戸(第278図、PL92)は調査区南西端部で検出し、この周辺は遺構が希薄である。平面は円形を呈し、深さは2号井戸と同様であることから、他の2基の井戸と異なりテラスを設けず直接底面まで掘削している。

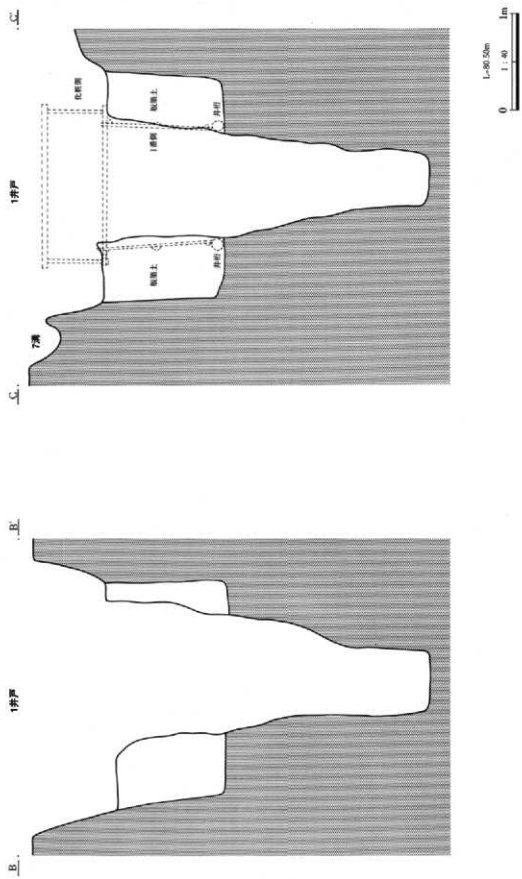
表81 第1面井戸計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
1	Ji-72	316	278	420	円形	N-58°-W
2	Jk-69	200	194	261	円形	N-60°-E
3	Je-79	114	108	252	円形	N-36°-W
4	Jj-70	186	166	316	円形	N-42°-W
5	Jj-71	202	186	264	円形	N-43°-E
6	Ji-78	176	102	262	橢円形	N-0°
7	Jg-78	242	(176)	234	橢円形	N-6°-W

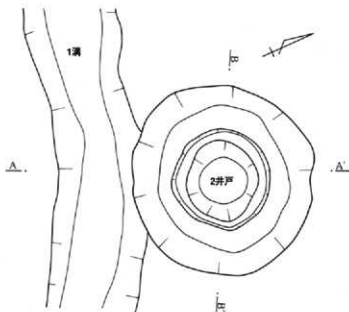


1. 黒褐色土 白色軽石小ブロック含む。
 2. 灰褐色土 小石含む。FP配流ブロック含む。
 3. 暗灰黄色土 小石・FP配流・粘質土ブロック含む。
 4. にぶい黄褐色土 白色軽石・黒色粘土ブロック多く含む。FP配流小ブロック含む。
 5. 灰黄褐色土 白色軽石・黒色粘土・FP配流ブロック・小石含む。
 6. 暗灰黄色土 粘土ブロック混じり。白色軽石層かに含む。
 7. 黒褐色土 粘土ブロック主体。
 8. オリーブ褐色砂層
 9. 灰黄褐色土 砂質土。夾雑物少ない。
 10. 灰黄褐色土 砂質土。白色軽石層かに含む。
 11. 灰黄褐色砂層
 12. 暗灰黄色砂層 FP配流ブロック含む。
- * VIIa層は、基本土層参照。

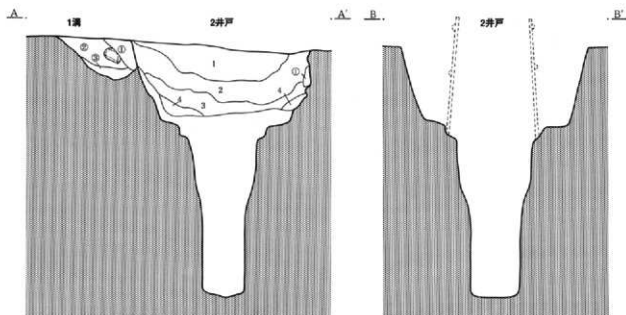
第275図 第1面1号井戸



第276号 井1号井筒断面图



1. オリーブ砂層 均一の砂層である。
2. 灰オリーブ砂層 若干の白色軽石を含む。
3. 灰オリーブ砂層 土が陥状に入る。
4. 褐色土 固くしまった粘土質の帯びた土。
- ① 灰オリーブ土 砂と土の混土。白色軽石も若干含まれる。
- ② 灰オリーブ砂層 大きな礫を含む砂層。
- ③ 灰オリーブ砂層 礫含まず。



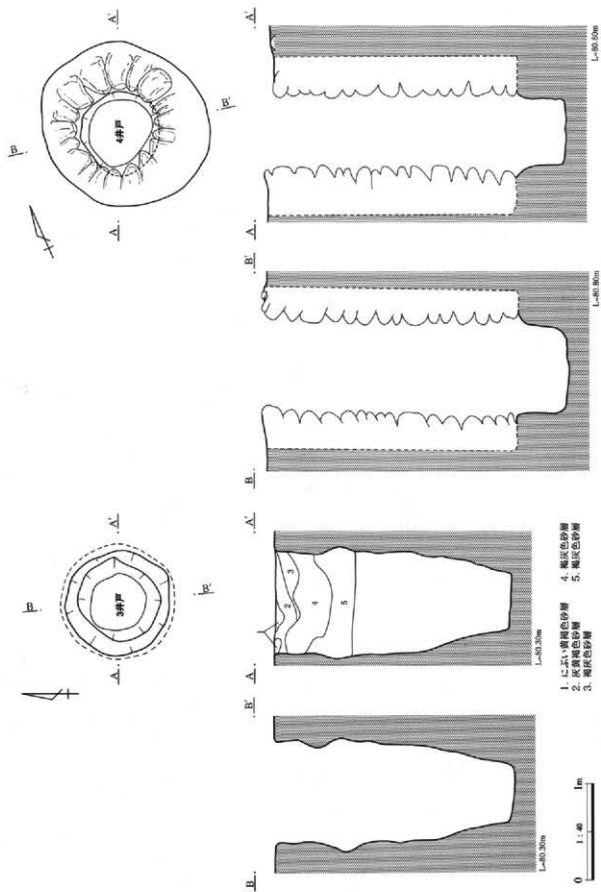
第277図 第1面 2号井戸

4号井戸（第278図、PL92）は、近現代の石組み井戸である。径1.8m程の円形の掘り方に石を組み上げ、井戸底は径70cm程掘られる。

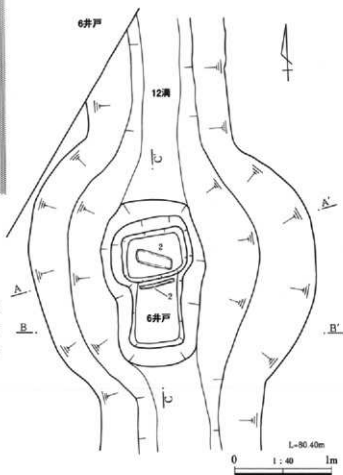
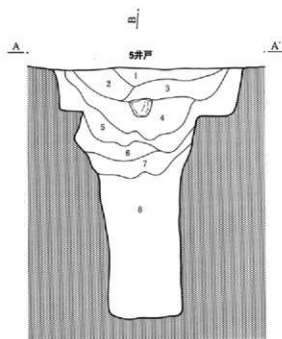
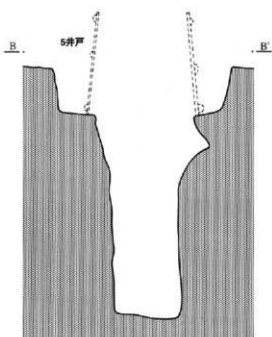
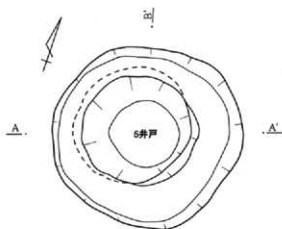
5号井戸（第279図、PL92）は、5号溝及び15号溝の中間で検出された。1号・2号井戸同様テラス状に一段掘り下げられ、中央を径1m程の大きさと、2.1mの深さに掘り下げている。

6号井戸（第279図、PL92）は、調査区北西端部で12号溝調査時に確認した。井戸下方の掘り込みは、

12号溝の底面を更に掘り込むような一致を見せる。中心部は50×70cmの長方形状を呈し、直交方向に同規模の一段上がったテラス状の掘り込みが付く。この井戸内より板碑が投げ込まれた状態で出土した。7号井戸（第281図）は、12号溝中央西側において溝に切れられ検出した。掘り込みは円形であるが、下部は方形に掘り込まれている。掘り方は他井戸同様に寺来性の掘り込みを一段設け、その中央部を更に掘り下げている。

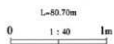
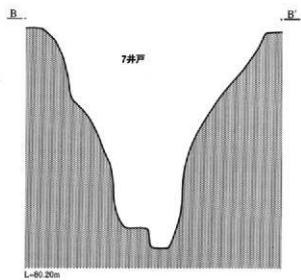
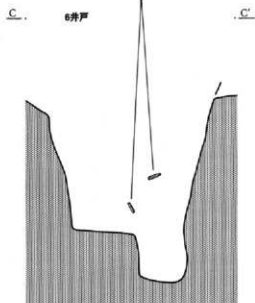
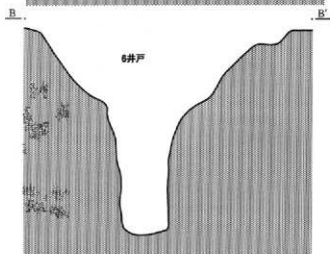
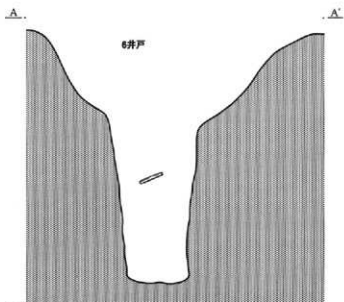


第278図 第1面井戸(1)

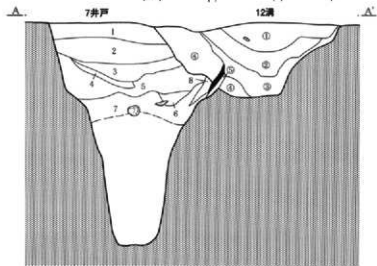
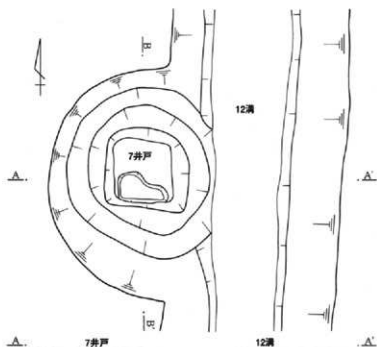


1. にぶい黄褐色土 軽石・炭化物をこく微量に含む。黄褐色土が混入。
2. 灰黄褐色土 砂質土。暗褐色土ブロック・軽石をこく微量に含む。黄褐色土が混入。
3. にぶい黄褐色土 砂質土。黄褐色土が混入。炭化物をこく微量に含む。
4. 灰黄褐色土 黄褐色土ブロック・黒褐色土粒混入。
5. 褐色土 川砂。粘性土ブロック混入。鉄分を多く含む。
6. 褐灰色土 砂質土。黄褐色土ブロックが多く混入。
7. 灰黄褐色土 砂質土。黄褐色土・暗褐色土ブロック混入。
8. 褐灰色土 砂質土と粘質土の混土。腐皮を多く含む。炭化物を微量に含む。

第279図 第1面井戸(2)



第280図 第1面井戸横断面



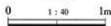
(7井戸)

1. 灰黄褐色土 砂質。
2. 灰黄褐色土 砂質。
3. 灰黄褐色土 粘性のブロック入り、人為埋設か。
4. にぶい黄褐色土 ブロック入り、人為埋設か。
5. 褐灰色土 シルト～砂質。
6. 褐灰色土 シルト～粘性、還元気味。
7. にぶい黄褐色土 シルト～粘性、やや酸化気味。
8. 褐灰色土 粘性、還元気味。

(12号溝)

- ① 灰黄褐色土 砂質、厚層が少し土壌化。
- ② にぶい黄褐色土 砂質。ラミナ状で流水が洪水、下面腐り直しか、洪水基面か、シャープ。
- ③ 褐灰色土 粘性～シルト質、還元層。
- ④ にぶい黄褐色土 砂質～シルト質。
- ⑤ 褐灰色土 粘性、還元。杭が打たれる。

L=80.20m



1井-1



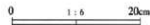
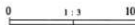
1井-2



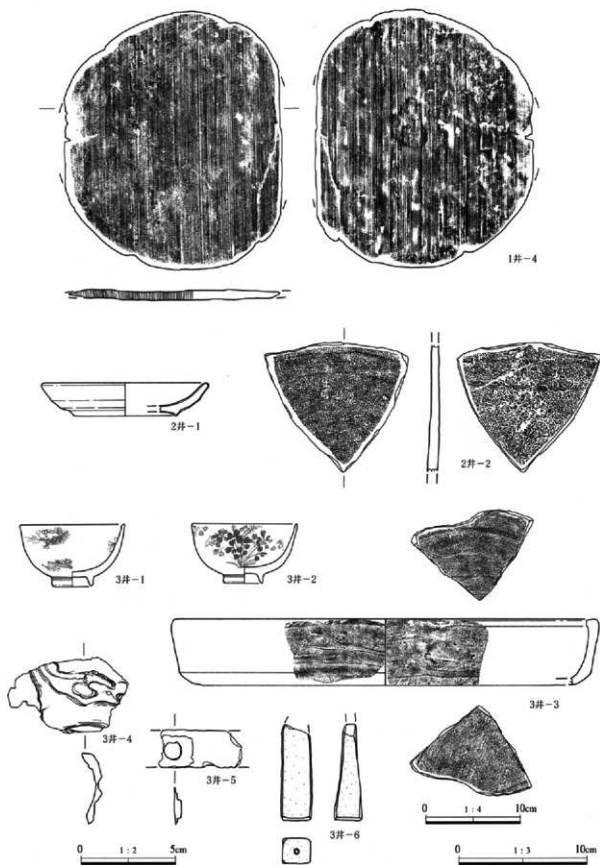
1井-3



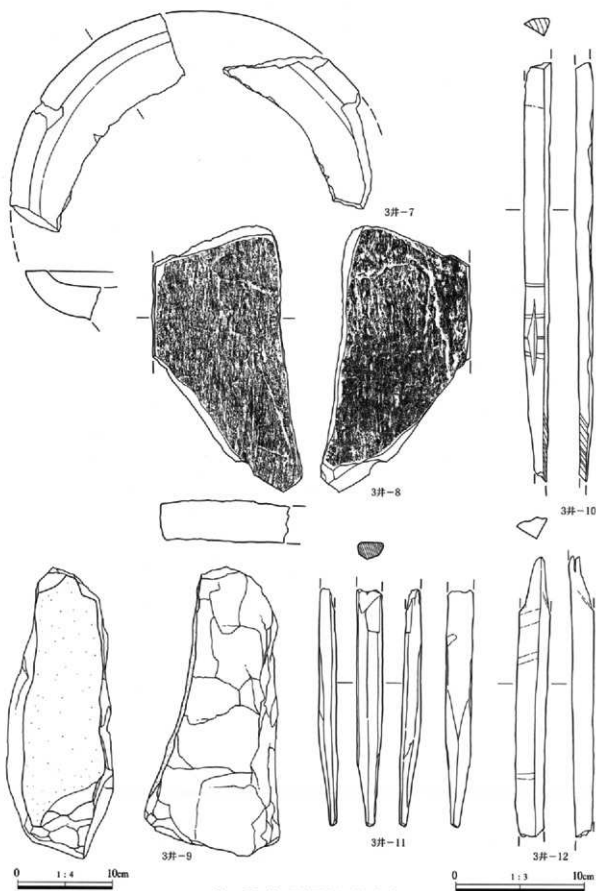
1井-3



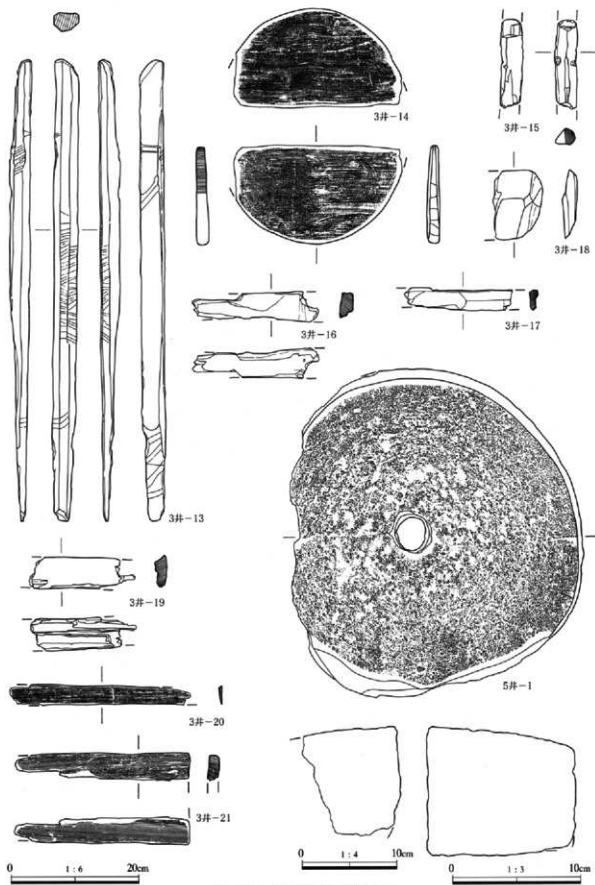
第281図 第1面7号井戸・井戸出土遺物(1)



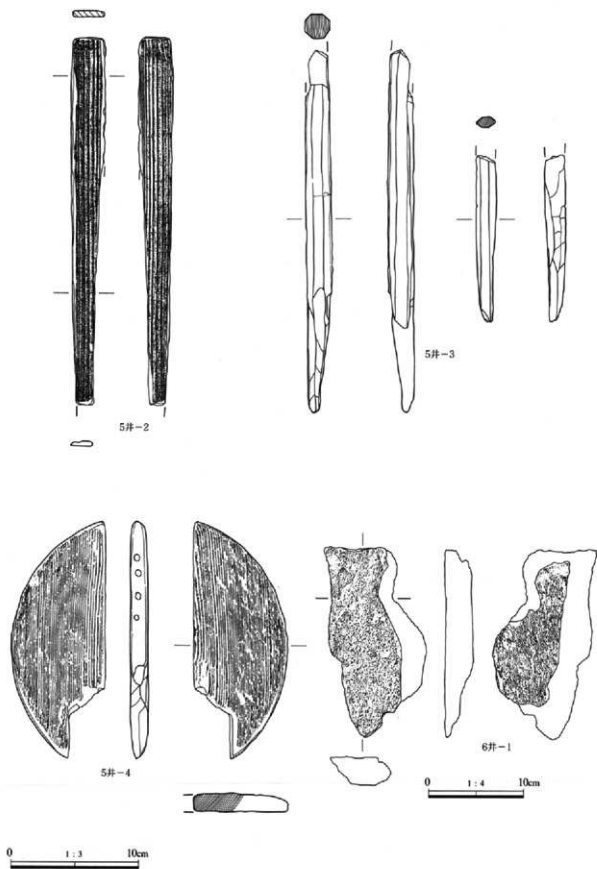
第262图 第1面井产出土遗物(2)



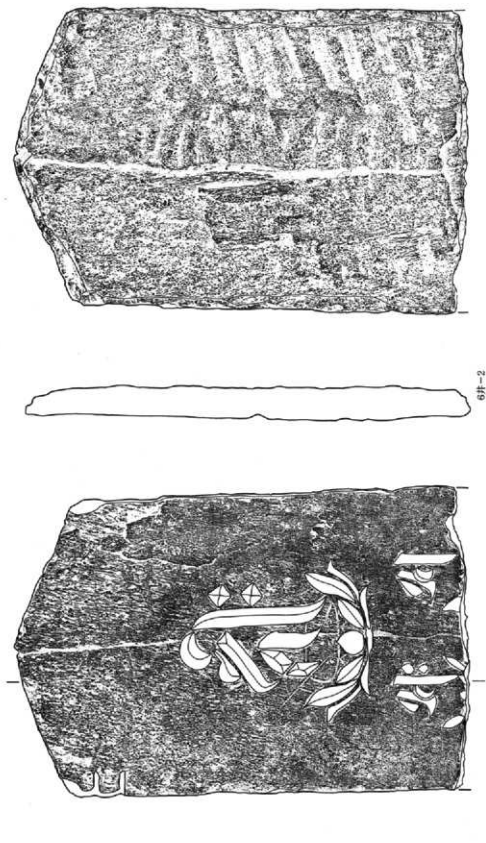
第283図 第1面井戸出土遺物(3)



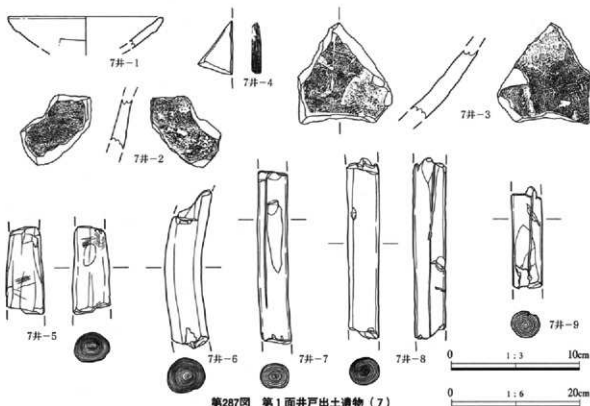
第284図 第1面井戸出土遺物(4)



第285图 第1面井戸出土遺物(5)



第206図 第1面井戸出土鏡片(6)



第287図 第1面井戸出土遺物(7)

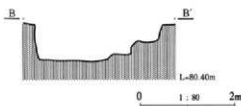
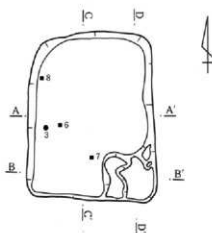
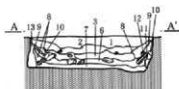
第1面 井戸出土遺物観察表(第281~287図, PL122・123・125・126)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1井 1	磁器 そば猪口	フク土 口~底部片	①8.7②- ③(5.9)	胎物見えず。重。締。 還元。	外面と内面上方に染付施文あり。白磁類は総貫入が働く。 割れ口消耗甚。19世紀。肥前系。
1井 2	瓦 枕瓦	フク土 側部片	長さ一、幅(6.0) 厚さ1.7	白色底物。やや重。並 還元から焼へ。	表面に粗瓦としての雲母粒付着。割れ口消耗大。小片な がら色の変化があり。二次被熱か。19・20世紀。県内。
1井3	木片	フク土	長(27.3)cm, 幅(5.0)cm, 厚(5.6)cm		中央に1辺4.0cmの方形のほぞ穴。
1井4	木製品, 底板	ほぼ方形, フク土	長20.2cm, 幅(17.2)cm, 厚0.8cm		円板状を呈する。端面面取り。
2井 1	陶器 碗	フク土 破片	①(13.0)②(8.0) ③(2.6)	精選。良。	長石物か。削出し高台。
2井 2	軟質陶器 皿	フク土 底部片	①-②-③-	細砂粒含。酸化。	内面。撫で。外面。未調整。
3井 1	磁器 染付小碗	フク土 1/2	①8.3②3.0 ③4.7	胎物見えず。重。締。 還元。	外面に刷判による染付施文あり。割れ口シャープ。 20世紀前半。肥前系。
3井 2	陶器 染付小碗	フク土 4/5	①8.3②3.0 ③4.7	胎物見えず。重。締。	形状は筒呑み。外面のみ墨青緑釉の上塗。下に染付施文。 内面白磁。割れ口シャープ。使用ヒビあり。20世紀前半。 肥前系。
3井 3	軟質陶器 焙烙	フク土 口~底部片	①(43.2)②(43.6) ③(6.9)	砂粒含。中性。焼し。反 色。	内面。撫で。口唇頂部面取り。外面。未調整。
3井 4	鉄製品 板状品	フク土	長一、幅一、厚一、重(10.4)g		茶黒葉。層状剥落あり。和鉄。断面により板金2枚留め る良鉄。19世紀以前。
3井 5	鉄製品 不明	フク土	長一、幅一、厚一、重(5.0)g		茶褐色。洋鉄。全体に筒状に曲がる。19世紀後半以降。
3井 6	石製品 砥石	フク土 一部欠損	長(7.5), 幅2.2, 厚2.1, 重(50)g 石材: カーボランダム、合成砥		寬~中砥粒。初期機物砥石か小面に軸穴あり。片小口 は旧時欠損。使用は4面。全体消耗少。20世紀。
3井 7	石製品 臼	フク土 受け皿部	径(46.0), 厚3一、重3(1.48)kg 石材: 輝石輝石安山岩		茶白。下白。内面。平滑。琢磨? 破砕前火熱。
3井 8	石製品 板碑	フク土	長(27.8), 幅13.5cm, 厚4.5cm, 重(3.09)kg 石材: 緑色片岩		背面磨耗したノミ痕見られる。
3井 9	石製品 砥石	フク土 完形?	長22.8cm, 幅8.4cm, 厚10.6cm, 重1.95kg 石材: 半伏砂岩		磨面1面。火熱受ける。
3井10	木製品	破片, フク土	長(32.8)cm, 幅(2.9)cm, 厚1.4cm		角柱状を呈し。用途不明。

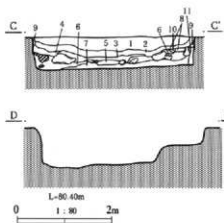
3井11	木製品	破片, フタ土	長(18.5)cm, 幅(2.0)cm, 厚1.5cm	角柱状を呈し、用途不明。
3井12	木製品	破片, フタ土	長(22.0)cm, 幅(2.4)cm, 厚1.6cm	角柱状を呈し、用途不明。
3井13	木製品・棒	完形? , フタ土	長(38.0)cm, 幅(1.9)cm, 厚1.5cm	多角形の柱状を呈し、先端部尖り、2状の切り込み。
3井14	木製品・板根	1/2, フタ土	径7.0cm, 幅(1.6)cm, 厚1.0cm	円板状を呈し、端部面取り。
3井15	木	破片, フタ土	長(14.2)cm, 幅(3.5)cm, 厚2.5cm	角柱状の棒材。
3井16	木	破片, フタ土	長(20.4)cm, 幅(3.9)cm, 厚2.1cm	板状加工材。1ヶ所未完了の釘穴?
3井17	木	破片, フタ土	長(17.4)cm, 幅(3.0)cm, 厚(1.3)cm	内面炭化。
3井18	木製品・柱?	破片, フタ土	長(3.9)cm, 幅(5.3)cm, 厚1.2cm	先端部円状状にそぎ落す。
3井19	木	破片, フタ土	長(17.1)cm, 幅(5.0)cm, 厚(1.9)cm	内面炭化。自然木。
3井20	木製品・板	フタ土	長(14.2)cm, 幅(1.4)cm, 厚0.2cm	曲物側板。
3井21	木	破片, フタ土	長(28.2)cm, 幅(4.0)cm, 厚1.8cm	側縁面取り。小口に1辺5m/mの方形孔。
5井1	石製品 臼	フタ土 ほぼ完形	径31.0cm, 厚さ13.8cm, 重さ18kg 石材: 牛伏砂岩	下臼。磨面磨耗。目消失。芯棒穴径3.5cm。
5井2	木製品・板根	破片, フタ土	長(18.6)cm, 幅(7.4)cm, 厚1.4cm	板状を呈する。
5井3	木製品・棒	フタ土	長(28.3)cm, 幅(2.7)cm, 厚0.5cm	多角形の柱状を呈し、先端部尖り、2状の切り込み。
5井4	木製品・板根	1/2, フタ土	長(28.3)cm, 幅(2.0)cm, 厚1.9cm	円板状を呈し、端部面取り。目釘穴。
6井1	石製品 板碑	フタ土 破片	長・幅・厚3.1cm, 重(0.82)kg 石材: 緑色片岩	部位不明。一部エタリ見られる。
6井2	石製品 板碑	フタ土 1/2	長(48.2)cm, 幅(40.0)cm, 厚(3.6)cm, 重(11.5)kg 石材: 緑色片岩。	かすれた二条線。主尊種子。キリーク。蓮弁。懸持種子。
7井1	土師質土器 皿	フタ土 口縁破片	①(12.3)②- ③(2.5)	黒・白色紅物少含。やや重。硬。糖と還元~酸化
7井2	軟質陶器 鉢	フタ土 体部片	①-②-③-	黒・白色紅物少含。やや重。硬。糖と還元気味。
7井3	軟質陶器 鉢	フタ土 体部片	①-②-③-	黒・白色紅物少含。やや重。硬。糖から酸化気味。
7井4	石製品 砥石	フタ土 側部片	長(4.2)cm, 幅(2.7)cm, 厚(0.8)cm, 重(7.2)g 石材: 珪質粘板岩	合せ砥板。使用は表面と割れ口片側の二次使用。側部に磨後凹あり。裏面は剥落面。水町小日破なら珪土質本来は合せ砥の大きさか。三河以西か小日向上質。
7井5	木	破片, フタ土	長(14.1)cm, 幅(5.7)cm, 厚4.5cm	
7井6	木	破片, フタ土	長(25.4)cm, 幅(5.9)cm, 厚5.4cm	
7井7	木	破片, フタ土	長(27.8)cm, 径4.4cm	
7井8	木	破片, フタ土	長(28.9)cm, 径4.8cm	
7井9	木	破片, フタ土	長(16.2)cm, 径4.2cm	

6) 竪穴状遺構 (第288図、PL91)

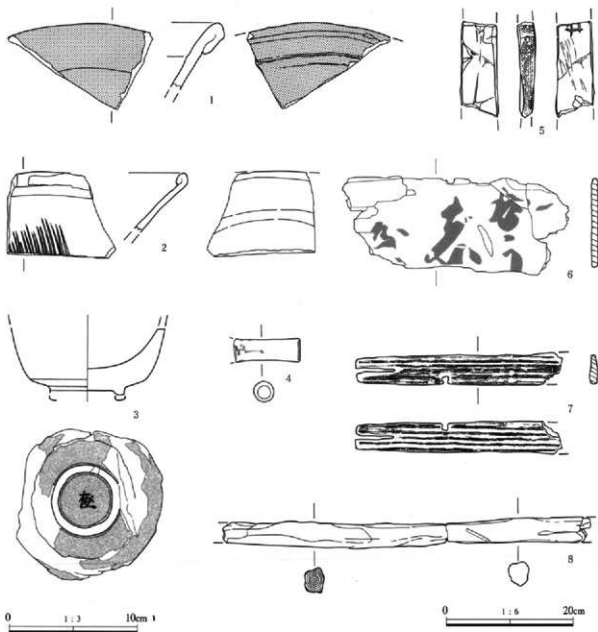
調査区中央付近にて検出した。7号溝、8号溝、13号溝に囲まれた隅丸長方形状を呈する遺構である。長軸はN-1°-Eとほぼ南北方向を指す。長辺3.6m、短辺2.7mを測り、掘り込みは深さ64cmと深い。南東隅に出入り口と考えられる階段状に掘り残された段差がある。埋没土下面に大礫が出土している。



第288図 第1面1号竪穴状遺構



1. 灰黄褐色土 AS-A粒を多量に含む。全体に固くしまる。黄色の粘土固まり。
2. 灰黄褐色土 AS-Aの量は、1層ほど多くない。
3. にぶい黄褐色土 AS-Aは大量に混じる。
4. にぶい黄褐色土 F P 泥流ブロックを多量に含む。
5. 灰黄褐色土 部分的にAS-Aが層をなして大量に入り込む。
6. 灰黄褐色土 AS-Aの量は、5層ほど多くない。
7. にぶい黄褐色土 AS-Aは多めに入り、灰化物・F P 泥流ブロックも含む。
8. 灰黄褐色土 灰化物を若干含む。
9. 褐色土 灰化物・白色軽石を含む。
10. 黄褐色土 軽石は若干、全体に粘性を帯びる。
11. 褐色土 砂にAS-B。
12. にぶい黄褐色土 白色軽石粒を全体に含む。下層はF P 泥流塊を含む。
13. 灰黄褐色土 F P 泥流のブロック塊を少し含む。



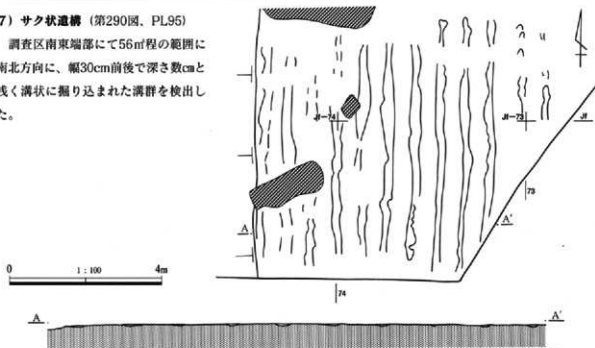
第269図 第1面1号竪穴状遺構及び出土遺物

第1面 1号竪穴状遺構出土遺物観察表(第289図、PL125)

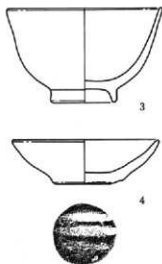
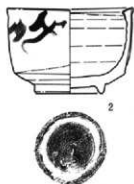
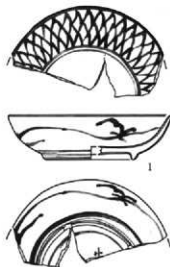
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	鉄輪陶器 鏝鉢	フク土 口縁部片	①-②-③-	鉄物見えず。やや軽。締 中性。	内外面に筋輪。口縁外面後部使用磨耗。割れ口消耗あり。 17・18世紀。美濃。
2	鉄輪陶器 鏝鉢	フク土 口縁部片	①-②-③-	鉄物見えず。重。締。 中性。	内外面に筋輪。内面16+α本の脚目あり。17・18世紀。 産外時期不明。
3	木製品・椀	口縁部欠,-1	①-②(5.5)③(5.1)		漆塗り。底面。銘「榎」。
4	磁器 染付小徳利	フク土 口縁部片	①-②-③-	鉄物見えず。重。締。 還元。	外面に染付施文あり。白磁輪傷か青みかかる。胎土僅か灰色 内面下半筋輪。割れ口シャープ。18世紀。肥前系。
5	石製品 砥石	フク土 1/2	長(7.5)cm,幅(3.0)cm,厚(1.4)cm,重(45)g		中砥級。側面2面に磨目タガネ目あり。表・裏の2面使用。 両小口は出欠粗。割れ口シャープ。19世紀前半。
6	木製品・板	破片,±0	長(17.8)cm,幅(6.9)cm,厚0.5cm		薄い板。墨書。
7	木製品・板	破片,+2	長(16.3)cm,幅(2.3)cm,厚0.6cm		中央に径5mmの円孔。端部二叉。
8	木	破片,-4	長(57.8)cm,幅(3.9)cm,厚3.0cm		角柱状を呈する。

7) サク状遺構 (第290図、PL95)

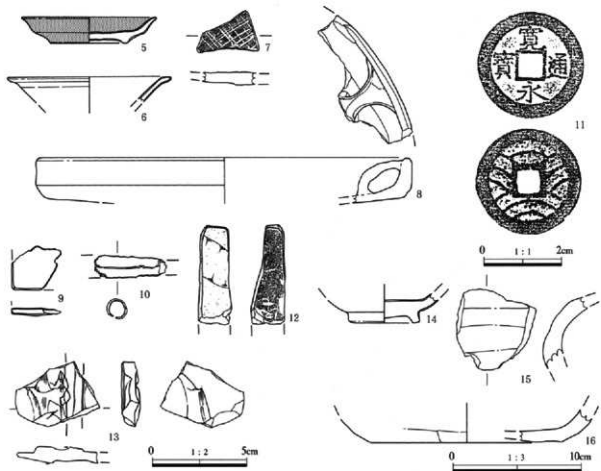
調査区南東端部にて56㎡程の範囲に
南北方向に、幅30cm前後で深さ数cmと
浅く溝状に掘り込まれた溝群を抽出し
た。



第290図 第1面サク状遺構



第291図 第1面遺構外出土遺物(1)



第292図 第1面遺構外出土遺物(2)

第1面 遺構外出土遺物観察表(第291・292図、PL124)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	磁器 胎付皿	フタ土 1/3	①(13.0)②(7.0) ③(3.5)	磁物見えず。やや軽。結 還元。	内外面に染付施文あり。口縁に口筋あり。18世紀。肥前系。
2	陶器 香炉・火入	フタ土 2/3	①(10.0)②5.5 ③6.7	磁物見えず。やや軽。結 中性から弱酸化へ。	内面上方から外面条平に長石軸。軸下に染付施文あり。内面 整形・割れ口シャープ。18世紀。瀬戸・美濃。
3	陶器, 長石軸 皿	J1-73 1/3	①(12.4)②5.2 ③(7.4)	磁物見えず。やや軽。結 中性。	高台端部を除き、長石軸。継ぎ目あり。割れ口シャープ。 18世紀。美濃。
4	土師質土器 皿	フタ土 部分欠損	①(11.6)②5.0 ③3.5	磁物微含。軽。軟。弱酸 化。にふい黄褐色。	底面に乾燥時の圧痕あり。糸切りかは不明。内面微で整形 割部。内外に浅い縦轆目あり。割れ口消耗大。13・14世紀。 器内外不明。
5	灰釉陶器 皿	フタ土 1/4	①(10.6)②(6.0) ③(2.0)	磁物見えず。やや軽。結 還元。	内面に印花らしき四みと淡オリブの軸だまり。底面トチン 痕。軸方沢有。割れ口シャープ。16世紀後半。美濃。
6	磁器, 青白磁 小鉢	フタ土 口縁部片	①(13.0)②— ③2.8	胎土灰色。磁物見えず。 重。磨。還元。	口縁外面消耗。軸は薄い。割れ口消耗あり。12~13世紀。龍 泉系か歌徳断片。
7	灰釉陶器 即皿	フタ土 底一底部片	①—②—③—	磁物見えず。重。磨。 還元。	内面に僅か灰釉あり。さらに全面に即目あり。割れ口消耗あ り。15世紀。瀬戸。
8	軟質陶器 焙烙	フタ土 口一底部片	①(29.8)②(28.0) ③3.1	褐色磁物含。軽。硬。 酸化。にふい赤褐色。	底面に筆肌状痕と砂付着。内面微で整形。内面に新様の耳部 付着。底面に煤付着。割れ口消耗有。19世紀。泉内 合せ磁器。使用面は割部。側部と片小口面に縦轆目あり。割 れ口消耗あり。假生の砥石か?
9	石製品 砥石	フタ土 細片	長(3.4)cm, 幅(3.5)cm, 厚(0.6)cm, 重(10)g 石材: 珪質粘板岩		
10	陶製品 煙管	フタ土 喉口部	長3.8cm, 幅1.2cm, 厚1.0cm, 重(3.3)g		調査時以降の欠損。陶土材。側部に縦轆目あり。そこから割 目生じる。薄手。17~19世紀。
11	古銭	完存	直径2.8cm, 孔径0.65cm, 重さ4.3g		嗣主村。「寛永通宝」。背面没。初铸1769年。

12	石製品 砥石	フク土 1/2	長(7.7)cm,幅2.6cm,厚(2.6)cm,重(70)g 石材：砥石	中砥級。欠損後も使用。側部に「又七」刻銘あり。磨目粗あり。小口を除き4面使用痕りは右利き。割れ口消耗あり。19世紀前半。
13	石製品 砥石	フク土 細片	長一、幅一、厚一、重(10)g 石材：珪質粘板岩 燐生産	側面に隆と溝部と両端の現状の高まり。裏面にも隆と溝部らしき作り出しあり。磨目見えず。割れ口消耗あり。
14	磁器、青磁 碗	表採 底部分	①-②5.7 ③(2.3)	磁物見えず。重。碎。還元。胎土灰色。
15	須恵器 壺	表採 頸部分	①-②-③-	白色磁物多。重。硬。還元。
16	須恵器 平瓶か?	表採 底部分	①-②(7.5) ③2.5	白色磁物微。重。硬。還元。灰色。
				横脈など小口徑壺類の頸部片。肉厚。割れ口消耗大。6~9世紀。吉井。 底面平砥は手持瓶類。外面体部に回転条痕。内面回転痕で割れ口消耗。8世紀。観音山。

3. 第2面(中世)の検出遺構

(1) 第2面の概要

中世以降の利根川氾濫洪水に伴う明黄褐色洪水層中で検出される褐灰褐色土面である。この面で掘り込まれた遺構中には、明黄褐色シルトや細砂混じり洪水堆積層が入る。

検出遺構は、33条の溝群で大半が埋め尽くされ、その間に土坑・ピット、耕作痕などが検出される。

(2) 検出遺構

1) 溝

17号溝(第294図、PL96)

調査区中央部で西から東に僅かに屈曲する溝である。

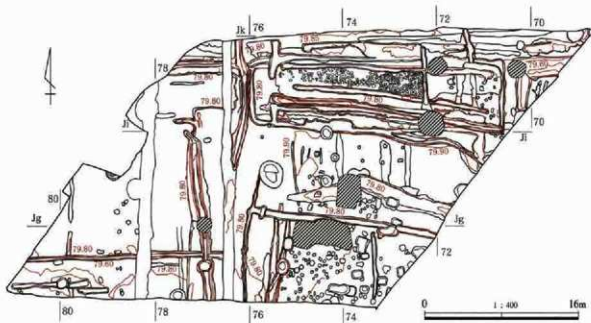
18号溝(第294図、PL96)・20号溝(第294図、PL96)・24号溝(第294図、PL96)・25号溝(第296図、PL96)・や38号溝(第296図、PL98)等は直交方向又は平行に走り、区画溝の状況が窺える。24号溝は調査区中央部の9号井戸より発するように見え、井戸の排水溝か。19号溝(第296図、PL96)は、北端部は短い流れ込み状のくぼみが見られ、南は逆台形の明瞭な溝となる。東側は、4m程の幅で一段下がり、テラス状に広がる。50号溝(第296図、PL99)は、19号溝に近接し検出した。21号溝(第294図、PL96)・22号溝(第294図、PL96)・23号溝(第294図、PL96)については、3本が接し検出された。調査区南西隅では26号溝(第296図)・27号溝(第296図、PL97)・28号溝(第296図、PL97)の東西南北方向の調査区外に延びる短い溝を検出した。29号溝以降の溝は調査区北半部に集中し、長方

形に巡り、内部を幾筋もの溝が掘り抜かれている。29号溝(第295図、PL97)は39号溝(第295図、PL98)からコの字つながりで巡る。30号溝(第295図、PL97)・31号溝(第295図、PL97)・32号溝(第295図、PL97)は、その内側で平行に掘られ合流分岐しながら東西方向に延び、西端で29号溝へ合流する。また、東端では南北方向に延び35号溝(第295図、PL98)に接する。

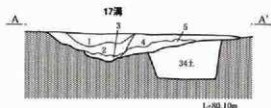
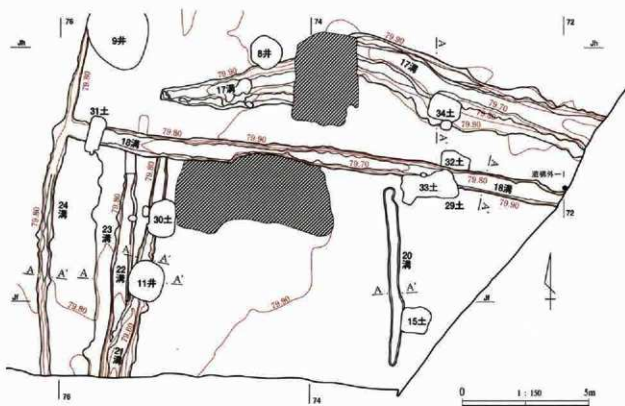
33号溝(第295図、PL97)は、北側に39号溝が併走し、中程に33号・39号の両溝を分断する形で南北方向に走る36号溝(第295図、PL97)がある。この3本に挟まれた2m×14mの範囲の中に長方形の跡痕が東西方向に密集して検出された。また34号溝(第295図、PL97)は、33号溝東端から北に延び、39号溝・35号溝と重なる。その他に40号溝・41号溝・45号溝も39号溝同様東西方向に延びる溝である。37号溝(第295図、PL98)は、調査区中央やや西寄り南北に直線的に延びる上面で検出された11号溝と併走しながら中央付近で11号溝に合流する。42号溝(第295図、PL98)・43号溝(第295図、PL98)は、北西端部で検出され、直交方向に重なる。44号溝(第295図、PL99)は東北端部で僅かにかかった溝である。46号溝・48号溝・49号溝は、北西端部で東西方向に延びる重なり合う溝である。中央に48号溝が位置し立ち上がり部にテラス状に広がる部分を46号溝・49号溝とした。この溝は11号溝より東側が切られ、37号溝又は40号溝へのつながりが不明瞭となってしまった。

表82 第2面溝計画一覧

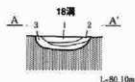
名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m・幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		
17	Jg-75 → Jg-71	N-84°-W	0.18	17.6	180	50	38	西端部が突り東に行くに従い広がる。排水路状の溝。
18	Jg-75 → Jf-72	S-84°-E	0.01	19.8	80	60	16	西端で24号溝とT字に交わり、東に直線と伸びる。
19	Je-76 → Jf-77	S-6°-E	0.03	16.9	159	38	62	北端詰め込み状の細い溝で、南は逆台形の掘り込み。
20	Jf-73 → Je-73	N-5°-W	0.03	7.0	50	40	6	ビツ群中にあり、掘り切りの溝。
21	Jg-75 → Je-75	N-11°-E	0.55	8.8	62	37	27	18号溝・11号井戸・30号土坑と重なる。南端で22号溝と合流。
22	Jg-75 → Je-75	N-4°-E	0.23	8.8	80	48	3	18号溝とT字で重なり、南端で22号溝と合流する。
23	Jf-75 → Je-75	N-5°-E	0.12	5.2	57	-	7	掘り込みの浅い幅広の溝。
24	Jh-71 → Je-75	N-8°-E	0.09	13.5	46	13	21	9号井戸から発し、18号溝とT字に交わる。
25	Jf-77 → Jf-80	N-88°-E	0.02	16.5	50	25	23	東西軸方向に伸びる。
26	Jf-79	N-5°-E	0.02	2.6	37	-	1	25号溝とT字に交わる短い溝。
27	Je-79	N-88°-E	0	3.2	67	47	10	長い土坑状の溝。
28	Jf-80 → Jf-79	S-85°-W	0.05	8.4	62	45	17	3号井戸に掘り込まれ、25号溝と併走する。
29	Jf-75 → Jh-71	N-28°-W	0.05	32.0	109	84	15	調査区北の耕作痕の見える区画の大外を作る。
30	Jf-75 → Jh-71	N-78°-W	0.01	21.5	46	29	13	1号井戸に切られ、31号溝と併走する。
31	Jf-74 → Jf-70	S-84°-E	0.08	21.6	50	26	25	1号井戸に切られ32号溝と接する。掘り込みのしっかりした溝。
32	Jf-73 → Jf-71	N-83°-W	0.07	11.8	44	35	15	31号溝と接する短い溝。
33	Jf-75 → Jf-71	N-80°-W	0.11	21.0	68	29	17	耕作痕を横す区画を仕切る。
34	Jk-71 → Jf-71	N-5°-W	0.03	8.5	50	-	8	掘り込みの浅い掘み状の溝。
35	Jj-71 → Jf-70	N-20°-W	0.13	10.0	64	33	10	33号溝と東端で接する。
36	Jf-72 → Jj-72	S-2°-E	0.03	6.5	45	28	6	耕作痕の残る区画を東で仕切る溝。9号井戸手前で止まる。
37	Jh-76 → Jj-76	S-3°-W	0.20	12.3	120	15	43	上面11号溝に出入りするように検出した溝。
38	Jf-38	N-90°-E	0.02	4.0	65	34	21	25号溝の延長上にあり、19号溝と11号溝をつなぐ。
39	Jj-70 → Jj-75	S-88°-E	0.09	22.6	56	34	16	耕作痕の残る区画を北で仕切る。
40	Jj-72 → Jj-76	N-86°-E	0.05	20.0	45	16	11	41号溝に南接する溝で29号溝と隅丸形状の区画を作る。
41	Jj-72 → Jj-74	S-88°-E	0.11	12.7	42	34	15	二段に分かれ東に伸びる溝。
42	Jj-70 → Jf-70	N-5°-E	0.03	3.6	126	-	13	43号溝と「状に重なり区画の端部か?」
43	Jj-70 → Jj-69	N-90°-E	0.05	4.2	204	-	30	42号溝と「状に重なり区画の端部か?」
44	Jj-68 → Jk-68	S-1°-W	0.06	1.2	70	-	14	調査区北東端で検出。
45	Jk-72 → Jk-73	N-88°-E	0.06	8.3	91	74	5	41号溝北と併走する。
46	Jj-77 → Jj-76	S-89°-W	0.14	4.3	38	-	36	48号・49号溝と併走する。11号溝に切られ37号溝に合流する。
47	Ji-76 → Je-76	N-3°-E	0.03	20.3	370	-	14	19号溝と11号溝の間の巾広のテラス状の溝。
48	Jj-76 → Jj-77	N-85°-E	0.03	4.7	53	18	35	46号・49号溝と併走する。11号溝に切られ37号溝に合流する。
49	Jj-77 → Jj-76	S-87°-W	0.16	5.1	90	-	8	46号・48号溝と併走する。11号溝に切られ37号溝に合流する。
50	Ji-77	N-85°-E	0.06	2.3	45	30	20	47号溝に入る。流れ込み状の溝。



第293図 第2面全体図



1. 灰黄褐色土 砂質土。黄褐色土がブロック状に混入。
2. 暗褐色土 砂質土。粘質土を多く含む。F P 配置ブロックを含む。
3. 暗褐色土 砂質土。F P 配置ブロックが多く混入。
4. 灰黄褐色土 砂質土。粘質土粒が混入。
5. にぶい黄褐色土 砂質土。



1. 暗褐色土 砂質土。
2. 褐色土 シルト質土。ノロ状の堆積。
3. 灰黄褐色土 鉄分凝固が見られる。



1. 褐灰色土 As-B 混土。



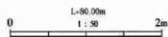
1. 褐灰色砂質土 明黄褐色土ブロック・白色粒子混入。



1. 灰黄褐色砂質土



1. 灰黄褐色砂質土



第294図 第2面溝(1)



第298図 第2面溝出土遺物(2)

第2面 溝出土遺物観察表(第297・298図、PL121)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
16溝1	石製品 臼	フタ土	径(34.2)cm,厚さ(14.0)cm,重さ(10.2)kg 石材:粗粒輝石安山岩		下臼。芯棒中央が狭くなる。目は磨滅。底面円形凹み。
17溝1	灰釉陶器 不明	フタ土 口縁部片	①-②-③(2.1)	紅物見えず。重。締。 還元。浅黄色。	内外面に薄い灰釉。回転模倣でと轆轤目内外にあり。割れ口 シャープ。15~18世紀。瀬戸か?
17溝2	生産関連 中内残滓?	フタ土	長一,幅一,厚一,重17.7g		旧時欠損。軽い。発砲ガラス化。還元と酸化。全体にガラ ス化。発色は鉄分らしい。時期不明。
17溝3	生産関連 羽口	フタ土	長一,幅一,厚一,重16.3g		旧時欠損。軽い。還元気味。スサ見えず。先端部片らしい石 英質完全溶解せず。時期不明。
19溝1	灰釉陶器 鉢	+2 口縁部片	①-②-③-	紅物多。並。並。酸化か ら弱燻へ。雲母粒入る。	内外面磨される。内外面模倣で。内面下方磨耗。割れ口 少磨耗。15~17世紀。藤原以南。
19溝2	石製品 臼	フタ土	径17.4cm,厚さ11.6cm,重さ2.71kg 石材:粗粒輝石安山岩		茶臼。上臼。方形の挽き木穴。芯棒穴径2cm。磨面磨耗。
21溝1	灰釉陶器 鉢	フタ土 口縁部片	①-②-③(7.8)	紅物含。やや重。硬。 酸化から燻へ。褐灰色。	内外面磨される。内外面模倣でと轆轤目。内面下方磨耗あり。 割れ口シャープ。17~18世紀前半。瓶内。
25溝1	磁器,青白磁 碗	+7 口縁部片	①-②-③-	紅物見えず。重。締。 還元。	外面飾手蓮弁文あり。縁浅い。輪薄く。器内薄い。割れ口シャ ープ。12・13世紀。景徳鎮系。
25溝2	灰釉陶器 甕	+27 体部片	①-②-③-	白色胎物多。重。締。還 元から酸化へ。灰褐色。	外面に叩きあり。内面整形痕あり。割れ口磨耗あり。 13・14世紀。常滑。
29溝1	灰釉陶器 茶壺の蓋	-1 破片	①-②-③-	粗砂粒含。還元。良。灰 白色。	轆轤整形。頂部回転模倣有り。
31溝1	鉄製品 タガネ?	+4 完存	長5.4cm,幅1.6cm,厚1.2cm,重(12.6)g		茶釜。層状面磨あり。和鉄。良鉄。蓋部のめくれ少なくて、タ ガネか?19世紀以前。
47溝1	灰釉陶器 羽釜	-10 破片	①-②-③-	粗砂粒。酸化。良。灰色	回転模倣で。調製付。
47溝2	灰釉陶器 杯	フタ土 口縁部片	①(14.7)②- ③(3.0)	精選。還元。良。灰白色	轆轤整形。

2) 土坑

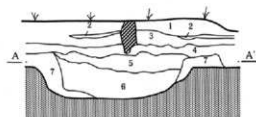
本面の土坑は、調査区南東部に集中的に見られ、12号土坑より37号土坑までの26基を検出した。この区域はビットも集中している。土坑埋没土はAs-B混じりの灰黄褐色土であり、下層地山ブロック等が混じり、人為的な埋め戻しが行われたと考えられる。土坑形状は、円形を呈する13号土坑(第299図、PL99)・20号土坑(第300図、PL100)・23号土坑(第300図、PL101)・24号土坑(第301図、PL101)・

25号土坑(第301図、PL101)・26号土坑(第301図、PL101)・27号土坑(第301図、PL101)の7基を検出した。次に長辺の僅かに長い1m前後の隅丸長方形状を呈する14号土坑(第299図、PL99)・15号土坑(第300図、PL100)・16号土坑(第300図、PL100)・17号土坑(第300図、PL100)・19号土坑(第300図、PL100)・30号土坑(第302図、PL102)・32号土坑(第301図、PL102)・33号土坑(第301図、PL102)・34号土坑(第302図、PL102)の9基の土坑を検出

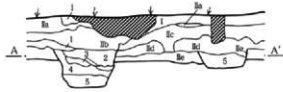
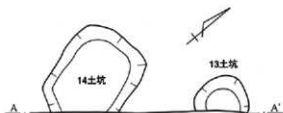
した。また長辺が2mを超える18号土坑(第300図、PL100)や31号土坑(第302図、PL102)を検出した。調査区などに陥み完備できなかった土坑には12号土坑・35号土坑・36号土坑(第299・302図、PL99・103)などがある。その他に方形の重なり22号土坑(第300図、PL101)や楕円形を呈する28号土坑(第301図)や37号土坑(第302図)などを検出した。

表83 第2面土坑計測一覧

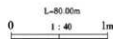
No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
12	Jf-72	(104)	165	33	不定形	N-48°-W
13	Jf-72	(38)	59	17	円形	N-38°-W
14	Je-72	(107)	82	30	方形	N-9°-W
15	Je-73	118	94	26	方形	N-4°-W
16	Je-73	95	72	57	方形	N-87°-E
17	Je-73	80	110	36	不定形	N-84°-W
18	Je-74	205	90	34	長方形	N-84°-W
19	Je-73	122	85	33	方形	N-88°-W
20	Jf-75	55	53	19	円形	N-88°-E
21	Jf-73	95	72	12	方形	N-85°-W
22	Jf-73	180	92	29	不定形	N-0°
23	Jh-74	90	80	75	円形	N-13°-E
24	Jf-74	60	55	17	円形	N-79°-W
25	Jf-72	60	55	34	円形	N-90°
26	Jh-74	62	57	15	円形	N-35°-W
27	Jf-74	52	48	14	円形	N-4°-E
28	Jg-74	85	35	45	不定形	N-53°-E
29	Jf-72	104	98	39	円形	N-11°-E
30	Jf-75	146	105	40	楕円長方形	N-4°-E
31	Jg-75	143	60	20	長方形	N-18°-E
32	Jg-72	(112)	(61)	32	不定形	N-80°-W
33	Jf-73	(124)	(65)	32	不定形	N-70°-W
34	Jg-73	130	93	47	方形	N-13°-E
35	Jg-71	(165)	(74)	46	不定形	N-42°-E
36	Jf-74	76	(30)	35	円形	N-70°-W
37	Jh-76	79	36	13	不定形	N-80°-E



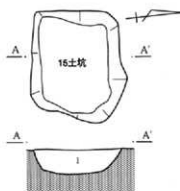
1. 灰黄褐色土 Aa-Aを含む砂質、シルト質。
2. にぶい黄褐色土 少しシルト質味強い。
3. 灰黄褐色土 砂質土、軽石含む。
4. にぶい黄褐色土 砂質土、黄灰色ブロック含む。
5. にぶい黄褐色土 砂質土。
6. 5層の中に、黄色シルト・褐色粘性土ブロック混入。
(人為的埋没土)
7. 灰黄褐色土 少し粘性、シルト質。



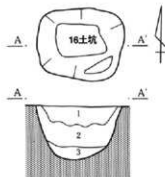
1. 灰黄褐色土 Aa-Aを含む砂質、シルト質。
- 1a. にぶい黄褐色土 少しシルト質味強い。
(上方黄色砂)
- 1b. 灰黄褐色土 砂質土。
- 1c. 灰黄褐色土 砂質で軽石含む。
- 1d. 灰黄褐色土 砂質土。
- 1e. 灰黄褐色土 少し粘性、シルト質。
2. にぶい黄褐色土 砂質土。
3. にぶい黄褐色土 Aa-B混入土ブロック混入。
4. 灰黄褐色土 砂質土。
5. 4層に黄色シルト、粘性土ブロック入る。



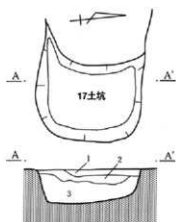
第299図 第2面土坑(1)



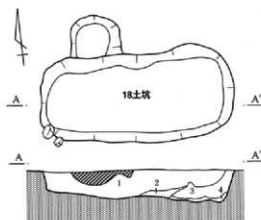
1. 灰黄褐色土 F P粒含む。粘質土ブロック含む。



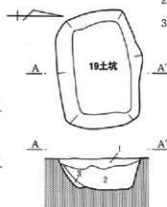
1. 灰黄褐色土 } 全体にFAブロック
2. 灰黄褐色土 } を多く含む。
3. 灰黄褐色土



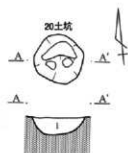
1. 灰黄褐色土 As-B少し混じる。
2. 灰黄褐色土 FA黄色シルトブロックを
少し含む。
3. 灰黄褐色土 2層より粘性あり。



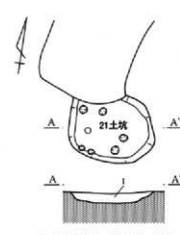
1. 灰黄褐色土 As-B混土。木炭屑が塊状に入る。
2. 灰黄褐色土
3. 灰黄褐色土 FAシルトブロック入り、木炭屑入り。
4. 灰黄褐色土 FAシルトブロック多く入り、粘性。



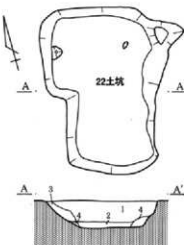
1. にぶい黄褐色土 木炭屑入り、粘性。
2. にぶい黄褐色土 FAシルトブロック
入る。
3. 褐灰色土 As-B主体層で二次埋没。



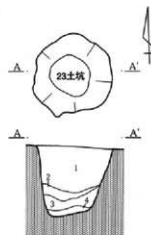
1. にぶい黄褐色土 砂質土。



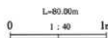
1. 灰黄褐色土 軽石含む、砂質。



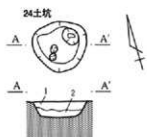
1. にぶい黄褐色土 } 全体に軽石、
2. にぶい黄褐色土 } FAブロック含む。
3. 灰黄褐色土
4. 灰黄褐色土



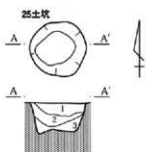
1. にぶい黄褐色土 砂質土。黄褐色土
ブロックを少混含む。軽石をこく隙
混含む。
2. 灰黄褐色土 砂質土。粒子細かい。
3. 褐色土 砂質土。黄褐色粘性土を多
く含む。
4. 褐色土 砂質土。粒子細かい。



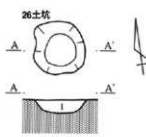
第300図 第2面土坑(2)



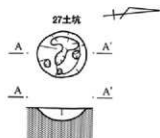
1. 暗褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。
2. 暗褐色土 砂質土。As-Bを微量に含む。



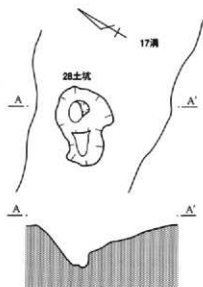
1. 暗褐色土 砂質土。黒褐色土粒が混入。軽石を含む。
2. 暗褐色土 砂質土。粘質土ブロック混入。
3. にぶい黄褐色土 砂質土。黄褐色土ブロック混入。



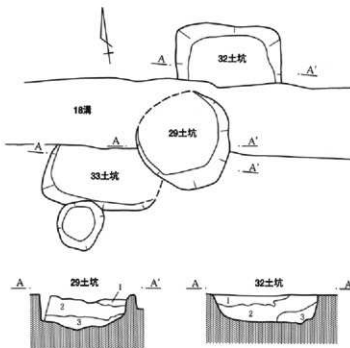
1. 灰黄褐色土 砂質土。As-Bを含む。



1. 褐色土 砂質土。軽石を含む。暗褐色土粒混入。

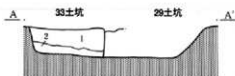


- (33号土坑)
1. 灰黄褐色土 As-B少し含み砂質土。
 2. 灰黄褐色土 As-B下方に凝じる。砂質。



1. 褐色土 砂質土。粒子細かい。軽石をごく微量に含む。
2. 黒褐色土 砂質土。粘質土を多く含む暗褐色土。黄褐色土ブロック混入。軽石を多く含む。鉄分を含む。
3. 黒褐色土 砂質土。As-B軽石が上層に堆積。FP泥濁ブロックを多く含む。

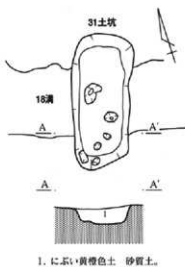
1. 灰黄褐色土 軽石少し含み砂質土。
2. 灰黄褐色土 軽石少し含み砂質土。
3. 灰黄褐色土 しまりや粘性。



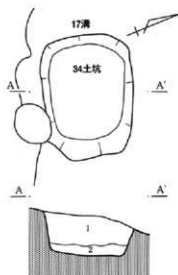
第301図 第2面土坑 (3)



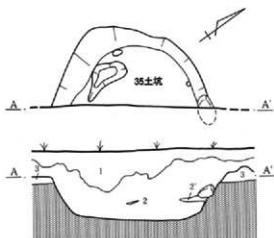
1. にぶい黄褐色土 FA黄色ブロック、軽石粒を含む。
2. 1層と同質近似。ブロック含まず。
3. 1層と近似。同質であるがしまりあり。



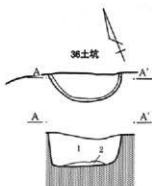
1. にぶい黄褐色土 砂質土。



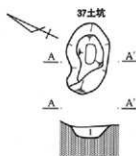
1. にぶい黄褐色土 FA粘性ブロック、FP粘性ブロック多。人為的埋没。
2. にぶい黄褐色土 FA粘性ブロック、FP粘性ブロック多。しまる。



1. 灰黄褐色土 砂質土。As-A粒と軽石多い。
2. 明黄褐色土 砂質土。As-A粒含まず。2'層は粘性土ブロック。
3. 明黄褐色土 細砂、洪水層。(地山)



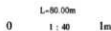
1. 褐灰色土と明黄褐色土と褐色土の混土層。
2. 褐灰色土と明黄褐色土と褐色土の混土。



1. 灰色土 川砂質。上部は1cm大の小石が見られる。



第302図 第2面土坑(4)・土坑出土遺物



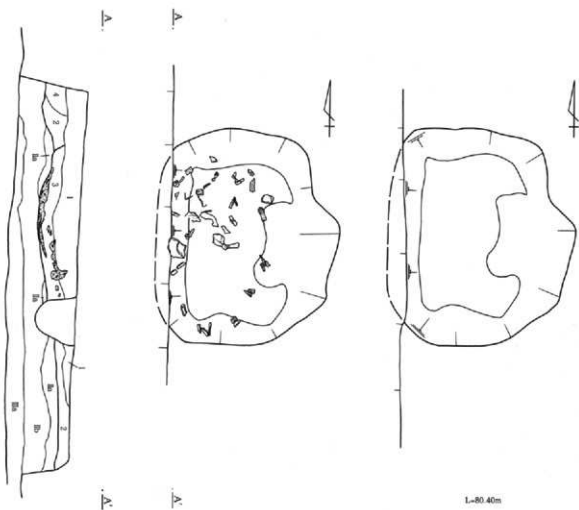
第2面 34号土坑出土遺物観察表(第302図)

No.	器種・器形	出土位置・残存	法量(cm)①直径②孔長③重さ(g)	成・整形技法、器形の特徴
34上1	古銭	完存、アク土	直径2.3cm.孔長0.65cm,重さ3.1g	「磨聖元宝」。背面無文。やや厚い。銅主材。初踏1587年

3). 1号火葬墓 (第303図、PL93)

Jh-71グリッド内にて検出した。29号溝を掘り込み構築され、埋没土層には木炭粒を含む地山洪水砂起源のぶい黄褐色の砂～シルト質が堆積し、中層より骨片や木炭等が入り混じり出土している。骨片は細片であり散乱状態で出土している。土坑下層には、炭化材や灰層が堆積し、壁際からは地山が焼土化している状況が見られた。

形状は隅丸長方形を呈し、東壁中央部は壁の崩落状に15cm程だらけて広がり、ここに張り出し状の焚き口が設けられていたとも考えられる。土坑規模は長辺1.15m、短辺80cm、深さ15cm程を測り、軸方向はN-O°を指す。



1. ぶい黄褐色土 木炭粒少し、火葬跡埋土。砂～シルト質。
 2. 浅黄褐色土 黄色小ブロック多い。砂～シルト。
 3. ぶい黄褐色土 骨・木炭・焼土粒・灰多い。
 4. 浅黄褐色土 黄色小ブロック含まない。砂～シルト。
- IIa～IIIa層は、基本土層参照。



第303図 第2面1号火葬墓

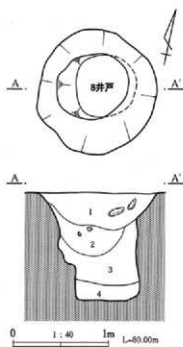
4). 井戸

第1面に続き本面においても9基の井戸を検出した。本面は居宅等の遺構は検出されていない。また溝が多く検出された面であり、井戸は溝に絡んで検出されている。掘り方形状や掘削深等から幾つかのまとまりが見られる。

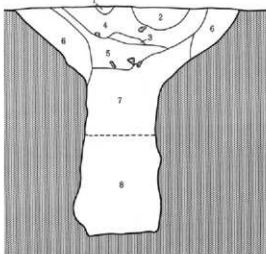
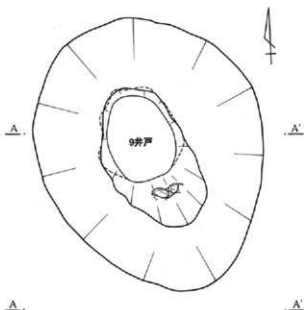
掘削平面が円形を呈し、掘削深が1.5m以下の井戸には、8号井戸(第304図)・11号井戸(第305図)・12号井戸(第305図)・13号井戸(第306図)・16号井戸(第306図)がある。断面形は緩やかなロート状を呈する。各井戸は溝との重なりが見られ、8号井戸は17号溝、11号井戸は21号溝中央で重なる。13号井戸は調査区中央29号溝と重なり検出された。また掘り込みの深い井戸には、9号井戸(第304図)や10号井戸(第305図)がある。9号井戸は卵形をした長径3m、短径2.4mの規模を持つ大きな井戸である。断面ロート状を呈し、井戸西端より24号溝が始まる。10号井戸は19号溝の南で重なり、溝に切られて検出された。断面緩やかなロート状を呈する。14号井戸(第306図)15号井戸(第306図)は円形の掘り方を持ち直線的に1.5m~2mの深さに掘り込まれている。

表84 第2面井戸計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軌方位
8	Jg-74	130	124	114	円形	N-2°-W
9	Jh-75	294	242	238	楕円形	N-24°-W
10	Jf-76	(178)	(148)	214	楕円形	N-45°-E
11	Jf-75	158	142	154	円形	N-37°-W
12	Je-77	(168)	(112)	134	楕円形	N-63°-E
13	Jh-74	142	140	168	円形	N-42°-W
14	Jh-76	106	100	166	円形	N-23°-E
15	Jj-70	90	82	200	円形	N-40°-W
16	Jh-78	154	150	136	円形	N-64°-W

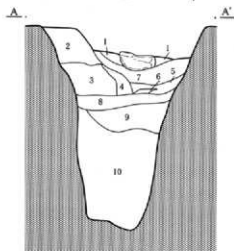
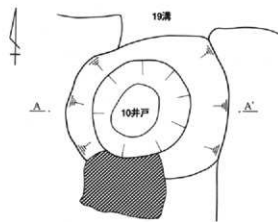


1. にぶい黄褐色土 砂質。川原石含む。
2. にぶい黄褐色土 砂質。川原石含む。1層より暗い。
3. にぶい黄褐色土 1・2層より、砂質強い。
4. 褐灰色土 粘性。泥質。

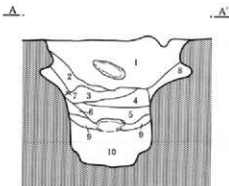
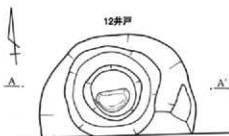


1. 褐灰色土 砂質。ブロック状に入る粘性F P軽石含む。
2. にぶい黄褐色土 砂質。洪水層の黄色シルト含む。
3. にぶい黄褐色土 砂質。小礫含む。
4. にぶい黄褐色土 砂質。F A黄色シルトブロック含む。
5. 褐灰色土 還元気味。やや粘性~シルト質。
6. にぶい黄褐色土 砂質。還元味強い。
7. 褐灰色土 還元気味。
8. 泥質。上方粗砂質。

第304図 第2面井戸(1)

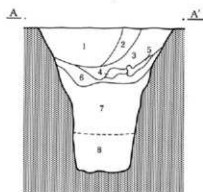
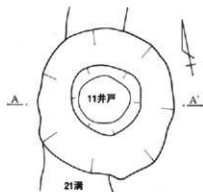


L=79.90m



L=80.90m

0 1:40 1m



(10号井戸)

1. にぶい黄褐色土 砂質。
2. にぶい黄褐色土 砂質。
3. 灰黄褐色土 少し還元、粘性。
4. にぶい黄褐色土 シルト質。F粘性シルトブロック含み、人為的。
5. 褐灰色土 還元、シルト質粘性。
6. 褐灰色土 5層より還元、シルト質。
7. にぶい黄褐色土 砂質。
8. 褐色土 砂質、シルト。
9. 灰褐色土 細砂〜シルト。
10. 灰褐色土 泥土〜シルト。

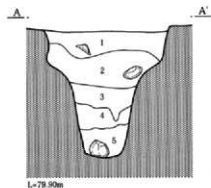
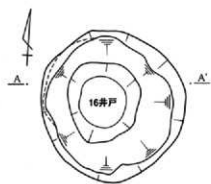
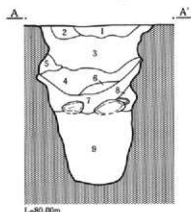
(11号井戸)

1. にぶい黄褐色土 砂質。
2. にぶい黄褐色土 砂質。
3. にぶい黄褐色土 砂質。
4. にぶい黄褐色土 砂質。
5. 1〜4層に近似しながら、少し還元気味。
6. にぶい黄褐色土 砂質。
7. 褐灰色土 還元気味、粘性〜シルト質。
8. 泥質、上方砂質。

(12号井戸)

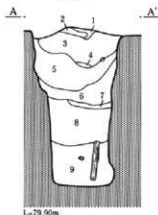
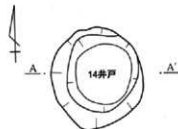
1. 灰黄褐色土 砂質土、砂層ブロック状、軽石・黄褐色土ブロック混入、暗褐色土を含む。灰化物を微量に含む。
2. 灰黄褐色土 砂質土、軽石を微量に含む。
3. 灰黄褐色土 砂質土、鉄分凝縮が多く見られる。
4. 黒褐色土 砂質土。
5. 黒褐色土 砂質土、樹皮を多く含む。細粒砂を含む。
6. 黒褐色土 砂質土、灰化物をごく微量に含む。
7. 灰黄褐色土 砂質土。
8. 灰黄褐色土 砂質土、ややシルト質。
9. 褐灰色土 粘性〜シルト。
10. 黒褐色土 粘性、底面まで続く。

第305図 第2面井戸(2)



(16号井戸)

1. 褐灰色土
2. 灰色土 明黄褐色土ブロック全体に混入。
3. 明黄褐色土 F P 泥炭粘性ブロック多く含む、人為埋没か。
4. 褐灰色土 粘性～シルト。
5. 褐灰色土 粘性。



(13号井戸)

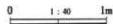
1. にぶい黄褐色土 砂質。
2. にぶい黄褐色土 砂質。
3. にぶい黄褐色土 砂質。
4. にぶい黄褐色土 砂質。
5. にぶい黄褐色土 砂質。F A 大形粘性ブロック。
6. にぶい黄褐色土 砂質。F A 粘性小ブロック入る。
7. 灰黄褐色土 砂質。
8. 明黄褐色土 F A 粘性土主体。
9. 砂質土 下方泥質で、以下に石の大伐が多くあり、土層断面形成中にそれら崩落。石材は、南北軸小口を向けて小口に積み上げ、人為埋没。

(14号井戸)

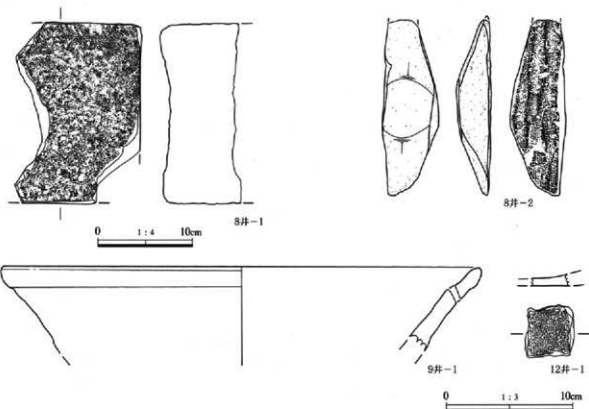
1. にぶい黄褐色土 砂質土。炭化物を微量に含む。
2. 褐灰色土 粘質土・砂質土・シルト質土ブロック混入。
3. にぶい黄褐色土 砂質土。黄褐色土粒・暗褐色粘質土粒混入。軽石を微量に含む。樹根土含む。
4. 褐灰色土 シルト質土。砂質土・粘質土混入。
5. 灰黄褐色土 砂質土。炭化物を含む。
6. 褐灰色土 砂質土。樹皮を含む。炭化物を微量に含む。
7. にぶい黄褐色土 砂質。やや粘質。
8. 褐灰色土 粘性。
9. 褐灰色土 粘性。木質多い。

(15号井戸)

1. にぶい黄褐色土 砂質土。
2. 灰黄褐色土 砂質土。
3. 泥質。



第306図 第2面井戸(3)



第307図 第2面井戸出土遺物

第2面 井戸出土遺物観察表(第307図、PL123)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
8井 1	石製品 不明	フク土 破片	長19.2cm, 幅(13.3)cm, 厚(8.5)cm 重(2.75)kg	石材: 牛伏砂岩	方形に削り出され、上面僅かに凹む。用途不明。火熱を著しく受ける。
8井 2	石製品 砥石	フク土 完形	長13.9cm, 幅4.5cm, 厚2.8cm, 重0.18kg	石材: 礫石	台形状を呈し、底面削目あり。他の面使用。
9井 1	軟質陶器 火鉢	フク土 口縁部片	①(38.0)②— ③(6.9)	白色黏物多。黒色黏物散 や中重。硬。酸化気味〜 濃。明赤褐色。	内面に僅か器面残存。他は薄ハゼ剥落。口縁部直下2cm付近に穿孔あり。吊子穴。割れ口消耗少。15世紀。 彌生山〜西毛。
12井 1	軟質陶器 内耳竈か?	フク土 底部片	①—②—③—	黒・白色黏物少。硬。硬 酸化気味〜濃。褐灰色。	内面に僅で痕。外面破面に型尻状の痕跡あり。割れ口消耗少。19世紀。県内。

4) 概列

調査区南東部にはたくさんのピットが検出された。その中で3本以上が直線的に並ぶピットを標とし、6列の欄を想定した。

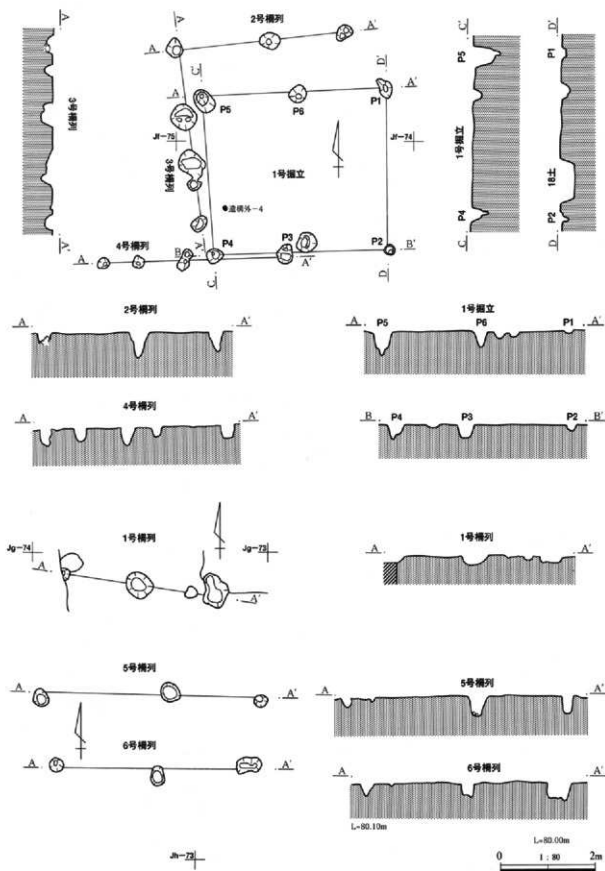
1号欄(第308図、PL95)は、18号溝・20号溝交差付近で検出し、N-80°-Wに向き、18号溝に平行する。柱間は1.7mを測る。2号欄(第308図、PL95)と3号欄(第308図、PL95)は21号溝西側で検出し、ほぼ直交する。2号欄は、N-83°-Eに向き、柱間は1.8mを測る。3号欄はN-7°-Wに向き、柱間は不明確。

4号欄(第308図、PL95)は調査区南端で検出し、

軸方向はN-88°-Eに向き、柱間は1.5mを測る。

5号欄(第308図、PL95)・6号欄(第308図、PL95)

は、調査区中央部で検出し、1.5mの間隔で併走する。軸方向はN-88°-Eに向き、柱間は不規則。



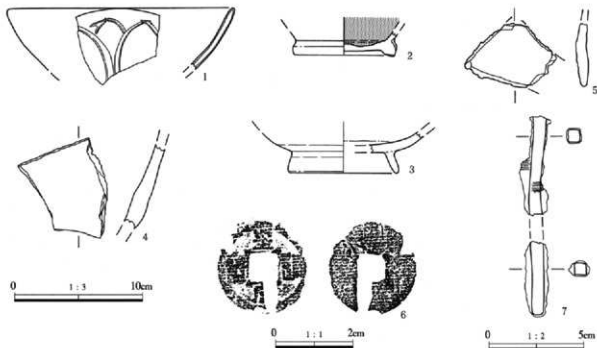
第308图 第2面1号馆立柱建物·横列



第309図 第2面ビット出土遺物

第2面 ビット出土遺物観察表(第309図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
51P 1	轆轤陶器 鏝	+6 体部片	①-②-③-	白色底物多。重。締。 還元～弱酸化焼。褐灰色	外面に平行印二単位あり。内面に自然輪かかる。割れ口消耗大。13・14世紀。優美。
53P 1	軟質陶器 鏝	+13 体部片	①-②-③-	底物微含。軽。硬。還元 から弱焼。灰色。	内耳柄か。外面僅かな型肌状痕あり。割れ口消耗甚。15～18世紀。粗内面。



第310図 第2面遺構外出土遺物

第2面 遺構外出土遺物観察表(第310図、PL124・125)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	磁器、青磁 罐	J1-71 口～胴部片	①(15.0)②- ③(85.8)	銘物見えず。重。締。 還元。	内外面暗オリーブ青磁輪。外面劃文蓮弁あり。胎土灰色。割れ口消耗少。14世紀。龍泉窯系。
2	灰輪陶器 鏝	底部片	①-②(8.0) ③(1.9)	精選。還元。良。灰白色	縦輪整形。高台部貼付。
3	灰輪陶器 鏝	底部片	①-②(8.7) ③(3.3)	精選。還元。良。灰白色	縦輪整形。高台部貼付。
4	轆轤陶器 鏝	体部片	①-②-③-	白色底物多。重。締。 還元。灰白色。	内外面に指注痕あり。内面に自然輪あり。割れ口に縁作痕あり。割れ口消耗少。13～15世紀。常滑。
5	鉄製品 不明	ブク土	長4.8cm, 幅3.4cm, 厚0.5cm, 重(10.8)g		調査時以降の欠損あり。茶葉。全体クラック状のヒビ入り錆食。製品破片。時期不明。
6	古銭	一部欠	直径2.3cm, 孔長0.75cm, 重3.20g	銅主材	調査時以降欠損。「皇宋通宝」背面無文。初鑄1039年。
7	鉄製品 釘	ブク土	長(10.6)cm, 幅(1.4)cm, 厚(0.9)cm 重(11.7)g		茶葉。釘欠と調査時以降の欠損。部分的に木質残存。曲がりあり使用釘。層状剥落あり和鉄。19世紀以前。

4. 第3面（古代）の検出遺構

(1) 第3面の概要

As-Bの降灰により埋没した面である。

As-Bの降灰層は灰層と軽石層に分けられるが、当地ではB混土形成時に灰層及び軽石層の大半が働き込まれたようであり、最下層の軽石が僅かに残っている程度であった。また、残った軽石も攪拌を受けているような状況であった。検出遺構には、水田畦畔と水路状の51号溝等を検出した。

(2) 検出遺構

1) 水田（第312図、PL103）

水田は調査区全面に広がり8区画を検出した。当区の水田形状は、4号水田とその南北両隣の水田形状から東西方向に長い横長長方形を基本としていと考えられる。最大面積は4号水田の222㎡である。畦畔 国家座標の東西南北ラインと近似する方向を基本としているが、畦畔交点はあみだくじ状にずれ

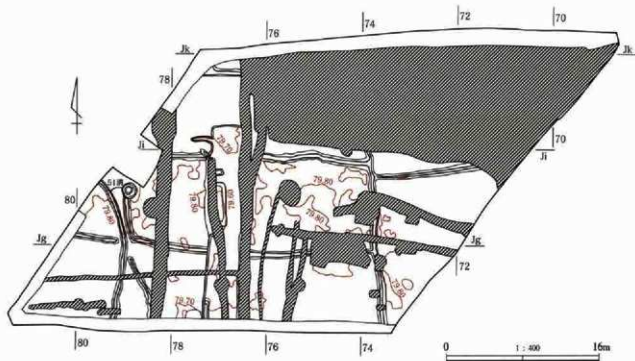
て設けられる。また南西隅で検出された水田内を斜方向に設けられた畦は水回しのためと考えられる。畦畔規模は全体に同じであり、上幅30cm前後、下幅70cm前後、高さ5cm以下の筋弁状を呈する。

水口 本区では水路は検出されず基本的に給排水は田から田への田越しにより行われていたと考えられる。田から田への水口については、2号水田→1号水田、2号水田→3号水田への2カ所が検出されたのみであった。この2号水田→3号水田への水口部分には岡水田を斜めに走る畦畔が設けられ給排水水口と考えられるが、その間を51号溝（第312図、PL103）として調査を行った。

水田面 田面は黒褐色粘土層であり下層の平安洪水層と呼ぶ灰褐色粘質土層を耕作土化している。水田面には多数の浅く小さな楕円形の無数の窪みを検出したが、鋤痕などの耕作痕は確認できなかった。

表85 第3面溝計測一覧

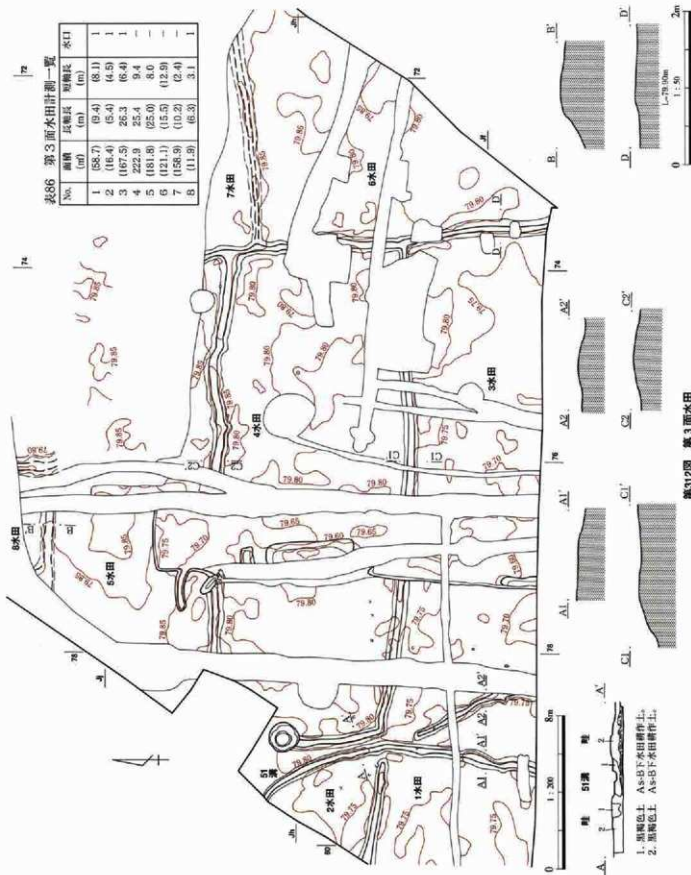
名称	位置	方位	比高 (m)	規模(長:m・幅・深さ:cm)				備考
				確認全長	上幅	下幅	深さ	
51	Jh-79 → Jg-78	N-8°-W	0.07	6.0	50	10	4	2号水田より発し、3号水田に入る給排水路。



第311図 第3面全体図

表86 第3面水田計測一覽

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(58.7)	(9.4)	(8.1)	1
2	(16.4)	(5.4)	(4.5)	1
3	(167.5)	26.3	(6.4)	1
4	222.9	25.4	9.4	—
5	(181.8)	(25.0)	8.0	—
6	(121.1)	(15.5)	(12.9)	—
7	(156.9)	(10.2)	(2.4)	—
8	(11.9)	(6.3)	3.1	1



第312図 第3面水田

5. 第4面（古代）の検出遺構

(1) 第4面の概要

As-B下水田耕作土及び平安洪水層と呼んだ灰褐色粘土層の層下に明黄褐色のHr-PP泥流の堆積が見られる。この泥流を基盤として掘り込まれた溝・土坑を検出した。

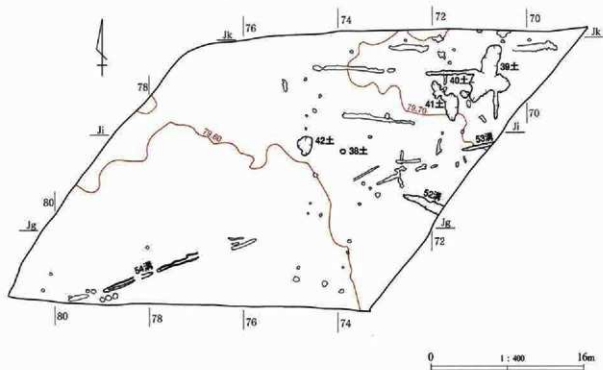
(2) 検出遺構

1) 溝

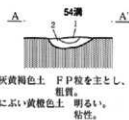
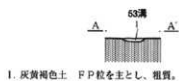
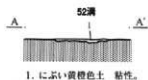
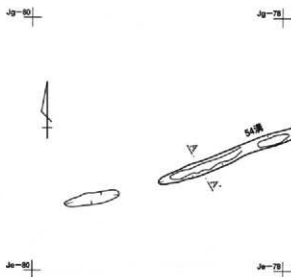
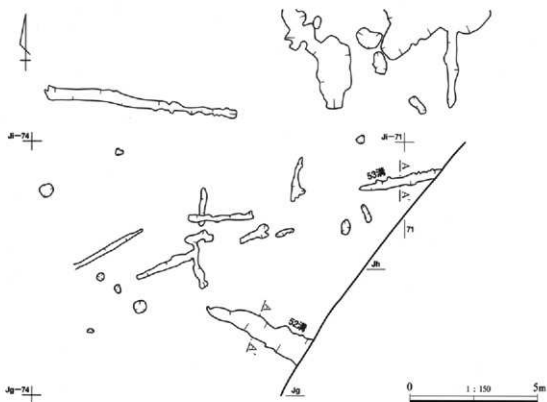
52号溝（第314図、PL103）・53号溝（第314図、PL103）・54号溝（第314図、PL103）の3条の溝を検出した。この52号溝と53号溝は走行が同じであることから同一溝と考えられる。各溝とも掘り込みが浅く、埋没土中には灰褐色洪水砂が入る。

表87 第4面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・m、幅・深さ:cm)				備考
				確認全長	上幅	下幅	深さ	
52	Jg-71 → Jg-72	S-68°-E	2.50	4.3	90	-	4	掘り込み浅く、上層溝の掘り方の変溝。
53	Jh-70 → Jh-71	N-80°-E	0.02	3.3	37	-	4	掘り込み浅く、上層溝の掘り方の変溝。
54	Je-78 → Jf-77	S-69°-W	0.01	10.8	53	28	13	掘り込み浅く、上層溝の掘り方の変溝。



第313図 第4面全体図



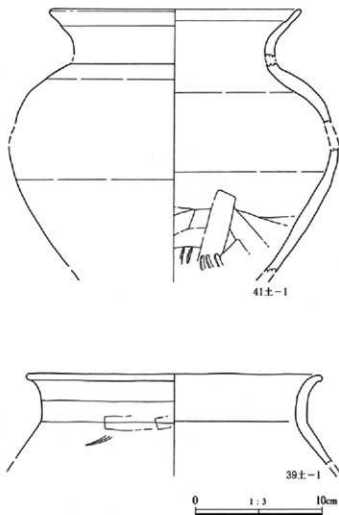
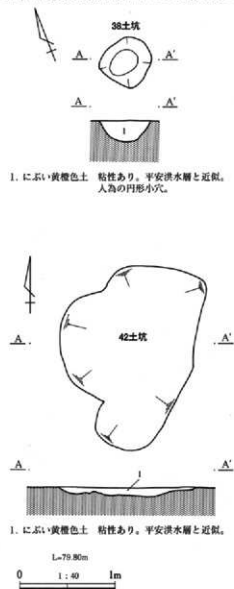
第314図 第4面溝

2) 土坑

調査区全体に散漫的に5基の土坑を検出したが、39号から41号土坑は上層遺構の掘り方である。本面では径50cmほどの円形を呈する38号土坑（第315図、PL103）とアメーバー状の不定型な42号土坑（第315図、PL104）の2基であった。両土坑の埋没土中には灰褐色洪水層がブロック状に入っていた。

表88 第4面土坑計測一覧

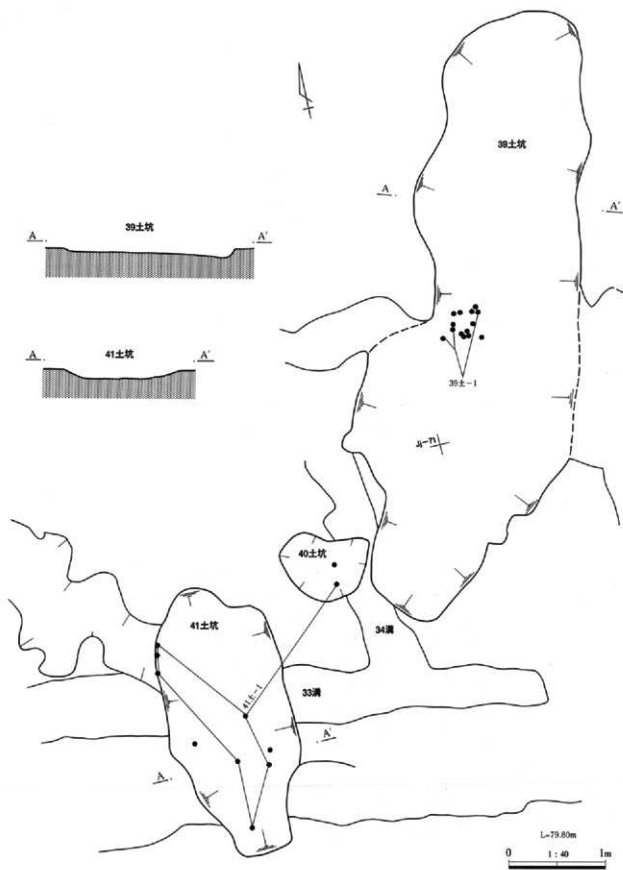
No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
38	Jh-73	56	47	23	円形	N-80°-W
39	Jj-70	658	153	10	不定形	N-26°-E
40	Ji-71	96	63	-	不定形	N-70°-W
41	Ji-71	290	128	5	不定形	N-4°-W
42	Jh-74	196	144	5	不定形	N-11°-E



第315図 第4面土坑(1)・土坑出土遺物

第4面 土坑出土遺物観察表(第315図、PL121)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
39土 I	土師器 甕	口縁部片	①(23.0)②- ③(7.0)	砂粒含。炭化。貝。褐色	口縁部肥厚。頸部強い張で。
41土 I	須恵器 甕	口縁~胴部	①(19.6)②- ③(20.5)	灰白色。	内面波状文あり。



第316圖 第4面土坑(2)

6. 第5面（古墳時代）の検出遺構

(1) 第5面の概要

明黄褐色シルト質のHr-FP泥流除去を行い、調査区全面に1.7m前後の極小区画水田を316枚検出した。

(2) 検出遺構

1) 水田（第318・319図）

調査区全面に広がる平均1.7m程の極小区画水田を316枚以上検出した。水田区画は北西方向から南東方向の傾斜方向であるN-37°-Wに沿って葎盤の目状に設けられ、高低差は10cm程であった。

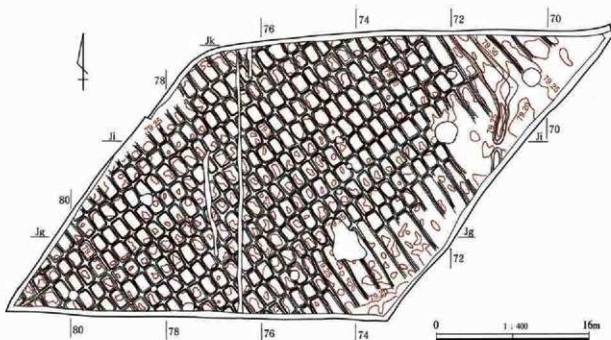
畦畔 本区では他の調査区で見られるような工事境

と考えられるような畦畔走行のズレや水田規模の不揃いは見られず整然とした葎盤の目状に設けられている。また本区の場合、縦畦はほとんど設けられているが、横畦については下流側端部で未設置部分が見られた。調査区北東隅部において大畦畔を検出した。規模は、上幅2m、下幅2.5m、高さ10cm前後を測り、N-40°-Wに向く。南東端部は先細りとなり角度を南北方向に変え上幅60cm、下幅1.2mの規模となる。この部分に水口が設けられている。

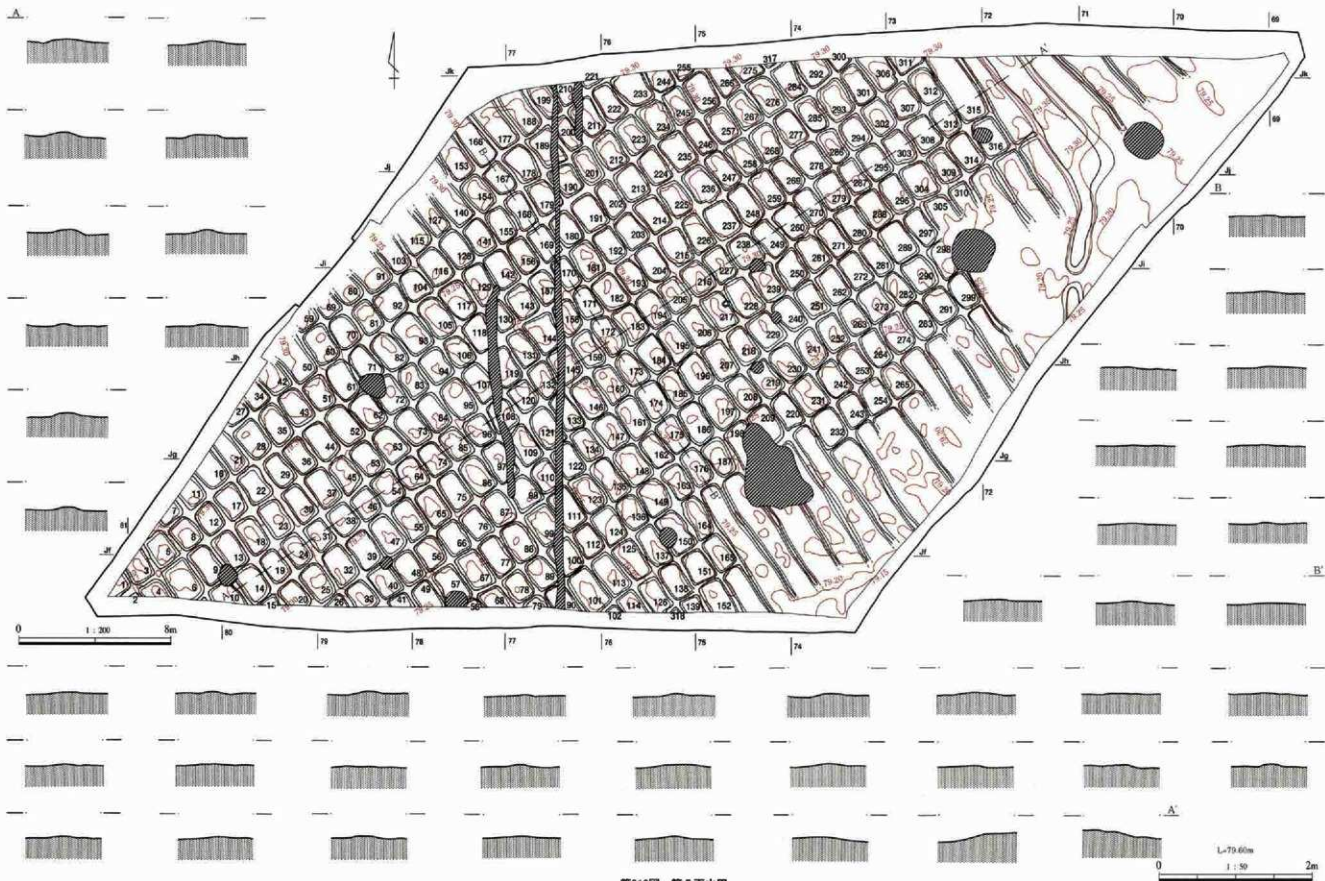
水口 この時期の極小区画水田では横畦中央部を開け水口を設けるが、本区では水口は検出できなかった。上述のように水口は唯一大畦畔のみ確認できた。

表89 第5面水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35		
1	(0.6)	(1.2)	(0.6)	-	1.3	1.7	1.8	1.0	-	24	1.4	1.5	1.0	-	-	-	1.4	1.8	(0.3)	(0.9)	1.8	1.8	1.4	1.8	1.3	1.4	1.0	-	-	
2	(0.1)	(0.3)	(0.2)	-	1.8	1.8	1.1	-	-	25	1.8	(0.7)	1.2	-	-	-	1.8	2.0	(0.6)	(0.7)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	
3	(1.3)	(1.4)	1.1	-	(0.2)	(0.8)	(0.5)	-	-	26	(0.3)	(0.9)	1.2	-	-	-	(0.6)	2.0	(0.6)	(0.7)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
4	(0.7)	(0.9)	1.1	-	(1.7)	(1.6)	1.2	-	-	27	(0.9)	1.2	1.2	-	-	-	1.8	2.0	(0.6)	(0.7)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
5	1.5	1.4	1.1	-	1.6	1.5	1.2	-	-	28	1.6	1.5	1.2	-	-	-	1.4	1.7	(0.6)	(0.7)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
6	(2.4)	2.0	1.3	-	1.7	1.8	1.0	-	-	29	1.7	1.8	1.0	-	-	-	1.7	1.8	(0.6)	(0.7)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
7	(0.6)	(0.6)	1.1	-	1.3	1.5	0.9	-	-	30	1.3	1.4	1.0	-	-	-	1.3	1.7	(0.6)	(0.7)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
8	1.5	1.4	1.1	-	(1.2)	1.5	1.0	-	-	31	1.3	1.4	1.0	-	-	-	1.3	1.7	(0.6)	(0.7)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
9	1.8	1.9	1.0	-	(1.6)	(2.1)	0.9	-	-	32	1.3	1.4	1.0	-	-	-	1.3	1.7	(0.6)	(0.7)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
10	(1.2)	(1.6)	1.2	-	1.5	1.6	1.0	-	-	33	1.5	1.6	1.0	-	-	-	1.5	1.8	(0.6)	(0.7)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
11	(1.1)	(1.2)	1.0	-	1.7	1.8	1.0	-	-	34	1.7	1.8	1.0	-	-	-	1.7	1.9	(0.6)	(0.7)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8

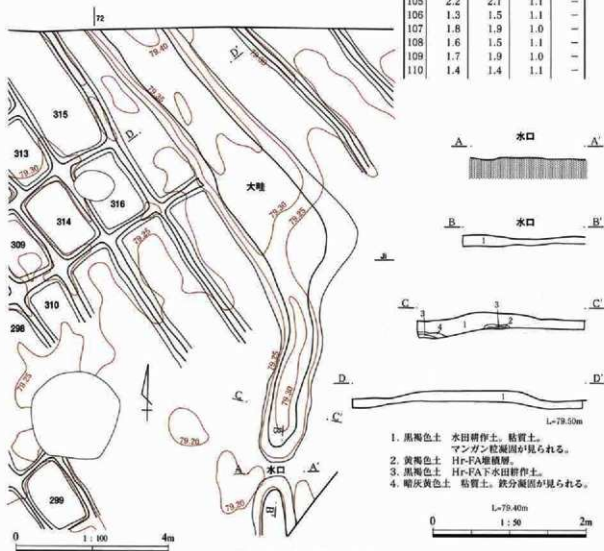


第317図 第5面全体図



第318图 第5面水田

36	1.7	1.7	1.1	-	59	(0.6)	(0.5)	1.1	-	82	2.1	2.0	1.2	-
37	2.0	1.9	1.1	-	60	2.1	1.9	1.2	-	83	1.4	1.5	1.0	-
38	1.5	1.4	1.2	-	61	2.0	1.9	1.2	-	84	1.8	1.9	1.0	-
39	2.0	1.8	1.2	-	62	2.0	1.8	1.2	-	85	1.4	1.5	1.0	-
40	1.6	1.5	1.1	-	63	1.9	1.8	1.2	-	86	2.0	1.9	1.1	-
41	(0.5)	(0.7)	1.0	-	64	1.6	1.6	1.2	-	87	1.6	1.6	1.1	-
42	(1.6)	(1.3)	(1.1)	-	65	1.9	1.8	1.1	-	88	2.0	1.9	1.1	-
43	1.9	1.8	1.1	-	66	1.4	1.5	1.1	-	89	1.6	1.5	1.1	-
44	2.0	1.9	1.1	-	67	1.9	1.9	1.1	-	90	(1.4)	(1.5)	1.1	-
45	1.6	1.7	1.0	-	68	(1.0)	(1.3)	1.0	-	91	(2.5)	(1.6)	1.3	-
46	1.5	1.4	1.1	-	69	(0.8)	(0.7)	0.9	-	92	1.9	1.5	1.4	-
47	1.9	1.9	1.1	-	70	1.5	1.6	1.1	-	93	2.4	2.0	1.3	-
48	1.5	1.4	1.1	-	71	1.8	1.8	1.1	-	94	1.8	1.6	1.3	-
49	(1.3)	(1.5)	1.0	-	72	2.0	1.8	1.2	-	95	2.2	2.0	1.2	-
50	(2.4)	(2.0)	1.2	-	73	1.8	1.8	1.1	-	96	1.5	1.4	1.2	-
51	1.6	1.6	1.1	-	74	1.6	1.6	1.1	-	97	2.0	1.9	1.1	-
52	2.0	2.0	1.1	-	75	1.8	1.8	1.0	-	98	1.8	1.5	1.3	-
53	1.7	1.7	1.1	-	76	1.4	1.4	1.0	-	99	2.0	1.7	1.2	-
54	1.7	1.6	1.2	-	77	1.9	1.9	1.0	-	100	1.8	1.5	1.2	-
55	1.8	1.9	1.1	-	78	1.3	1.3	1.0	-	101	(2.6)	2.2	1.2	-
56	1.4	1.4	1.1	-	79	(0.4)	(0.7)	0.8	-	102	(0.1)	(0.5)	(0.4)	-
57	2.1	1.9	1.1	-	80	(1.4)	(1.0)	1.1	-	103	(1.5)	(1.4)	0.9	-
58	(0.2)	(0.6)	(0.4)	-	81	1.5	1.6	1.0	-	104	1.6	1.5	1.2	-
										105	2.2	2.1	1.1	-
										106	1.3	1.5	1.1	-
										107	1.8	1.9	1.0	-
										108	1.6	1.5	1.1	-
										109	1.7	1.9	1.0	-
										110	1.4	1.4	1.1	-



第319図 第5面水田部分図

111	2.2	2.0	1.1	-	174	2.0	1.8	1.2	-	237	2.1	1.7	1.3	-
112	1.3	1.4	1.0	-	175	1.8	1.7	1.6	-	238	2.0	1.5	1.3	-
113	2.0	2.1	1.0	-	176	1.6	1.8	0.9	-	239	1.7	1.6	1.1	-
114	(0.9)	(1.4)	0.9	-	177	(2.6)	(2.4)	1.2	-	240	1.6	1.6	1.1	-
115	(1.6)	(1.6)	1.2	-	178	1.8	1.8	1.1	-	241	1.8	1.7	1.1	-
116	2.0	1.8	1.2	-	179	1.6	1.7	1.1	-	242	1.8	1.7	1.0	-
117	2.0	1.9	1.2	-	180	1.6	1.6	1.1	-	243	1.5	1.5	1.0	-
118	1.9	1.6	1.3	-	181	1.9	1.7	1.2	-	244	(1.1)	(1.3)	1.1	-
119	(2.1)	1.8	(1.1)	-	182	2.0	1.7	1.2	-	245	1.5	1.7	0.9	-
120	1.3	1.3	1.0	-	183	1.9	1.8	1.1	-	246	1.3	1.6	0.8	-
121	2.2	1.9	1.2	-	184	2.0	1.8	1.2	-	247	1.8	1.9	1.0	-
122	1.7	1.6	1.1	-	185	1.7	1.8	1.0	-	248	1.9	1.9	1.0	-
123	1.8	1.8	1.1	-	186	2.1	2.0	1.2	-	249	1.7	1.8	1.0	-
124	1.9	1.8	1.2	-	187	1.7	1.8	1.1	-	250	1.7	1.5	1.1	-
125	2.0	2.0	1.1	-	188	(2.5)	(2.5)	1.1	-	251	1.6	1.6	0.9	-
126	1.6	1.8	1.0	-	189	2.0	1.9	1.3	-	252	1.7	1.7	1.1	-
127	(1.5)	(1.9)	0.9	-	190	1.6	1.5	1.2	-	253	1.8	1.9	1.0	-
128	1.8	1.8	1.1	-	191	1.9	1.7	1.2	-	254	1.7	1.5	1.2	-
129	2.0	2.1	1.0	-	192	1.7	1.7	1.1	-	255	(0.3)	(0.6)	(1.0)	-
130	1.2	(1.5)	0.8	-	193	1.5	1.6	1.0	-	256	1.9	1.8	1.1	-
131	1.5	1.7	0.9	-	194	1.9	1.8	1.1	-	257	1.6	1.6	1.1	-
132	1.5	1.6	1.0	-	195	1.8	1.8	1.0	-	258	1.8	1.7	1.1	-
133	1.8	2.1	1.0	-	196	2.0	1.7	1.2	-	259	1.7	1.9	1.0	-
134	1.3	1.6	0.9	-	197	2.4	2.0	1.2	-	260	1.7	1.6	1.1	-
135	2.1	2.2	1.1	-	198	(1.5)	(2.2)	1.2	-	261	1.7	1.7	1.0	-
136	1.6	1.6	1.1	-	199	(1.5)	(1.9)	1.0	-	262	1.8	1.7	1.1	-
137	1.8	2.1	0.9	-	200	1.2	1.6	0.8	-	263	1.6	1.7	1.0	-
138	1.8	1.8	1.0	-	201	1.5	1.8	0.9	-	264	1.6	1.8	1.0	-
139	(0.7)	(1.0)	0.8	-	202	1.5	1.8	0.8	-	265	1.6	1.6	1.0	-
140	(2.2)	(1.9)	1.0	-	203	1.7	1.7	1.1	-	266	(1.2)	(1.8)	0.8	-
141	1.7	1.7	1.1	-	204	1.8	1.9	1.1	-	267	1.7	1.7	1.1	-
142	1.9	1.8	1.1	-	205	1.5	1.6	1.0	-	268	1.7	1.7	1.1	-
143	1.7	1.5	1.2	-	206	2.0	1.8	1.2	-	269	1.6	1.7	1.0	-
144	2.2	1.9	1.4	-	207	1.9	1.8	1.1	-	270	1.5	1.7	0.9	-
145	2.0	1.7	1.2	-	208	1.7	1.8	1.0	-	271	1.7	1.8	1.0	-
146	2.1	2.0	1.2	-	209	1.8	1.8	1.3	-	272	1.8	1.7	1.0	-
147	1.8	1.6	1.2	-	210	(1.1)	(0.8)	(0.5)	-	273	2.0	1.7	1.2	-
148	2.2	2.0	1.2	-	211	2.0	1.8	1.2	-	274	1.9	1.8	1.1	-
149	1.8	1.6	1.2	-	212	1.8	1.7	1.1	-	275	(0.8)	(1.0)	1.2	-
150	2.3	2.1	1.2	-	213	1.9	1.7	1.1	-	276	1.9	1.8	1.1	-
151	1.7	1.5	1.2	-	214	1.8	1.7	1.2	-	277	1.7	1.2	1.1	-
152	(1.9)	(1.9)	1.1	-	215	1.8	1.8	1.1	-	278	1.9	1.6	1.3	-
153	(1.9)	(2.0)	1.0	-	216	1.7	1.6	1.1	-	279	2.0	1.8	1.2	-
154	1.7	1.7	1.1	-	217	1.8	1.8	1.0	-	280	1.7	1.8	1.0	-
155	1.6	1.7	1.0	-	218	1.6	1.8	1.0	-	281	1.6	1.8	0.9	-
156	1.6	1.7	1.0	-	219	1.7	1.8	1.0	-	282	1.4	1.6	0.9	-
157	1.5	1.6	1.0	-	220	1.5	1.8	0.9	-	283	1.5	1.8	0.9	-
158	1.5	1.6	1.0	-	221	(0.2)	(0.4)	(1.0)	-	284	1.7	1.8	1.0	-
159	1.6	1.8	1.0	-	222	1.7	1.9	1.0	-	285	1.4	1.7	0.8	-
160	1.9	1.9	1.0	-	223	1.8	1.7	1.2	-	286	1.3	1.7	0.8	-
161	2.1	2.0	1.1	-	224	1.7	1.8	1.0	-	287	1.5	1.7	0.9	-
162	1.5	1.7	0.9	-	225	1.7	1.7	1.1	-	288	1.9	1.8	1.1	-
163	1.5	1.6	1.0	-	226	1.7	1.9	1.0	-	289	2.3	1.9	1.2	-
164	1.7	2.1	0.9	-	227	1.6	1.6	1.0	-	290	1.8	1.7	1.2	-
165	1.6	1.7	0.9	-	228	2.0	1.8	1.1	-	291	1.8	1.7	1.2	-
166	(2.3)	(2.5)	1.0	-	229	2.0	1.6	1.3	-	292	(1.6)	(1.6)	1.3	-
167	1.4	1.5	1.0	-	230	2.0	1.8	1.2	-	293	2.1	1.8	1.2	-
168	1.5	1.8	1.0	-	231	2.2	1.8	1.3	-	294	1.5	1.4	1.1	-
169	1.5	1.6	1.0	-	232	2.0	1.7	1.3	-	295	1.8	1.7	1.1	-
170	1.3	1.5	0.9	-	233	(2.2)	1.8	1.5	-	296	1.7	1.8	1.0	-
171	1.4	1.6	0.9	-	234	1.9	1.7	1.3	-	297	1.5	1.8	1.0	-
172	1.8	2.0	1.0	-	235	2.1	1.8	1.3	-	298	(1.7)	1.7	(1.0)	-
173	1.7	1.8	1.1	-	236	2.0	1.8	1.3	-	299	1.6	1.6	1.0	-

300	(0.4)	(0.8)	0.9	-
301	1.8	1.9	1.0	-
302	1.7	1.6	1.1	-
303	1.5	1.5	1.1	-
304	20.0	1.7	1.3	-
305	(1.6)	(1.6)	1.1	-
306	(1.8)	(2.2)	1.1	-
307	1.7	1.6	1.2	-
308	1.7	1.6	1.2	-
309	1.5	1.7	1.0	-
310	(1.0)	(1.2)	0.9	-
311	(0.8)	(1.1)	1.4	-
312	1.7	1.8	1.0	-
313	1.4	1.6	1.0	-
314	1.9	1.8	1.1	-
315	(4.9)	(4.0)	1.4	-
316	2.1	1.8	1.2	-

表90 第6面水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(11.4)	(4.2)	(2.0)	-
2	(16.3)	(4.4)	4.7	-
3	(1.7)	(2.0)	(1.5)	-
4	(9.4)	3.5	3.0	-
5	11.9	4.4	3.8	-
6	(9.5)	3.5	3.0	-
7	(2.7)	(2.5)	(1.9)	-
8	(8.3)	(3.2)	(2.5)	-
9	(15.0)	4.3	(3.6)	-
10	(6.7)	(2.8)	(2.3)	-
11	(11.5)	(4.4)	(4.0)	-

7. 第6面（古墳時代）の検出遺構

(1) 第6面の概要

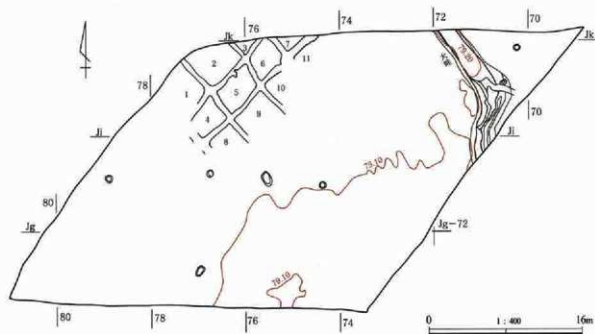
第5面水田耕作土下を十数cm掘り下げ、黒褐色土面上の一部でHr-FAを確認した。その中で北端部において11面の極小区画水田の畦畔痕跡と北東隅で大畦畔を検出した。

(2) 検出遺構

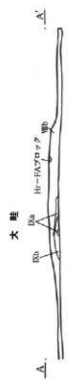
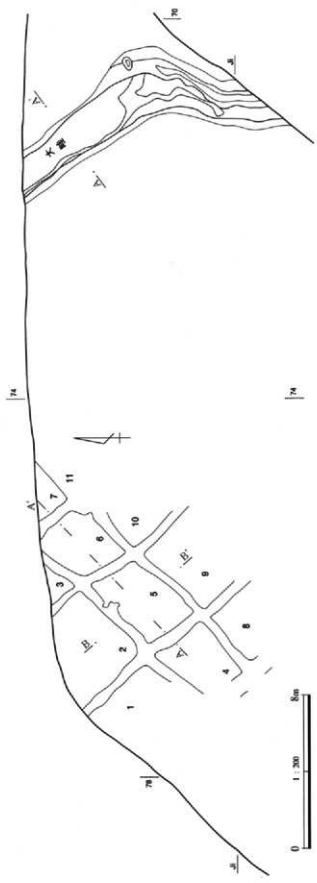
1) 水田（第321図、PL104）

検出できた水田は畦畔の残骸であり、Hr-FA降灰後からHr-FP泥流の間に継続的に耕作が行われ大半の畦畔は平夷移動されたと考えられ、残った部分は降灰時に下がっていた部分、若しくは畦畔の移動の無かった部分と考えられる。面積は5号水田で11.9㎡を測る。

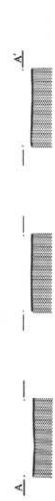
畦畔 大畦畔は北東隅で検出でき、Hr-FP泥流下水田の大畦畔とトレースされる。畦畔走行はN-40°-WからN-15°-Eにくの字に屈曲する。上面には水路状の浅い掘り込みが屈曲部付近から始まる。



第320図 第6面全体図



● 畦B・畦A・畦Cは、基本土層断面。



築321区 第6面水田

8. 第7面（古墳時代）の検出遺構

(1) 第7面の概要

第6面の夾雑物の少ない灰色がかかった黒褐色土下層を数cm掘り下げ、As-C混じりの黒褐色土層上面で遺構を検出した。検出遺構には溝3条と上層大畦畔の基部。

(2) 検出遺構

1) 水田（第323図、PL104）

極小区画水田等の水田は検出されなかったが、北東隅で大畦畔の基部と考えられる痕跡を確認したのみであった。

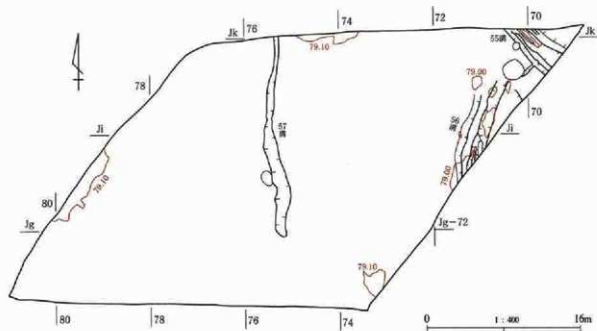
2) 溝

3条の溝を検出した。調査区北東隅に於いて55号溝（第323図、PL104）・56号溝（第323図）の2条を検出した。56号溝は55号溝から分岐しているようである。

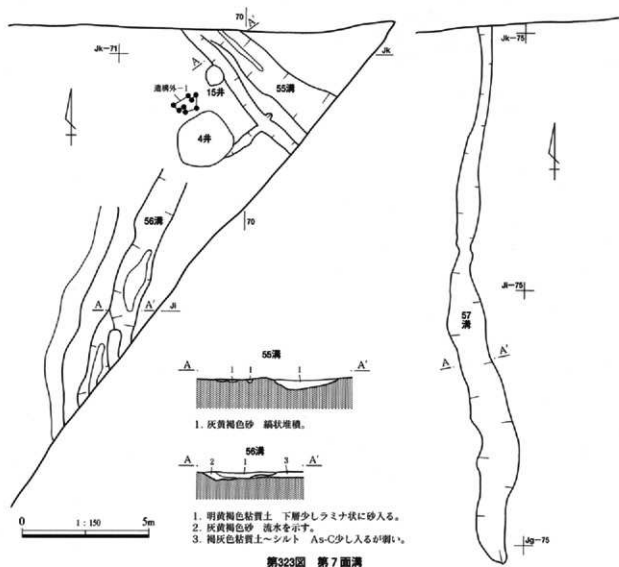
57号溝（第323図、PL104）は、調査区中央部を南北方向に走る溝である。掘り込みは浅く、砂とAs-Cの混じらない上層水田耕作土と同じ埋没土が見られた。

表91 第7面溝計測一覧

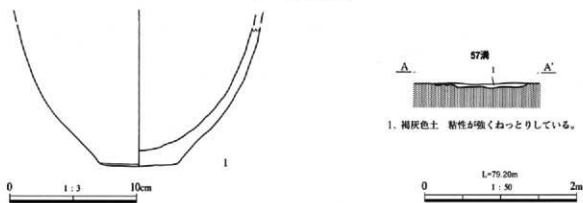
名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m・幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅 深さ		
55	Jj-89 → Jk-70	S-50°-N	0.20	5.3	134	-	12	上層大畦の構築の際の掘削溝。
56	Jh-70 → Jj-70	N-20°-E	0.02	8.2	110	-	8	上層大畦の構築の際の掘削溝。
57	Jk-75 → Jf-75	N-2°-W	0.03	21.0	124	-	5	11号溝下層。掘り込みの浅い・ダラけた溝。



第322図 第7面全体図



第323図 第7面溝



第324図 第7面遺構外出土遺物

第7面 遺構外出土遺物観察表(第324図、PL125)

No.	器 種 形	出土位置 残 存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器 甕	胴~底部片	①-②6.2 ③(11.8)	砂粒多含。酸化。良。 にぶい赤褐色。	器表面磨耗。

9. 第8面（古墳時代）の検出遺構

(1) 第8面の概要

第7面のAs-C混じりの黒褐色土層を掘り下げ灰褐色のシルト面で遺構を検出した。検出遺構には溝5条と風倒木であった。

(2) 検出遺構

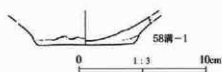
1) 溝

調査区東端で58号から61号溝の4条の溝を検出した。58号溝（第327図、PL104）・59号溝（第327図、PL104）・61号溝（第327図、PL104）は北東方向から南西方向に斜行し、部分的にしか検出できなかった。60号溝（第327図、PL104）は59号溝から直交方向に延びる短い溝である。調査区の南西隅には

62号溝（第327図、PL104）を検出した。この溝も他の溝同様掘り込みも浅い。

2) 風倒木痕

他の調査区同様最終シルト面に於いて検出されている風倒木が当区でも検出された。



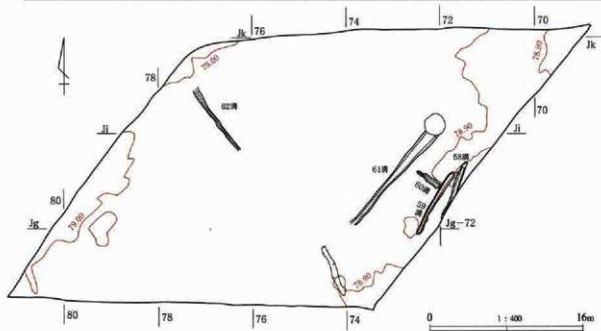
第325図 第8面溝出土遺物

第8面 58号溝出土遺物観察表(第325図)

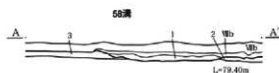
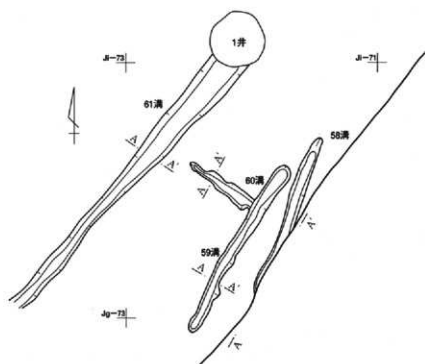
No.	遺物 形状	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器 甕	底部片	①-②(7.5) ③(2.2)	粗砂粒含。酸化。にぶい	底部片で割れ口に底面補足の粘土痕目、見える。

表92 第8面溝計測一覧

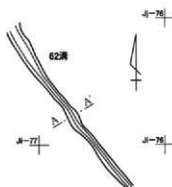
名称	位置 方向(上端→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m,幅・深さ:cm)				備考
				確認全長	上幅	下幅	深さ	
58	Jh-71 → Jg-71	N-20°-E	0.02	5.0	46	26	6	掘り込みは浅く短い溝。
59	Jf-72 → Jh-71	S-32°-W	0.06	7.5	20	10	3	60号溝とT字に交わる。
60	Jg-72 → Jh-72	S-55°-E	0.01	3.0	40	18	3	59号溝とT字に交わる。
61	Jg-73 → Ji-72	S-32°-W	0.02	12.4	90	50	3	掘り込みは浅く短い溝。
62	Jj-76 → Ji-76	N-35°-W	-	8.0	60	30	2	掘り込みは浅く短い溝。



第326図 第8面全体図



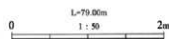
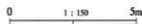
1. 黒褐色土 As-C混じる。
 2. 黒褐色土 As-C混じる。
 3. 黒褐色土 As-C入らない。粘性。
- * VIIb・VIIc層は、基本土層参照。



1. 黒褐色土 As-C多く混じる。酸化強。



1. 黒褐色土 As-C多く混じる。酸化強。



第327図 第8面溝

第3節 B区の検出遺構

1. B区の検出面の概要

B区は利根川右岸堤防跡の調査区であり、民家跡地の三角形状の調査区である。民家跡地であるため上層には攪乱が多いが、下層は攪乱が及ばず洪水層や火山灰に被覆され面の確認は容易であった。洪水層中には細砂やシルトなど互層の堆積が見られ、一時的な堆積ではなく安定期もあり、継続的な耕作により遺構が遺失した可能性も考えられる。本調査区でも各面間の途中で掘り込まれた遺構について下層面で確認される場合があり、その遺構については調査時の検出面と同じ面で記述する。

各面の概要は以下の通りである。

- 第1面（近世以降） 土坑・溝・井戸・灰掻き穴
- 第2面（中近世） 溝・土坑・井戸
- 第3面（中世） 溝・掘立柱建物・井戸・土坑
- 第4面（中世） 溝
- 第5面（古墳時代） 溝・土坑
- 第6面（古墳時代） Hr-FP記流水田
- 第7面（古墳時代） Hr-FA下水田
- 第8面（古墳時代） 水田・溝
- 第9面（古墳時代） 溝

2. 第1面（近世以降）の検出遺構

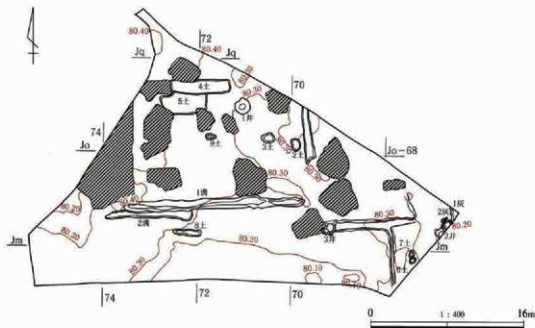
(1) 第1面の概要

現在の耕作土下で検出できる面。確認面は褐色土であり、近現代の攪乱等により調査面はズタズタであった。本面では近・現代、近世の遺構が入り混じり検出でき、同一面で調査を行った。検出遺構はAs-A降灰後の軽石廃棄用の灰掻き穴、溝、土坑、井戸、畦畔などである。

(2) 検出遺構

1) 灰掻き穴（第329図、PL105）

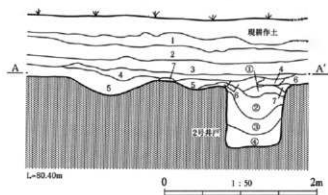
調査区東端コーナー付近で調査区外に延びる2基の灰掻き穴を検出した。形状は調査区外に延びるため不明瞭であるが、2号灰掻き穴は土坑状の掘り込みの集合に見える。埋没土観察において現耕作土直下に黒褐色の洪水堆積層を確認した。砂質土で黒色土が筋状に見られる。この層の下層にはAs-Aが多く含まれる層が堆積することからAs-A泥流又はそれ以降の利根川氾濫洪水層と考えられる。As-A泥流は対岸の横手南川端遺跡で確認されている。



第328図 第1面全体図



1. 黒褐色土 砂質土。洪水層。黒色土が筋状に堆積。
2. 褐色土 砂質土。As-Aを全体に含む。暗褐色土をブロック状に含む。
3. 褐色土 砂質土。As-Aをブロック状に含む。
4. 1.に、黄褐色土 砂質土。As-A軽石を多く含む。
5. 灰被褐色土 As-A軽石を埋めたための。
6. 褐色土 砂質土。軽石・炭化物を微量に含む。



7. 1.に、黄褐色土 砂質土。軽石・マンガンを含む。
(As-A認定?)
 - ① 1.に、黄褐色土 砂質土。
 - ② 暗褐色土 砂質土。
 - ③ 黒褐色土 砂質土。
 - ④ 暗褐色土 砂質土。
- 全体に大粒軽石を含む。

第329図 第1面灰掻き穴

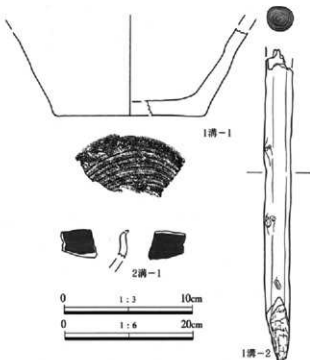
2) 溝

調査区中央部を東西方向に延びる取束する1号溝(第331図、PL108)と2号溝(第331図、PL108)の2条の溝を検出した。両溝は西側で接する。

両溝断面観察に際しトレンチ調査を行い、下層第2面にて1号溝と同位置に7号溝が重なり、2号溝下層にも9号溝が重なるなど継続的な使用又は埋没途中の段階であるとも考えられる。

3) 畦畔状遺構 (第331図、PL107)

調査区東寄りでも東西方向に延びる畦畔状遺構とその畦畔状遺構から南に直交して延びる細い畦畔状遺構を検出した。東西方向の畦畔状遺構は上幅80cm前後、下幅1.2m前後、高さ5~8cm程の規模を持つ。また、南北の細い畦畔状は、上幅30cm前後、下幅70cm前後、3cm程の規模を持つ。



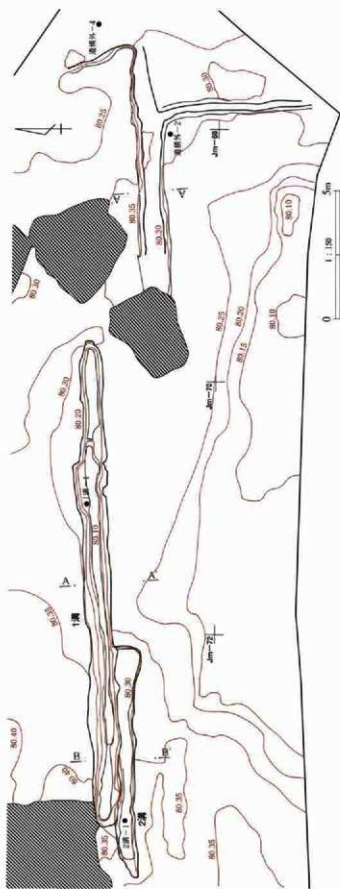
第330図 第1面溝出土遺物

表93 第1面溝計測一覧

名称	位置	方位	比高	規模(長・幅・深さcm)	備考
	方向(上流→下流)		(m)	確認全長 上幅 下幅 深さ	
1	Jm-69 ~ Jm-73	N-88°-E	0.11	19.1 100 40 45	上層溝主体。投げ込み? 7号溝と重なる。
2	Jm-72 ~ Jm-73	N-90°	0	9.2 140 31 7	浅い掘り込み。1号溝、8号溝と重複する。

第1面 溝出土遺物観察表(第330図、PL127)

No.	器 種 形	出土位置 残 存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1溝1	軟質陶器 鉢	フタ土 底~体部片	①-②(12.1) ③(6.9)	黒色灰物・白色灰物少含 やや重。還元後器焼	灰色。底面糸切肌。体部外面指圧痕。内面使用磨耗大きりに 吸炭(煙か)。割れ口消残。15世紀。観音山。
1溝2	木製品・杭	打込部フタ土	長(48.8cm, 83.8cm)		先端部加工。皮化。
2溝1	黒陶輪陶器 1 碗	+4 口縁部片	①-②-③-	灰物見えす。軽。締。中 性気味。	天目碗。内・外に黒陶輪陶輪。上手ではない。口縁部小割れ 消耗。割れ口も消耗あり。18世紀。美濃。



- ① 灰褐色土、砂質土 (2号溝フク土)
 1. にぶい黄褐色土、砂質土、礫石を多量に含む。(1号溝フク土)
 2. 黄褐色土、砂質土、礫石を多量に含む。(1号溝フク土)
 3. 褐色土、砂質土、礫石を多量に含む。(1号溝フク土)
 4. 灰褐色土、砂質土、礫石を多量に含む。(1号溝フク土)
 5. にぶい黄褐色土、砂質土、礫石を多量に含む。(8号溝フク土)
 6. にぶい黄褐色土、砂質土、礫石を多量に含む。(10号溝フク土)
 7. にぶい黄褐色土、砂質土、礫石、灰化物を多量に含む。(10号溝フク土)
8. にぶい黄褐色土、砂質土、礫石、黄褐色土、灰化物を多量に含む。
 9. 黄褐色土、N・V層の礫土、灰分を多量に含む、マンガンを含む。
 10. にぶい黄褐色土、砂質土、As-Bを含む、灰化物を多量に含む。
 11. 灰褐色土、砂質土、As-Bを含む、灰化物を多量に含む。
 12. にぶい黄褐色土、As-Bを含む、灰褐色土がプロック状に乱入、灰化物を多量に含む。
 13. 黄褐色土、砂質土、As-B礫石を多く含む。
 * 断面・N・V・M層は、基本土層断面。
1. 褐色土、砂質土、流水層、白色の細粒砂質土がツリキ状に乱入。
 2. 褐色土、砂質土、流水層、白色の細粒砂質土を多量に含む。
 3. にぶい黄褐色土、砂質土、礫石、灰化物を多量に含む。
 4. 褐色土、砂質土、礫石、灰化物を多量に含む。
 5. にぶい黄褐色土、砂質土。

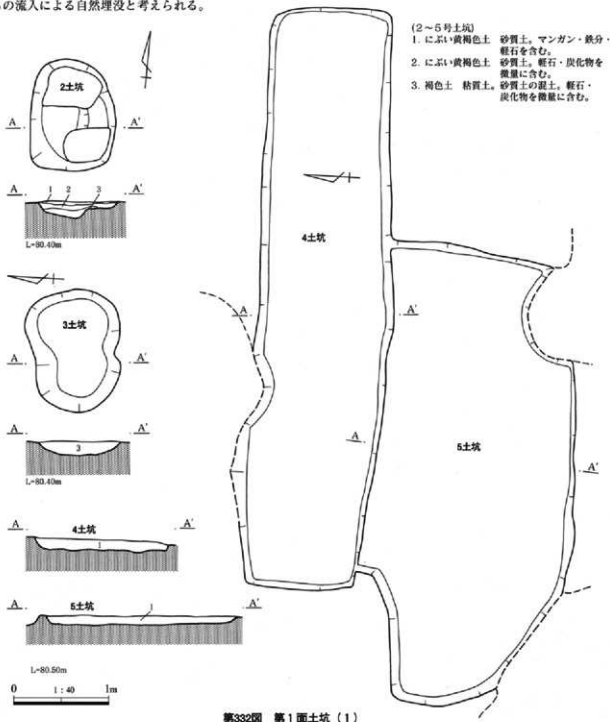
第331図 第1面溝及び地層状況図

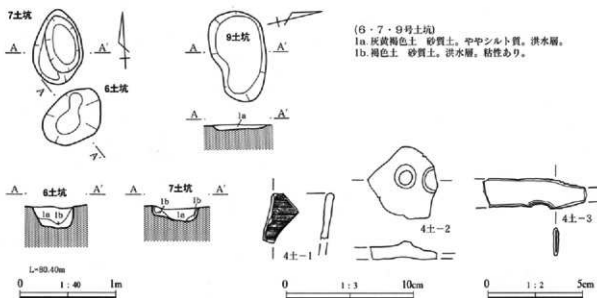
3) 土坑

9基の土坑を検出した。1号土坑から5号土坑までは近現代の土坑である。6号土坑(第333図、PL108)、7号土坑(第333図、PL108)、9号土坑(第333図、PL108)は楕円形状を呈し、灰黄褐色シルト質の洪水砂気味の土により埋没しているが、洪水埋没と考えるより地山層が洪水砂であるため周囲からの流入による自然埋没と考えられる。

表94 第1面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
2	J o-69	120	90	18	長方形	N-3°-W
3	J o-70	130	86	16	楕円形	N-81°-E
4	J o-71	620	80	13	長方形	N-90°-E
5	J o-72	490	(160)	12	不定形	N-86°-E
6	J 1-67	70	52	24	楕円形	N-47°-E
7	J 1-67	80	46	20	楕円形	N-1°-W
9	J o-71	96	48	6	楕円形	N-83°-W





(6・7・9号土坑)
1a. 灰黄褐色土 砂質土。ややシルト質。洪水層。
1b. 褐色土 砂質土。洪水層。粘性あり。

第333図 第1面土坑(2)・土坑出土遺物

第1面 4号土坑出土遺物観察表(第333図、PL127)

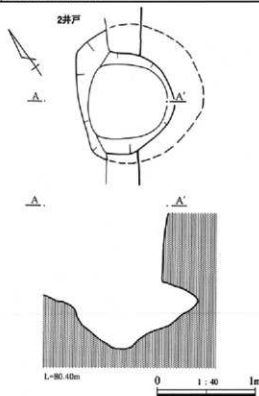
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	茶梅輪陶器 香炉	フタ土 口縁部	①-②-③-	紅物見えず。やや乾。弱 中性。	筒形小形。外面に兩輪かかる。内面に工具による轆轤目。割 れ口消滅あり。18世紀。美濃。
2	蹄型 破片	フタ土 破片	①-②-③-	細砂質。赤褐色。	蹄型。円形突起長径19.5mm、高さ4mm、円形凹径16mm。 深さ2mm。
3	鉄製品 不明	フタ土 破片	長(5.5)cm、幅1.5cm、厚0.2cm、重(1.4)g		調査時以降欠損。錆化少ない。黒黒。洋鉄。1ヶ所円弧状の 曲げあり。19世紀以降。

4) 井戸

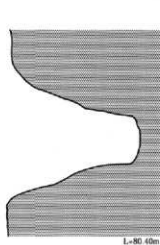
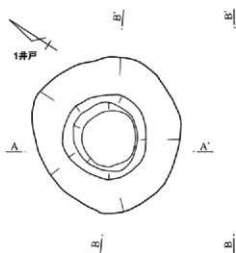
3基の井戸を検出した。1号井戸(第335図)は調査区北よりで検出し、円形に掘り込まれ断面は緩やかなロート状を呈する。2号井戸(第334図)は調査区東端部で検出し調査区外に立ち上がりが伸びる。3号井戸(第335図、PL110)は畦畔状遺構の西端で重複し検出した。確認面から中位までは大障が埋め込まれた石組みの井戸である。この3号井戸からはNo1の掘り鉢や石臼、板碑、木製容器の底板、木栓、炉体などが出土している。

表95 第1面井戸計画一覧表

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
1	J o-71	163	157	142	円形	N-1°-W
2	J m-66	96	(62)	140	不明	N-39°-E
3	J m-69	160	148	267	円形	N-30°-E

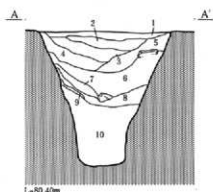


第334図 第1面2号井戸



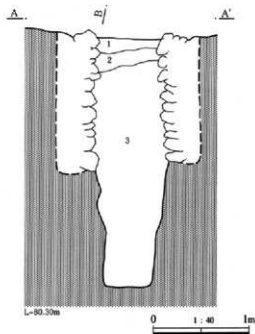
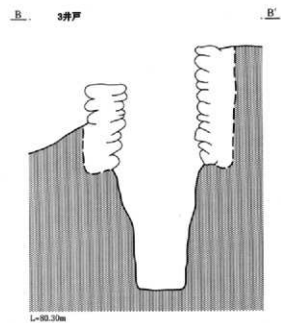
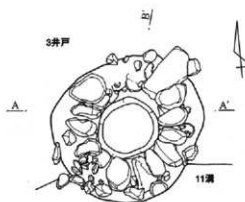
(1号井戸)

1. 褐色土 砂質土・軽石を含む。炭化物をごく微量に含む。
2. にぶい・黄褐色土 砂質土。軽石を全体に含む。炭化物を含む。
3. 褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。
4. 褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。
5. にぶい・黄褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。暗褐色土を含む。黄褐色土をブロック状に含む。
6. 暗褐色土 砂質土。軽石・炭化物を微量に含む。
7. 暗褐色土 粗粒砂質土が混入。
8. 暗褐色土 粘質土。軽石を極微量に含む。
9. 黒褐色土 砂質土。粗粒砂層。
10. 灰黄褐色土 粘質土・砂質土が混入。炭化物を全体に含む。

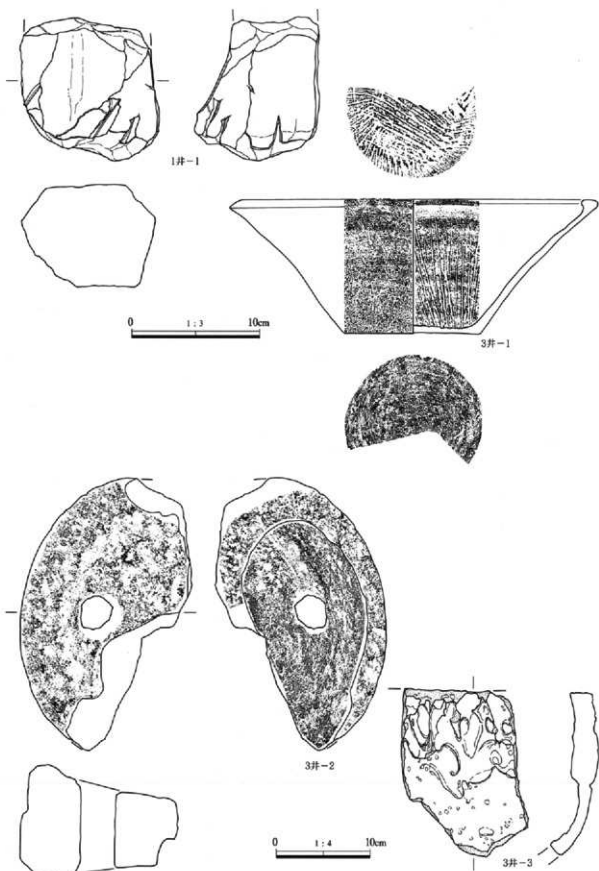


(3号井戸)

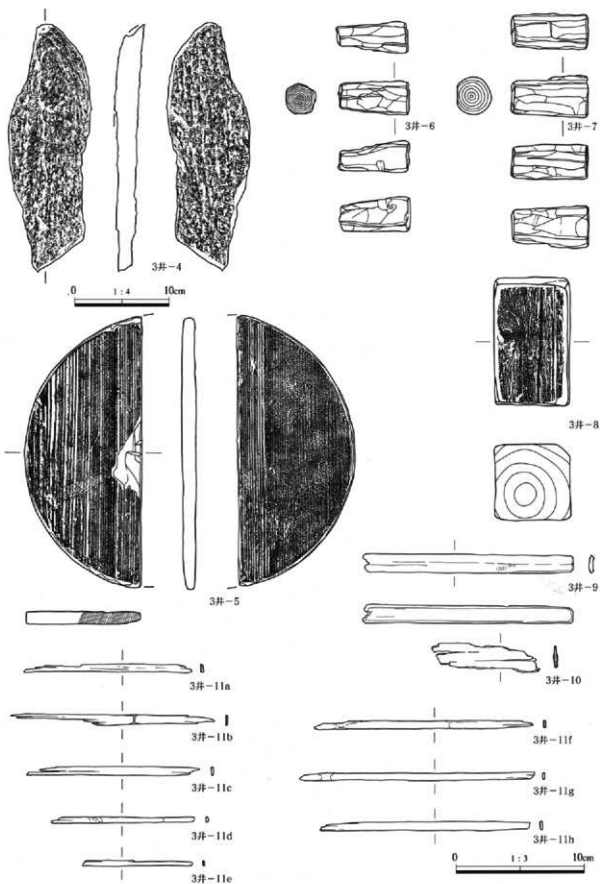
1. 褐色砂層 微細粒砂。小礫を微量含む。
2. 褐色砂層 粘性帯びる。
3. 褐色砂層 ゼラつきがある。



第335図 第1面1号・3号井戸



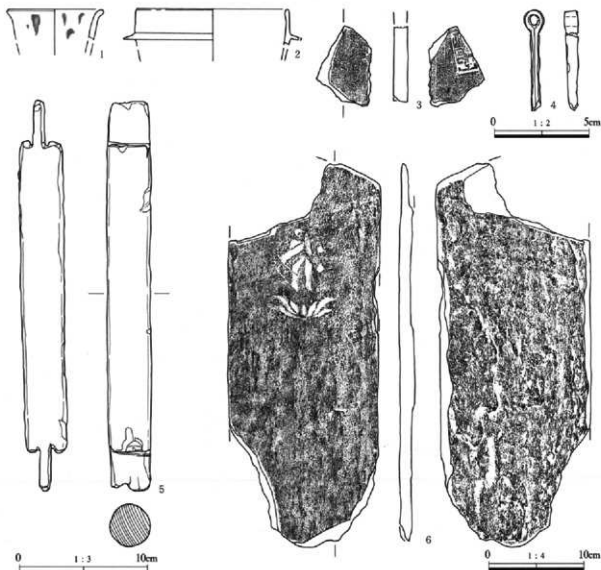
第336图 第1面井戸出土遺物(1)



第337图 第1面井产出土遗物(2)

第1面 井戸出土遺物観察表(第336・337図、PL127・128)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(㎢)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1井	石製品 砥石	フク土	長さ(11.3)cm,幅(10.8)cm,厚さ9.7cm 重さ(1.29)kg	石材:凝灰質砂岩	先端部に、研磨痕。
3井	鉄輪陶器 掛鉢	フク土 1/2	①29.0②10.7 ③10.5	白色磁物多。重。跡。 還元から酸化気味へ。	内面に5条を単位とする節目あり。外面に鉄輪あり。内面磨耗は浅い。底面底削り。割れ口消耗少。17・18世紀。信楽。
3井	石製品 臼	フク土 1/3	径(28.7)cm,厚さ(11.9)cm,重さ(6.1)kg 石材:牛伏砂岩		上臼。芯伸受。供給孔。ものくぼりあり。 目はなし。
3井	銅型 少体器	フク土 破片	長一幅一厚一重0.6kg		細砂+木炭粒。溶解磁物付着。
3井	石製品 板碑	フク土 破片	径(26.1)cm,厚さ(3.3)cm,重さ(0.75)kg 石材:緑色片岩		表裏不明。
3井5	木製品-底版	1/2,フク土	長(21.2)cm,幅(9.2)cm,厚1.0cm		円板状を呈し、側縁面取り。
3井6	木製品-栓	完形,フク土	長(5.6)cm,径2.3cm		木栓。
3井7	木製品-栓	完形,フク土	長(6.1)cm,径2.9cm		木栓。
3井8	角材	完形,フク土	長10.0cm,幅6.0cm,厚6.0cm		角材長方形。
3井9	竹	竹片,フク土	長(16.6)cm,幅(1.4)cm,厚0.4cm		そぎ割された竹。
3井10	竹	竹片,フク土	長(8.5)cm,幅(1.8)cm,厚0.3cm		そぎ割された竹。
3井11	竹	フク土	長(17.3)cm,幅(0.6)cm,厚0.2cm		竹をそぎ割り、ヒゴ状に割られたもの。



第338図 第1面遺構外出土遺物

第1面 遺構外出土遺物観察表(第338図、PL128・129)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	鉄軸陶器 小碗	フク土 口縁部片	①(5.8)②- ③(2.4)	紀物見えず。産。緑。 還元から酸化へ。	全体に輪軸調の鉄軸。さらに内外に鉄黒褐斑を施す。使用 量少。割れ口消耗微。15-18世紀。国産・中国不明
2	須恵器 羽釜	J m-68 口縁部片	①(12.0)②- ③(2.8)	精選。還元。良。灰色。	輪軸整形。口縁部横溝。5世紀初期。
3	軟質陶器 不明	J n-69 底部断片	①-②-③-	白色灰物・金雲母粒含。 軽。硬。酸化。	にふい赤褐色。底面に「山中□□同業□□□□□」の印跡 19世紀後半~20世紀。国外。
4	鉄製品 鍔金	J m-67 近完存	長5.5cm, 幅0.8cm, 厚0.5cm, 重2.6g		錆化少ない。茶葉。層状剥落あり和鉄。良鉄。錆化少ない。 15世紀以降。
5	木製品 表様		長30.6cm, 径3.3cm		楕円手か。両端に柄あり。
6	石製品 板碑	J m-68 破片	長(40.3)cm, 幅(16.4)cm, 厚(1.7)cm 重(1.75)kg		石材：緑色片岩。

3. 第2面 (中近世) の検出遺構

(1) 第2面の概要

本面は、第1面の地山である利根川変流後の洪水層を10cmほど下げ検出した褐灰色土面である。この洪水層中にはシルト質土や細砂層が互層に堆積し、面的な広がりも別地点で見られた。

本面もまだ上層の近・現代の攪乱が見られ所々遺構が寸断されていた。

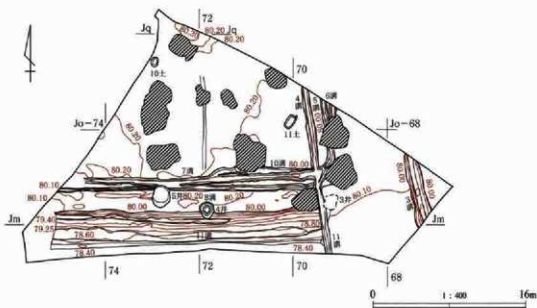
検出遺構には、溝を中心に土坑・井戸を検出した。

(2) 検出遺構

1) 溝

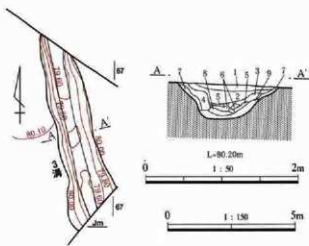
3号溝から11号溝までの9条の溝を検出した。大半が東西南北方向に延び、溝によっては直交するなど区画溝の様相が見られる物もある。調査区東端で

検出された3号溝(第340図、PL109)は、上幅1.5m、深さ50cmを測るしっかりした掘り込みを持つ溝である。4号溝(第342図、PL109)は、N-10°-Wの角度で南北方向に直線的に延びる溝であり、中央部で5号溝、7号・8号・10号溝が合流する。また南端では11号溝を跨ぐ。断面はV字状に掘り込まれる。5号溝(第342図、PL109)は、4号溝東で同方向に併走し途中攪乱により分断されるが、4号溝の中央で湾曲しながら合流する。6号溝(第342図、PL109)は、5号溝東で検出されたが、大半は攪乱により消失して不明確である。7号溝(第342図、PL109)は、やはり4号溝中央から東西方向に延びる溝であり、N-88°-Wに向く。断面丸底状を呈し、



第339図 第2面全体図

10号溝を掘り込んでいる。8号溝（第342図、PL109）は、7号溝に併走し東西方向に延びるが中央付近で合流する。断面丸底状を呈する。10号溝（第342図、PL109）は7号溝北で検出され、断面観察では7号溝により切られる。掘り込みは浅い。これらの溝は方形に巡る区画溝と考えられる。11号溝（第342図、PL109）は、調査区南縁を東西方向に延びる溝であるが、大規模に掘削されているため北側面しか検出できなかった。

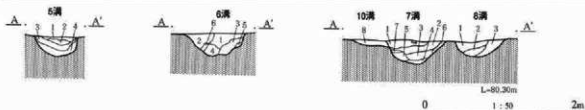


1. にぶい黄褐色土 As-Aを多量に含む。
2. 褐色土 As-Aは1層と同じく多量に入る。
3. 褐色土 As-Aの粒子はやや細くなり、粘性はない。
4. 灰褐色土 As-Aの粒子は細くなり、ブロック状に入る。
5. 褐灰色土 As-Aが均一に入る層。
6. 黒褐色土 粘性強く、As-A含む。
7. にぶい黄褐色土 軽石を含まない。
8. 褐灰色土 As-Aが均一に入る層。
9. 灰黄褐色土 粒子の細かい砂層である。

第340図 第2面3号溝

表96 第2面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m・幅・深さ:cm)				備考
				確認全長	上幅	下幅	深さ	
3	Jm-67 → Jm-67	N-12°-W	0.09	7.8	140	36	46	4号溝と併走する掘り込みの深い溝。As-A多量に入る。断面U字又は逆台形の掘り込み。11号溝を掘り込む。6号溝と併走し、4号溝を挟み延長上に7号溝あり。5号溝と併走し、4号溝を挟み延長上に8号溝あり。8号溝と近接・併走する。5号溝と同一か？7号溝と近接・併走する。6号溝と同一か？7号溝北側で重なる。7号溝の立ち上がり部分？調査区南縁を東西に掘削される大規模な溝。推定約9m。
4	Jm-69 → Jm-69	N-8°-W	0	10.5	74	32	64	
5	Jm-69 → Jm-69	N-10°-W	0	5.6	60	18	25	
6	Jm-69	N-11°-W	0	1.0	80	40	30	
7	Jm-74 → Jm-69	N-88°-E	0.40	25.3	77	31	30	
8	Jm-69 → Jm-74	N-88°-E	0	27.4	65	42	19	
10	Jm-69 → Jm-71	N-90°	0	10.2	68	31	8	
11	J1-69 → J1-75	N-90°	0	28.6	320	-	128	



(5号溝)

1. 灰褐色土 砂質土。白色の軽石粒を含む。
2. 褐灰色土
3. 灰褐色土 1層と近似。
4. 褐灰色土 かなり大きい白色軽石粒を含む。

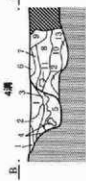
(6号溝)

1. 灰黄褐色土 砂質土。白色軽石を少量含む。
2. 灰黄褐色土 白色軽石を少量含む。粘性あり。
3. にぶい黄褐色土 僅かに軽石を含む。
4. にぶい黄褐色土
5. にぶい黄褐色土 砂質土。
6. 黒褐色土 As-Bを含む。

(7・10号溝)

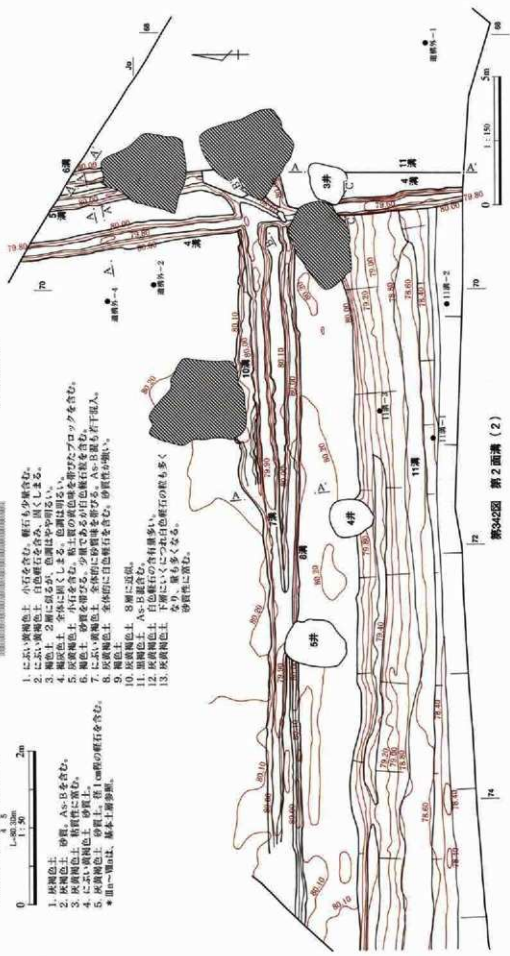
1. 暗褐色土 砂質土。
 2. 黒褐色土 軽石を含む。粘性をやや帯びる。
 3. 褐色土 軽石を含む。
 4. 黒褐色土 砂質土。
 5. 灰褐色土 砂質土。軽石を含む。
 6. 黒褐色土 As-Bを含む。
 7. 灰褐色土 砂質性に富む。
 8. 褐色土 砂質土。軽石・炭化物を微量に含む。(10号溝フタ土)
- (8号溝)
1. にぶい褐色土 砂質土。
 2. にぶい褐色土
 3. 暗褐色土 砂質土。

第341図 第2面溝(1)

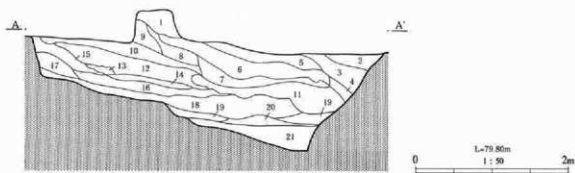


1. 灰褐色砂 灰褐色(細粒)に褐色成分混入を多く含む。
2. 灰褐色 細粒砂中に部分混入褐色砂を含む。
3. 灰褐色砂 白色軽石が少量含む。

1. にぶい黄褐色土 小石を含む。軽石も少量含む。
2. にぶい黄褐色土 白色軽石を含む。固くしめる。
3. 褐色土 2層に匹敵するが、色調はやや暗い。
4. 褐色土 全体に固くしめる。色調は明るい。
5. 灰褐色土 小石を含む。粘土質の赤褐色を帯びたブロックを含む。
6. 褐色土 砂質を少なからず含む。少量であるが白色軽石を含む。
7. にぶい黄褐色土 全体的に砂質味を少なからず含む。A-B層も若干混入。
8. 灰褐色土 全体的に白色軽石を含む。砂質性が強い。
9. 灰褐色土 8層に匹敵。
10. 灰褐色土 A-B層を含む。
11. 灰褐色土 白色軽石の含有量多い。
12. 灰褐色土 下部にいくにつれ白色軽石の粒も多くなり、量も多くなる。
13. 灰褐色土 砂質性に富む。

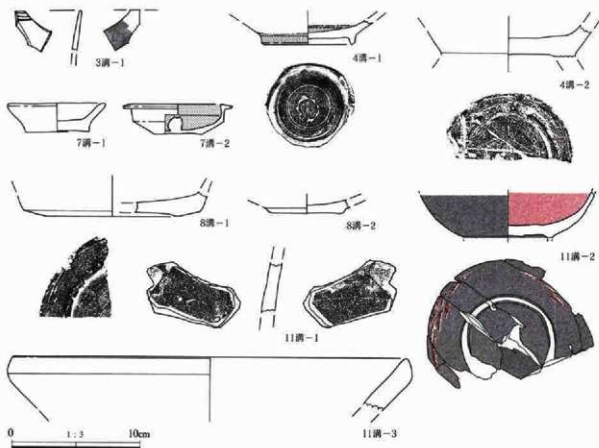


第542図 第2面溝 (2)



第343図 第2面溝 (3)

- | | |
|---|---|
| <p>1. にぶい黄褐色土 砂質土。
 2. 褐色土 砂質土。川砂を含む。
 3. にぶい褐色土 粘質土を含む。樹皮を微量に含む。川砂がブロック状に混入。
 4. にぶい褐色土 粘質土。川砂が多く混入。
 5. にぶい褐色土 砂質土と粘質土が層状に堆積する層。
 6. にぶい黄褐色土 砂質土と粘質土が層状に堆積する層。5層より層が細かい。
 7. 灰褐色土 砂質土と粘質土が層状に堆積する層。
 8. 灰黄褐色土 砂質土と粘質土の混土。川砂がブロック状に混入。
 9. 褐色土 砂質土。川砂を多く含む。
 10. 褐色土 色調暗め。砂質土。礫を含む。川砂を多く含む。
 11. 灰黄褐色土。川砂。傘大の礫を多量に含む。
 12. 灰褐色土 砂質土。川砂を多く含む。礫を含む。粘質土をブロック状に含む。</p> | <p>13. 灰褐色土 色調暗め。粘質土・砂質土がブロック状に混入。
 14. 褐色土 川砂。
 15. にぶい黄褐色土 砂質土。川砂・礫を多く含む。
 16. 褐色土 粘質土。暗褐色土ブロック混入。
 17. 暗褐色土 粘質土。黒褐色土ブロック混入。
 18. 灰黄褐色土 川砂。粘質土が層状に堆積。礫を多く含む。
 19. 褐色土 川砂・炭分が層状に見られる。
 20. 黒褐色土 川砂・炭分が層状に見られる。
 21. 黒褐色土 粘質土。礫を含む。川砂がブロック状に混入。粘性強。</p> |
|---|---|



第344図 第2面溝出土遺物

第2面 湧出土遺物観察表(第344図、PL127)

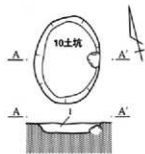
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・造形技法、器形の特徴
3	陶器、染付 そば脣口	フク土 口縁部片	①-②- ③(3.2)	磁物見えず。重。緑。 還元。	内外面に小貝類による施文。透明釉少し暗青がかる。割れ口 シャープ。18世紀。肥前系。
4	陶器 1 瓶	フク土 底部片	①-②(7.0) ③(1.9)	精選。還元。良。灰白色。	轆轤整形。高台部内気味。
4	陶器 2 瓶	フク土 底部片	①-②(10.5) ③(2.4)	砂粒含。還元。良。灰白 色。	轆轤整形。高台部貼付。回転糸切り。
7	土師質土器 1 皿	フク土 小欠損あり	①(7.7)②(5.0) ③(2.3)	黒・白色磁物含。軽。軟 酸化。	底面に轆轤左回転による糸切りあり。胎土はシルト質。全体 に二次被熱色変あり。器面消耗あり。15世紀。西毛。
7	鉄輪陶器 2 蓋(土塊)	フク土 1/2	①(6.7)②(3.8) ③(2.4)	磁物見えず。やや軽。緑 酸化。	外面に鉄輪。強光沢。割れ口シャープ。19・20世紀。
8	陶器 1 徳利	フク土 底部片	①-②(10.0) ③(2.0)	磁物見えず。やや軽。緑 中性。	内外面に鉄輪。底面は替々底削り出し。割れ口消耗あり。 18世紀。美濃。
8	陶器 2 皿	フク土 底部片	①-②(4.6) ③(1.0)	磁物見えず。やや軽。緑 中性。	内面と外面高台際まで志野釉。底面の外縁に沿って浅い削り出 し高台。割れ口少し消耗。17世紀。美濃。
11	陶器 1 甕	+26 破片	①-②-③- ④(1.8)	細砂粒含。還元。良。灰 黄褐色。	内外面無釉。
11	木製品・皿	+26	①(12.8)②-③(3.5)		黒・赤漆塗。外面赤漆塗施文。415項参照。
11	陶器 1 鉢	+25 口縁部片	①(31.0)②- ③(4.1)	白・黒色磁物含。やや重 載。弱酸化から浅い焼へ	灰色。器面全体に消耗。推鉢としての使用不明。割れ口消耗 大。14世紀。観音山。

2) 土坑

本面では、10号土坑、11号土坑の2基の土坑を検出した。10号土坑(第345図)は長円形状を呈し、埋没土中にはAs-B混じりの土を含む。出土遺物には土師質土器の皿が含まれていた。11号土坑(第345図)は、隅丸長方形形状を呈し浅い掘り込みの土坑である。埋没土中にはやはりAs-B混じりの土が入っている。

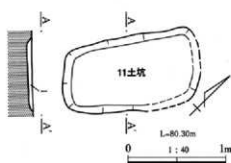
表97 第2面土坑計画一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
10	Jp-72	94	64	15	楕円形	N-18°E
11	Jo-70	148	72	8	長方形	N-24°E



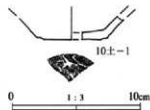
(10号土坑)

1. 灰黄褐色土 わずかにB混土含む。



(11号土坑)

1. 褐色土 As-B混をわずかに含む。



第345図 第2面土坑・土坑出土遺物

第2面 10号土坑出土遺物観察表(第345図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・造形技法、器形の特徴
1	土師質土器 皿	フク土 底~体部	①-②(5.6) ③(1.8)	磁物見えず。軽。並。 酸化。にぶい黄褐色。	底面糸切り。シルト質。割れ口消耗少。15・16世紀。西毛。

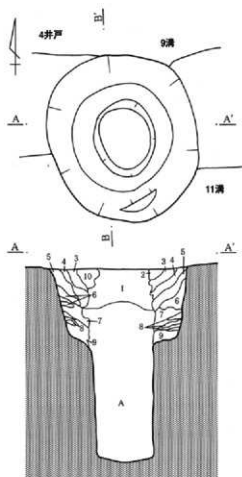
3) 井戸

4号井戸・5号井戸の近接する2基の井戸を検出した。4号井戸(第346図)は、11号溝中央北側法面立ち上がり部で重複状態で検出した。掘り方はA区で検出された1号井戸などに類似し、テラス状の中断を有し、そこから中央を円形に掘り込む。

5号井戸(第347図)は、7号・8号溝合流部南脇で検出し、僅かに8号溝にかかる。

表98 第2面井戸計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
4	J m-71	178	146	203	円形	N-32°-W
5	J m-72	248	174	194	楕円形	N-6°-E

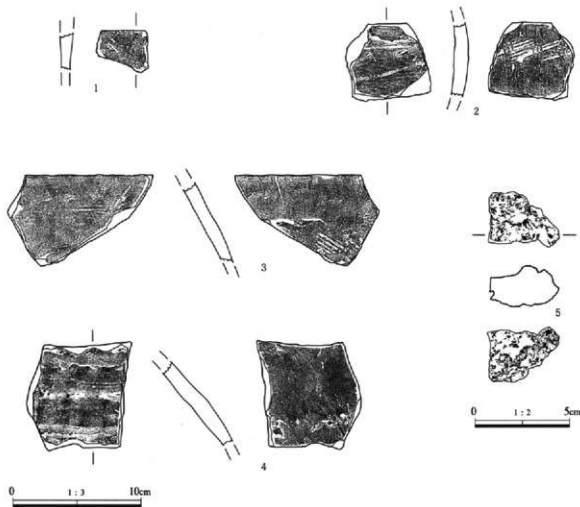


1. 褐色砂層 微細～細粒砂主体。軽石粒を微量含む。
 2. 暗褐色土 黒褐色土を含む。
 3. 灰褐色土 微細粒砂・黒褐色土・灰色土の混土。
 4. にぶい黄褐色砂層 褐色砂・灰色土ブロックを含む。
 5. にぶい黄褐色砂層 細粒砂で軽石粒微量含む。F P泥流ブロックを微量含む。
 6. 黒褐色土 A s-B 混合土(黒褐色土)を主体とし、F P泥流大ブロック含む。
 7. 灰色土 砂質。
 8. 明黄褐色土 F P泥流・軽石を多く含む。
 9. 灰色土 粘性帯ひる。
 10. 褐色砂層 黒褐色土が斜位の形状に集中して見られる。
- A. 灰色砂層 1層に似るが、灰色砂が主体となり暗褐色土の鉄分ブロックを多く含む。

第346図 第2面井戸(1)

第2面 5号井戸出土遺物観察表(第347図、PL128)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)	成・整形技法、器形の特徴
1	木製品	完形、フタ土	長28.7cm、径2.0cm	端部紐穴、中央エダリ、頸部。



第348図 第2面遺構外出土遺物

第2面 遺構外出土遺物観察表(第348図、PL128)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	焼締陶器 壺	J1-68 体部片	①-②- ③(3.3)	泥物見えず。粗。締。 還元。オリーブ黄色。	外面に篋削り目あり。内面に自然釉かかる。器内薄く、費な ら中～小形。割れ口消耗あり。13～15世紀。東海。
2	焼締陶器 壺	J n-69 体部片	①-②- ③(6.2)	泥物少。重。硬。還元。 灰色。	表面に浅いスタレ目と印文印きあり。連打つまり古様。内面 紐作痕。割れ口消耗大。12・13世紀。関東。
3	焼締陶器 壺	J m-74 体部片	①-②- ③(7.2)	泥物少。やや硬。硬。 還元。黄灰色。	外面に篋削りと印き目あり。内面工具捺痕と自然釉。割れ口 消耗少。12～14世紀。関東。
4	焼締陶器 壺	J o-70 頸部直下片	①-②- ③(8.6)	泥物少。重。締。還元。 灰色。	上方に自然釉層が付着。下方篋削り目あり。内面紐作痕割れ 口頸部に研磨痕あり。金属磁き。割れ口消耗少。 12～14世紀。関東。
5	生産関連 鉄滓	J m-69	長3.8cm、幅2.7cm、厚2.1cm、重29.6g		旧時欠損。意識的か? やや重い。酸化進行せず。表面に伊底 痕あり。桃形滓で、鍛冶滓。18世紀以前。

4. 第3面（中世）の検出遺構

(1) 第3面の概要

第2面の褐灰色土を10cm程下げ、As-Bを多量に混込み現場呼称でB混土とした暗褐色土または黒褐色砂質土上面を検出面とした。調査区東端は東に向かって下がる傾斜面を検出した。

検出遺構は、南辺東西方向に上層からの11号溝が大きく掘り込み、遺構が消失している。11号溝北側法面脇には併走する4条の溝とその北側平坦面では多数のピット群を検出した。ピット群の中には調査段階で5列の柵列を検出したが、整理段階で辺長や柱穴間長から5棟の竪立柱建物を想定した。

(2) 検出遺構

1) 溝

9号溝（第350図、PL110）は、上面7号・8号溝の下層より検出し、5号井戸付近より始まり東西方向に走る。本溝の西は12号溝（第350図、PL110）と13号溝（第350図、PL110）に分岐する。14号溝（第349図、PL110）は、調査区東端部に南北方向に延びる溝であり、上層3号溝と重なる。

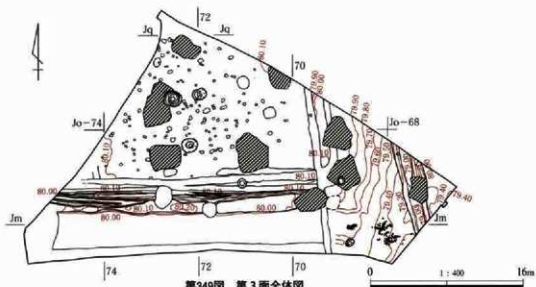
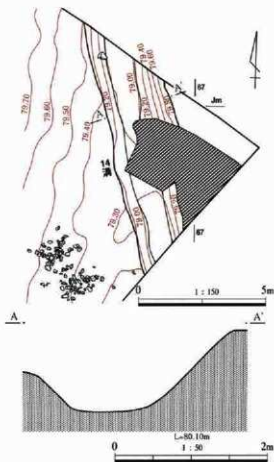
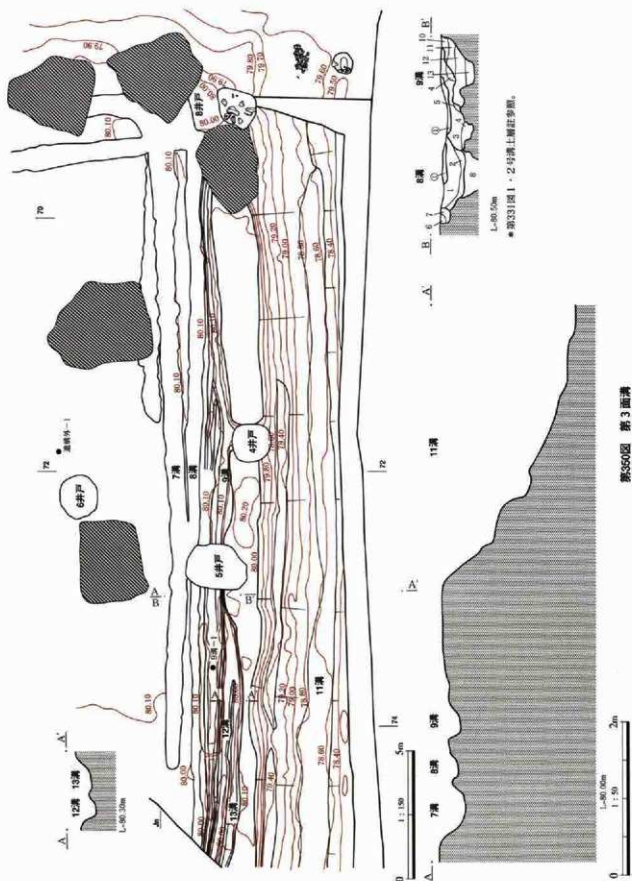
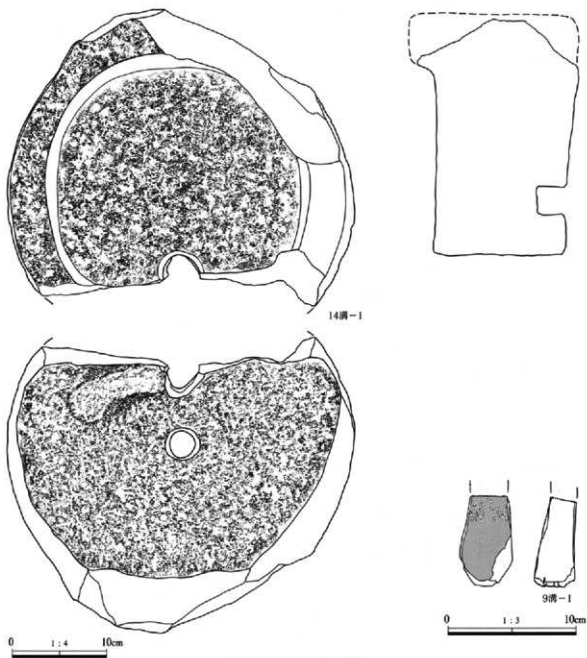


表99 第3面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m・幅・深:cm)			備考	
				概測全長	上幅	下幅		深さ
9	Jm-72 → Jm-69	S-88°-W	0.04	25.5	80	30	45	8号溝と南接する。
12	Jm-73 → Jm-74	S-87°-E	0.04	9.1	40	20	24	9号溝の途中からはじまり、13号溝と分岐する。
13	Jm-74 → Jm-73	N-89°-E	0.05	9.4	42	26	21	12号溝と分岐し、東西方向に併走する。
14	Jn-67 → J1-67	N-15°-W	0.10	8.8	260	75	52	3号溝下層より検出。上幅2mを超える規模の大きな溝。





第351図 第3面溝出土遺物

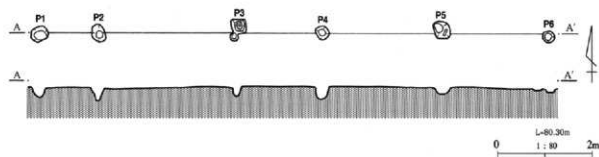
第3面 溝出土遺物観察表(第351図、PL127)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ		胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
			①口径	②底径③高さ		
9溝 1	石製品 磁石	+3 1/2	長(7.1)cm, 幅(4.2)cm, 厚(3.3)cm, 重(130)g	石材: 変質デイサイト	胎土・焼成・色調	白〜半透明結果あり。しかし、き目頗う。片小口に刃ならし傷あり。欠損は胆欠。使用は裏・裏・側部の4面。手持磁土白。
14溝 1	石製品 臼	フタ土 1/2	径(36.5)cm, 厚さ(18.0)cm, 重さ(27.3)kg	石材: 安山岩	胎土・焼成・色調	

2) 欄列 (第352図)

調査区中央から西側で平面上で検出したビット群の中で直線的に並ぶビットをつなぎ欄列とした。

5列の欄列を確認したが、欄列間の方向・距離・間隔等は不揃いであり、1号欄列を除き他の欄列は図上復元した掘立柱建物に吸収される。



第352図 第3面1号欄列

3) 掘立柱建物

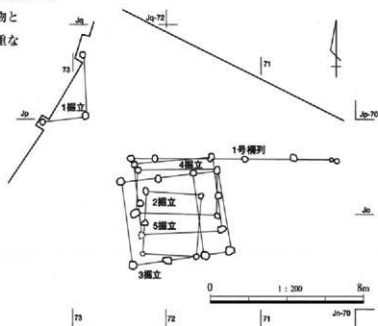
調査区中央付近には無数のビットが確認でき、整理段階で再度ビット群を検討した結果、ビット群の中から直線的に結ばれ直角方向にも伸びるビット列を確認し掘立柱建物として扱うこととした。

1号掘立柱建物(第354図)は、調査区西端で3本のビットが逆L形に結ぶ、調査区外に伸びる軸方向は、 $N-3^{\circ}-W$ に向く。柱穴間は東辺で6.4m、南辺で3.6mを測る。

2号掘立柱建物(第355図)は、調査区中央のビット群中で確認した1間×1間の掘立柱建物と考えられるが、南西隅の柱は6号井戸と重なる位置に想定され検出できず、掘立柱建物とするには疑問が残る。形状は南北方向に僅かに長く、東辺は3.2m、北辺は3mを測り、 $N-5^{\circ}-E$ に向く。

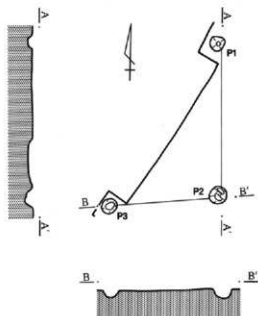
3号掘立柱建物(第356図)は、やはりビット群中で確認し、2号掘立柱建物と重なり合う。当初1間×2間の掘立柱建物と考えたが、東辺外側で柱間の若干短いビット列を確認し底持ちの掘立柱建物と考えた。

底を含めた東西辺は5.3m、南北辺4.4mの規模を持ち、 $N-42^{\circ}-E$ に向く。また南辺は4号欄列と共有する。4号掘立柱建物(第357図)もやはりビット群中で確認し、他の掘立柱建物と重なり合う。東西辺は4.4m、南北辺は2.4mを測り、東西方向に長い1間×1間の長方形形状を呈する。

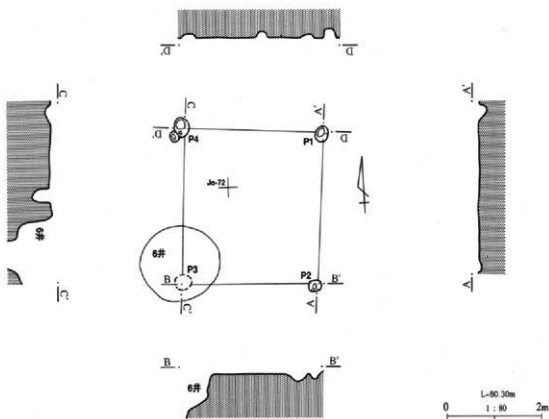


第353図 掘立柱建物配置図

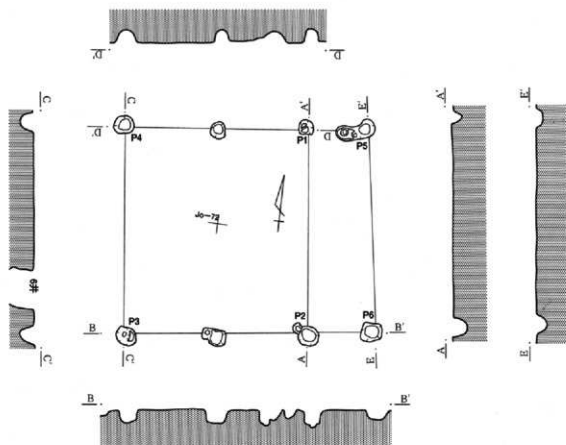
5号掘立柱建物(第358図)もやはりピット群中で確認し、他の掘立柱建物と重なり合う。本掘立柱建物も2号掘立柱建物同様南西隅の柱位置に6号井戸が重なり1間×1間の掘立柱建物とするには疑問が残る。形状は4m程の正方形形状を呈する。N-9°-Wに向く。



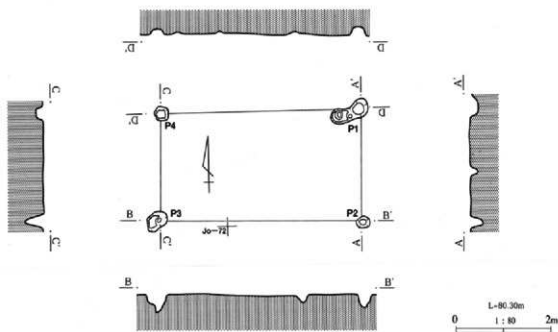
第354図 1号掘立柱建物



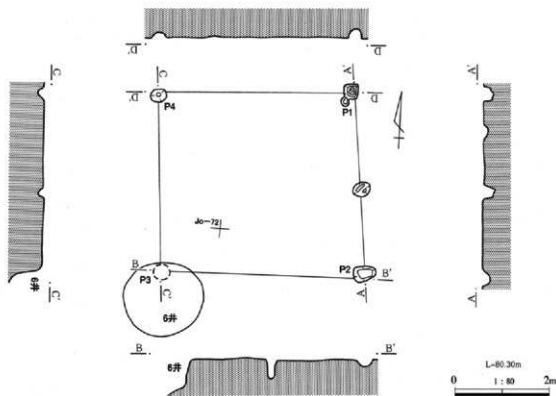
第355図 2号掘立柱建物



第356图 3号独立柱建物



第357图 4号独立柱建物

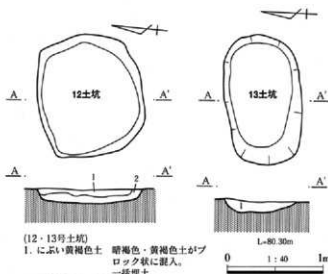


第358図 5号独立柱建物

4) 土坑

調査区中央部のビット群と共に12号土坑（第359図、PL110）13号土坑（第359図、PL110）の2基の土坑を検出した。

埋没土中には地山層となっているが、洪水起源のふい黄褐色細砂シルト質土が入っている。



(12・13号土坑)

1. ふい黄褐色土 暗褐色・黄褐色土がブロック状に混入。
一括埋土。

2. 灰黄褐色土 砂質土。

第359図 第3面土坑

5) 井戸

調査区中央のビット群中並びに周辺部に3基の井戸を検出した。6号井戸（第360図）は調査区中央ビット群中で想定した各独立柱建物柱穴とからみ検出した。中層には投げ込まれた考えられる礫群が出土し、石臼等が含まれている。

形態はテラス状の中段を持ち下部は円形に掘り込まれる。7号井戸（第361図）は上層から攪乱土の下から検出され、若干上部が広がる形態である。やはり中段を持ち、下部は隅丸形状に掘り込まれる。8号井戸（第361図）は他の井戸同様テラス状の中段を持ち、下部は隅丸方

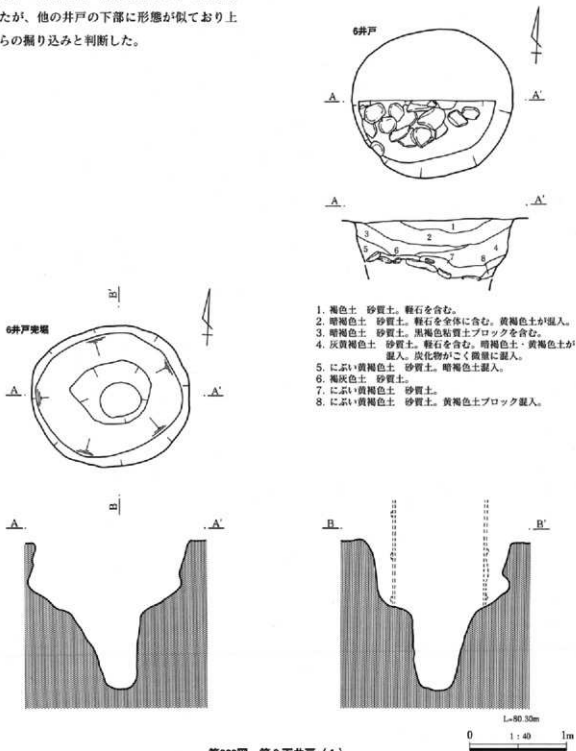
表100 第3面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
12	J o-70	134	50	18	円形	N-47°-E
13	J n-72	136	72	16	隅丸長方形	N-76°-E

形状に掘り込まれる。出土遺物中には木製品も多く曲物、木栓等が出土している。9号井戸(第362図)は上層を攪乱により消失し、確認面はHr-FP面にて検出した。埋没土中にはAs-B混土や地山ブロックが入る一括埋没土であった。10号井戸(第362図)は第9面のシルト面で検出したが、他の井戸の下部に形態が似ており上層からの掘り込みと判断した。

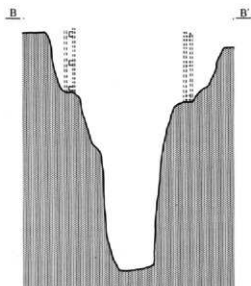
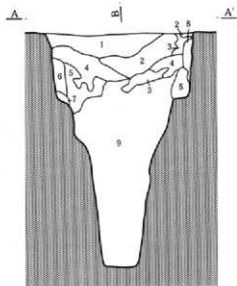
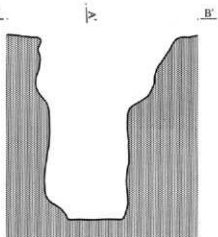
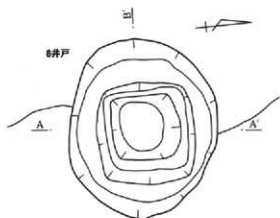
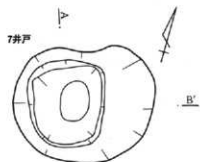
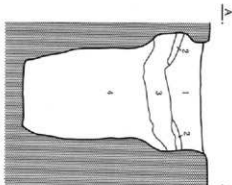
表101 第3面井戸計画一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
6	Jn-71	170	156	156	円形	N-88°-E
7	Jo-70	145	117	196	楕円形	N-80°-E
8	Jo-71	189	157	246	楕円形	N-83°-W
9	Jm-71	100	89	45	円形	N-33°-W
10	Jm-68	85	74	124	円形	N-31°-W



第360図 第3面井戸(1)

1. にぶい黄褐色土
FP入る。
2. 灰黄褐色土
シルト～粘性。
3. 灰褐色土
シルト互層(洪水堆積か)
4. 褐灰色土
シルト～粘性。

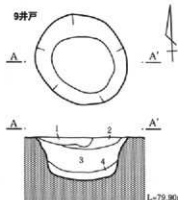


1. にぶい黄褐色土 FP粒含み、黒褐色ブロック入る。
シルト質～砂質感強。
2. 灰黄褐色土 FP粒含み、シルト質。
3. 灰黄褐色土 FP粒含み、シルト質。
4. 灰黄褐色土 FP粒含み、シルト質。黒褐色ブロック入る。

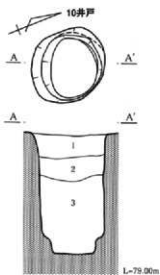
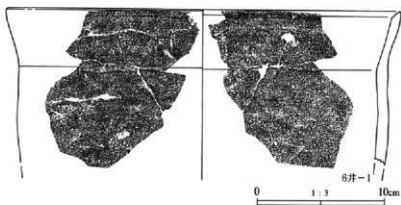
5. にぶい黄褐色土 FP粒含む。側壁の崩落ブロック入る。
6. にぶい黄褐色土 シルト質。還元少。
7. 褐灰色土 シルト質。還元大
8. 褐灰色土 砂質。As-Bの入る凹み(一部に井戸廻り方かかる)。
9. 褐灰色土 軽石粒入り、還元気味、粘性・シルト質。

第361図 第3面井戸(2)

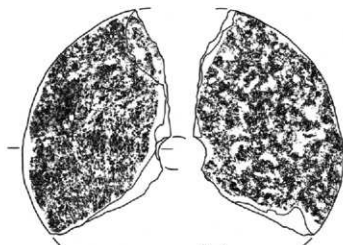




1. 暗褐色土 As-B 凝土、F P 泥流ブロック混入。黒色土砂を含む。
2. 褐色土 F P 泥流・As-B 凝土が混入。
3. 黒褐色土 As-B 凝土・F P 泥流ブロックを多く含む。炭化物を多く含む。
4. 黒褐色土 砂質土。As-B 凝土を多く含む。



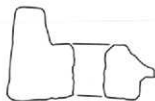
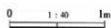
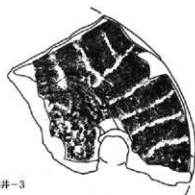
1. 灰色土 砂質。
2. 灰色土 砂質。
3. 灰色土 砂質。泥質分強く、最下部から木片出土。



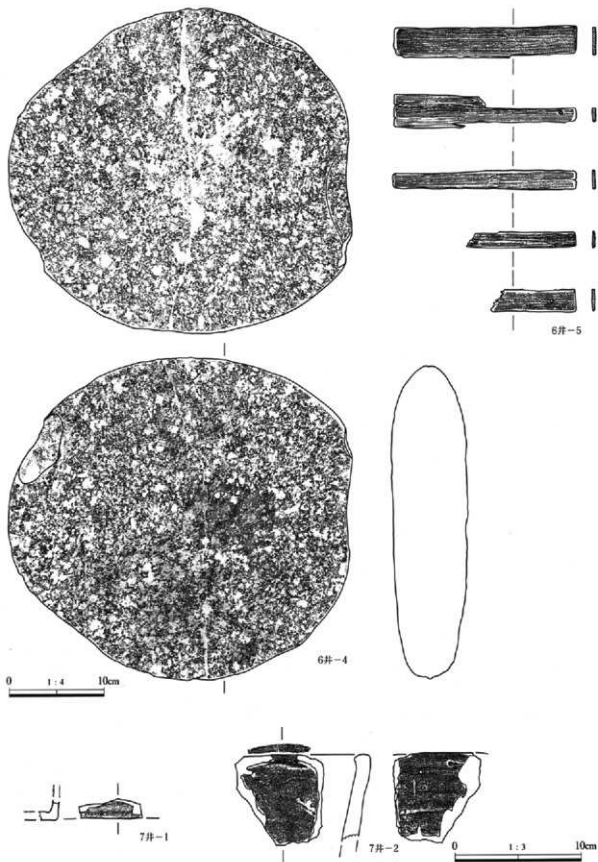
6井-2



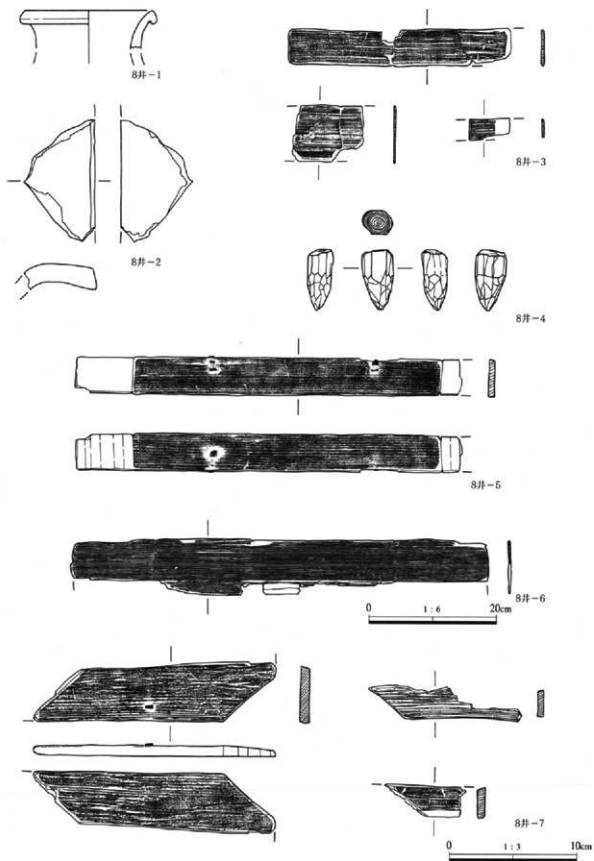
6井-3



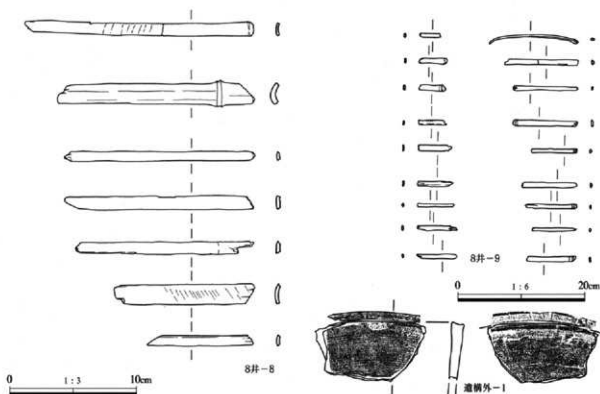
第362図 第3面井戸(3)・井戸出土遺物(1)



第363図 第3面井戸出土遺物(2)



第364图 第3面井戸出土遺物(3)



第365図 第3面井戸出土遺物(4)・遺構外出土遺物

第3面 井戸出土遺物観察表(第362~365図、PL127・128)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
6井1	軟質陶器 内耳罐	フタ上 破片	①(31.2)②- ③(12.1)	砂粒含。中性。良。 オリーブ黒色。	口縁部僅で。口唇部面取り。胴部本調整。保存着。
6井2	石製品・下白	破片, フタ土	径(23.6)cm, 厚さ(8.4)cm, 重さ(3.72)kg		目は磨粒。芯棒穴半割。石材: 粗粒輝石安山岩。
6井3	石製品・上白	破片, フタ土	径(20.0)cm, 厚さ9.9cm, 重さ(3.1)kg		供給口から芯棒受けにかけ割れ。石材: 粗粒輝石安山岩。
6井4	石	ほぼ完形, フタ	長35.8cm, 幅33.6cm, 厚7.6cm, 重13.1kg		円盤。扁平。台石? 石材: 粗粒輝石安山岩。
6井5	木製品・板材	破片, フタ土	長14.5cm, 幅2.3cm, 厚0.2cm		板材φ1m/m割の目釘穴。片側1孔、または2孔。
7井1	軟質陶器 内耳罐	フタ土 底部破片	①-②- ③(1.6)	黒・白色底物微。硬。 焼から還元更に焼へ。	黒色。底面に型肌様。体部外面に保付着。割れ口消耗微。18・19世紀。小泉焼か?
7井2	軟質陶器 埴	フタ土 口縁部片	①-②- ③(7.1)	細砂粒含。中性。良。 灰色。	口唇部僅かに内傾。内外面横溝で。
8井1	磁器、白磁 耳壺	フタ土 口縁部片	①(10.0)②- ③(3.0)	胎土は淡灰色。底物見 えず。重。磨。還元。	白磁釉は透明感あり。内面に浅い轆轤目。使用擦痕微。割れ口消耗あり。13世紀。中国。
8井2	瓦 輪瓦	フタ土 側部片	長さ-幅- 厚さ1.8	白色底物含。やや重。 硬。磨化。	片面に型痕あり。施釉は薄い。割れ口消耗少。20世紀後半。泉外。洋瓦。
8井3	木製品・板	破片, フタ土	長(17.5)cm, (17.5)cm, 幅(2.8)cm, 厚0.2cm		曲物側板。
8井4	木製品・柱	完形, フタ土	長4.7cm, 幅2.4cm, 厚1.9cm		円錐形。
8井5	木製品・板材	破片, フタ土	長(30.5)cm, 幅(2.9)cm, 厚0.5cm		曲物側板。2ヶ所木皮?一部縫縁状に数本のノミ痕残す。
8井6	木製品・板材	フタ土	長(72.2)cm, 幅(8.5)cm, 厚0.3cm		曲物側板。
8井7	木製品・板材	破片, フタ土	長(19.1)cm, 幅(4.4)cm, 厚0.8cm		平行四辺形の板材。中央に木皮をカスガイ糸に入れる。
8井8	竹	破片, フタ土	長(18.1)cm, 幅(1.0)cm, 厚0.2cm		竹をそぎ削。ヒゴ状に削られる。
8井9	竹	破片, フタ土	長(14.0)cm, 幅(0.3)cm, 厚0.5cm		竹をそぎ削。ヒゴ状に削られる。

第3面 遺構外出土遺物観察表(第365図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	軟質陶器 鉢?	J n-71 口縁部片	①-②- ③(4.6)	白・灰色底物含。重。硬 還元~弱還元。灰黄色。	外面に紐作付と横溝であり。内面横溝で。割れ口消耗少。13~16世紀。東海以西。

5. 第4面（中世）の検出遺構

(1) 第4面の概要

As-Bの降灰により埋没した面であるが、As-B層の堆積は一部で見られるのみであり、大半は攪拌され消失している。

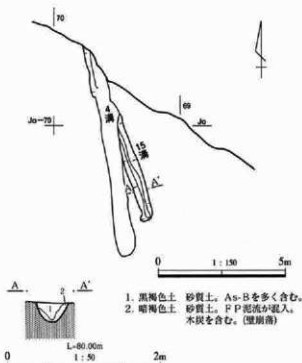
検出遺構では、東端と西端で溝を3条確認したのみであった。

(2) 検出遺構

1) 溝（第366・368図、PL111）

調査区東端の傾斜部への変換付近で確認全長7.5mの15号溝（第366図）を確認した。

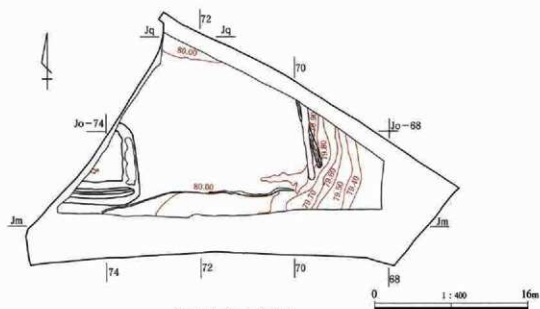
調査区西端では、16号溝（第368図）と17号溝（第368図）が検出された。17号溝は南北方向から直角気味に西に屈曲し、南辺で二股に分かれ、その間に浅い掘り込みの16号溝が走る。



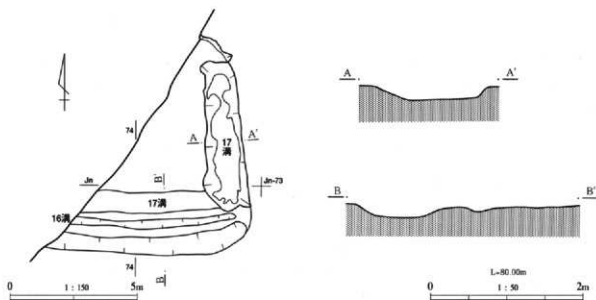
第366図 第4面15号溝

表102 第4面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	概算(長:m,幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		深さ
15	Jn-69	N-20°-W	0.08	4.0	45	30	27	北側で5号溝と重なり、南は斜方向に伸びる。
16	Jm-73・Jm-74	N-88°-E	0	6.4	32	-	8	17号溝と南で重なる。掘り込み浅い溝。
17	Jo-73・Jm-74	N-12°-W	0	14.6	142	100	-	直角気味に西に屈曲する。



第367図 第4面全体図



第368図 第4面溝

6. 第5面（古墳時代）の検出遺構

(1) 第5面の概要

As-B下面には粘性の強い黒褐色土の堆積が見られ、その下層には灰黄褐色の平安洪水層と呼称した堆積土が見られ、その下面より溝・土坑等の遺構を検出した。また、遺構掘り込み基盤層の土はHr-FP泥炭層であった。調査区東端部は傾斜地となっており、端部には土坑状の落ち込みを確認した。

(2) 検出遺構

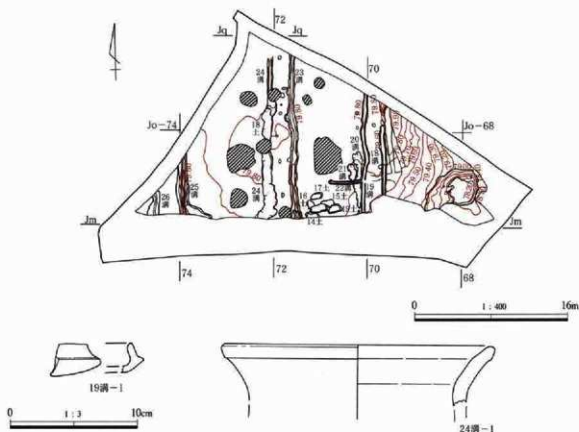
1) 溝

本面で検出された溝は、18号溝から26号溝まで9条を検出した。掘り込み状況は浅く、As-B下面までの間で耕作等により上部は攪拌され遺存状況が悪くなったものと考えられる。

19号溝（第370図、PL111）は、南北方向に僅かに蛇行する。この19号溝に併走する18号溝（第370図、PL111）と直交する22号溝（第370図、PL111）は、埋没土中にAs-B混じりの黒褐色土の堆積が見られ、上面から掘り込まれた中世以降の溝であった。20号溝（第370図、PL111）・21号溝（第370図、PL111）は、19号溝に接し底面の凹凸を確認できるのみであった。調査区中央部では23号溝（第370図、PL112）・24号溝（第370図、PL112）が南北に併走して検出された。両溝の状況も18号溝・19号溝の状況に似ており、更に南西部で検出された25号溝（第370図、PL112）・26号溝（第370図、PL112）も同様に近接して併走する等2条1セットで南北方向に併走する傾向が伺われる。

表103 第5面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m・幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅/深さ		
18	Jo-69 → Jm-69	N-0°	0.13	7.3	40	30	14	19号溝と併走し南北方向に伸びる。
19	Jo-70 → Jm-70	N-0°	0.07	12.5	48	36	14	18号溝と併走し、緩やかに蛇行する。
20	Jn-70	N-0°	0	3.0	50	-	10	東西方向に伸びる短い溝。
21	Jn-70	N-8°-W	0	1.7	56	-	5	掘り込みの浅い溝。21号溝と合流する。
22	Jm-70	N-90°	0.05	3.6	24	14	12	東西方向に伸びる短い溝。22号溝に切られた溝。19号溝と併走。
23	Jp-71 → Jm-71	N-2°-W	0.23	17.0	56	22	10	24号溝と併走する。
24	Jp-72 → Jm-72	N-0°	0.09	16.8	50	24	6	北端寄り。掘り込みはしっかりしている。
25	Jn-73 → Jm-73	N-0°	0.03	6.2	80	43	32	25号溝と併走する。
26	Jm-74	N-5°-E	0	2.4	60	22	12	25号溝と併走する。



第369図 第5面全体図・溝出土遺物

第5面 溝出土遺物観察表(第369図)

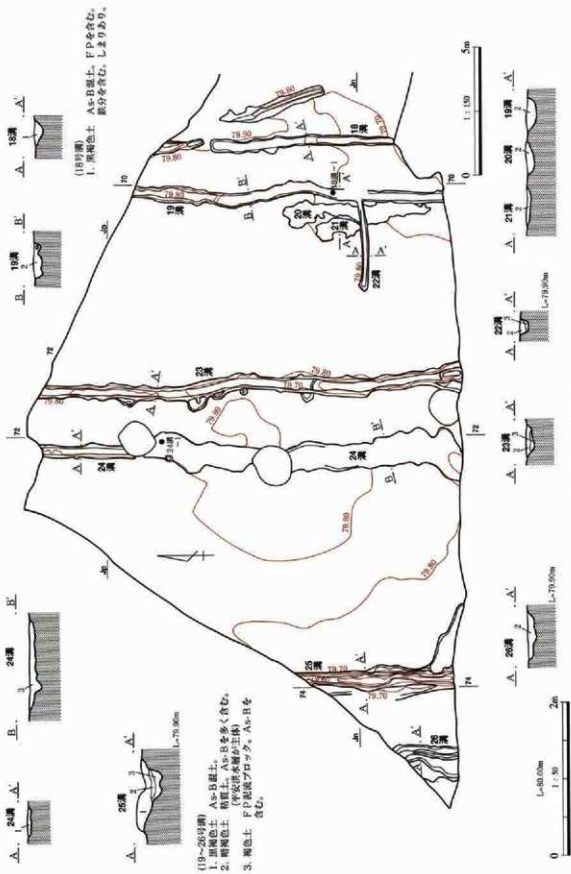
No.	器種 器形	出土位置 残存	流量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
19溝 1	須恵器 坏	±0 口縁部片	①-②- ③(2.3)	精選。良。灰色。	轆轤整形。口縁部内傾。横溝で。後水平方向。
24溝 1	須恵器 甕	+9 口縁部片	①(21.6)②- ③(4.7)	細砂粒含。還元。良。灰 黄色。	轆轤整形。口縁部横溝で。

2) 土坑

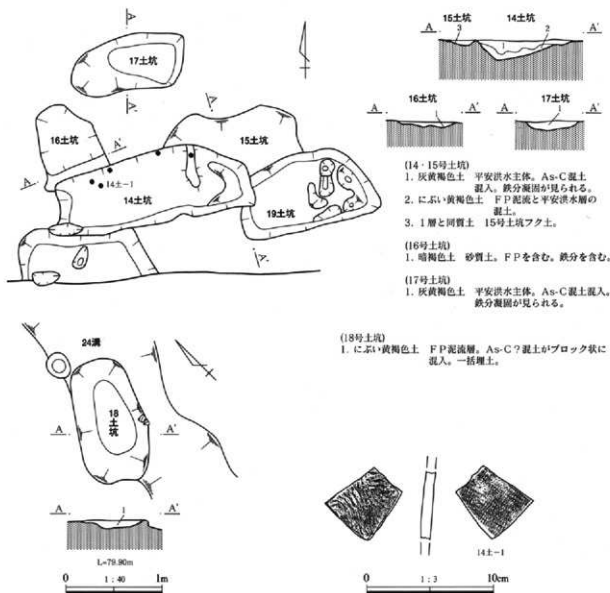
土坑は中央南辺寄り密集して14号土坑～17号土坑及び19号土坑の5基が検出され、24号溝と重なり18号土坑(第371図)を検出した。17号土坑(第371図、PL112)は単独で確認され、他の土坑は15号土坑(第371図、PL112)に重なり合うような状況で14号土坑(第371図、PL112)・16号土坑(第371図、PL112)・19号土坑(第371図、PL112)が検出された。各土坑とも溝同様上部が攪拌された状況である。各土坑とも形状は長方形を呈する。

表104 第5面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
14	Jm-71	206	74	22	長方形	N-78°-E
15	Jm-70	(134)	(64)	8	長方形	N-53°-E
16	Jm-71	(88)	(48)	6	方形	N-24°-W
17	Jm-71	126	55	10	楕円形	N-70°-E
18	Jo-72	130	66	10	楕円形	N-31°-E
19	Jm-70	146	70	-	長方形	N-16°-W



第370図 第5面溝



第371図 第5面土坑・土坑出土遺物

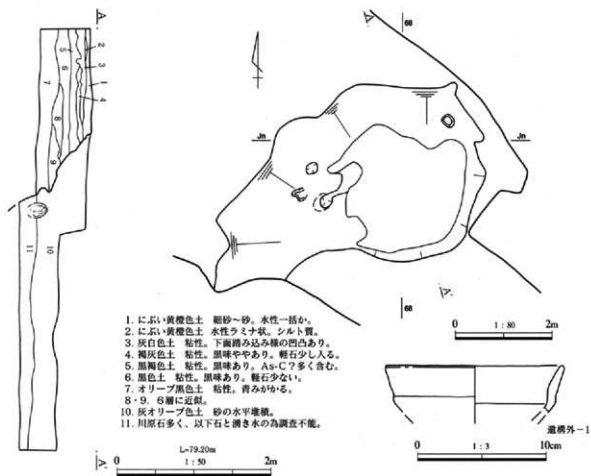
第5面 14号土坑出土遺物観察表(第371図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	須恵器 甕	+7 破片	①-②-③-	砂粒含。還元。貝。黒色。	内外面叩き痕。

3) 土坑状遺構

調査区東端部の傾斜地下段には70cm程の段差を持ち落ち込む。その中に不定型ではあるが辺2.4m前後の方形土坑状の遺構を確認した。この落ち込みは北側法面と上端までの比高差は1.3mを測り急峻であり、上端から底面まで1m程の掘り込みである。埋没土は灰オリーブ色の砂層が堆積し、下層は川原

石の多く混じる河川堆積土であった。下面からは湧水が多く、底面の検出はできなかった。



第372図 第5面土坑状遺構・道構外出土遺物

第5面 道構外出土遺物観察表(第372図)

No.	器種 器形	出土位置 埋存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・構成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器 坏	Jn-89	①(13.9)②- ③(3.7)	眼雲母・片岩粒含、赤褐色粒混。酸化磁、良。	明赤褐色、口縁部外反、横撫で。後に小さな段有り、体部縦磨り。

7. 第6面(古墳時代)の検出遺構

(1) 第6面の概要

明黄褐色シルト質のHr-FP泥流除去を行い、調査区全面に1.7m前後の堰小区画水田を約100枚検出した。

(2) 検出遺構

1) 水田(第374図、PL112)

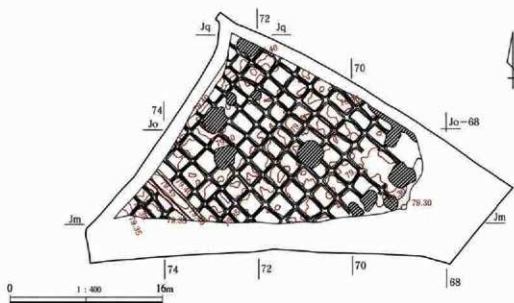
調査区全面に広がる平均1.7m前後の堰小区画水田は調査区外にも広がる。水田区画は北西方向から南東方向の傾斜方向であるN-45°-Wに沿って葎盤の目状に設けられ、高低差は10cm程であった。検出

水田枚数は100枚以上を数える。

畦畔 本区の畦畔は整然とした葎盤の目状に設けられているが、一部16号水田から17号水田と18号水田へと分割され、17号水田→19号水田、18号水田→20号水田へと。

大畦畔は調査区南西隅部で検出した。規模は、上幅90cm、下幅1.5m、高さ10cm前後を測り、N-45°-Wに向く。

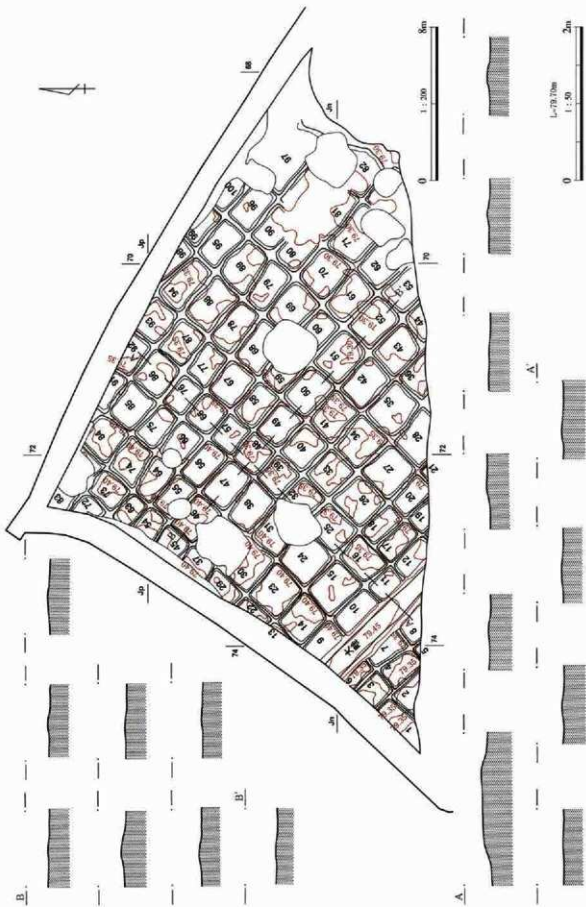
水口 この時期の堰小区画水田では横畦中央部を開け水口を設けるが、本区では水口は検出できなかった。



第373図 第6面全体図

表105 第6面水田計測一覧

No.	面積 (m)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(2.3)	(3.1)	(0.9)	-
2	(1.4)	(1.8)	(1.5)	-
3	(1.6)	(1.5)	1.1	-
4	1.9	2.8	1.0	-
5	(0.1)	(0.4)	(0.3)	-
6	(0.8)	(1.5)	0.5	-
7	1.4	1.9	0.9	-
8	(1.3)	(1.5)	1.2	-
9	(2.0)	(1.9)	1.1	-
10	2.3	2.2	1.0	-
11	1.5	1.5	1.0	-
12	(1.7)	(2.1)	1.0	-
13	(0.2)	(1.3)	(0.3)	-
14	3.1	1.9	1.6	-
15	3.8	2.3	1.7	-
16	2.8	2.0	1.4	-
17	1.8	2.0	0.9	-
18	1.6	1.9	0.8	-
19	(0.9)	(1.2)	(0.9)	-
20	1.8	1.8	0.9	-
21	(0.1)	(0.5)	(0.3)	-
22	(0.7)	1.6	(0.5)	-
23	3.7	2.0	1.6	-
24	3.8	2.0	2.0	-
25	3.0	2.0	1.5	-
26	3.2	1.8	1.8	-
27	3.7	2.0	1.9	-
28	(2.8)	2.2	1.7	-
29	(1.4)	1.8	(0.7)	-
30	(2.4)	2.1	(1.2)	-
31	(1.7)	(1.9)	1.6	-
32	(1.6)	(1.4)	1.4	-
33	2.6	1.7	1.5	-
34	3.3	2.0	1.7	-
35	3.6	2.2	1.8	-
36	(1.7)	(1.7)	1.4	-
37	(1.3)	1.5	(0.9)	-
38	2.9	2.2	1.4	-
39	2.0	1.5	1.3	-
40	2.6	1.8	1.5	-
41	2.9	2.0	1.4	-
42	3.0	2.1	1.5	-
43	3.0	2.1	1.6	-
44	(1.0)	(0.9)	1.5	-
45	(1.3)	(1.0)	1.4	-
46	2.9	2.0	1.4	-
47	3.0	2.2	1.4	-
48	2.1	1.5	1.4	-
49	2.3	1.8	1.3	-
50	3.0	2.1	1.5	-
51	3.4	2.2	1.6	-
52	3.1	2.1	1.5	-
53	(2.3)	(2.0)	1.4	-
54	(1.3)	(1.4)	1.1	-
55	2.0	1.9	1.1	-
56	2.5	2.2	1.2	-
57	1.8	1.5	1.2	-
58	2.3	2.0	1.1	-
59	(1.1)	(1.4)	1.2	-
60	(1.5)	(1.5)	1.2	-
61	2.8	2.3	1.4	-
62	(2.0)	(1.6)	1.6	-
63	1.3	1.4	0.9	-
64	2.1	2.1	1.1	-
65	2.3	(1.9)	1.3	-
66	2.2	1.6	1.4	-
67	2.6	1.9	1.4	-
68	3.2	2.3	1.4	-
69	3.6	2.3	1.7	-
70	3.4	2.1	1.7	-
71	4.3	2.7	1.7	-
72	(1.0)	(1.1)	1.2	-
73	2.0	1.6	1.3	-
74	2.5	1.8	1.4	-
75	2.0	2.0	1.2	-
76	1.8	1.6	1.1	-
77	2.0	1.7	1.1	-
78	2.7	2.4	1.1	-
79	2.6	2.3	1.1	-
80	(1.7)	(1.7)	1.2	-
81	(7.1)	3.2	2.7	-
82	(2.4)	(0.8)	(0.6)	-
83	(1.2)	(1.5)	(0.5)	-
84	(2.7)	1.8	1.6	-
85	2.7	1.8	1.5	-
86	2.9	1.9	1.6	-
87	2.7	1.9	1.5	-
88	3.3	2.5	1.4	-
89	3.2	2.2	1.6	-
90	(2.1)	2.0	1.2	-
91	(1.1)	1.9	(0.7)	-
92	(1.6)	1.8	(1.0)	-
93	(2.4)	1.6	1.5	-
94	3.0	2.6	1.4	-
95	2.5	2.2	1.3	-
96	2.7	2.2	1.2	-
97	(7.4)	(2.1)	(0.5)	-
98	(1.0)	(2.1)	(0.7)	-
99	(1.1)	1.9	(0.7)	-
100	(1.2)	(1.8)	(0.8)	-



第374図 第6面水田

8. 第7面（古墳時代）の検出遺構

(1) 第7面の概要

Hr-FP泥流下田を掘り下げ、黄灰色砂質のHr-FAを確認した。しかし、Hr-FAは調査全体で確認できたが荒砂などが入り二次堆積とも考えられる。

検出遺構には、調査区東半部で極小区画水田畦畔の痕跡を確認し、東端部と南西端部で大畦畔を検出した。極小区画水田の痕跡は28枚相当分である。

(2) 検出遺構

1) 水田（第376図、PL113）

調査区東半部で極小区画水田畦畔の痕跡を確認した。水田面は調査区外にも広がると考えられる。水田区画は北東から南西方向にN-25°-Eの方向に長軸を持つ傾向が同われ、上面や他地区で見られる傾斜方向の北西方向から南東方向への縦畦配置とは異なる。高低差は10cm程であった。検出水田枚数は28枚を数える。

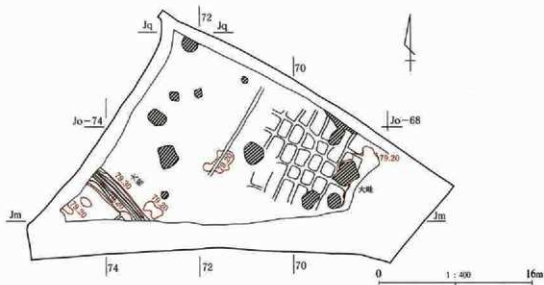
畦畔 畦畔は整然とした碁盤の目状に設けられていたと考えられるが、高まりとして検出できず、下端の痕跡のみの検出だけであり、Hr-FA降灰時に平坦化されていたか、または降灰後の耕作により平夷されたかは不明瞭である。

大畦畔は調査区南西隅部で検出し、Hr-FP下水田面で検出した大畦畔と同じ位置にあたり、Hr-FP下水田面まで継続されたと考えられる。この大畦畔の中央には27号溝（第378図、PL113）が設けられている。規模は、上幅1.5m、下幅2m、高さ10cm前後を測り、N-45°-Wに向く。また調査区東端部に若干幅広の大畦畔の痕跡を検出した。

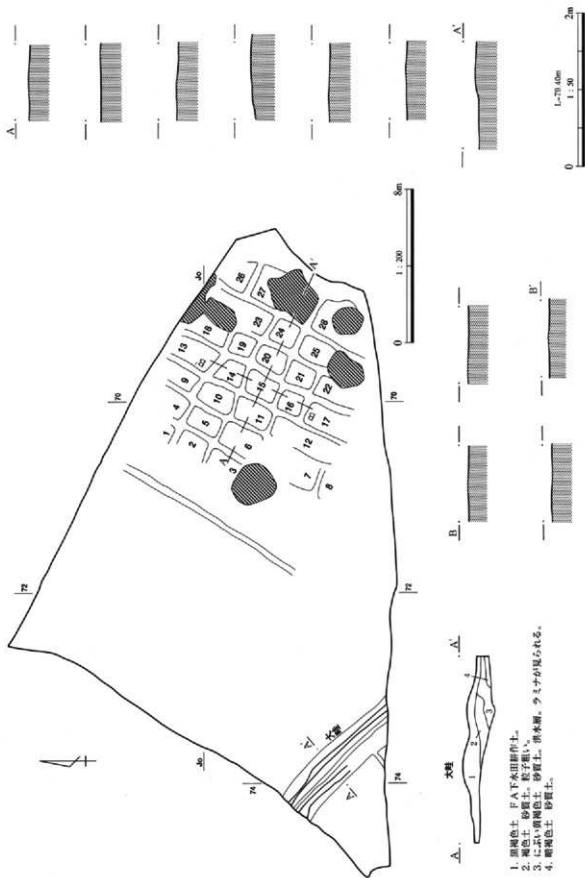
水口 この時期の極小区画水田では横畦中央部を開け水口を設けるが、本区では水口は検出できなかった。

表106 第7面水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口	8	(1.5)	1.6	(0.9)	-	18	1.9	1.8	1.3	-
1	(0.4)	(0.9)	(0.4)	-	9	1.8	1.8	1.0	-	19	1.7	1.6	1.2	-
2	(1.8)	(1.6)	1.2	-	10	2.1	2.0	1.3	-	20	1.6	1.3	1.2	-
3	(1.9)	(2.1)	1.0	-	11	1.5	1.5	1.1	-	21	(1.6)	(1.2)	(1.3)	-
4	(2.7)	(2.2)	1.3	-	12	1.3	1.3	1.1	-	22	(4.9)	(3.6)	1.2	-
5	(2.5)	(2.2)	(1.1)	-	13	(1.8)	(1.5)	1.3	-	23	1.3	1.3	1.1	-
6	(2.1)	-	(0.6)	-	14	(3.1)	(1.5)	1.9	-	24	1.6	1.5	1.2	-
7	(2.4)	(1.7)	1.8	-	15	(1.8)	(1.7)	(1.0)	-	25	(2.0)	(1.8)	1.3	-
					16	(2.9)	(2.1)	1.3	-	26	(5.6)	(3.2)	2.0	-
					17	2.2	2.0	1.2	-	27	(3.0)	(2.6)	1.2	-
										28	(2.3)	(2.3)	1.1	-



第375図 第7面全体図



第576図 第7面水田

9. 第8面（古墳時代）の検出遺構

(1) 第8面の概要

Hr-FA下面を10cm程掘り下げ、調査区西半部で黒色粘質土上に黄灰色シルトの広がりを確認した。

この黒色粘質土中にはAs-Cが混じる。

検出遺構には、調査区西半部で畦畔及び畦畔の痕跡と脇に畦を持つ3条の溝を確認した。

(2) 検出遺構

1) 水田（第378図、PL113）

調査区西半部で一部水田畦畔と痕跡を確認した。

畦畔等の遺存の悪さは埋没以前に平坦化されていたか、または降灰後の耕作により平夷されたかは不明である。そのため全体の水田区画形態等は不明であるが、28号溝脇の畦や27号溝そして畦の痕跡などから不定型の水田区画が考えられる。また水田耕作土と考えられる黒色粘質土面には黄灰色シルトの入った無数の窪みがあり、精査を行った所人間の足跡や馬蹄痕等が検出された。

畦畔 検出できた畦は29号溝に切られ上端30cm、下端60cm、高さ4cmとやや規模の大きな畦である。

大畦畔は検出されなかったが、調査区南西隅に上層2面で検出されている大畦畔と同一位置に27号溝が検出され、この位置が地味的な意味を持ちある時期に溝から大畦畔へと変わっていきHr-FP下水面まで継続的されたと考えられる。

水口 本区では水口は検出できなかった。

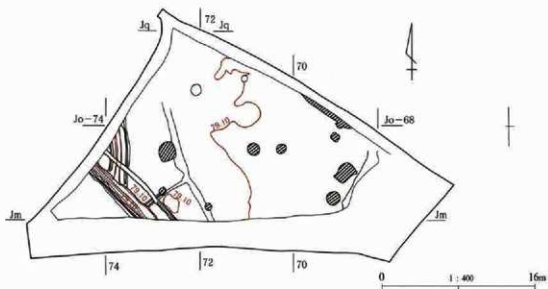
2) 溝

調査区南西隅において3条の溝を検出した。

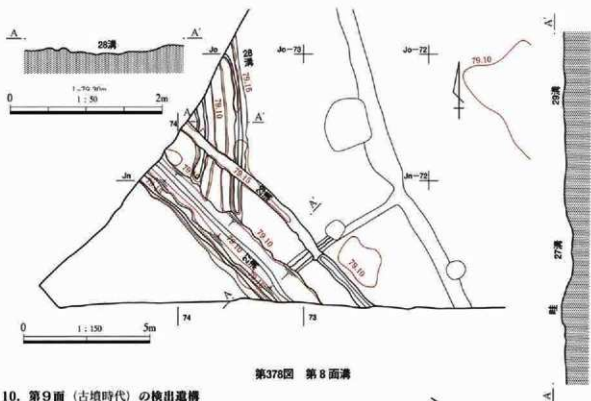
27号溝（第378図、PL113）は、上記のように上層では大畦畔へと代わる。溝右脇の片側のみには畦畔が並置される。28号溝（第378図、PL113）は、この27号溝と合流する溝であり、両脇に畦畔が並置される。29号溝（第378図、PL113）は、両溝や畦畔を掘り込む浅い溝である。

表107 第8面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・m・幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上層	下層		
27	Jn-74 → Jm-73	N-45°-W	0.01	7.7	130	18	7	産物輸と併行する。畦畔の溝・28号溝と合流する。
28	Jo-73 - Jm-73	N-0°	0	6.0	115	42	7	両側に畦状の高まりあり。27号溝に切られる。
29	Jn-73 → Jm-72	N-46°-W	0.10	10.3	42	18	2	27号溝と併走し、28号溝を切る。



第377図 第8面全体図



第378図 第8面溝

10. 第9面 (古墳時代) の検出遺構

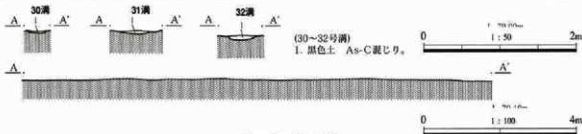
(1) 第9面の概要

As-C混じりの黒色粘質土を除去し灰色シルト面でAs-Cの入る溝3条を確認し、調査面とした。

(2) 検出遺構

1) 溝

調査区北よりと東端においてAs-Cの混じる調査区内で消失してしまう3条の短い溝を検出した。30号溝 (第381図、PL113) と31号溝 (第381図、PL113) は、共にAs-C混じりの黒褐色土で埋没した掘り込みの浅い溝であり、数m併走し消失する短い溝である。32号溝 (第381図、PL113) は、東端部で検出した溝であり、南端は攪乱により消失している。埋没土は30号溝・31号溝同様As-C混じりの黒褐色土で埋没した掘り込みの浅い溝である。



第379図 第9面溝



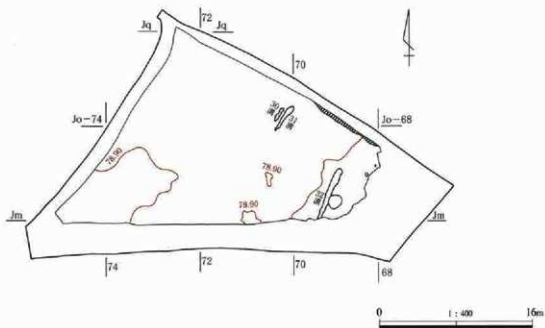
第380図 第9面遺構外出土遺物

第9面 遺構外出土遺物観察表(第380図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器 杯	フタ土 口縁部片	①(14.0)②- ③(3.4)	細砂粒含。酸化焼。貝。 褐色。	口縁部横溝で。体部窪削り。内面凹で。

表108 第9面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・m・幅・深さ・cm)			備考
				確認全長	上幅	下幅	
30	Jo-70	S-35°-W	0.02	2.6	28	-	2 掘り込みの浅く短い溝。
31	Jo-70 → Jn-70	N-35°-E	0.96	3.1	52	-	4 掘り込みの浅く短い溝。
32	Jn-69 → jm-69	N-25°-E	0.02	5.8	40	-	4 掘り込みの浅く短い溝。



第381図 第9面全体図

第4節 C区の検出遺構

1. C区の検出面の概要

C区は利根川右岸堤防脇の河川敷内の調査区であり、上層は河川氾濫により流失しているため他の調査区で確認された利根川変流後の洪水層やAs-B等の火山灰も確認出来ず、第1面の遺構検出面はHr-FP泥流上面であった。しかし、検出遺構の埋没土中にはHr-FP泥流上層のAs-AやAs-B混じりの土が入っていることから、中世構築面は利根川変流時に流失し近世になって安定したと考えられる。

本調査区では各面間の途中で掘り込まれた遺構について下層面で確認される場合があり、その遺構については調査時の検出面と同じ面で記述する。

各面の概要は以下の通りである。

第1面（古代以降）土坑・溝・井戸・掘立柱建物
灰掻き穴

第2面（古墳時代）Hr-FP泥流下 水田

第3面（古墳時代）Hr-FA下 水田

第4面（古墳時代前期）As-C混じり

第5面（古墳時代以前）

2. 第1面（古代以降）の検出遺構

（1）第1面の概要

調査区は平坦面であり、現在の耕作土下からいきなりHr-FP泥流面が確認となった。検出した遺構には、As-Aの入る土坑・溝やAs-B混じりの土坑・井戸・溝、軽石の入らない土坑などを確認した。

（2）検出遺構

1) 土坑

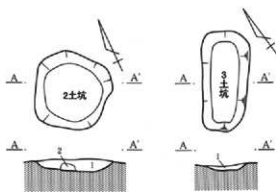
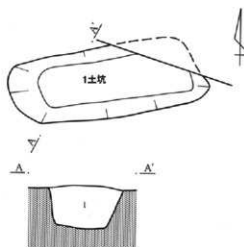
調査区全体に散在し時期もばらける15基の土坑を検出した。1号土坑（第383図、PL114）・2号土坑（第383図、PL114）・3号土坑（第383図、PL114）は調査区北西で近接し、1号・3号土坑は埋没土中に洪水砂が入る。同様な洪水砂の入る土坑に4号土坑（第383図、PL114）が有り隅丸長方形形状を呈する。また、2号土坑は埋没土の大半がAs-B混土であり、6号土坑（第383図、PL115）・7号土坑（第384図、PL115）・8号土坑（第384図、PL115）9号土坑（第384図、PL115）・14号土坑（第384図、PL116）等が同様の埋没土である。形状も円形又は隅丸方形形状を呈する。西端コーナー付近で検出した5号土坑（第383図、PL114）は、調査区外に伸びる溝状の土坑であり、As-A主体の埋没土であることからAs-A廃棄の為の灰掻き穴であると考えられる。また東接して12号土坑（第383図、PL115）を検出した。この土坑もまた調査区外に伸び全景は不明である。深さは40cmを測り、埋没土中には平安洪水層と呼ぶ粘質土の堆積が見られ、土師器や須恵器の坏が出土している。遺物の出土した土坑には、4号井戸に切られた13号土坑（第384図、PL115）や6号溝と8号溝交差部分で検出した14号土坑（第384図、PL116）があり、13号土坑からは埋没土中から同様の土師器坏が出土し、14号土坑からは土師器坏以外に須恵器蓋が出土している。



第382図 第1面全体図

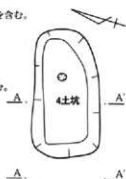
表109 第1面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
1	Ka-86	206	70	45	長方形	N-85°-E
2	Ka-85	88	80	12	円形	N-3°-E
3	Ka-86	104	42	8	長方形	N-37°-E
4	Jt-67	134	66	12	長方形	N-70°-E
5	Jt-67	(108)	46	13	楕円形	N-16°-W
6	Jt-85	72	42	34	楕円形	N-17°-W
7	Js-85	67	52	30	楕円形	N-25°-E
8	Jt-62	120	48	12	楕円形	N-2°-E
9	Jr-64	70	50	30	円形	N-7°-E
10	Js-62	(56)	(30)	20	方形	N-38°-E
12	Js-67	284	(80)	34	楕円形	N-52°-W
13	Js-66	110	(56)	58	円形	N-82°-W
14	Js-63	170	92	30	長方形	N-86°-E
15	Jt-63	(60)	(26)	24	楕円形	N-26°-W



(1・3号土坑)
1. 灰黄褐色土 砂質土。軽石・礫を含む。
排水砂?

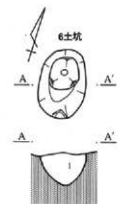
(2号土坑)
1. 黒褐色土 As-B凝土。炭化物を含む。
2. 褐色土 明黄褐色土ブロック。



(4号土坑)
1. 灰黄褐色土 砂質土。礫・軽石を含む。
黒色土ブロック混入。



(5号土坑)
1. 灰黄褐色土 As-A軽石堆積層。
黒色土ブロック混入。

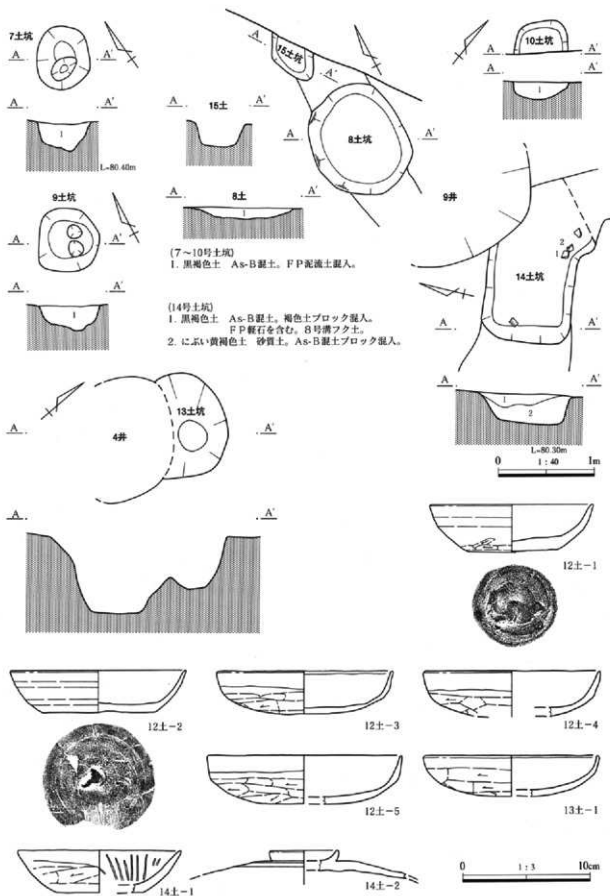


(6号土坑)
1. 黒褐色土 As-B凝土。
FP形凝土混入。

(12号土坑)
1. 暗褐色土 砂質土・粘質土・FP形凝土混入。



第383図 第1面土坑(1)



第384図 第1面土坑(2)・土坑出土遺物

第1面 土坑出土遺物観察表(第384図、PL129)

No.	器 器形	出土位置 残存	法層(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
12土 1	須恵器 杯	+12 ほぼ元形	①(13.0)②(6.4) ③(3.7)	精選。還元。良。灰白色	輪軸整形。底面鋭切り未調整。腰部鋭削り。
12土 2	須恵器 杯	フタ上 1/3	①(14.0)②(9.0) ③(3.3)	精選。還元。良。灰白色	輪軸整形。底面鋭切り。
12土 3	土師器 杯	フタ上 1/3	①(14.0)②— ③(3.4)	細砂粒含。酸化。良。に ぶい赤褐色。	口縁部横溝で。体部から底部鋭削り。内面強で。
12土 4	土師器 杯	フタ上 1/4	①(14.0)②— ③(3.5)	細砂粒含。酸化。良。橙 色。	口縁部横溝で。体部から底部鋭削り。内面強で。
12土 5	土師器 杯	フタ上 1/4	①(15.4)②— ③(3.8)	細砂粒含。酸化。良。に ぶい赤褐色。	口縁部横溝で。体部から底部鋭削り。内面強で。
13土 1	土師器 杯	フタ上 1/4	①(14.0)②— ③(3.3)	細砂粒含。酸化。良。に ぶい赤褐色。	口縁部横溝で。体部から底部鋭削り。内面強で。
14土 1	土師器 杯	+16 口縁部片	①(13.0)②(7.0) ③(3.3)	細砂粒僅少含。酸化。良 褐色。	口縁部横溝で。体部鋭削り。平底。内面強で後増き。
14土 2	須恵器 蓋	+12 柄み部	①(5.4)②— ③(2.3)	砂粒含。還元。良。灰黄 色。	リング状構。頂部回転削削り。輪軸整形。

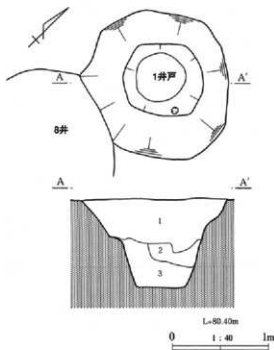
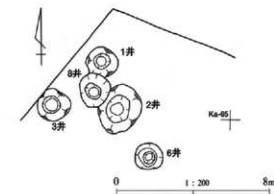
2) 井戸

本調査区では10基の井戸を検出し、検出数では密度は多い。調査区北西寄りでは1号井戸(第385図、PL116)・2号井戸(第386図、PL116)・8号井戸(第387図、PL116)が重複し、3号井戸(第386図、PL116)・6号井戸(第387図、PL116)が近接する。4号井戸(第386図、PL116)・5号井戸(第386図、PL116)・7号井戸(第387図、PL117)は南辺に沿って並び9号井戸(第387図、PL117)や10号井戸(第387図、PL117)は溝と重複して検出された。大半の井戸は深さ1m強を測り、断面逆台形状を呈するが、7号~9号土坑は深さが2.4mと深く円筒状に掘り込まれている。

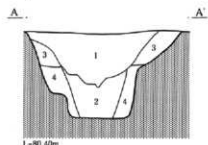
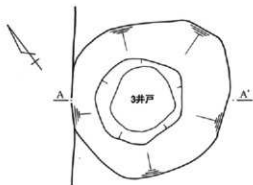
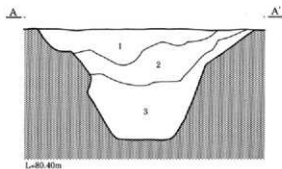
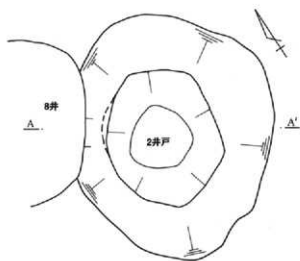
表110 第1面井戸計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
1	Ka-66	164	145	95	円形	N-67°-W
2	Ka-66	295	213	116	円形	N-17°-E
3	Ka-67	180	165	92	円形	N-87°-E
4	J s-66	137	121	85	円形	N-31°-W
5	J q-65	108	101	72	円形	N-50°-E
6	J l-65	151	131	98	円形	N-50°-W
7	J q-64	105	90	237	円形	N-62°-W
8	Ka-66	184	157	240	円形	N-14°-W
9	J s-63	176	150	245	円形	N-52°-W
10	J s-64	135	120	129	円形	N-11°-W

1. 黒褐色土 A s-B 凝土。灰黄褐色土ブロック混入。炭化物を微量に含む。
2. 暗褐色土 砂質土。A s-B 凝土。
3. にぶい黄褐色土 砂質。F P 凝土を多く含む。



第385図 第1面井戸(1)

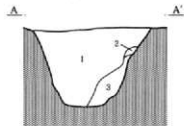
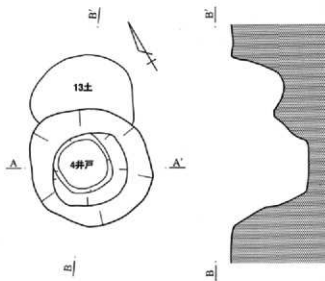


(2号井戸)

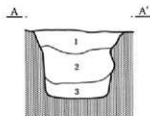
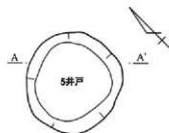
1. 黒褐色土 As-B混土。砂質土を微量に含む。
2. 暗褐色土 砂質土。As-B混土混入。
3. 黒褐色土 As-B混土。F P配成ブロック混入。

(3号井戸)

1. 黒褐色土 As-B混土。砂質土混入。黒色粘質土ブロック混入。
2. にぶい・黄褐色土 砂質土。拳大のF P軽石を多く含む。
3. 暗褐色土 砂質土。As-B・F Pを微量に含む。裏込めか？
4. 褐色土 砂質土。F Pを微量に含む。裏込めか？



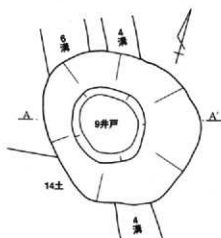
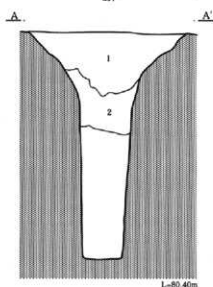
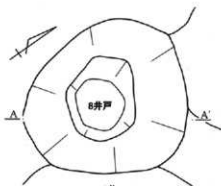
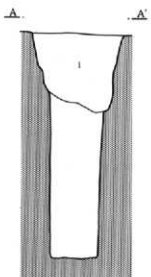
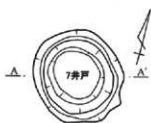
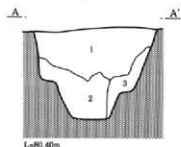
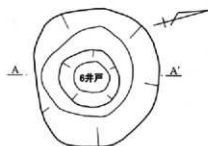
1. 黒褐色土 As-B混土。砂質土が混入。
2. 灰黄褐色土 砂質土。川砂を多く含む。
3. 黒褐色土 As-B混土。砂質土・F Pを多く含む。



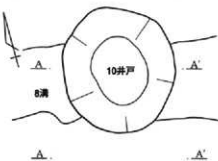
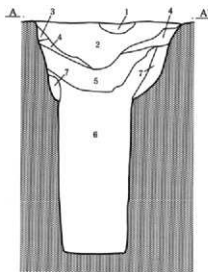
1. 黒褐色土 As-B混土。F P泥流・炭化物を微量に含む。下方に、灰黄褐色砂質土が堆積。
2. 黒褐色土 As-B混土。砂質土を多く含む。下方に樹皮埋積。
3. 褐色土 砂質土。ラミナが見られる。



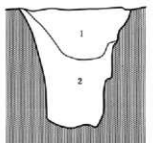
第386図 第1面井戸(2)



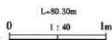
- (6~8号井戸)
1. 黒褐色土 As-B主体。FP泥流ブロックが多く混入。炭化物をごく微量に含む。
 2. 暗褐色土 砂質土。ラミナが見られる。As-Bを含む。FP軽石を多く含む。
 3. 黄褐色土 FP泥流土堆積層。(地山が削れたもの)



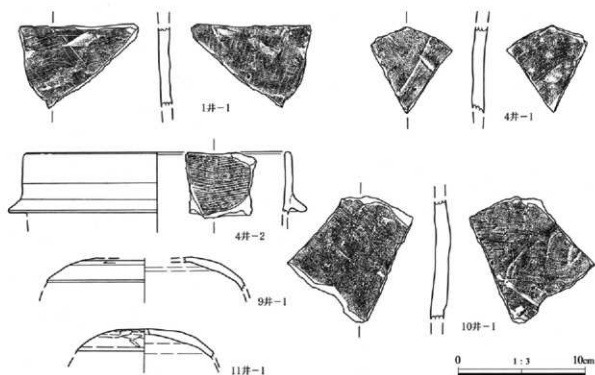
- (9号井戸)
1. にぶい黄褐色土 4号溝フク土。
 2. 黒褐色土 As-B強土。褐色土ブロック混入。
 3. 褐色土 FP泥流土堆積層。
 4. 暗褐色土 砂質土。As-Bを含む。
 5. 暗褐色土 砂質土と粘質土の混土。黒色・黄褐色粘質土をマール状に含む。
 6. 灰黄褐色土 砂質土・FPを含む。
 7. 黄褐色土 FP泥流土堆積層。



- (10号井戸)
1. 黒色土 As-B混土。褐灰色土・にぶい黄褐色土ブロック混入。
 2. 黒色土 As-B混土と灰黄褐色土のブレンド層。



第387図 第1面井戸 (3)



第388図 第1面井戸出土遺物

第1面 井戸出土遺物観察表(第388図、PL129)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1井 1	焼締陶器 甕	フタ土 体部片	①-②-③-	鉱物少含。やや軽。硬。 還元。灰色。	外面にスタレ状の条痕。内面に縦作痕と工具による横線で痕 割れ口の残痕。12~14世紀。極美。
4井 1	焼締陶器 甕	フタ土 体部片	①-②-③-	白色鉱物多。重。締。 還元から酸化へ。	にふい褐色。外面スタレ状の条痕。内面指圧痕と縦作痕。割 れ口シャープ。13~15世紀。常滑。
4井 2	須恵器 甕	フタ土 口縁部片	①(20.8)②- ③(5.0)	砂粒含。酸化。良。にふ い褐色。	口縁部割で。内面横位の刷毛状工具による横り。ツバは下方 傾斜。
9井 1	須恵器 蓋	フタ土 破片	①-②-③-	砂粒含。還元焼。灰色。	縦輪整形。頂部回転削り。太田産。6世紀後半。
10井 1	須恵器 甕	フタ土 胴部片	①-②-③-	砂粒量。還元。良。灰白 色。	内外面割で。叩き締め。
11井 1	須恵器 蓋	フタ土 天井部片	①-②- ③(2.6)	細砂粒含。還元焼(中性) 灰黄色。	縦輪整形。頂部旋削り。瓶首山・秋岡製。6世紀末~7世紀 初。

3) 溝

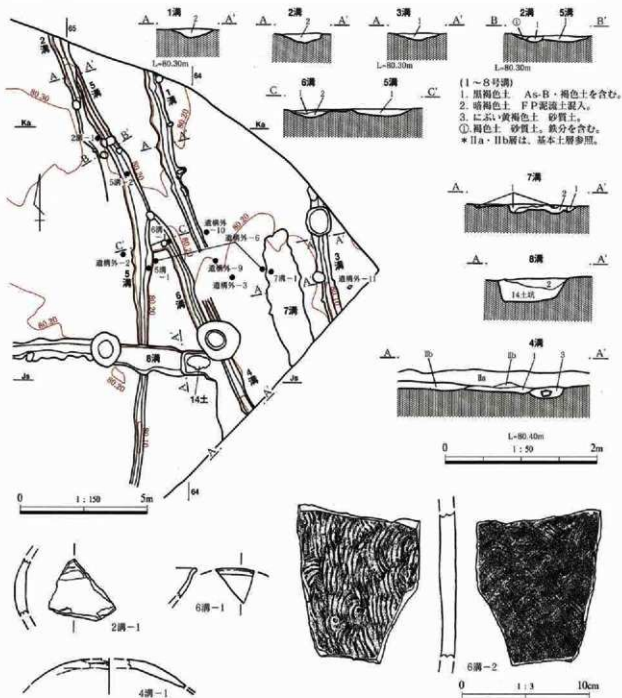
調査区東側で集中し8条の溝を検出した。8号溝を除き南北方向に向く。

1号溝(第389図、PL117)は途中で消失するが延長上に4号溝(第389図、PL118)が見られ、同一溝と考えられる。2号溝(第389図、PL117)はAs-B及びAs-B層の最下層に見られるアッシュが確認でき、As-B降灰により埋没した溝と考えられる。この2号溝は一旦途切れ、南延長上に5号溝(第389図、PL118)と6号溝(第389図、PL117)の分岐

が確認できた。しかし6号溝にはアッシュは確認できず後世に掘り返しの可能性がある。6号溝は南でクランク状に曲がる8号溝と重なり、この部分には9号井戸や14号土坑が重なる。調査区東端部では3号溝(第389図、PL117)と7号溝(第389図、PL118)を検出した。3号溝は8号土坑や15号土坑、ピットとの重複が多い。7号溝は掘り込みの浅いだらけた溝である。

表111 第1面溝計画一覧

名称	位置 方向(上端→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		
1	J1-63 → Ka-64	S-18°-E	0.12	7.5	63	23	12	途中で消失する溝。延長方向に4号溝あり。
2	J1-64 → Ka-65	S-23°-E	0.06	5.0	45	20	12	途中で消失する溝。5号溝に分岐するか?
3	Js-62 → J1-63	S-9°-E	0.06	4.7	55	16	9	8号・15号土坑に掘り込まれる。
4	Js-63 → J1-63	N-24°-W	0.10	5.2	48	23	5	9号井戸に掘り込まれる。6号溝が合流するか?
5	Ka-64 → J1-64	N-7°-W	0.06	16.8	85	24	10	2号溝から分岐し、6号溝も分岐か? 8号溝に切られる。
6	J1-64 → Js-63	N-28°-W	0.07	4.5	42	15	10	5号溝中央付近より分岐し、9号井戸の所で消失。
7	Js-63 → J1-63	S-14°-E	0.01	5.0	138	-	11	幅広い掘り込みの浅い溝。
8	Js-64 → Js-65	S-86°-E	0.04	6.5	112	77	30	14号土坑付近より築し10号井戸に切られ、東西方向に走る溝。



第389図 第1面溝及び溝出土遺物(1)



第390図 第1面溝出土遺物(2)

第1面 溝出土遺物観察表(第389・390図、PL129)

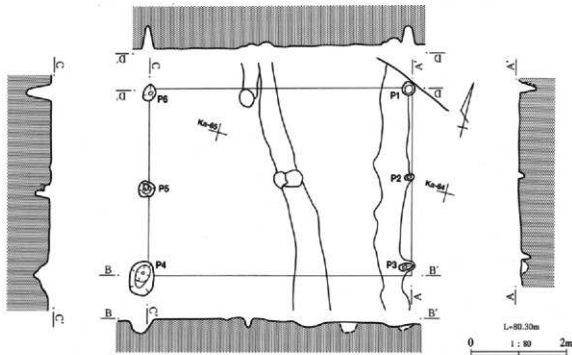
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
2溝 1	土師器 甕	+3 頸部片	①-②-③-	細砂粒含、酸化焼、褐色。	頸部横溝で。
4溝 1	須恵器 蓋	フタ土 破片	①-②-③-	砂粒含、還元焼、良、灰色。	頂部皿削り。縦軸整形。
5溝 1	土師器 環(横轆環)	±0 口縁部片	①(14.0)②- ③(2.8)	精選、酸化焼、良、にぶ い褐色。	口縁部横溝で。シャープな稜。内面溝で。
5溝 2	須恵器 甕	+5 口縁部片	①-②-③-	砂粒含、還元、良、灰色。	縦軸整形。
6溝 1	灰輪陶器 皿	フタ土 口縁部片	①-②-③-	精選、良。	内外面輪。
6溝 2	須恵器 甕	+7 胴部片	①-②- ③(12.4)	砂粒含、還元、灰白色。	内面青濁泥。叩き締め。
7溝 2	土師器 甕	+1 底部片	①-②(4.0) ③(2.6)	砂粒含、酸化、良、にぶ い褐色。	底部剥落状。胴部下平。皿削り。

4) 掘立柱建物

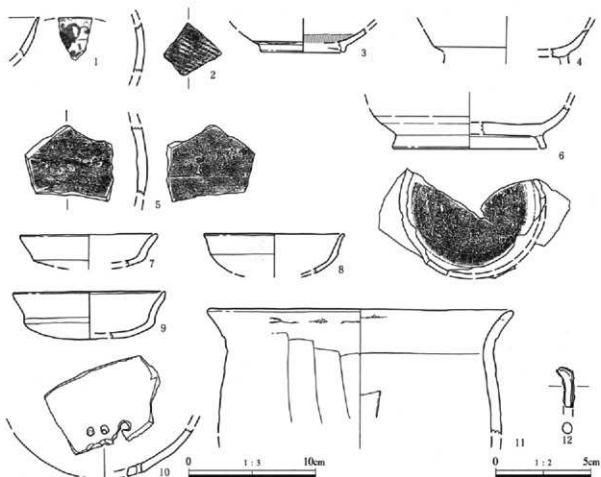
調査区北寄りでのピットの集合が見られ、1号掘立柱建物を検出した。

1号掘立柱建物 (第391図)

1号溝、2号溝と重複し、棟方向はN-75°-Eに
向き、2間×2間に東に庇の付く形跡か。規模は、
東西4m(桁行き)×南北3.8m(梁間)、底間は
1.2mを測る。



第391図 第1面1号掘立柱建物



第392図 第1面遺構外出土遺物

第1面 遺構外出土遺物観察表(第392図、PL129)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	磁器 小碗	フタ土 口縁部片	①-②-③-	紋物見えず。重。脚。	外面胴版により下縁縁、染付彫文あり。割れ口シャープ。20世紀前半。肥前系。
2	須恵器 甕	フタ土 胴部片	①-②-③-	精選。還元。良。灰色。	外面叩き肌。
3	灰釉陶器 碗	Js-63 底部片	①-②(6.6) ③(1.8)	精選。還元。灰白色。	轆轤整形。高台部貼付後焼。
4	須恵器 碗	フタ土 底部片	①-②-③-	細砂粒含。中性焼。良。 灰色。	轆轤整形。高台部貼付。
5	須恵器 割差	表様 胴部片	①-②-③-	細砂粒含。酸化焼。良。に ぶい褐色。	轆轤整形。
6	須恵器 甕	Js-63・64 底部1/2	①-②(12.0) ③(3.5)	砂粒含。還元。良。灰白 色。	轆轤整形。底面回転度切り。8世紀前半。吉井。
7	土師器 坪	フタ土 口縁部片	①(10.8)②- ③(2.7)	細砂粒含。酸化焼。良。 褐色。	口縁部横断で。割れ縁を持つ。体部蹴削り。
8	土師器 坪	フタ土 口縁部片	①(11.0)②- ③(3.0)	細砂粒含。酸化焼。良。 明赤褐色。	口縁部横断で。割れ縁を持つ。体部蹴削り。
9	土師器 坪	Js-63 1/5	①(12.0)②- ③(3.7)	砂粒含。酸化。良。 褐色。	口縁部横断で。後に僅かに段。
10	土師器 甕	Js-63 胴-底部片	①-②-③-	細砂粒含。酸化。良。に ぶい褐色。	外面は器表面磨耗。内面は撫で。整形後穿孔。
11	土師器 甕	Js-62 口縁部片	①(23.8)②- ③(10.0)	粗砂粒含。酸化焼。にぶ い褐色。	口縁部横断で。胴部縦位置削り。内面撫で
12	鉄製品。釘?	旧時欠損	長さ(2.2)cm,幅(0.9)cm,厚(0.6)cm,重(1.0)g	錆跡なし。古代鉄・熟鉄不明。使用釘。19世紀以前	

3. 第2面（古墳時代）の検出遺構

(1) 第2面の概要

Hr-PP泥流を除去し検出した面である。地形は僅かに北西方向から南東方向に傾斜が見られ、全体的には平坦面となっている。確認面は黒色泥炭質であり、検出遺構は極小区画水田のみであった。

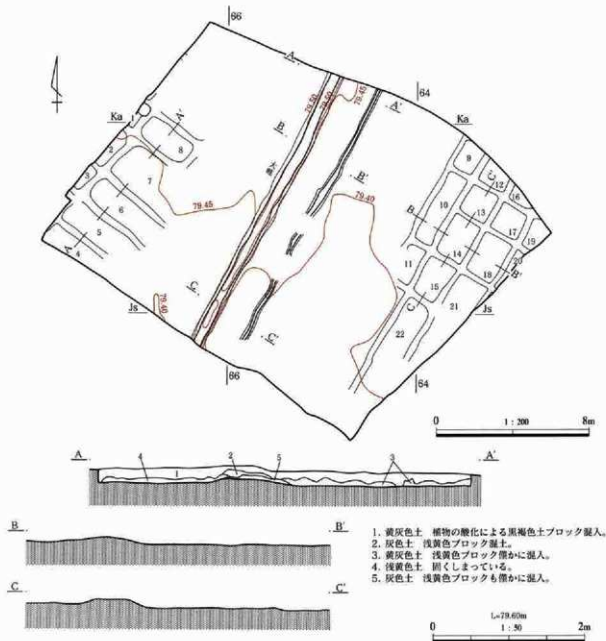
(2) 検出遺構

1) 水田（第393図、PL118）

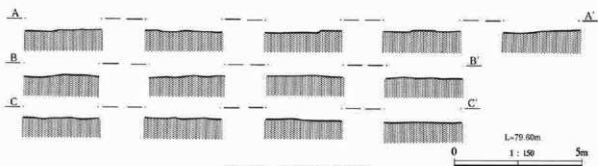
水田区画は調査区東西両側寄りで二十数面相当確認したが、大半の畦畔は潰れた状態で検出され高ま

りは見られず痕跡のみであった。調査区東寄りの水田区画では水田軸方向が $N-30^{\circ}-E$ に配置された極小区画水田を検出し、南端は縦畦のみであった。また西側寄りでは $N-50^{\circ}-W$ 方向に縦畦が伸びる極小区画水田を検出した。

大畦畔は調査区中央部で $N-27^{\circ}-E$ 方向に直線で延びる。大畦畔の規模は、上幅60cm、下幅1.2m、高さ5cmを測る。この大畦畔の周辺部では水田区画は検出できず、唯一東脇に併走する畦畔を検出したが、横畦は検出できなかった。



第393図 第2面全体図



第394図 第2面水田横断面

4. 第3面（古墳時代）の検出遺構

(1) 第3面の概要

第2面のHr-FP泥流下水田耕土及びHr-FA層が15cm程の厚みで堆積し、その下層で検出した面である。同様地形は、僅かに北西方向から南東方向に傾斜が見られ、全体的には平坦面となっている。検出遺構は極小区画水田のみであった。

(2) 検出遺構

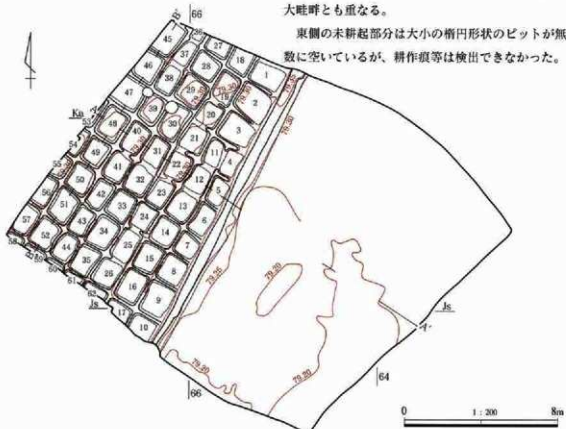
1) 水田（第395図、PL119）

本調査区では南北に走る大畦畔を境に西側に水田区画、東側に未耕起平坦面と明瞭に分かれる。

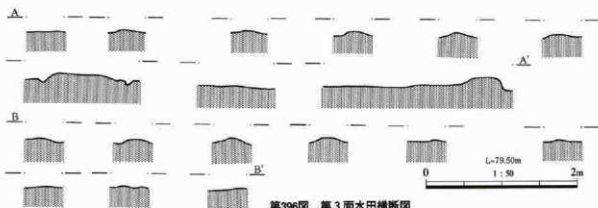
水田区画は極小区画水田であり、碁盤の目状に配置され58枚の水田を検出した。区画内で給水方法は、水路が検出されないことから田から田への掛け流しであり、水口は不明瞭であるが北東方向から南西方向に水が回されたと考えられ、一部3号水田から4号水田列と11号水田列へと分水している状況が見られた。

大畦畔はN-26°-Eの南北方向に設けられた1条のみであった。この大畦畔はHr-FP泥流下水田で検出された大畦畔と走行及び規模が重複し、更に下層のAs-C混じりの第4面で検出された水田区画内の大畦畔とも重なる。

東側の未耕起部分は大小の楕円形状のビッドが無数に空いているが、耕作痕等は検出できなかった。



第395図 第3面全体図



第396図 第3面水田横断面

5. 第4面の検出遺構 (古墳時代)

(1) 第4面の概要

第3面のHr-FA水田耕土を15cm程掘り下げ、As-C混じりのざらついた黒褐色土を検出面とした。地形は、僅かに北西方向から南東方向に傾斜が見られ、全体的には平坦面となっている。検出遺構は調査区全面に小区画水田を検出した。

(2) 検出遺構

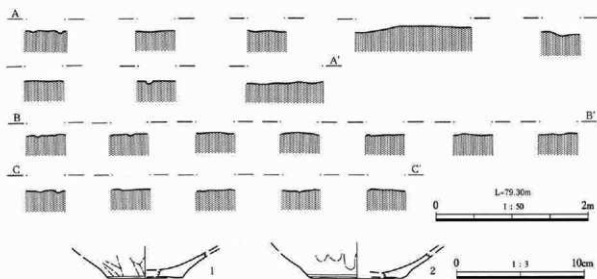
1) 水田 (第397図、PL119)

調査区全面で54枚の水田区画を検出したが、明瞭

な畦畔の高まりは見られず下端の痕跡での確認であった。畦畔消失については、その後の継続的な耕作により畦畔が攪拌を受け根に当たる部分が残ったものか。このため水田形態については耕作時の状態かは不明確である。調査時の想定区画は僅かずつばらつきが見られ、大畦畔を挟み東側の区画では44号水田や45号水田のように10㎡と大きく、西側の18号水田や19号水田のように3.7㎡と面積が小さくなる傾向が窺える。また、大畦畔際の水田は大畦畔が僅かに蛇行する影響で小さくなっている。また調査区中央から西側にかけて噴砂が覆うのを確認した。噴砂の広がりから畦畔平夷後噴砂が発生したと考えられる。田面中及び畦畔中には無数の圧痕が見られた。



第397図 第4面全体図



第398図 第4面水田横断面・遺構外出土遺物

第4面 遺構外出土遺物観察表(第398図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	土師器 壺	Jr-65 底部1/3	①-②(6.0) ③(2.0)	細砂粒混。酸化。 黒褐色。	胴部下平度削り。
2	土師器 壺	Jr-65 底部片	①-②(7.4) ③(2.0)	細砂粒混。酸化。 黄灰色。	胴部下平度削り。

6. 第5面の検出遺構 (古墳時代)

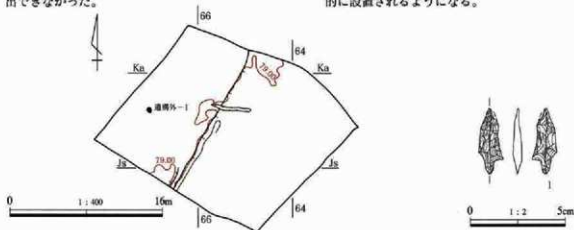
(1) 第5面の概要

第4面のAs-C混じりの耕土を15cm程掘り下げ、シルト質の褐色土を検出面とした。地形は、僅かに北西方向から南東方向に傾斜が見られ、全体的には平坦面となっている。検出遺構は調査区中央に大畦畔状の僅かな高まりと段差が見られた。水田区画は検出できなかった。

(2) 検出遺構

1) 水田 (第399図、PL119)

本面で極小区画水田などの水田畦畔は検出されず中央部で唯一調査区を縦断する大畦畔状の高まりが確認されたのみであった。この大畦畔状の高まりはN-26°-E方向に延び、この面より大畦畔は継続的に設置されるようになる。



第399図 第5面全体図・遺構外出土遺物

第5面 遺構外出土遺物観察表(第399図、PL129)

No.	器種・器形	出土位置	残存	法量(cm)①長さ②幅③厚さ④重さ(g)	成・整形技法, 器形の特徴
1	石製品・石鏃	R-67	一部欠	①3.5②1.2③0.5④1.5	有葉鏃。有背尖鏃器。石材：粗粒輝石安山岩。

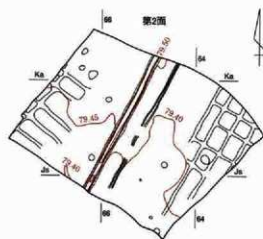


表112 第2面水田計測一覧

No.	面積 (m ²)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(0.5)	(0.3)	(1.4)	—
2	(1.0)	(0.6)	2.2	—
3	(0.6)	(0.5)	1.4	—
4	(3.3)	(3.1)	(1.2)	—
5	(5.1)	(4.2)	(1.2)	—
6	(5.8)	(4.3)	(1.3)	—
7	(7.5)	(4.1)	2.0	—
8	3.6	2.8	1.3	—
9	(1.8)	1.6	1.1	—
10	3.9	4.0	1.0	—
11	1.8	2.0	1.0	—
12	(1.6)	1.4	(1.4)	—
13	2.4	1.6	1.5	—
14	3.4	2.3	1.4	—
15	2.9	2.1	1.3	—
16	(0.7)	(0.8)	1.4	—
17	2.2	1.5	1.5	—
18	3.6	2.3	1.6	—
19	(1.5)	1.6	(0.7)	—
20	(0.7)	2.3	(0.5)	—
21	(6.9)	(5.3)	1.6	—
22	(7.0)	(5.8)	1.3	—

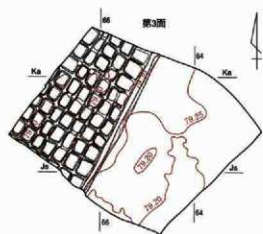
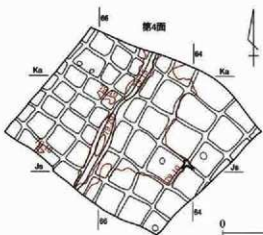


表113 第3面水田計測一覧

No.	面積 (m ²)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	1.8	3.1	2.1	—
2	2.5	1.7	1.4	—
3	2.1	1.6	1.4	—
4	1.1	1.4	0.7	—
5	1.0	1.3	0.8	—
6	1.3	1.5	0.8	—
7	1.1	1.1	1.1	—
8	1.6	1.4	1.3	—
9	2.0	1.6	1.3	—
10	(1.2)	(1.0)	1.3	—
11	1.0	1.4	0.7	—
12	1.2	1.3	0.9	—
13	1.6	1.4	1.2	—
14	1.4	1.2	1.1	—
15	1.5	1.3	1.1	—
16	1.7	1.6	1.1	—
17	(0.8)	0.7	1.1	—
18	(1.1)	(1.2)	1.0	—
19	1.5	1.4	1.0	—
20	1.2	1.1	1.1	—



第400図 水田実測図

21	1.4	1.3	1.2	-
22	1.3	1.3	1.1	-
23	1.2	1.3	0.9	-
24	1.2	1.2	0.9	-
25	1.5	1.7	0.9	-
26	1.5	1.3	1.1	-
27	(0.9)	(0.8)	1.1	-
28	1.3	1.2	1.2	-
29	1.6	1.2	1.2	-
30	1.0	1.7	1.0	-
31	1.2	1.4	0.9	-
32	1.4	1.4	1.1	-
33	1.4	1.3	1.1	-
34	1.6	1.5	1.1	-
35	1.4	1.4	1.0	-
36	(0.3)	(0.5)	0.4	-
37	8.8	1.3	0.7	-
38	1.1	1.4	0.8	-
39	1.1	1.3	0.8	-
40	1.4	1.4	0.9	-
41	1.3	1.4	1.0	-
42	1.1	1.4	0.8	-
43	1.1	1.4	0.8	-
44	1.1	1.3	0.9	-
45	(1.7)	1.7	(1.0)	-
46	(1.4)	1.3	1.0	-
47	(1.8)	(1.4)	1.3	-
48	1.6	1.3	1.0	-
49	1.1	1.2	1.0	-
50	1.3	1.2	1.0	-
51	1.4	1.5	0.9	-
52	1.4	1.4	1.1	-
53	0.2	1.5	(0.2)	-
54	0.6	1.4	(0.5)	-
55	0.5	1.1	(0.6)	-
56	1.0	1.5	(0.8)	-
57	1.2	1.4	0.9	-
58	(0.2)	(0.3)	0.9	-
59	(0.2)	(0.2)	1.0	-
60	(0.2)	(0.2)	0.9	-
61	(0.2)	(0.3)	0.9	-
62	(0.4)	(0.4)	1.1	-

表114 第4面水田計測一覽

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(1.0)	(0.7)	(1.7)	-
2	(0.8)	(0.4)	2.2	-
3	(0.9)	(0.7)	1.4	-
4	(1.4)	(0.8)	1.9	-
5	(1.4)	(0.8)	1.7	-
6	(1.8)	(0.9)	1.9	-
7	(1.9)	(1.0)	(1.6)	-
8	(4.2)	2.2	1.8	-
9	5.8	3.1	2.1	-
10	3.4	2.1	1.6	-
11	3.1	2.0	1.6	-
12	3.3	2.0	1.7	-
13	4.8	2.4	1.9	-
14	(2.9)	2.2	(1.6)	-
15	(0.9)	2.1	(0.7)	-
16	3.5	2.1	1.7	-
17	2.9	1.8	1.4	-
18	3.7	2.2	1.7	-
19	3.8	2.1	1.9	-
20	4.0	2.4	1.6	-
21	5.6	2.3	2.3	-
22	(2.9)	2.4	(1.1)	-
23	(0.9)	(0.9)	1.0	-
24	1.9	1.7	1.1	-
25	3.0	2.1	1.4	-
26	2.4	1.9	1.2	-
27	2.9	2.1	1.5	-
28	2.3	1.6	1.5	-
29	4.3	2.4	1.8	-
30	(4.5)	(1.9)	2.3	-
31	(2.3)	(1.7)	1.7	-
32	3.2	3.1	1.2	-
33	3.6	2.7	1.4	-
34	4.6	3.1	1.5	-
35	3.9	2.7	1.3	-
36	(2.8)	(2.3)	1.1	-
37	(4.8)	(2.1)	2.4	-
38	7.1	3.1	2.3	-
39	4.7	2.8	2.6	-
40	7.8	3.1	2.6	-
41	6.4	2.9	2.4	-
42	(6.0)	(2.6)	2.3	-
43	(10.3)	4.5	(2.2)	-
44	9.8	4.1	2.2	-
45	10.4	3.5	3.1	-
46	8.9	2.9	2.9	-
47	6.3	2.8	2.4	-
48	(6.6)	(2.7)	2.6	-
49	(4.9)	3.3	(1.7)	-
50	7.8	3.1	2.6	-
51	7.3	2.9	2.6	-
52	(6.8)	2.6	2.5	-
53	(6.3)	(2.6)	2.3	-
54	(3.6)	(2.0)	(2.0)	-
55	(0.6)	(1.3)	(0.4)	-
56	(1.5)	2.6	(0.5)	-
57	(1.5)	2.8	(0.6)	-

第5節 堤防下の検出遺構

1. 堤防下の検出面の概要

堤防下はB区・C区境の利根川右岸堤防を指す調査区であり、橋脚工事のため9.5×24mの長方形区画の先行調査を行った。本調査区では、他の調査区で確認された上層の利根川変流及び以後の洪水層は堤防工事等で消失しているため、As-B混土面を第1面の遺構検出面として調査を行った。

本調査区では各面間の途中で掘り込まれた遺構について下層面で確認される場合があり、その遺構については調査時の検出面と同じ面で記述する。

各面の概要は以下の通りである。

第1面（古代以降） 溝・掘立柱建物

第2面（古墳時代） Hr-FP泥流下 水田

第3面（古墳時代） Hr-FA下 水田

2. 第1面（古代以降）の検出遺構

（1）第1面の概要

狭い調査区の大半は1号溝により占められ、検出した遺構には溝2条と北西隅のかかる掘立柱建物1棟であった。

（2）検出遺構

1) 溝

調査区1/2強を占める1号溝（第402図）は、N-10°-Wの傾きを持ってJr-68・69グリッド内からJo-67・68グリッド方向に流下する。規模は、上幅10.5m、深さ1.23mを測り、底面に幾つかの流れの痕跡が見られ、また埋没土の状況からも掘り替え又は乱流の状況が観察できた。2号溝（第402図）は、Jq-67グリッドからJo-66グリッドにかけて検出し、N-12°-Wに向く。確認全長12m、上幅80cm、下幅60cm、深さ37cmの規模を持ち、1号溝と東側で直線的に併走する。

2) 掘立柱建物

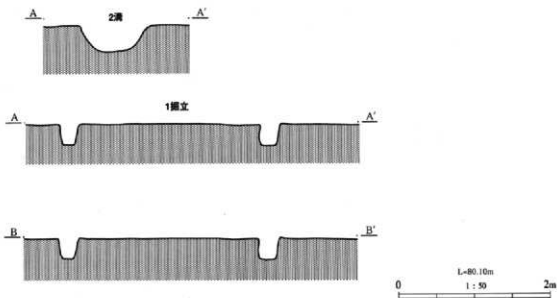
1号掘立柱建物（第402図）

調査区東端で、掘立柱建物の北西隅に当たると思われる1間（2.5m）×1間（2.5m）の柱穴を検出した。側方向は2号溝と同方向である。

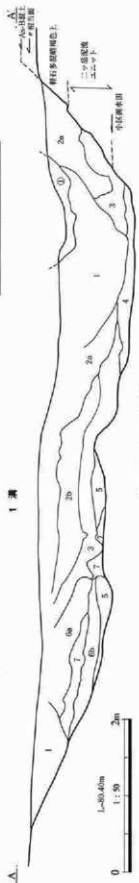
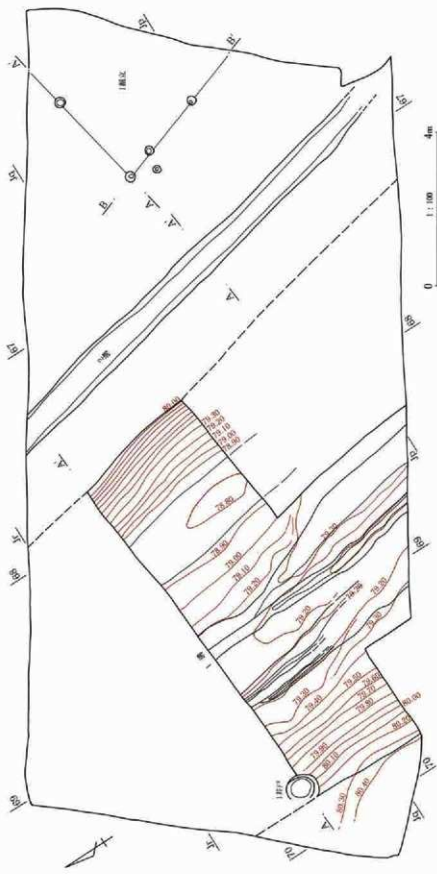
3) 井戸

1号井戸（第402図）

1号溝方面の立ち上がり部Jq-69グリッドにおいて溝を掘り込んでいる。径88cm、深さ44cmの楕円形状を呈する。

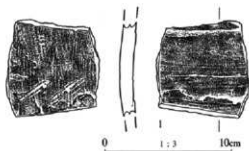


第401図 第1面遺構断面



第402图 第1面全体图

1. 灰オリブ細砂
- 2a 褐色土 洪水シルトの土壌化したもの。
- 2b 褐色土 2aと同性状。細流砂礫状に混入。
3. 灰色シルト
4. 青灰色シルト 凝結。
5. 青灰色砂 やや粗粒。ラミナ状水平堆積。
- 6a 灰色シルトと青灰色砂の混土。
- 6b 灰色シルトと泥炭の混土。
7. 泥炭ブロックと青灰色砂の混土(人為的な埋土)。
- ①. 底面にAs-Aが堆積する溝。



第403図 1号溝出土遺物

第1面 1号溝出土遺物観察表(第403図)

No.	遺物 器形	出土位置 埋存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	焼締陶器 甕	フク土 体部片	①-②- ③(7.3)	胎物見えず。重。締。 還元。黄灰色。	外面にスダレ条痕と叩き目、内面に工具による横ナラシ目、 紐作痕、保付着。割れ口シャープ。12・13世紀。蓋美。

3. 第2面(古墳時代)の検出遺構

(1) 第2面の概要

Hr-FP泥流を除去し検出した面である。地形は僅かに北西方向から南東方向に傾斜が見られ、全体的には平坦面となっている。確認面は黒色泥炭質であり、検出遺構は極小区画水田のみであった。

(2) 検出遺構

1) 水田 (第404図)

水田区画は調査区東西両側寄りで20数枚相当確認したが、大半の畦畔は潰れた状態で検出され高まりは見られず痕跡のみであった。調査区東寄りの水田区画では水田軸方向がN-30°-Eに配置された極小区画水田を検出し、南端は縦畦のみであった。また西側寄りではN-50°-W方向に縦畦が伸びる極小区画水田を検出した。

大畦畔は調査区中央部でN-27°-E方向に直線で延びる。大畦畔の規模は、上幅60cm、下幅1.2m、高さ5cmを測る。この大畦畔の周辺部では水田区画は検出できず、唯一東路に併走する畦畔を検出したが、横畦は検出できなかった。

4. 第3面(古墳時代)の検出遺構

(1) 第3面の概要

第2面のHr-FP泥流下水田耕土及びHr-FA層が15cm程の厚みで堆積し、その下層で検出した面である。同様地形は、僅かに北西方向から南東方向に傾斜が見られ、全体的には平坦面となっている。検出遺構は極小区画水田のみであった。

(2) 検出遺構

1) 水田 (第405図)

本調査区では南北に走る大畦畔を境に西側に水田区画、東側に未耕起平坦面と明瞭に分かれる。水田区画は極小区画水田であり、碁盤の目状に配置され58枚の水田を検出した。区画内で給水方法は、水路が検出されないことから田から田への掛け流しであり、水口は不明瞭であるが北東方向から南西方向に水が回されたと考えられ、一部3号水田から4号水田列と11号水田列へと分水している状況が見られた。

大畦畔はN-26°-Eの南北方向に設けられた1条のみであった。この大畦畔はHr-FP泥流下水田で検出された大畦畔と走行及び規模が重複し、更に下層のAs-C混じりの第4面で検出された水田区画内の大畦畔とも重なる。

東側の未耕起部分は大小の楕円形状のビットが無数に空いているが、耕作痕等は検出できなかった。

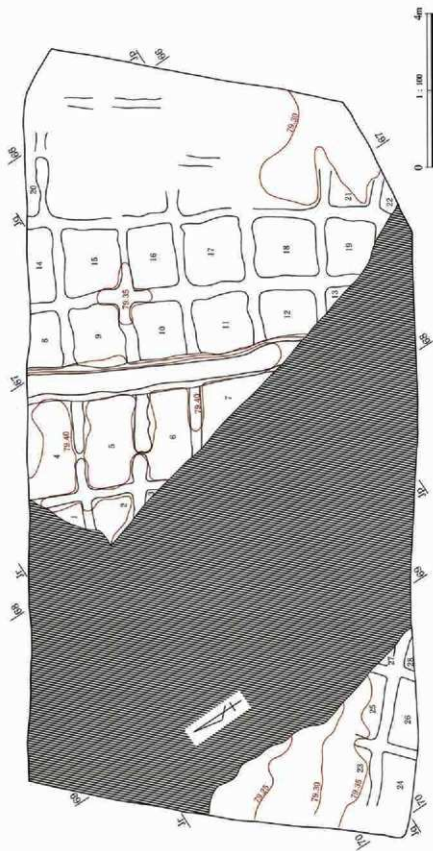


表115 第2面水田計測一覧

No.	面積 (m ²)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(5.6)	(0.8)	(0.9)	-
2	(17.2)	(1.4)	1.1	-
3	(1.1)	(0.4)	(0.3)	-
4	(44.3)	2.5	(1.3)	(1)
5	50.1	2.3	1.3	2

6	(39.7)	2.3	1.0	(1)	14	(21.1)	1.9	(0.9)	-	22	(4.5)	(0.8)	-
7	(24.2)	(1.9)	(1.6)	-	15	40.7	1.8	1.5	-	23	(16.9)	(3.5)	-
8	(20.0)	1.5	(1.0)	-	16	32.9	1.7	1.2	-	24	(20.4)	(1.4)	-
9	35.5	1.7	1.4	-	17	41.3	1.7	1.5	-	25	(15.5)	1.7	-
10	30.4	1.5	1.3	-	18	41.2	1.7	1.6	-	26	(17.4)	1.8	-
11	35.0	1.5	1.5	-	19	(28.8)	1.5	1.4	-	27	(0.6)	(0.5)	-
12	(27.3)	1.5	1.2	-	20	(12.1)	(2.3)	(0.4)	(1)	28	(2.5)	(0.8)	-
13	3.7	(0.7)	(0.6)	-	21	(15.3)	(1.0)	1.2	-				-

第404図 第2面全体図

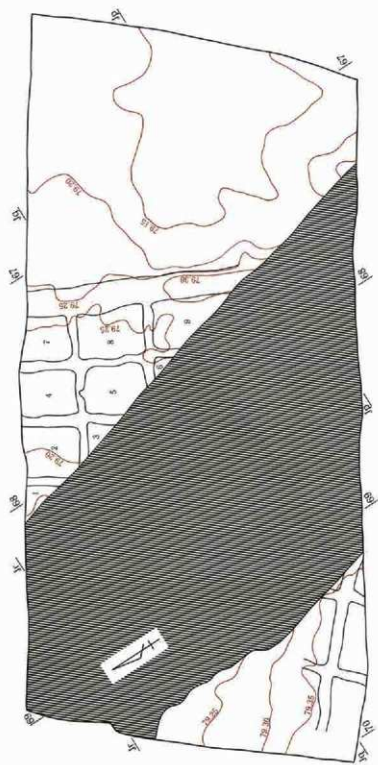


表116 第3面水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長短長 (m)	短短短 (m)	水口
1	(6.8)	(0.9)	(0.9)	-
2	(30.5)	(1.5)	1.3	-
3	(5.2)	(0.7)	(0.9)	-
4	(26.8)	(1.5)	1.2	-
5	(29.8)	1.8	1.3	-
6	(2.4)	(0.4)	(0.5)	-
7	(21.6)	(1.3)	1.2	-
8	54.7	1.8	1.3	-
9	(29.2)	(2.1)	1.3	-

第405図 第3面全体図

第IV章 まとめ

1. 利根川の変流と砂質土の堆積

筆者は、(利根川の変流)「人々のくらし」『新編高崎市史通史編2』(2000)の中で、それを研究した近藤義雄「利根川の変流について」『群馬県史通史編3しおり』(1990)に400年に一度という応永27年(1420)の大風・洪水災害に因を発生し、現群馬県庁裏を南北流していた小流中に洪水が溜り込み、同地から玉村町に至る現流路を決定づけたとする説に賛同し、さらに前橋・高崎市の市境付近以南の右岸側に初期開析のなごりと思える段丘と同面が崖上面から2~4mの浅い位置に数カ所が残されていることを理由に、変流は、西から東側へ開析拡張されていたと私見を述べた。本稿は、前出中で図の揭示を欠いていたこと、本遺跡もその係わりの中で存在し、調査担当であったことなども加え、若干の記述を行いたい。

中世以降、洪水によると考えられる層は、黒味のあるAs-B軽石混じり層のさらに一層上(中世褐色土層)から砂~シルトの堆積からである。As-B混じり層は、宿横手三波川遺跡D-2区14・16号土坑など埋土最下層がやや締まる推定芋穴の存在などから、降下後のある段階から一旦畑地化したようである。その後、西横手遺跡群・宿横手三波川遺跡の近世住宅関連を除くと大半は水田と化し、それは現代に至るまで続き、各々水田面はシルトなどの洪水層埋没を主としていた。洪水は、大量の土砂を運搬・堆積させたばかりでなく、西横手遺跡群A区の18世紀頃の近世住宅跡上面を流失させたなど、時として流失をも起こしている。それら土砂堆積の主因を考える際、利根川に接近することから直線的な関係で氾濫堆積を考えがちであるが、As-B降下(1108年説・考古学上は12世紀初頭)後の再水田化は、本遺跡・榎町北・上滝遺跡など広大な地域に中世水田として認められ、中に主用水路もしくは、自然河川を給水源と考えざるを得ず、洪水の初段階は、水位上昇による利根川崖の決壊→主要水路への流入→

支水路と水田へ流入→主用水路決壊→洪水氾濫化という経過を辿り、利根川からの直接流入ばかりでなく、主要水路を中心にした土砂の流入や露面の流出があったのではないだろうか。遺跡中の砂・シルト層について筆者が調査担当であったのは宿横手三波川遺跡D区以北であった。洪水砂層は、中世と中世以降とに区分していた前担当の所見(南雲・安藤両氏)を踏襲した。この中で下層にある中世褐色土層は、数度以上の堆積で生じ、層中に黄橙~黄褐色の砂~シルトが部分的に面状~塊状に下部に多く、上部に少なく、近世層に至っては微弱か、含まれていない層調にあった。中世褐色土層の堆積は、西横手遺跡群A区よりも宿横手三波川遺跡E・D区側に向い層厚の傾向があり、近世とされる砂質土は、西横手遺跡群A区北側で厚く、以南で層薄になる傾向があり、後者の堆積時か堆積の過程で同A区北側の中世褐色土は流失したかのようでもあった。後者は、一部が多くが、大溝である西横手遺跡群B区11号溝からまたされたごとく、近接するにしたがい層厚となっていたため、近世以降の洪水の初期段階は、この大溝が直接的に関係していたと推考される。その際の利根川洪水の出水口は、現利根川崖外に浅く残された段丘面と凹地が最も近接しており、第406図矢印の通りである。本遺跡にとって矢印以南と利根川崖間にある低台地は、有機的に関連が認められる。先ず北方には現諏訪神社が、明徳元(1390)年銘宝篋印塔を有する西福寺跡が洪水浸蝕を受けたかもしれない西端に、中央より北寄りに利根川の浸蝕により西方の現在位置に移築を余儀なくされた善勝寺が、ほぼ中央から以西に、城郭研究の故山崎一氏が指摘された新居屋敷跡などが狭い中に各々占地している。西横手遺跡群B区掘立柱穴群、D区中世井戸跡群なども、この地続きにあり、この低台地は利根川に浸蝕される前代は、さらに東方に延びていたことが想起される。

利根川右岸に残る段丘を、図示した。矢印以南の、特に高崎市中島町以南は、段丘面が現在までの利根川の冠水によって度々流出したと考えられるほど段丘面が不明瞭なため図示しなかった。このあたり以南の地が洪水に見舞われたことは、昭和十一年大樋以南の両岸から築堤が始まることや、田口輝美氏らが『滝川村誌』『天明三年浅間山爆發と郷土』の中で西横手村以南の村々が浅間山泥流(配押)によって埋没する中で、口伝を引用し「飯沼から……」と決壊位置を説明している。現在の耕地の大半は、泥押しのうち、浅間山麓石は、除去・集積・流土化されているので、地形は、ある程度、旧態にある。そのため、現在、度々出水したであろう中世洪水を考えるうえで、國中矢印位置が、崖脚に河道の痕跡をとどめていることや発掘結果の土壌傾伏状況からすれば、同地が決壊地点として最も適している。



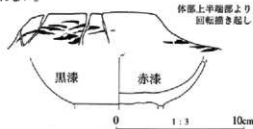
右上は、国土地理院 1:25,000「高崎・前橋」を、左下半は、高崎市役所「現況図」1:2,500を使用。西横手遺跡群は、(高崎市教育委員会)「西横手遺跡群(Ⅰ) 1989、(Ⅱ) 1990」による。河道跡の南半は、砂質土の堆積が厚く、北半部ではA-B下水田以下も残存しているため、河道跡の中で高・低所に分かれる。低所は、利根川出水時の流入口と推定される。南半の一角に伝備前細路があり、未完とされ、滝川取水路に取り付いていたが不明。新居屋敷は、山崎一氏所見を踏まえ、茂木沙「新居屋敷」『新編高崎市史資料編3中世1』(高崎市)1996による。西横手遺跡群跡D区11号溝と南堀切は一部一致し、東堀切の延長上にも地形上の段丘上の段丘があり、菅原経長にも同屋敷跡は焼ききりである。西横手遺跡群跡D区11号溝と南堀切は一部一致し、東堀切の延長上にも地形上の段丘上の段丘があり、菅原経長にも同屋敷跡は焼ききりである。西横手遺跡群跡D区11号溝と南堀切は一部一致し、東堀切の延長上にも地形上の段丘上の段丘があり、菅原経長にも同屋敷跡は焼ききりである。西横手遺跡群跡D区11号溝と南堀切は一部一致し、東堀切の延長上にも地形上の段丘上の段丘があり、菅原経長にも同屋敷跡は焼ききりである。

第406図 遺跡関連と利根川

2. 西横手遺跡群B区11号溝と中島堰

天狗岩用水は、慶長7年、総社城（前橋市総社町）に入封した秋元長朝が、所領一帯の灌漑を行うべく利根川右岸の北群馬郡吉岡町久保付近から取水を行い、高崎市上滝町將軍淵で井野川に落水させた。以南の佐波郡玉村町に至るまでを、玉村の代官となった伊奈備前守が江原源左衛門進言と協力を得て開さくを行い、慶長15（1610）年に完成した。工事は難行を極め、天狗岩用水については力田愛碑が、伊奈備前守の施工部は、前橋市下新田町に未完とされた伝備前堀跡（群馬県企業局『下新田遺跡』1989）・高崎市西横手町にも同規模・同形状の未完伝備前堀跡（高崎市教育委員会『西横手遺跡群1』1989）が発掘調査されている。中島堰とは、西横手遺跡群A・B区間を西東に流下する3面コンクリート用水路で、以東の利根川崖には幅約3m、深さ1.5mの旧用水路が浸蝕された状態で残され、旧用水路は、中島町東側をへて南側の水田地帯に至る。調査地内の中島堰の直下には、幅9m、深さ2m余りの西横手遺跡群B区11号溝が存在していた。中島堰と同溝とは、江戸時代前期頃には、ほとんど埋没しており直接的な結びつきは薄かった。同区11号溝は、西方の未調査地でも水田・畑・宅地との地境となり、現在でも凹地として残され、滝川用水路直前まで辿ることができる。城郭の故山崎一氏は、前出新居屋敷の南限掘切を、この凹地としておられるが、第406図のように、その痕跡はさらに西方に延びるので、より灌漑水路としての機能を想起させる。山崎氏の縄張推定の東端切北側延長上は、2.5mの段差をもって利根川崖際の畑地境として名残をとどめている。同区14号溝は、11号溝を切って埋没し、埋土下方には人頭大の転石が累々と存在し、大石の少ない11号溝と埋没様相の異なる状況があり、利根川崖決壊による洪水流入の結果と考えられた。その流入は、東接の同C区には達していないので基本的には、C区堤防下1号溝の幅7.5m、深さ1.25mの規模に喰い込む範囲であったのだろう。同区11号溝の構造は、南側は、現中島堰を生かすための未調査地帯があり南側

立ち上がり不明を残すが、中世褐色土面A区北縁沿いに幅約3mを削り残す江戸時代前期頃の掘り込みが以南で行われ、11号溝北側にも8号溝との間約2m幅で掘り残しが見られ、さらに江戸時代褐色土面の水田畦跡が、その高まりを利用しており、高さは不明ながら築堤はなされていたと推定され、南側が幅広なのは、南下りの地形に対する処置であったと考えたい。同区11号溝の時期は、出土遺物を第344図で示したように、時期的な特定を可能にする個体は、同図3が軟質陶器鉢片で14世紀後半から15世紀前半の製作時期であるが磨耗ははなはだしく、積極性に欠けるが同図2は、木製皿で、埋土下層から出土し、調査時点から傍証資料として注目されていた。材質はハンノキで、泉内では水辺の野草として見られる。内面の朱の発色は、赤10R4/8で、植物とも思える藍文も同色に見え、外面の黒漆は黒7.5Y R2/1と1.7/7との間くらいの色調で、やや扁平な丸みをおびる体部形状は15世紀代と考えたい。そのため、同区11号溝は、滝川（天狗岩用水末流・備前堀用水）開さく前代の大溝と云える。さらに、江原源左衛門らが荒地を開墾したとされる前代であり、中世水田とも有縁の存在と考えたい。なお、耕地整理以前に古川と称した河道が以南にあり、11号溝の南東の延長もしくは14号溝底に大石累々の状況があったことからすれば同溝と関連していたかもしれない。



漆面を研究している当団小林正調査研究員と検討した結果、器種は皿で、内面赤漆は発色やや悪いものの、黒漆は下地にカキシラしき塗りがあり、その上に黒漆塗と赤漆塗文がなされる。材質種であるハンノキは一般的でなく、製作時期は裏面に丸みのある形状から15・16世紀前半頃と推定された。

第407図 B区11号溝出土の木製皿

第V章 自然科学分析

1. 宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群出土人骨

梢崎 修一郎

はじめに

宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群は、群馬県高崎市宿横手町及び西横手町に所在する。両遺跡の発掘調査は、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により平成10年から平成11年にかけて実施された。宿横手三波川遺跡E区6号・13号・25号土坑より近世の人骨が、西横手遺跡群A区1号火葬跡より中世の火葬人骨が、出土したので以下に報告する。

歯の計測方法は、藤田(1949)に従った。また、歯の計測値の比較は、中近世人のものはMATSUMURA(1995)より、現代人のものは権田(1959)より引用した。

1. 宿横手三波川遺跡E区6号土坑出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、北西～南東の長軸約120cm、北東～南西の短軸約1mの土坑より出土している。

(2) 人骨の出土部位

頭蓋片・左右大腿骨片・左右脛骨片等が出土している。

(3) 被葬者の頭位及び埋葬状態

出土人骨の出土位置より、被葬者の頭位は北側で、右下横臥屈葬と推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨に重複部位は認められないので、被葬者の個体数は1個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

出土人骨の内、左右大腿骨と左右脛骨の大きさより、被葬者は男性である可能性が高い。

(6) 被葬者の死亡年齢

死亡年齢を特定できる部位が出土していないが、恐らく成人であろう。

2. 宿横手三波川遺跡E区13号土坑出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、南北の長軸約1m、東西の短軸約60cmの土坑より出土している。

(2) 人骨の出土部位

非常に保存状態の悪い頭蓋骨片・四肢骨片が出土している。

(3) 被葬者の頭位

頭蓋骨片の出土位置より、被葬者の頭位は北側であると推定される。

(4) 被葬者の個体数

保存状態が悪いので不明であるが、被葬者の個体数は、恐らく1個体であろう。

(5) 被葬者の性別

保存状態が悪く被葬者の性別は不明である。

(6) 被葬者の死亡年齢

保存状態が悪く被葬者の死亡年齢は不明である。

3. 宿横手三波川遺跡E区25号土坑出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、南北の長軸約1m、東西の短軸約50cmの土坑より出土している。

(2) 人骨の出土部位

人骨は、下顎骨・歯・上腕骨・大腿骨等が出土している。

(3) 被葬者の頭位及び埋葬状態

出土人骨の出土位置より、被葬者の頭位は、北側で右下横臥屈葬と推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には、明らかな重複部位が認められないので、被葬者の個体数は1個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

出土永久歯は全体的に小さく女性的であるが、四肢骨の大きさから被葬者の性別は男性であると推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗を見ると、下顎第1大臼歯は象牙質が面をなすほどに咬耗しているブローカの2度であり、被葬者の死亡年齢は約40歳代と推定される。

(7) 歯の病変

出土歯には、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は認められなかった。また、歯石の付着は、下顎右第2切歯の唇側面に認められた。

4. 西横手遺跡群A区1号火葬跡出土火葬人骨

(1) 火葬人骨の出土状況

人骨は、南北の長軸方向が約115cm・東西の短軸方向が約80cmの土坑より出土している。東側には、15cmほど突出した煙道がある。このような煙道を持つ構造の火葬跡は、群馬県では主に中世の遺跡から発見されている(清水、2001; 檜崎、2002; 綿貫、1997)。この煙道は火をつける焚き口であろう。従って、火葬する際の風向きを考慮してのことと推定されるので、火葬当時には、東側から風が吹いていたであろう。

(2) 火葬の方法

火葬人骨の色は、明灰色から白色を呈しているので、火葬の際の温度は約900℃以上であろう。また、火葬人骨には亀裂・ゆがみ・ねじれが認められるので、白骨化させたものを火葬したのではなく、死体をそのまま火葬したと推定される。

(3) 火葬人骨の出土部位

ほぼ、全身にわたる部位が同定された。このようにわずかな部位しか取付しない方法は現代にも続く西日本タイプの取付方法であろう(檜崎、2002)。

(4) 被火葬者の頭位

頭骨片及び下顎骨片が北部より発見されているため、被火葬者の頭位は北側と推定される。

(5) 被火葬者の個体数

出土人骨に重複部位は認められないため、被火葬者の個体数は1個体と推定される。

(6) 被火葬者の性別

前頭骨の眉弓の発達・側頭骨の乳様突起の発達・大顎骨頭頂の大きさより、被火葬者の性別は男性であると推定される。

(7) 被火葬者の死亡年齢

頭蓋縫合を見ると、矢状縫合・鱗状縫合が癒合していない。また、下顎骨左には、まだ、第3大臼歯が萌出していない。従って、被火葬者の死亡年齢は、恐らく20歳代と推定される。

(8) 非計測的形質(眼窩上孔)

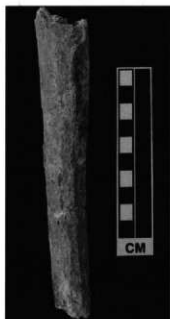
非計測的形質として、前頭骨左眼窩上孔が認められた。眼窩上孔とは、眼窩の上より神経が通る孔であるが、これか孔になっておらず溝になっている場合を眼窩上切痕という。日本人の歴史で見ると、この眼窩上孔は、弥生人・古墳人・鎌倉時代人・江戸時代人・現代日本人等の渡来系に多く、縄文人や現代アイヌ等の在来系には少ないことが知られている(百々、1995)。従って、本被火葬者も渡来系である可能性が高い。

まとめ

宿横手三波川遺跡E区6号・13号・25号土坑より近世の骨片が西横手遺跡群A区1号火葬跡より中世の火葬人骨が、出土した。E区6号土坑には成人男性が、13号土坑には死亡年齢・性別不明人骨が、25号土坑には死亡年齢約40歳代の男性が埋葬されていたと推定された。A区1号火葬跡出土火葬人骨は、死亡年齢20歳代の男性が火葬に付されたと推定された。

引用文献

- 百々幸雄編 1995 『モンゴロイドの地球3、日本人のなりたち』、東京大学出版会
藤田恒太郎 1949 歯の計測規準について、『人類学雑誌』、61: 1-6。
椎田和良 1959 歯の大きさの性差について、『人類学雑誌』、67: 151-163。
MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from morphology, National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum.
檜崎修一郎 2002 下小島神戸遺跡出土火葬人骨、『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』、20:43-50。
綿貫邦男編 1997 『下小島神戸遺跡』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



右大臑骨後面観

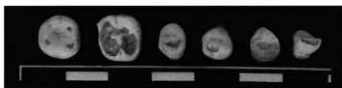


図1. 宿禰手三波川遺跡E区6号土坑出土土人骨

宿禰手三波川遺跡出土人骨測定計測値及び比較表

種別	性別	25号土坑		縄文時代*		江戸時代*		現代日本人**	
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上	I2	MD	5.3	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30	
	C	MD	6.8	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.88
		BL	7.8	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50
	P1	MD	6.7	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	7.8	8.16	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
P2	MD	6.1	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29	
	BL	7.0	8.48	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26	
下	M1	MD	10.3	11.56	11.06	11.72	11.34	11.72	11.32
		BL	10.8	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.35
	M2	MD	9.6	11.06	10.65	11.28	10.78	11.30	10.89
		BL	10.3	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20

注1：計測値の単位は、すべて、mmである。
 注2：骨種は、I2（第2臼歯）・C（犬歯）・P1（第1小臼歯）・P2（第2小臼歯）
 ・M1（第1大臼歯）・M2（第2大臼歯）を意味する。
 注3：MD（遠近心径）・BL（遠近背径）を意味する。
 注4：「鑿石」とあるのは、鑿石が付着しているため計測できなかったことを示す。
 注5：*はKATSUMURA (1995) より、**は藤田 (1995) より引用。



右上

左上

M2 M1 P2 P1 C I2

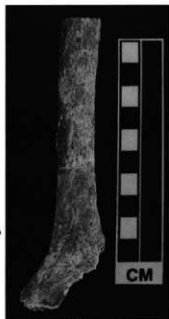
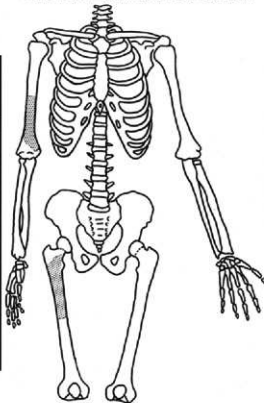
右下

図2. 宿禰手三波川遺跡E区25号土坑出土土骨

左下



右大臑骨後面観



右上臑骨後面観

図3. 宿禰手三波川遺跡E区25号土坑出土土人骨

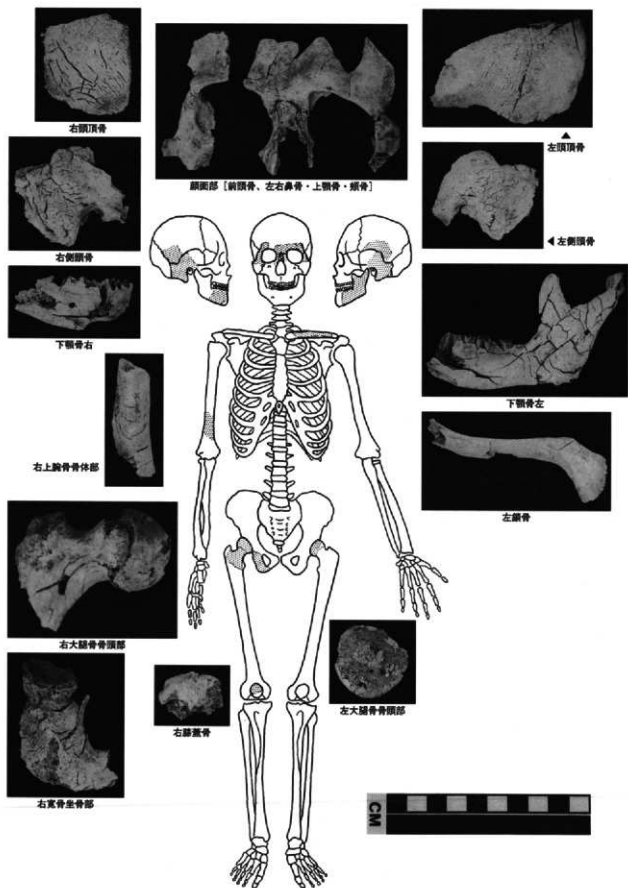


图4. 西横手遺跡群A区1号火葬跡出土人骨

2. 宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群出土獣骨

橋崎 修一郎

はじめに

宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群は群馬県高崎市宿横手町及び西横手町に位置し、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が平成8年～平成10年まで行われた。西横手遺跡群A区1号井戸・4号井戸・6号井戸・10号溝及び宿横手三波川遺跡E区13号溝・14号溝の6ヶ所より獣骨が出土したので以下に報告する。なお、獣骨の計測方法は、von den Driesch (1976) に従った。

1. 西横手遺跡群A区1号井戸出土獣骨

1号井戸からは、ニホンイタチが出土している。時代は、出土遺物より近世に比定されている。

ニホンイタチ [*Mustela itatsi*]

現在、日本に生息するイタチには、ニホンイタチとチョウセンイタチがいる。ニホンイタチは本州・四国・九州に、チョウセンイタチは西日本に分布している。チョウセンイタチは、1949年頃に九州に侵入したと考えられており、ニホンイタチに比べて、身体が大きい。

①出土部位

頭蓋骨が1点出土している。獣骨の色は焦茶色であり、水に浸かって出土する骨の典型的な色である。

②個体数

個体数は、1個体である。

③性別

ニホンイタチの体重は、オスが290g～650g(日高、1996)・400g～500g(増井、1976)、メスが115g～175g(日高、1996)・150g～200g(増井、1976)であり、性差が大きい。この性差は、セイウチ等の海獣を除くと哺乳類中最大であるという。

本標本の頭蓋骨全長は、57mmである。ニホンイタチの現生標本は、オスが55.5mm～68mm・メスが39mm～54mmである。チョウセンイタチの現生標本は、オスが64.4mm・メスが52.4mmである。

従って、本遺跡出土イタチは、ニホンイタチのオスであると推定される。

ニホンイタチの狩猟については、興味深い報告がある。狼跡が、一冬に数百の個体を捕獲しても、ほとんどがオスであり、メスは一割にも満たないという。また、研究のための餌により捕獲した結果では、オス：メス=40：1であるという。

④死亡年齢

死亡年齢の推定は難しいが、上顎骨の歯の萌出状態から少なくとも成獣と推定される。参考までに、飼育下でのイタチの平均寿命は約1.4歳と非常に短いという。

⑤外傷や病理

頭蓋骨には、外傷やカット・マークは認められない。また、病理的な所見も認められない。

2. 西横手遺跡群A区4号井戸出土獣骨

4号井戸からは以下のように、犬(イヌ)・猫(ネコ)・馬(ウマ)が出土している。時代は、出土遺物より近世に比定されている。

(1) 犬(イヌ) [*Canis familiaris*]

①出土部位

犬の第1頸椎(環椎)が1点出土している。獣骨の色は焦茶色であり、水に浸かっている骨の典型的な色である。

②個体数

個体数は、1個体である。

③性別

犬は性差があまりないので性別の推定は難しい。

④死亡年齢

死亡年齢の推定は難しいが、第1頸椎の化骨は完了しているので、少なくとも成獣と推定される。

⑤外傷や病理

頭蓋骨には、外傷やカット・マークは認められない。また、病理的な所見も認められない。

(2) 猫 (ネコ) [*Felis catus*]

猫 (ネコ) は、記録では日本にA.D.885年に入っており、中国から渡来したと考えられている。

①出土部位

左右眼窩部を欠いた頭蓋骨・右肩甲骨・右上腕骨・左右尺骨・左右橈骨・左右大腸骨・左脛骨が出土している。獣骨の色は焦茶色であり、水に浸かった骨の典型的な色である。

②個体数

出土部位は色や大きさからすべて同一個体と考えられるので、個体数は1個体と推定される。

③性別

猫 (ネコ) の場合、性差があまりないので、性別の推定は難しい。

④死亡年齢

死亡年齢の推定は難しいが、上顎骨の歯の萌出状態や四肢骨の骨化の状態から、少なくとも成獣と推定される。

⑤外傷や病理

頭蓋骨や四肢骨には、外傷やカット・マークは認められない。また、病理的な所見も認められない。

(3) 馬 (ウマ) [*Equus caballus*]

馬 (ウマ) は、恐らく、5世紀の古墳時代に日本に渡来したと考えられている。

①出土部位

第1頸椎 (環椎)・左前腕骨 (橈骨・尺骨) [腕骨の遠位端及び尺骨の近位端を欠く]・左右上顎乳白歯及び第1大白歯

②個体数

第1頸椎 (環椎)・左前腕骨 (橈骨・尺骨)・左右上顎乳白歯をそれぞれ別個体と考えると個体数は3個体となる。しかしながら、第1頸椎及び左前腕骨が同一個体と考えると、左右上顎乳白歯と第1大白歯が別個体と考えると個体数は2個体となる。

③性別

馬の場合、性別は上下顎にある犬歯の有無あるいは、寛骨により推定できる。従って、性別の推定は難しい。

④死亡年齢

第1頸椎及び左前腕骨は骨化が完了しているので、成獣と推定できる。また、左右上顎乳白歯及び第1大白歯の場合、第1乳白歯は約2歳～3歳・第2乳小臼歯は約3歳～3.6歳・第3乳白歯は約3.6歳～4歳で抜け落ちること、永久歯の第1大白歯は約7ヶ月～1歳で萌出することを考えるとこの個体の死亡年齢は約7ヶ月～1歳と推定される。

⑤外傷や病理

左前腕骨の一部にカット・マークと思われる傷が認められた。恐らく解体する際につけられた傷であろう。

3. 西横手遺跡群A区6号井戸出土獣骨

馬 (ウマ) の上顎大白歯が1本出土している。色は、象牙色であり、通常の井戸出土の骨が持つ焦茶色ではない。覆土土となっているが、井戸の水に長期間浸かっていたものではないことが色からも推測できる。時代は、出土遺物より近世に比定されている。

①出土部位

上顎左第2大白歯が1本出土している。

②個体数

1本のみの出土から、個体数は1個体である。

③性別

馬の場合、性別は上下顎にある犬歯の有無あるいは寛骨により推定できる。従って、性別の推定は難しい。

④死亡年齢

馬の場合、上顎第2大白歯は、約2歳で萌出する。また、歯冠高は約52mmであり、死亡年齢は約7歳となる。

⑤外傷や病理

外傷や歯石の付着等は認められなかった。

4. 西横手遺跡群A区10号溝出土獣骨

馬 (ウマ) の下顎小臼歯が1本出土している。時代は、出土遺物より近世に比定されている。

①出土部位

馬の下顎右第2小臼歯が1本出土している。

②個体数

1本のみ出土から、個体数は1個体である。

③性別

馬の場合、性別は上下顎にある犬歯の有無あるいは、寛骨により推定できる。従って、性別の推定は難しい。

④死亡年齢

馬の場合、下顎第2小白歯は、約2.5歳で萌出する。また、歯冠高は、約45mmであり、死亡年齢は約5歳となる。

⑤外傷や病理

この歯には、頬側面及び舌側面の両方に歯石の付着が認められた。この歯石は、歯垢に唾液中のカルシウムやリンが沈着し石灰化したものである。摂取した食物が柔らかいものが多いと、この歯石が沈着すると考えられており、このような歯周病は野生動物には少なく家畜に多いことが知られているので、野生馬ではなく家畜として飼育されていたことが推測される。

5. 宿横手三波川遺跡E区13号溝出土獣骨

13号溝からは、馬（ウマ）の骨と歯が出土している。馬歯には、歯石が付着しているため、計測できない。時代は出土遺物より近世に比定されている。

①出土部位

馬の上下顎歯・下顎骨・脊椎骨・肋骨等が出土している。しかしながら、上下顎歯・下顎骨以外は、保存状態が悪い。

②個体数

馬の下顎から、約1.5m離れて脊椎骨及び肋骨等が出土しているため、恐らく同一個体と推定される。

③性別

馬の場合、性別は上下顎にある犬歯の有無あるいは、寛骨により推定できる。今回、それらの骨は出土していないので、性別の推定は難しい。

④死亡年齢

出土馬歯の上顎切歯の咬耗度から、死亡年齢は約13歳と推定された。

⑤外傷や病理

上下顎歯には、頬側面及び舌側面の両方に歯石の付着が認められた。この歯石は、歯垢に唾液中のカルシウムやリンが沈着し石灰化したものである。摂取した食物が柔らかいものが多いと、この歯石が沈着すると考えられており、このような歯周病は野生動物には少なく家畜に多いことが知られているので、野生馬ではなく家畜として飼育されていたことが推測される。

6. 宿横手三波川遺跡E区14号溝出土獣骨

馬（ウマ）の下顎歯が出土している。時代は、出土遺物より近世に比定されている。

①出土部位

馬の左右下顎歯が出土している。

②個体数

出土歯の色及び保存状態が似ているので、同一個体と考えられる。

③性別

馬の場合、性別は上下顎にある犬歯の有無あるいは、寛骨により推定できる。今回、それらの骨は出土していないので、性別の推定は難しい。

④死亡年齢

出土馬歯の全歯高より、死亡年齢は、約10歳と推定される。

⑤外傷や病理

出土馬歯には、歯石の付着は認められなかった。

まとめ

西横手遺跡群の内、1号井戸・4号井戸・6号井戸・10号溝・宿横手三波川遺跡E区13号溝・14号溝の6ヶ所から獣骨が出土した。1号井戸からは成獣のニホンイタチ頭蓋骨が、4号井戸からは成獣のイヌの第1頸椎・成獣のネコの頭蓋骨及び四肢骨・成獣のウマの第1頸椎及び左前腕骨・約7ヶ月～1歳のウマの乳白歯が、6号井戸からは約7歳のウマの上顎第2小白歯が、10号溝からは約5歳のウマの下顎第2小白歯が、13号溝からは約13歳のウマの下顎骨・上下顎歯・脊椎骨・肋骨が、14号溝からは約10歳の下顎歯が出土した。井戸や溝から馬

骨や馬歯が出土した場合、井戸を埋める際の祭祀や祈雨祭祀に伴い水神に捧げるために殉殺した可能性が高い。

参考文献

- 阿部 未 1994 『日本の哺乳類』、東海大学出版会
 鈴方貞亮 1993 『改訂 日本古代家畜史』、有明書房
 五十嵐謙吉 1998 『十二支の動物たち』、八政書房
 猪熊 壽 2001 『アニマルサイエンス3。イヌの動物学』、東京大学出版会
 今泉吉典 1990 『原色日本哺乳類図鑑』、保育社
 井本英一 1999 『十二支動物の話』、法政大学出版局
 遠藤秀紀 2001 『アニマルサイエンス2。ウシの動物学』、東京大学出版会
 大幸司記之 1993 『十二支考』、医歯薬出版
 大幸司記之 1998 『哺乳類の生物学2。形態』、東京大学出版会
 小原秀雄 1972 『日本野生動物記』、中央公論社
 小原秀雄 1972 『続日本野生動物記』、中央公論社
 加藤嘉太郎 1993 『家畜比較解剖図説・上巻』、養賢堂
 金子希昌・小西正幸・佐々木清光・千葉徳爾 1992 『日本史のなかの動物事典』、東京堂出版
 加茂謙一 1973 『家畜文化史』、法政大学出版会
 川口 敏 2001 『死生物学の観察ノート』、PHP研究所

- 川道武男・川道美枝子 1991 『けものウォッチング』、京都新聞社
 クラットン=ブロック、J。 (増井光子監修、増井久代訳) 1989 『図説動物文化史事典』、原書房
 クラットン=ブロック、J。 (坂井清彦監訳、清水雄次郎訳) 1997 『馬と人の文化史』、東洋書林
 クラットン=ブロック、J。 (小川昭子訳) 1998 『猫の博物館』、東洋書林
 後藤仁敏・大幸司記之編 1996 『歯の比較解剖学』、医歯薬出版
 小西正幸監修・阿部 未著 1994 『千支の動物誌』、技報堂出版
 近藤誠司 2001 『アニマルサイエンス1。ウマの動物学』、東京大学出版会
 芝田清吾 1969 『日本古代家畜史の研究』、学術書出版会
 正田陽一 1983 『家畜という名の動物たち』、中央公論社
 正田陽一編 1987 『人間がつくった動物たち』、東京書籍
 シンプソン、G. G. (長谷川善和監修、原田俊治訳) 1989 『馬と進化』、どうぶつ社
 柳野博幸 1986 『けもの歯』、大阪市立自然史博物館
 中村慎里 1984 『日本動物民俗誌』、海鳴社
 西本豊弘・松井 章 1999 『考古学と自然科学2。考古学と動物学』、同成社
 日高敏隆監修 1996 『日本動物大百科1。哺乳類1』、平凡社
 増井光子 1976 『日本の動物』、小学館
 安間葉樹 1985 『アニマル・ウォッチング』、晶文社
 ラッカム、ジェイムズ (本郷一美訳) 1997 『動物の考古学』、学芸書林

表1. ニホンイタチ頭骨計測値

計測項目	計測値 (mm)
1. 頭骨全長	58.3
2. 頭骨基底全長	56.7
3. 上顎歯列長 (切歯~臼歯)	18.3
4. 上顎歯列長 (犬歯~臼歯)	15.5
5. 吻幅	12.3
6. 臼歯間幅	12.9
7. 頬骨弓幅	31.6
8. 額間幅	22.5
9. 乳様突起間幅	26.5
10. 額面高	19.8
11. 犬歯後頭骨長	54.5

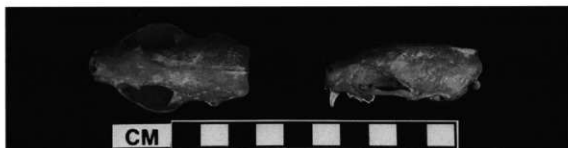


写真1. 西横手遺跡群 1号井戸出土ニホンイタチ頭骨 [左:上面観、右:左側面観]



写真2. 西横手遺跡群 4号井戸出土イヌ第1頸椎

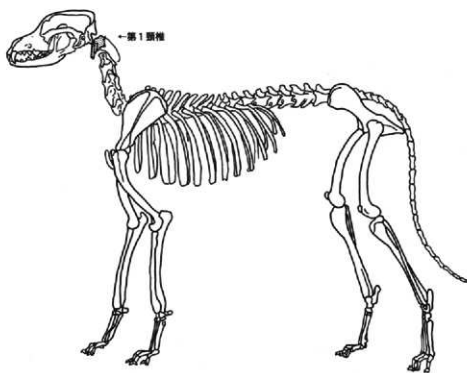


図1. 西横手遺跡群 4号井戸出土イヌ第1頸椎出土部位



写真3. 西横手遺跡群4号井戸出土ネコ頭骨 [左:上面観、右:上顎骨]



写真4. ネコ頭骨現生標本との比較

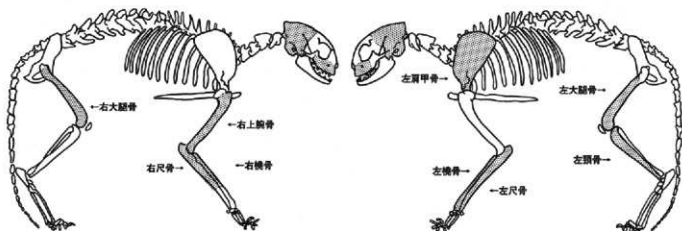


図2. 西横手遺跡群4号井戸出土ネコの出土部位



写真5. 西横手遺跡群4号井戸出土ネコ四肢骨

[左から、右大腿骨・右尺骨・右腕骨・右桡骨・右肩甲骨・左肩甲骨・左腕骨・左尺骨・左大腿骨・左脛骨]



写真6. 西横手遺跡群4号井戸出土ウマ第1頸椎
 [上:背側面観、下:腹側面観]



写真7. 西横手遺跡群4号井戸出土ウマ左前腕骨
 [左:前面観、右:後面観]

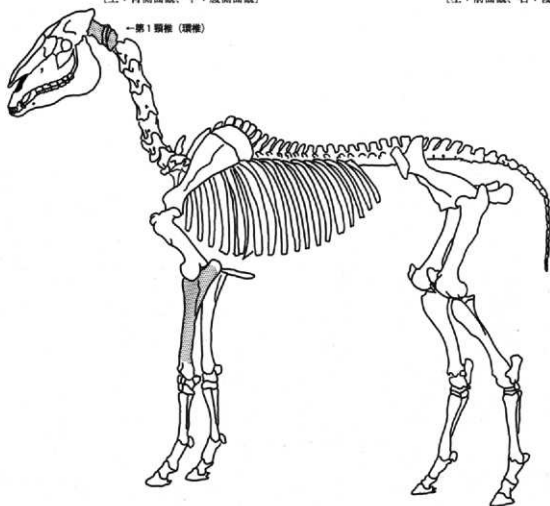


図3. 西横手遺跡群4号井戸ウマの出土部位

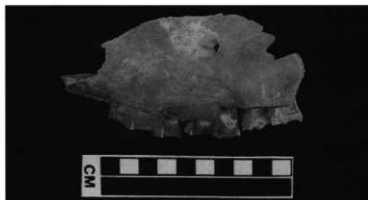


写真8. 西横手遺跡群4号井戸出土ウマ上顎左乳小白歯



写真9. 宿横手三波川遺跡13号溝出土ウマ切歯【上：上顎切歯、下：下顎切歯】

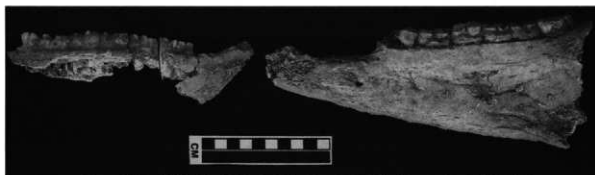


写真10. 宿横手三波川遺跡13号溝出土土顎と歯【左：右下顎舌側面観、右：左下顎側面観】

3. 宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群出土木製品の樹種

はじめに

宿横手三波川遺跡および西横手遺跡群はいずれも高崎市東端部に位置し、現利根川の右岸に立地する、古墳時代～近世の複合遺跡である。ここでは、近世面から出土をみた14点と、古墳前期以前に相当するシルト層から出土をみた1点の計15点の木製品について樹種同定を試み、遺跡の性格の一端を明らかにすることを目的とした。

1. 方法

出土木製品から横断面・接線断面・放射断面の3断面を切り取り、ガムクロラールで封入されたプレパラート（作成：群馬県埋蔵文化財調査事業団）を用いて、光学顕微鏡にて40～400倍で検鏡し、現生木材標本との対照によって同定を行った。なお、プレパラートは群馬県埋蔵文化財調査事業団が保管。

2. 結果

今回の樹種同定の結果、計9分類群が見出された（表1）。そのうち西横手遺跡群A区1号竪穴状遺構一三の椽は、放射断面・接線断面の2断面をもとに同定を行いブナ属と考えられたが、横断面を欠くことから確定は控え、?付きに留めた。また宿横手三波川遺跡E区近世屋敷の木製品については、切片が小さいことから詳細な同定には至らなかったが、ブナ科のアカガシ亜属を除く、クリ・シイノキ属・コナラ節・クスギ節のいずれかと考えられた。ここではまず検出された分類群の生態・分布および材質について述べる。

3. 考察

椽にはブナ属と考えられる材とハンノキ節がそれぞれ1点ずつ使用されていた。椽の用材としてブナ属の材が用いられることは、近世では典型的な樹種選択の一つである。群馬県内の遺跡においても、二之宮千足遺跡、元総社寺田遺跡などで椽にブナ属の材が用いられている。またハンノキ節の材が椽に用いられることはブナ属などに比べるとかなり少ないものの、こちらも典型的な樹種選択の一つとして挙げることができる。材質からみるとブナ属の材は狂いが生じやすく、また保存性が低いなどの難点はある

(株)パレオ・ラボ

が、やや重硬である割に切削・加工は容易である。また広放射組織を有するため、板目・柾目で椽目・虎目があらわれる上、光沢も有するので美しいという特徴がある。一方ハンノキ節の材は、硬さ・重さ・保存性など概して中庸であり割製は困難な部類に属するが、こちらも切削・加工は容易で、さらに集合放射組織を有しているために板目で軸方向に長い木目が、柾目では虎目が出る。他の樹種で近世において椽類に使用されるものは、トチノキ・カツラ・ケヤキ・カエデ属・サクラ属などが代表的である。これらの強度については軽軟なトチノキ・カツラから重厚なケヤキまでさまざまであるが、重厚なケヤキでも加工はそれほど難易ではなく、靱性があるため薄手の製品に向く。また磨きにより光沢が出るものが多く、それぞれに特徴的な美しい木目を有する。こうしたことから鑑みると、椽の用材選択は強度や狂いよりも、靱性の有無や均質性、加工の容易さや木目の美しさに着目して成されていたようである。また、本遺跡の立地する関東地方の低地部において、ブナ属の材の利用が盛んになるのはおよそ近世以降であり、ブナ属の生育地が高海拔地域であることを考えれば、その木材利用の背景に嗜好性や材の蓄積といった他、林業技術や流通・商業の発達などが寄与したことが想定される。ハンノキ節については、ハンノキなど本遺跡周辺に身近に生育し得る種が含まれているため、ブナ属の場合と異なり、持込のほか近隣地からもたらされたものである可能性もある。

曲物底板にはすべて針葉樹材が用いられ、スギ・ヒノキ・アスナロがそれぞれ1点ずつ見出された。曲物の用材に針葉樹材が多用されることは、他の遺跡でも確認されており、一般的な傾向であると考えられる。その他の板状の木製品でもスギ・ヒノキと針葉樹材が使用されており、広葉樹材は認められなかった。他の遺跡においても、近世では板材に針葉樹材は重点的に用いられる傾向が強く、割製性が良く適直な針葉樹材の材特性への着目が伺える。とこ

ろで、新保遺跡や三ツ寺I遺跡、元総社寺田遺跡など、弥生時代～古墳時代にすでにモミ属を板材や角材に多用している遺跡があるが、このような遺跡では近世に入ると一転してモミ属が見出されることは少なくなり、スギやヒノキが用いられるようになる。また中村遺跡や二之宮千足遺跡などの遺跡においても近世ではモミ属の使用は少なく、スギ・ヒノキなどモミ属以外の針葉樹材が目立つ。これが本遺跡を含めた一般的な傾向であるならば、モミ属の材の潤滑が原因と想定されるほか、経済状況や流通の流れ、林業技術の発達などの要素が密接に関わっていることが類推される。

西横手遺跡群B区3号井戸-6木栓にはイヌシテ節が用いられており、硬く緻密でありながら弾性に富む材特性を巧みに利用しているといえる。唯一古墳前期以前に相当する杭は、重く強硬なブナ科の材（アカシハス属を除く）が用いられていた。一般に加工の程度の低い杭の用材選択は身近な材や周辺に生育していた材を無操作的に用いる傾向にあり、強度にはそれほど配慮が成されていないと考えられる場合が多い。今回のものは点数も少なくこれらの点において明確ではないが、周辺に生育していた身近な材であることは想定できる。また、その他棒状の形状を成した製品には、針葉樹材・広葉樹材ともに用いられており、強度もスギのような軽軟なものからガマズミ属のようにやや重硬なものまで含まれていた。木取りでみると、洞材から削りだしたと考えられるものと、芯持で枝あるいは幹から削り出したと考えられるものがあるが、後者にはアスナロ・ガマズミ属の材が用いられていた。ガマズミ属は緻密でやや重硬、アスナロは中庸な材であるが、用いられていたアスナロの材は年輪が密であった。このことから、芯持のものには強度に配慮して緻密な材が

使用された可能性もあるとみられる。

4. まとめ

総点数は少ないものの、このように各木製品にはそれぞれの樹種の材質に応じた使い分けが認められ、特に椀・曲物の樹種構成は近世における一般的な傾向と調和的であった。これまで、近世の木製品の樹種構成については都市部の遺跡を中心にその結果の蓄積が進められてきており、近代的な商品経済の確立に伴う各製品に対する樹種選択の分化が明らかにされてきた一方で、極めて分布の限られるトガサワラやカラマツといった樹種も検出されるなど、林業技術の発達のほか、木材・木製品の広域的な流通の発達が想定されてきた。またその他にも森林資源の潤滑、経済状況などや、消費側の嗜好性、工人など生産側の要求などが複雑に影響していることが考えられる。今後、本遺跡のような地方におけるデータの蓄積がさらに進み対比がなされることで、これらが明確にされていくことが期待される。また、近世も時代が下ると、都市部での職人による手工業生産のみならず、地方の農村においても農民による手工的生産が展開してくるとされ、その樹種構成を調査することはこうした一端を明確にする手がかりとなるかもしれない。

引用文献

- 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1988)「上越新幹線開通埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集 三ツ寺I遺跡：古墳時代前期の調査」
 バリノ・サウヴェイ株式会社(1986)渋川市教育委員会(編)「開越自動車道(新開越)地域埋蔵文化財発掘調査報告書(KC-Ⅲ) 中村遺跡」
 榎根久(1992)二之宮千足遺跡出土の樹種、群馬県埋蔵文化財調査事業団(編)「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(自然科学・分析編) 二之宮千足遺跡」
 榎根久・鈴木茂(1993)元総社寺田遺跡出土材の樹種構成と周辺植生、群馬県埋蔵文化財調査事業団(編)「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第167集 元総社寺田遺跡II(本誌編)」
 鈴木三男・渡嶋修一(1986)新保遺跡出土加工木の樹種、群馬県埋蔵文化財調査事業団(編)「一開越自動車道(新開越)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第10集 新保遺跡I 弥生・古墳時代大溝編」

表1：出土木製品の樹種構成リスト

遺跡名	調査区	遺構	品名	樹種構成	木取り	検出番号
西横手遺跡群	B区	2号井戸	第1層-上	椀	ブナ類 (アカシハス等4種*)	第187番-14
	B区	2号井戸	第2層下	棒	アスナロ	第185番の1層-1
	A区	1号穴(穴遺構)	第1層	板	スギ	第289番-6
	A区	1号穴(穴遺構)	第1層	棒(標準)	ガマズミ属	第289番-8
	A区	1号穴(穴遺構)	第1層	棒(標準)	ブナ属	第289番-3
	A区	1号井戸	第1層	曲物(椀)	ヒノキ	第282番-1層4
	A区	3号井戸	第1層	棒	スギ	第283番-3層10
	A区	3号井戸	第1層	棒	ハンノキ類	第284番-3層19
	A区	3号井戸	第1層	曲物(椀)	スギ	第284番-3層14
	A区	5号井戸	第1層	曲物(椀)	アスナロ	第285番-5層4
	A区	5号井戸	第1層	椀	スギ	第285番-4層12
	A区	5号井戸	第1層	棒	イヌシテ節	第285番-4層12
B区	8号井戸	第2層	棒(木製品)	スギ	第347番-5層1	
B区	8号井戸	第3層	板(木製品)	ヒノキ	第364番-6層3	
B区	11号溝	第2層	椀	ハンノキ類	第348番-11層2	

発掘報告書抄録

フリガナ	シュタヨコナシバガワイセキ・ニシヨコナシセキ
書名	宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群
副書名	(主) 前橋長遊線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第310集
編著者名	斉藤利昭
編集機関	(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発行年月日	西暦2003年3月26日

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
宿横手三波川遺跡	高崎市宿横手町	10202	10005-00489	36°19'24"	139°04'50"	19961101-19990331	7,900㎡	道路建設
西横手遺跡群	高崎市西横手町	10202	10005-00899	36°19'07"	139°04'34"	19970107-19981225	2,341㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宿横手三波川遺跡	生産	古墳時代 古代 中世・近世	水田、河川跡 水田 水田・溝、土坑、墓坑、道跡、館跡、	土師器・須恵器 陶磁器、石製品 金属製品、木器	浅間山・榛名山の両山の火山噴火による噴火火山灰及び泥流に埋もれた古墳時代以降の水田4面と中世における利根川の氾濫洪水に埋もれた水田を検出した。
西横手遺跡群	生産	古墳時代 古代 中・近世	水田 土坑、溝 井戸、溝、掘立柱建物	土師器甕・坏 須恵器坏	同上。古墳時代以降の水田跡が4面。中・近世の水田及びその他の遺構を多数検出。

写 真 图 版



1. A区第1面全景



2. A区第2面全景



1. A区第3面全景



2. A区第4面全景



1. A区第5面全景



2. A区第1面近景



3. A区第1面耕作痕



4. A区第2面1号溝



5. A区第2面1号溝断面



1. A区第2面2号溝



2. A区第2面ビット群



3. A区第2面耕作痕



4. A区第2面島状遺構



5. A区第3面1号土坑



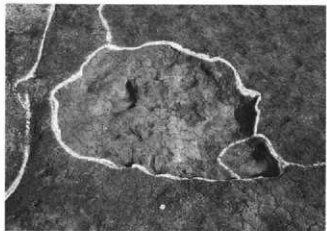
6. A区第3面2号土坑



7. A区第3面3号土坑



8. A区第3面4号土坑



1. A区第3面5号土坑



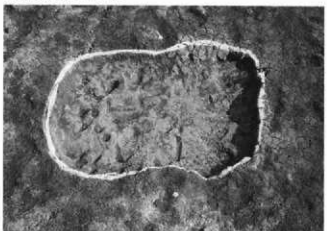
2. A区第3面6号土坑



3. A区第3面7号土坑



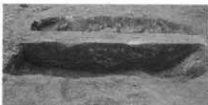
4. A区第3面8号土坑



5. A区第3面9号土坑



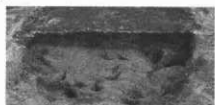
6. A区第3面10号土坑



7. A区第3面1号土坑断面



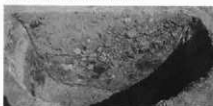
8. A区第3面3号土坑断面



9. A区第3面4号土坑断面



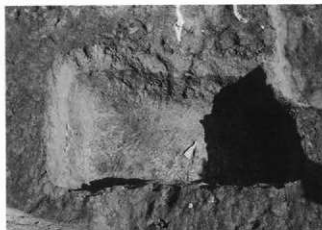
10. A区第3面5号土坑断面



11. A区第3面6号土坑断面



12. A区第3面8号土坑断面



1. A区第3面11号土坑



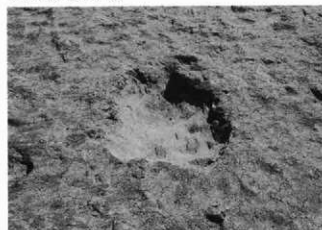
2. A区第3面12号土坑



3. A区第3面13号土坑



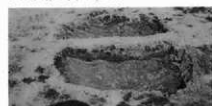
4. A区第3面14号土坑



5. A区第3面15号土坑



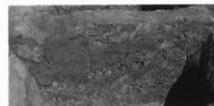
6. A区第3面16号土坑



7. A区第3面9号土坑断面



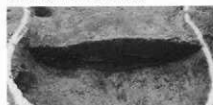
8. A区第3面10号土坑断面



9. A区第3面11号土坑断面



10. A区第3面12号土坑断面



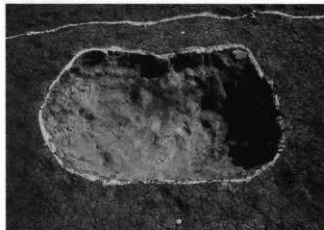
11. A区第3面14号土坑断面



12. A区第3面16号土坑断面



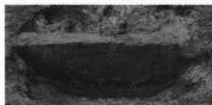
1. A区第3面17号土坑



2. A区第3面18号土坑



3. A区第3面17号土坑断面



4. A区第3面18号土坑断面



5. A区第3面27号土坑断面



6. A区第3面近景



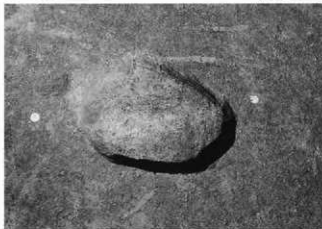
7. A区第3面水田畦畔水口



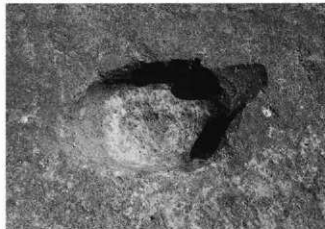
8. A区第4面水田近景



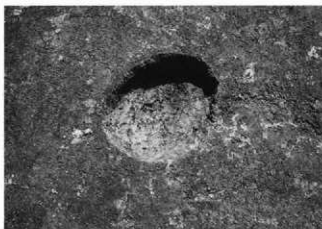
9. A区第4面水田区画



1. A区第4面19号土坑



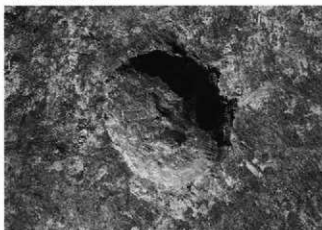
2. A区第4面20号土坑



3. A区第4面21号土坑



4. A区第4面22号土坑



5. A区第4面23号土坑



6. A区第4面24号土坑



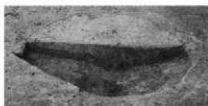
7. A区第4面19号土坑断面



8. A区第4面20号土坑断面



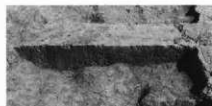
9. A区第4面21号土坑断面



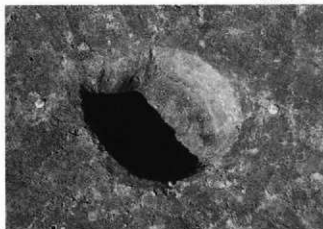
10. A区第4面22号土坑断面



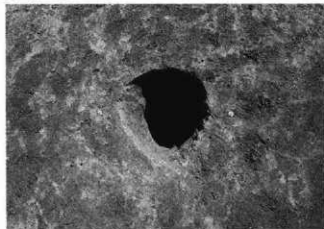
11. A区第4面23号土坑断面



12. A区第4面24号土坑断面



1. A区第4面25号土坑



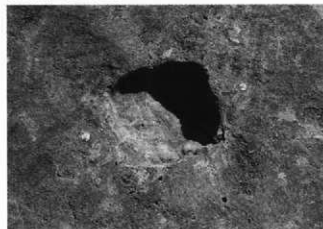
2. A区第4面26号土坑



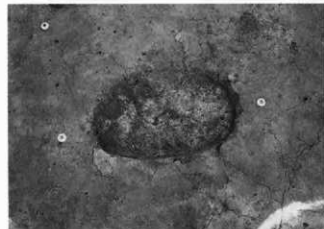
3. A区第4面28号土坑



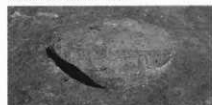
4. A区第4面29号土坑



5. A区第4面30号土坑



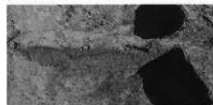
6. A区第4面31号土坑



7. A区第4面25号土坑断面



8. A区第4面26号土坑断面



9. A区第4面28号土坑断面



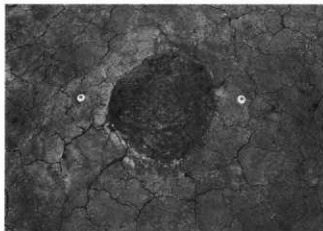
10. A区第4面30号土坑断面



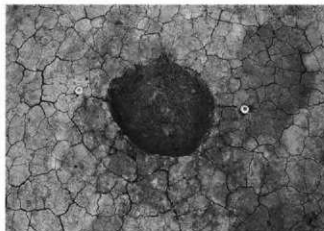
11. A区第4面31号土坑断面



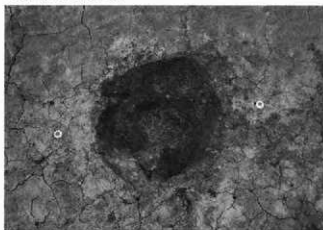
12. A区第4面32号土坑断面



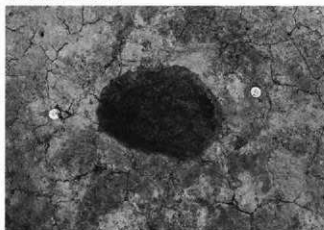
1. A区第4面32号土坑



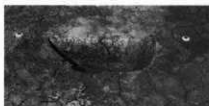
2. A区第4面33号土坑



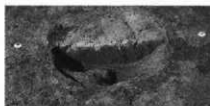
3. A区第4面34号土坑



4. A区第4面35号土坑



5. A区第4面33号土坑断面



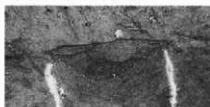
6. A区第4面34号土坑断面



7. A区第4面35号土坑断面



8. A区第4面3号溝断面



9. A区第4面4号溝断面



10. A区第4面7号溝断面



11. A区第4面3号溝



12. A区第4面4号溝



1. A区第4面6号溝



2. A区第4面7号溝



3. A区第4面7号～9号溝



4. A区第4面10号～12号溝



5. A区第4面13号～17号溝



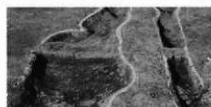
6. A区第4面18号溝



7. A区第4面10号溝断面



8. A区第4面11号溝断面



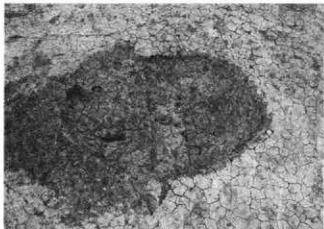
9. A区第4面13号・14号溝断面



10. A区第4面19号溝断面



11. A区第4面20号溝断面



1. A区第5面37号土坑



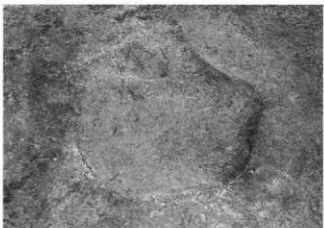
2. A区第5面38号土坑



3. A区第5面39号土坑



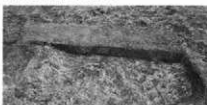
4. A区第5面40号土坑



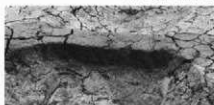
5. A区第5面41号土坑



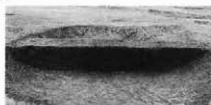
6. A区第5面42号土坑



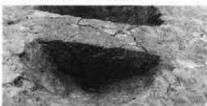
7. A区第5面38号土坑断面



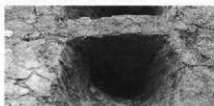
8. A区第5面40号土坑断面



9. A区第5面41号土坑断面



10. A区第5面42号土坑断面



11. A区第5面43号土坑断面



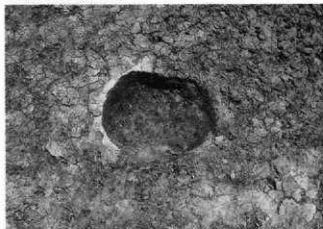
1. A区第5面43号土坑



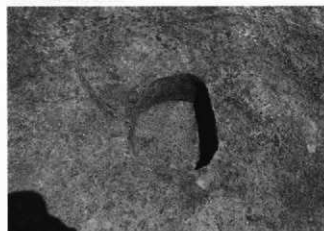
2. A区第5面45号土坑



3. A区第5面46号土坑



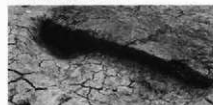
4. A区第5面47号土坑



5. A区第5面48号土坑



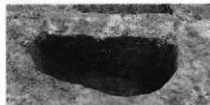
6. A区第4面19号・20号溝



7. A区第5面45号土坑断面



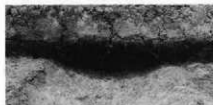
8. A区第5面47号土坑断面



9. A区第5面48号土坑断面



10. A区第4面21号溝断面



11. A区第5面22号溝断面



12. A区第5面22号・34号溝断面



1. A区第5面22号・32号・33号溝



2. A区第5面23号・24号溝



3. A区第5面25号溝



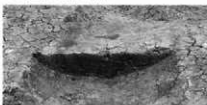
4. A区第5面26号溝



5. A区第5面27号溝



6. A区第5面28号溝



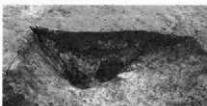
7. A区第5面25号溝断面



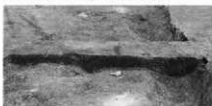
8. A区第5面25号・26号溝断面



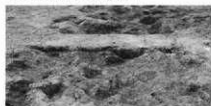
9. A区第5面26号溝断面



10. A区第5面27号溝断面



11. A区第5面27号・28号溝断面



12. A区第5面30号溝断面



1. A区第5面29号溝



2. A区第5面31号溝



3. A区第5面34号・53号溝



4. A区第5面35号溝



5. A区第5面37号溝



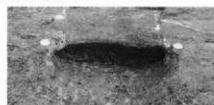
6. A区第5面37号溝中ビット列



7. A区第5面31号溝断面



8. A区第5面32号溝断面



9. A区第5面33号溝断面



10. A区第5面34号・44号溝断面



11. A区第5面36号・37号溝断面



12. A区第5面37号溝断面



1. A区第5面39号・40号溝



2. A区第5面42号・52号溝



3. A区第5面43号溝



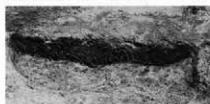
4. A区第5面44号溝



5. A区第5面46号・52号溝



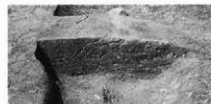
6. A区第5面47号溝



7. A区第5面38号・39号溝断面



8. A区第5面40号溝断面



9. A区第5面41号溝断面



10. A区第5面42号溝断面



11. A区第5面42号溝・39号土坑断面



12. A区第5面43号溝断面



1. A区第5面48号溝



2. A区第5面49号溝



3. A区第5面50号・55号・56号溝



4. A区第5面51号溝



5. A区第5面52号溝遺物出土状況



6. A区第5面52号溝遺物出土状況



7. A区第5面54号溝



8. A区第5面55号溝



1.8区第1面全景



2.8区第2面全景



1. B区第3面全景



2. B区第4面全景



1. B区第1面耕作痕



2. B区第1面耕作痕



3. B区第2面北壁断面



4. B区第3面近景



5. B区第3面近景



6. B区第3面水路状遺構



7. B区第3面1号土坑



8. B区第3面2号土坑



1. B区第3面3号土坑



2. B区第3面4号土坑



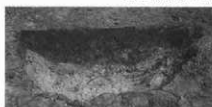
3. B区第3面6号土坑



4. B区第3面7号土坑



5. B区第3面1号土坑断面



6. B区第3面2号土坑断面



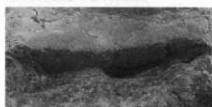
7. B区第3面4号土坑断面



8. B区第3面5号土坑断面



9. B区第3面6号土坑断面



10. B区第3面7号土坑断面



11. B区第4面近景



12. B区第4面8号土坑



1. C区第1面全景



2. C区第2面全景



1.C区第4面全景



2.C区第5面全景



1.C区第6面全景



2.C区第7面全景



1.C区第1面1号溝



2.C区第1面2号溝



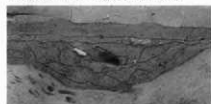
3.C区第1面3号溝



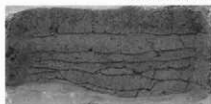
5.C区第1面4号溝



4.C区第1面4号溝遺物出土状況



6.C区第1面1号溝断面



7.C区第1面2号溝断面



8.C区第1面3号溝断面



9.C区第1面5号溝断面



10.C区第1面6号溝断面



11.C区第1面7号溝断面



1.C区第1面5号溝



2.C区第1面6号溝



3.C区第1面6号溝遺物出土状況



4.C区第1面7号溝



5.C区第1面8号溝



6.C区第1面1号土坑



7.C区第1面1号土坑断面



8.C区第2面近景



1.C区第2面畦畔



2.C区第2面畦畔



3.C区第2面5号水田水口



4.C区第2面畦畔断面



5.C区第2面扇状遺構



6.C区第2面10号溝



7.C区第2面11号溝



8.C区第2面12号溝



9.C区第2面13号溝



1.C区第2面14号・15号溝



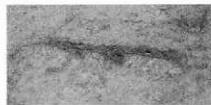
2.C区第2面16号溝



3.C区第2面10号溝断面



4.C区第2面11号溝断面



5.C区第2面12号溝断面



6.C区第2面14号溝断面



7.C区第2面15号溝断面



8.C区第2面16号溝断面



9.C区第2面2号土坑



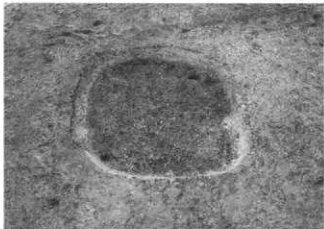
10.C区第2面3号土坑



11.C区第3面4号土坑



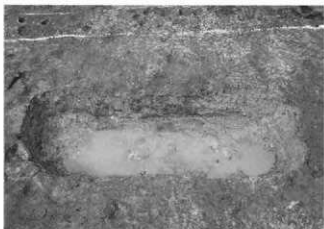
12.C区第3面5号土坑



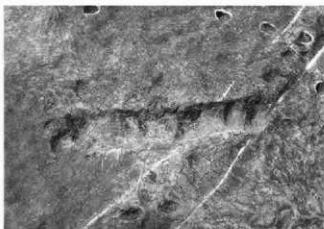
1.C区第3面6号土坑



2.C区第3面7号土坑



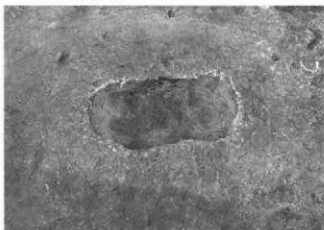
3.C区第3面8号土坑



4.C区第3面10号土坑



5.C区第3面11号土坑



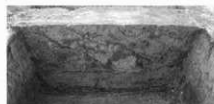
6.C区第3面12号土坑



7.C区第2面2号土坑断面



8.C区第2面3号土坑断面



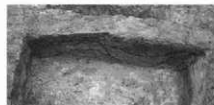
9.C区第3面4号土坑断面



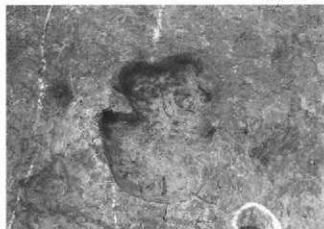
10.C区第3面5号土坑断面



11.C区第3面6号土坑断面



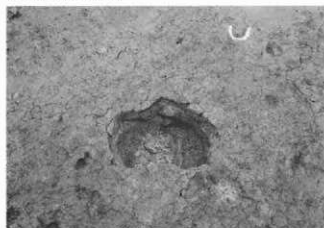
12.C区第3面7号土坑断面



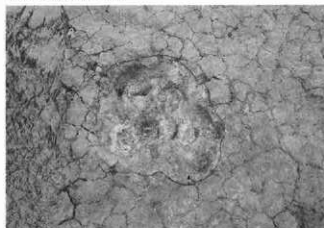
1. C区第3面13号土坑



2. C区第3面14号土坑



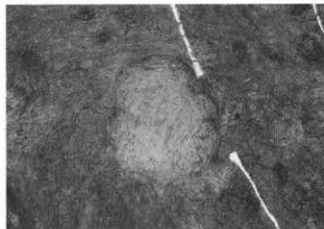
3. C区第3面15号土坑



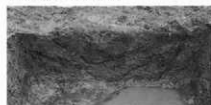
4. C区第3面16号土坑



5. C区第3面17号土坑



6. C区第3面18号土坑



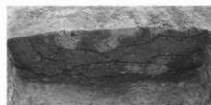
7. C区第3面8号土坑断面



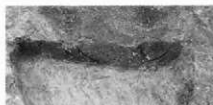
8. C区第3面9号土坑断面



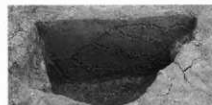
9. C区第3面11号土坑断面



10. C区第3面12号土坑断面



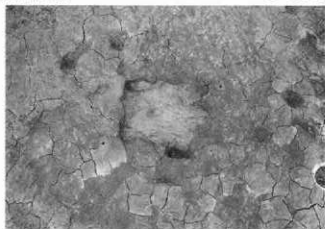
11. C区第3面13号土坑断面



12. C区第3面15号土坑断面



1. C区第3面19号土坑



2. C区第3面20号土坑



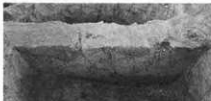
3. C区第2面29号土坑



4. C区第3面17号土坑断面



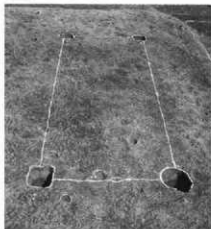
5. C区第3面18号土坑断面



6. C区第3面19号土坑断面



7. C区第2面29号土坑断面



8. C区第3面1号掘立柱建物



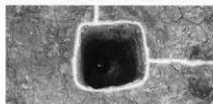
9. C区第3面1号掘立柱建物柱穴断面



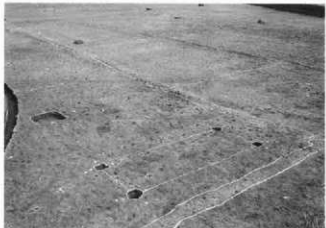
10. C区第3面1号掘立柱建物柱穴断面



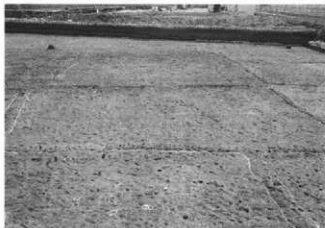
11. C区第3面1号掘立柱建物柱穴



12. C区第3面1号掘立柱建物柱穴



13. C区第4面全景



14. C区第4面全景



1.C区第4面円形隆起部



2.C区第4面畦畔検出状況



3.C区第4面畦畔



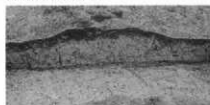
4.C区第4面畦畔



5.C区第4面畦畔



6.C区第4面水田水口



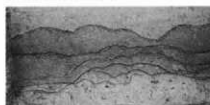
7.C区第4面畦畔断面



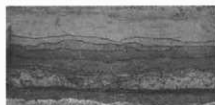
8.C区第4面畦畔断面



9.C区第4面畦畔断面



10.C区第4面畦畔断面



11.C区第4面17号溝断面



12.C区第4面17号溝断面



1. C区第5面水田



2. C区第5面水田近景



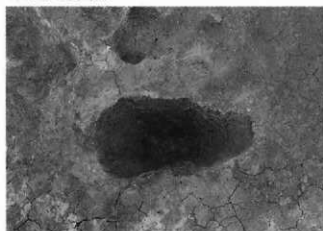
3. C区第5面19号溝



4. C区第5面20号溝



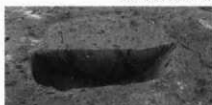
5. C区第5面21号土坑



6. C区第5面22号土坑



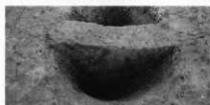
7. C区第5面19号溝断面



8. C区第5面21号土坑断面



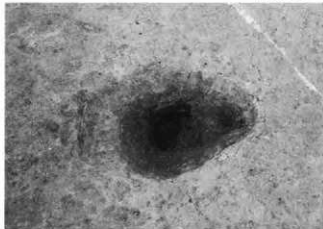
9. C区第5面22号土坑断面



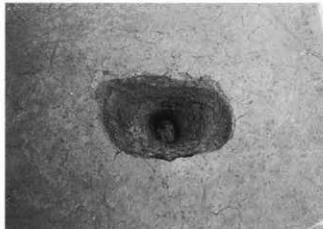
10. C区第5面23号土坑断面



11. C区第5面24号土坑断面



1.C区第6面23号土坑



2.C区第6面24号土坑



3.C区第6面水田



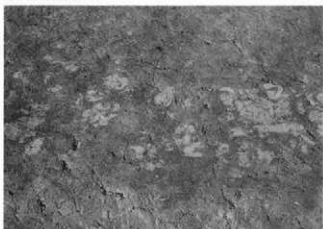
4.C区第6面水田



5.C区第6面大畦畔



6.C区第6面水田表面Hr-FA貫入状況



7.C区第6面踏み込まれた牛跡痕



8.C区第6面踏み込まれた牛跡痕



1. C区第6面大畦畔断面



2. C区第6面大畦畔断面



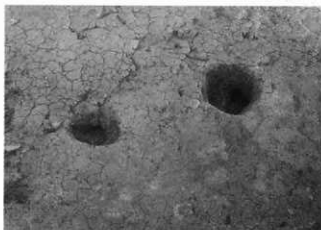
3. C区第6面大畦畔断面



4. C区第7面26号土坑断面



5. C区第6面25号土坑断面



6. C区第6面25号土坑・26号ビット



7. C区第7面上層溝群



8. C区第7面上層22号溝



9. C区第7面上層23号溝



10. C区第7面上層24号溝



11. C区第7面上層25号溝



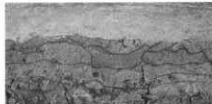
12. C区第7面上層26号溝



1. C区第6面21号溝断面



2. C区第7面上層22号溝断面



3. C区第7面上層23号溝断面



4. C区第7面上層24号溝断面



5. C区第7面上層25号溝断面



6. C区第7面上層27号溝1号トレンチ断面



7. C区第7面上層27号溝8号トレンチ断面



8. C区第7面上層27号溝断面



9. C区第7面上層29号溝断面



10. C区第7面上層31号溝断面



11. C区第7面上層27号溝



12. C区第7面上層29号溝



13. C区第7面上層30号溝



14. C区第7面上層31号溝



1. C区第7面大溝南側



2. C区第7面32号・40号~42号溝



3. C区第7面33号溝



4. C区第7面34号溝



5. C区第7面37号溝



6. C区第7面36号溝



7. C区第7面39号溝



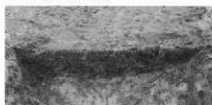
8. C区第7面38号溝



9. C区第7面42号溝遺物出土状況



10. C区第7面43号溝遺物出土状況



11. C区第7面32号溝断面



12. C区第7面38号溝断面



1. C区第7面27号土坑



2. C区第7面28号土坑



3. C区第7面下層2号トレンチ遺物出土状況



4. C区第7面下層4号トレンチ木器出土状況



5. C区第7面下層5号トレンチ遺物出土状況



6. C区第7面下層7号トレンチ遺物出土状況



7. C区第7面下層8号トレンチ遺物出土状況



8. C区第7面下層9号トレンチ遺物出土状況



1.D-1 区第1面全景



2.D-1 区第3面-1 全景



1.D-1区第4面全景



2.D-2区第4面全景



1.D-1区第7面全景



2.D-1区第8面全景



1.D-1区第1面遠景



2.D-1区第1面近景



3.D-1区第1面耕具痕



4.D-1区第1面北隅耕具痕



5.D-1区第1面1号灰掻き穴



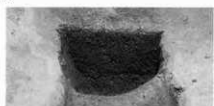
6.D-1区第1面1号溝



7.D-1区第1面1号灰掻き穴断面



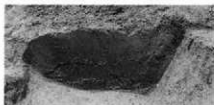
8.D-1区第1面1号灰掻き穴断面



9.D-1区第1面1号灰掻き穴断面



10.D-1区第1面1号溝断面



11.D-1区第1面2号溝断面



12.D-1区第1面3号溝断面



1.D-1区第1面1号溝



2.D-1区第1面2号溝



3.D-1区第1面3号溝



4.D-1区第1面4号溝



5.D-1区第1面5号溝



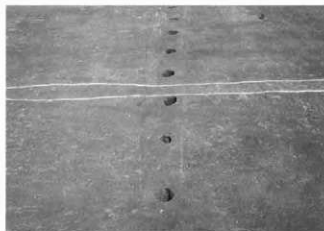
6.D-1区第1面6号溝



7.D-1区第1面7号溝



8.D-1区第1面8号溝



1.D-2区第1面1号櫛列



2.D-2区第1面畦畔



3.D-2区第1面1号・7号灰掻き穴



4.D-2区第1面2号灰掻き穴



5.D-2区第1面3号～5号灰掻き穴



6.D-2区第1面5号・6号灰掻き穴



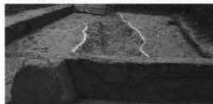
7.D-2区第1面2号溝



8.D-2区第1面3号溝



1.D-2区第1面2号溝断面



2.D-2区第1面3号溝断面



3.D-2区第1面6号溝上層断面



4.D-2区第2面-1 全景



5.D-2区第2面-1 溝及び畦畔状遺構



6.D-2区第2面-1 8号溝



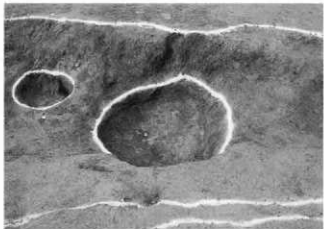
7.D-2区第2面-1 遺元面確認状況



8.D-2区第2面-2 調査区北全景



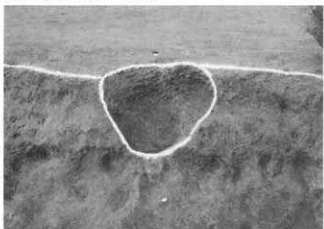
9.D-2区第2面-2 1号水溜め



1.D-2区第2面-2 1号土坑



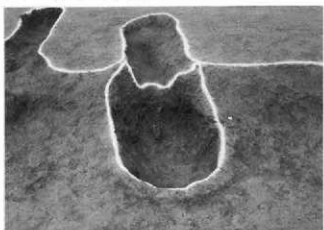
2.D-2区第2面-2 2号土坑



3.D-2区第2面-2 3号土坑



4.D-2区第2面-2 4号土坑



5.D-2区第2面-2 5号土坑



6.D-2区第2面-2 6号土坑



7.D-2区第2面-2 7号土坑



8.D-2区第2面-2 8号土坑



1.D-1区第3面-1 9号溝



2.D-1区第3面-1 10号溝



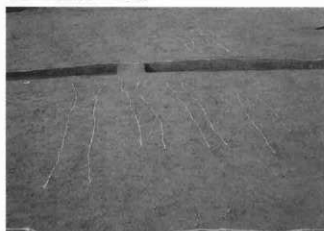
3.D-1区第3面-1 10号溝



4.D-1区第3面-1 11号溝



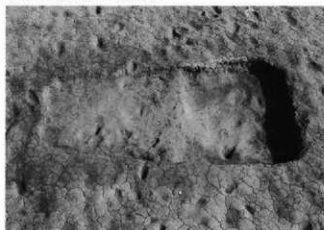
5.D-1区第3面-2 12号溝



6.D-1区第3面-1 皿状遺構



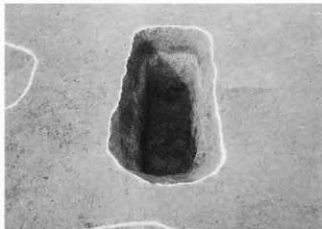
7.D-1区第3面-2 1号土坑



8.D-1区第3面-2 2号土坑



1.D-2区第3面-1 9号土坑



2.D-2区第3面-1 10号土坑



3.D-2区第3面-1 11号土坑



4.D-2区第3面-1 12号土坑



5.D-2区第3面-1 12号土坑断面



6.D-2区第3面-1 13号土坑



7.D-2区第3面-2 土坑列



8.D-2区第3面-2 14号土坑



1.D-2区第3面-2 15号土坑



2.D-2区第3面-2 16号土坑



3.D-2区第3面-2 17号土坑



4.D-2区第3面-2 道路遺構



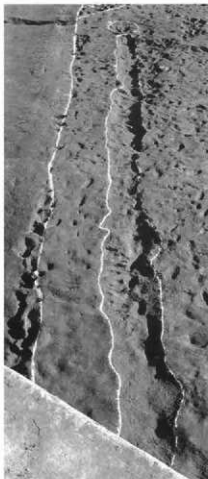
5.D-2区第3面-2 1号竈跡



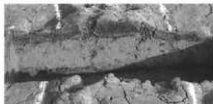
6.D-2区第3面-2 道路遺構検出状況



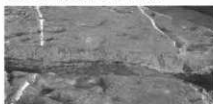
7.D-2区第3面-2 道路遺構検出状況



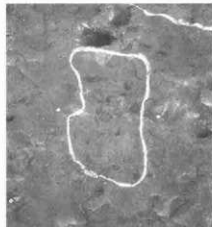
1.D-2区第3面-2 16号溝



2.D-2区第3面-2 畦畔断面



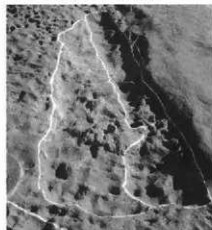
3.D-2区第3面-2 畦畔断面



4.D-2区第3面-2 19号土坑



5.D-2区第3面-2 22号土坑



6.D-2区第3面-2 土坑群



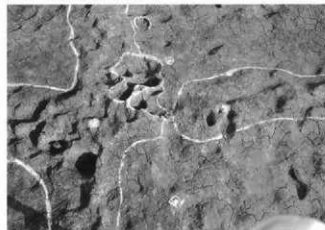
7.D-2区第3面-2 20号土坑



8.D-2区第3面-2 21号土坑



9.D-1区第4面検出状況



10.D-1区第4面2号水田水口



1.D-1区第4面道路遺構透視



2.D-2区第4面道路遺構



3.D-1区第4面道路遺構



4.D-2区第4面道路遺構



5.D-1区第4面道路遺構掘り方



6.D-1区第4面道路遺構掘り方



1.D-2区第4面道路遺構西壁



2.D-1区第4面畦畔断面



3.D-1区第4面畦畔断面



4.D-1区第4面東壁7号水田水口断面



5.D-1区第4面水田遠景



6.D-2区第4面道路遺構



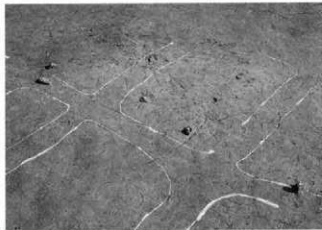
7.D-1区第4面田面検出状況



8.D-1区第4面田面検出状況



9.D-1区第5面水田



10.D-1区第5面遺物出土状況



1.D-2区第5面水田



2.D-2区第5面水田



3.D-2区第6面全景



4.D-2区第6面小区画水田



5.D-1区第7面全景



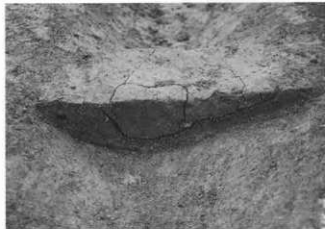
6.D-1区第7面大畦群



7.D-1区第7面牛跡跡



1.D-1区第7面13号溝



2.D-1区第7面13号溝断面



3.D-1区第7面14号溝



4.D-1区第7面15号溝



5.D-1区第7面17号溝



6.D-1区第7面3号土坑



7.D-2区第7面全景



8.D-2区第7面水田近景



1.D-2区第7面23号土坑



2.D-2区第7面24号土坑



3.D-2区第7面19号溝



4.D-2区第7面21号溝



5.D-2区第7面20号溝



6.D-2区第7面22号溝



7.D-2区第7面23号溝



8.D-2区第7面26号溝



9.D-2区第7面27号溝



10.D-2区第7面28号溝



1.D-2区第7面29号溝



2.D-2区第7面31号・32号溝・大畦畔



3.D-2区第7面30号溝



4.D-1区第7面24号溝



5.D-1区第8面19号溝



6.D-1区第8面20号溝



7.D-1区第8面21号溝



8.D-1区第8面22号溝



9.D-1区第8面23号溝 (18号溝下層)



10.D-2区第8面34号溝



1.D-2区第8面33号溝



2.D-2区第8面35号溝



3.D-2区第8面36号溝



4.D-2区第8面38号溝



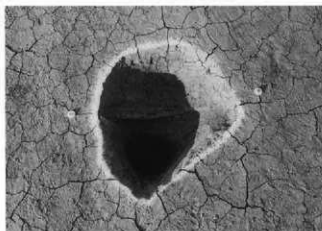
5.D-2区第8面39号溝



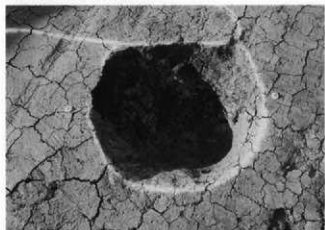
6.D-2区第8面41号溝



7.D-2区第8面40号溝



8.D-2区第8面25号土坑



9.D-2区第8面26号土坑



10.D-2区第8面27号土坑



1.E-1区第1面-1 全景



2.E-2区第2面-2 全景



1.E-1区第3面全景



2.E-2区第3面全景



1.E-1区第4面全景



2.E-2区第4面全景



1.E-1区第5面全景



2.E-2区第5面全景



1.E-2区第2面-2 全景



2.E-2区第6面全景



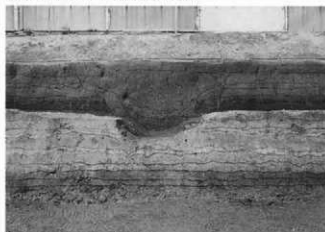
1.E-1区第1面-1 堀出土状況



2.E-1区第1面-1 堀遺物出土状況



3.E-1区第1面-1 堀北壁断面



4.E-1区第1面-1 堀断面



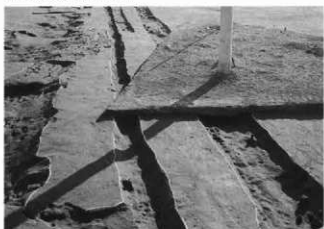
5.E-1区第1面-1 遺景



1.E-2区第1面-1 全景



2.E-2区第1面-1 1号・2号溝



3.E-2区第1面-1 1号・2号溝



4.E-2区第1面-1 5号・6号溝



5.E-2区第1面-1 1号溝断面



6.E-2区第1面-1 3号溝断面



7.E-2区第1面-1 7号溝



8.E-2区第1面-1 3号溝



1.E-2区第1面-1 4号土坑



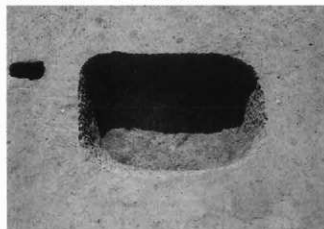
2.E-2区第1面-1 12号土坑遺物出土状況



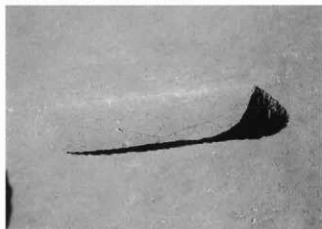
3.E-2区第1面-1 12号土坑遺物出土状況



4.E-2区第1面-1 13号・14号土坑



5.E-1区第1面-2 1号土坑



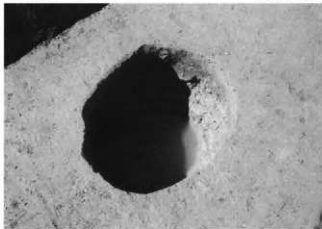
6.E-1区第1面-2 1号土坑断面



7.E-1区第1面-2 2号土坑



8.E-1区第1面-2 2号土坑断面



1.E-1区第1面-2 3号土坑



2.E-1区第1面-2 4号土坑



3.E-1区第1面-2 5号土坑



4.E-1区第1面-2 7号土坑



5.E-1区第1面-2 8号土坑



6.E-1区第1面-2 10号土坑



7.E-1区第1面-2 10号土坑断面



8.E-1区第1面-2 1号・2号溝



1.E-1区第1面-2 3号溝



2.E-1区第1面-2 4号溝



3.E-1区第1面-2 6号溝



4.E-1区第1面-2 7号・8号溝



5.E-2区第1面-2 全景



6.E-2区第1面-2 1号掘立柱建物



7.E-2区第1面-2 3号区画



8.E-2区第1面-2 4号区画



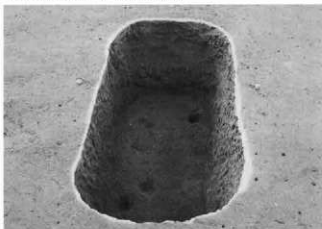
1.E-2区第1面-2 1号井戸



2.E-2区第1面-2 2号井戸断面



3.E-2区第1面-2 1号墓坑遺物出土状況



4.E-2区第1面-2 16号土坑



5.E-2区第1面-2 17号土坑



6.E-2区第1面-2 18号土坑



7.E-2区第1面-2 16号土坑断面



8.E-2区第1面-2 17号土坑断面



9.E-2区第1面-2 20号土坑断面



10.E-2区第1面-2 21号土坑断面



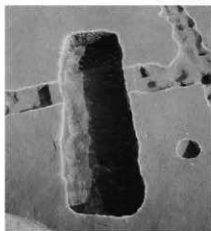
11.E-2区第1面-2 24号土坑断面



1.E-2区第1面-2 19号土坑



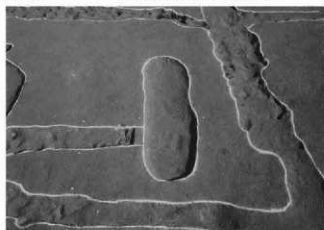
2.E-2区第1面-2 20号土坑



3.E-2区第1面-2 21号土坑



4.E-2区第1面-2 22号土坑



5.E-2区第1面-2 23号土坑



6.E-2区第1面-2 8号溝



7.E-2区第1面-2 9号溝



8.E-2区第1面-2 10号溝



9.E-2区第1面-2 11号溝



10.E-2区第1面-2 13号溝



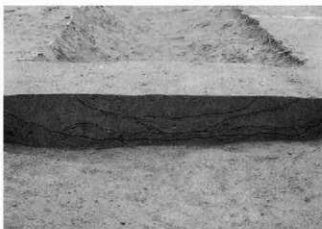
1.E-2区第1面-2 13号溝遺物出土状況



2.E-2区第1面-2 13号溝遺物出土状況



3.E-2区第1面-2 13号溝遺物出土状況



4.E-2区第1面-2 13号溝断面



5.E-2区第1面-2 14号溝



6.E-2区第1面-2 14号溝



7.E-2区第1面-2 17号溝



8.E-2区第1面-2 18号溝



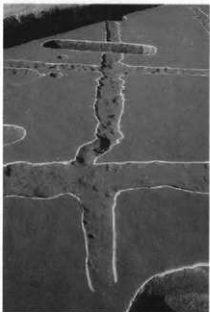
1. E-2区第1面-2 溝群



2. E-2区第1面-2 26号溝



3. E-2区第1面-2 27号溝



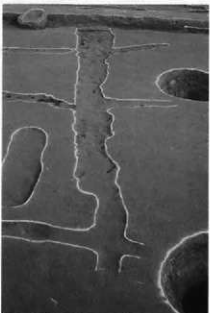
4. E-2区第1面-2 28号溝



5. E-2区第1面-2 30号溝



6. E-2区第1面-2 29号・33号溝



7. E-2区第1面-2 31号溝



8. E-2区第1面-2 25号土坑



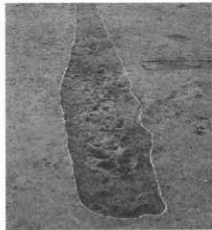
9. E-2区第2面-1 39号溝



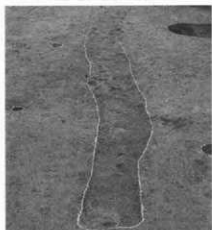
1.E-1区第2面-1 10号溝



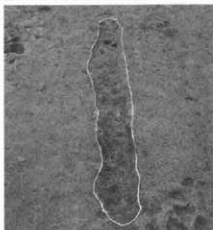
2.E-1区第2面-1 11号溝



3.E-1区第2面-1 12号溝



4.E-1区第2面-1 13号溝



5.E-1区第2面-1 14号溝



6.E-1区第2面-1 15号溝



7.E-1区第2面-1 16号溝



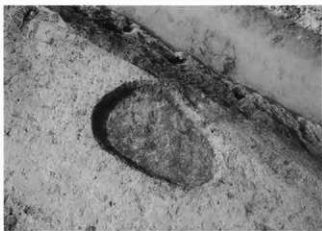
8.E-1区第2面-1 17号~19号溝



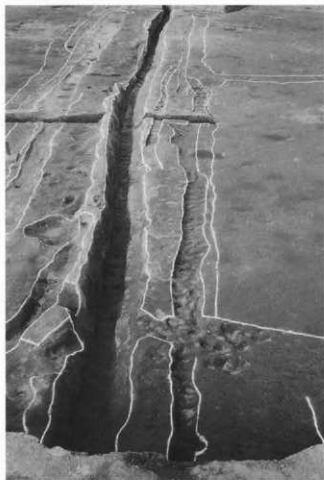
9.E-1区第2面-1 11号土坑



10.E-1区第2面-1 12号土坑



1. E-1区第2面-1 13号土坑



4. E-2区第2面-1 46号溝



2. E-2区第2面-1 43号溝



3. E-2区第2面-1 45号溝



5. E-1区第3面水田



6. E-1区第3面1号・3号畦畔



1.E-2区第3面大畦畔



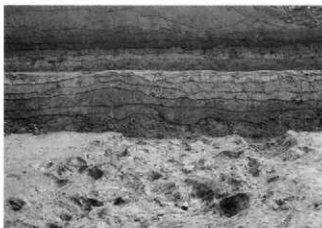
2.E-2区第3面畦畔



3.E-1区第4面水田



4.E-1区第4面2号大畦畔



5.E-1区第4面基本土層 (南壁)



6.E-1区第4面基本土層 (北壁)



7.E-2区第4面全景



8.E-2区第4面水田



1.E-2区第4面大畦畔



2.E-2区第4面水田近景



3.E-2区第4面49号溝



4.E-2区第4面大畦畔断面



5.E-1区第5面水田



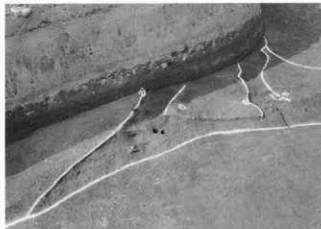
6.E-1区第5面1号大畦畔



7.E-2区第5面全景



8.E-2区第5面全景



1.E-2区第5面50号・51号溝



2.E-2区第5面遺物出土状況



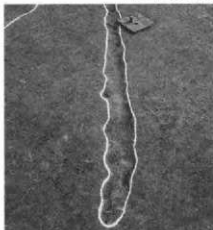
3.E-2区第6面全景



4.E-1区第6面大畦畔全景



5.E-2区第6面53号溝



6.E-2区第6面52号溝



7.E-1区第6面2号大畦畔遺物出土状況



8.E-1区第7面全景



9.E-1区第7面畦畔状遺構



1.E-1区第7面30号・31号溝



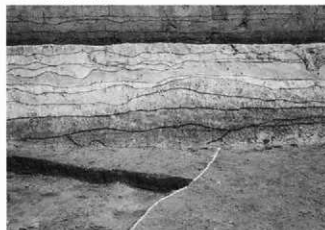
2.E-1区第8面32号溝



3.E-1区第8面全景



4.E-1区第8面32号溝遺物出土状況



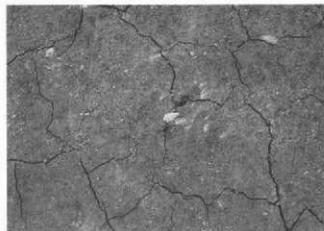
5.E-1区第8面32号溝断面



6.E-1区第8面33号・34号溝

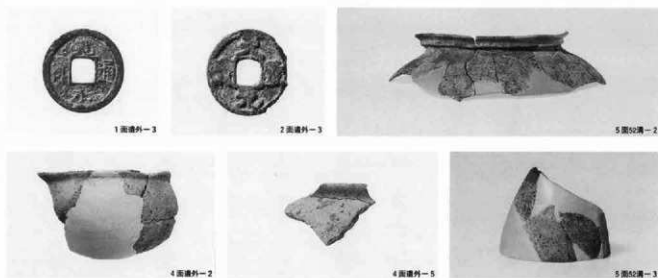


7.E-2区第8面全景

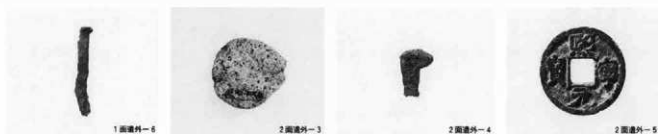


8.E-1区第8面石壁出土状況

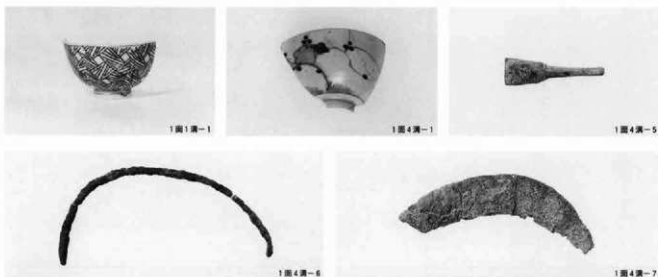
A区出土遺物



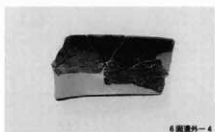
B区出土遺物



C区出土遺物









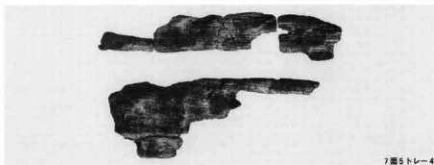
7圖5トレ-2



7圖5トレ-3



7圖5トレ-5



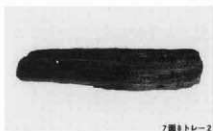
7圖5トレ-4



7圖5トレ-6



7圖7トレ-1



7圖8トレ-2



7圖8トレ-1



7圖7トレ-2



7圖9トレ-1



7圖9トレ-2



7圖9トレ-3

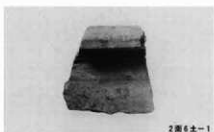


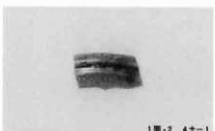
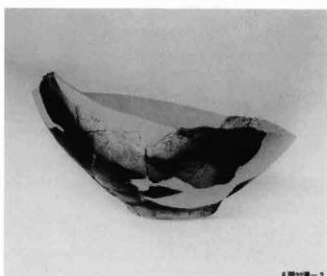
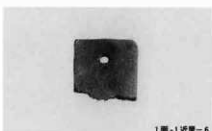
7圖9トレ-5



D-1 区出土遺物

D-2 区出土遺物

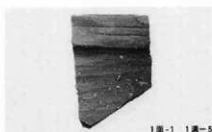


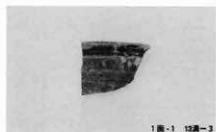


◀ E-1 区出土遺物



▼ E-2 区出土遺物





1面-1 12土-3



2面-1 40土-1



1面-1 3土-2



1面-1 5土-1



1面-1 6土-1



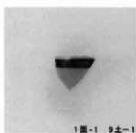
1面-1 8土-4



1面-1 9土-1



1面-1 8土-2



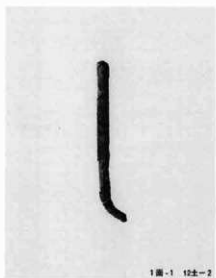
1面-1 9土-1



1面-1 9土-2



1面-1 9土-3



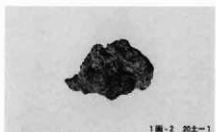
1面-1 10土-2



1面-2 20土-1



1面-2 20土-2



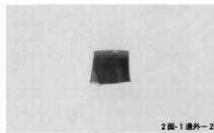
1面-2 20土-1

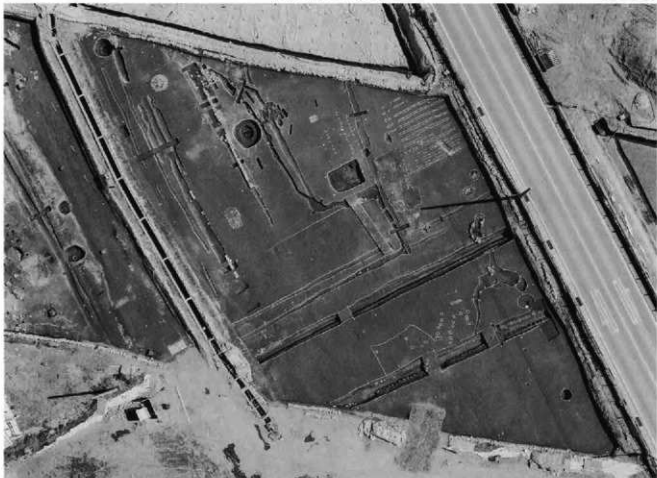


1面-2 20土-1



1面-2 20土-2

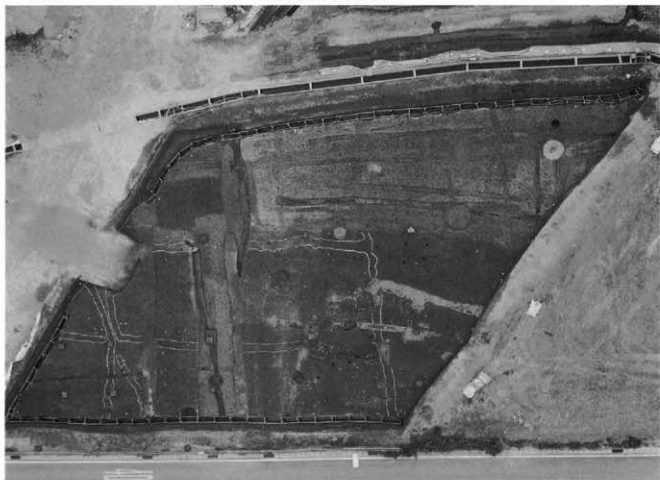




1.A区第1面全景



2.A区第2面全景



1.A区第3面全景



2.A区第4面全景



1. A区第1面1号~6号溝



2. A区第1面7号溝出土状況



3. A区第1面7号・9号溝断面



4. A区第1面7号溝・7号土坑



5. A区第1面7号溝断面



6. A区第1面11号溝断面



7. A区第1面8号溝



8. A区第1面9号・10号溝



9. A区第1面11号溝



1. A区第1面12号溝



2. A区第1面12号溝



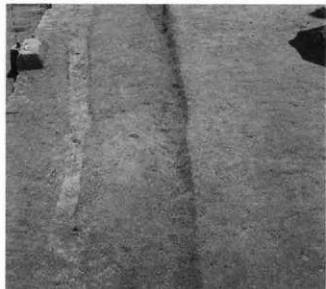
3. A区第1面13号溝



4. A区第1面12号溝断面



5. A区第1面15号溝断面



7. A区第1面16号溝(8号溝掘り方)



6. A区第1面14号溝



8. A区第1面14号溝遺物出土状況



9. A区第1面14号溝



1. A区第1面1号暗渠



2. A区第1面1号暗渠



3. A区第1面1号竖穴状遺構遺物出土状況



4. A区第1面1号竖穴状遺構



5. A区第1面1号竖穴状遺構断面



6. A区第1面1号竖穴状遺構遺物出土状況



7. A区第1面池状遺構



8. A区第1面池状遺構断面



1. A区第1面1号井戸



2. A区第1面1号井戸



3. A区第1面1号井戸断面



4. A区第1面2号井戸



5. A区第1面3号井戸



6. A区第1面4号井戸



7. A区第1面5号井戸



8. A区第1面6号井戸



1. A区第1面1号火葬跡



2. A区第1面1号火葬跡断面



3. A区第1面1号土坑



4. A区第1面2号土坑



5. A区第1面3号土坑



6. A区第1面5号・4号土坑及び遺物出土状況



7. A区第1面4号・5号土坑



8. A区第1面6号土坑



1. A区第1面1号土坑断面



2. A区第1面2号土坑断面



3. A区第1面3号土坑断面



4. A区第1面6号土坑断面



5. A区第1面8号土坑断面



6. A区第1面9号土坑断面



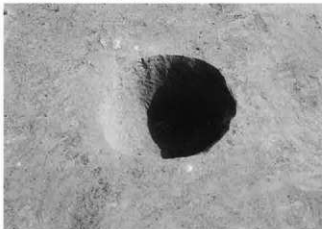
7. A区第1面7号土坑



8. A区第1面7号土坑遺物出土状況



9. A区第1面8号土坑



10. A区第1面9号土坑



11. A区第1面10号土坑



1.A区第1面畚状遺構



2.A区第1面畚状遺構



3.A区第1面27号ピット



4.A区第2面耕作度



5.A区第2面柱穴群



6.A区第2面5号・6号横列



7.A区第2面ピット群



8.A区第2面全景



1. A区第2面17号溝



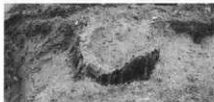
2. A区第2面18号溝



3. A区第2面19号溝



4. A区第2面18号溝断面



5. A区第2面18号溝桶出土状況



6. A区第2面19号溝遺物出土状況



7. A区第2面20号溝



8. A区第2面24号溝



9. A区第2面21号~23号溝



10. A区第2面24号溝断面



11. A区第2面25号溝断面



12. A区第2面27号溝断面



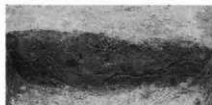
1. A区第2面25号溝



2. A区第2面27号溝



3. A区第2面28号溝



4. A区第2面28号溝断面



5. A区第2面29号溝断面



6. A区第2面30号溝断面



7. A区第2面31号・32号溝



8. A区第2面33号溝



9. A区第2面34号溝



10. A区第2面31号・32号溝断面



11. A区第2面33号溝断面



12. A区第2面36号溝



1. A区第2面35号溝



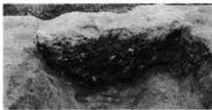
2. A区第2面37号溝



3. A区第2面38号溝



4. A区第2面37号溝断面



5. A区第2面38号溝断面



6. A区第2面39号・40号・41号・45号溝



7. A区第2面40号・41号溝



8. A区第2面42号溝



9. A区第2面43号溝



1. A区第2面44号溝



2. A区第2面46号・48号・49号溝



3. A区第2面47号溝



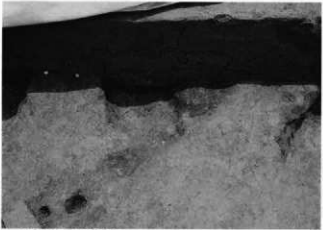
4. A区第2面46号・48号・49号溝断面



5. A区第2面12号土坑



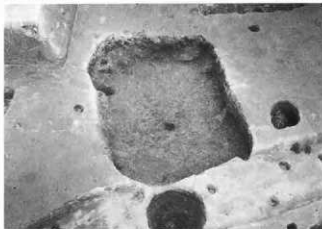
6. A区第2面60号溝



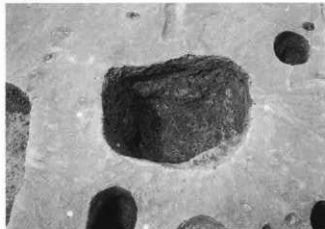
7. A区第2面13号土坑



8. A区第2面14号土坑



1. A区第2面15号土坑



2. A区第2面16号土坑



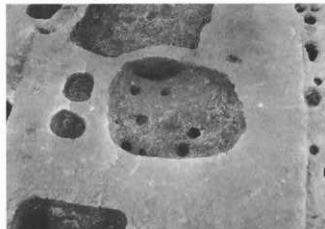
3. A区第2面17号・18号土坑



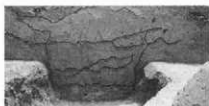
4. A区第2面19号土坑



5. A区第2面20号土坑



6. A区第2面21号土坑



7. A区第2面14号土坑断面



8. A区第2面15号土坑断面



9. A区第2面16号土坑断面



10. A区第2面17号・18号土坑断面



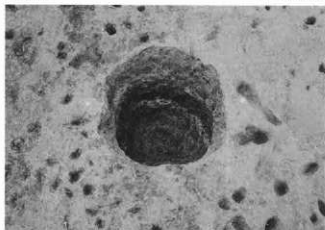
11. A区第2面19号土坑断面



12. A区第2面20号土坑断面



1. A区第2面22号土坑



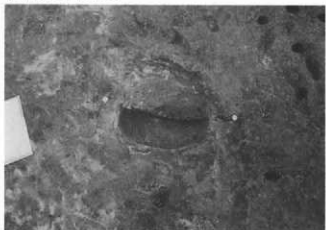
2. A区第2面23号土坑



3. A区第2面24号土坑



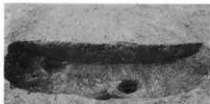
4. A区第2面25号土坑



5. A区第2面26号土坑



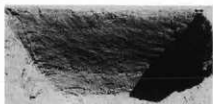
6. A区第2面27号土坑



7. A区第2面21号土坑断面



8. A区第2面22号土坑断面



9. A区第2面23号土坑断面



10. A区第2面24号土坑断面



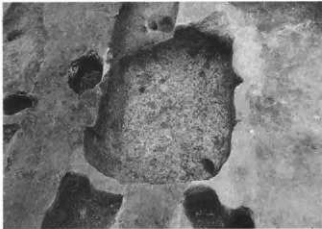
11. A区第2面25号土坑断面



12. A区第2面26号土坑断面



1. A区第2面29号土坑



2. A区第2面30号土坑



3. A区第2面31号土坑



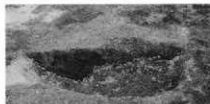
4. A区第2面32号土坑



5. A区第2面33号土坑



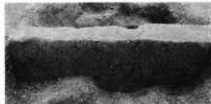
6. A区第2面34号土坑



7. A区第2面27号土坑断面



8. A区第2面30号土坑断面



9. A区第2面31号土坑断面



10. A区第2面32号土坑断面



11. A区第2面33号土坑断面



12. A区第2面34号土坑断面



1. A区第2面35号土坑



2. A区第3面畦畔



3. A区第3面大畦畔断面



4. A区第3面51号溝



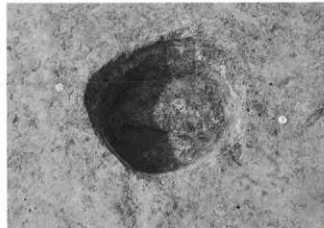
5. A区第4面52号溝



6. A区第4面53号溝



7. A区第4面54号溝



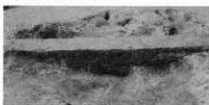
8. A区第4面38号土坑



1. A区第4面42号土坑



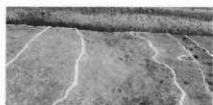
2. A区第6面全景



3. A区第4面42号土坑断面



4. A区第4面38号土坑断面



5. A区第7面55号溝



6. A区第7面57号溝



7. A区第8面58号・59号溝



8. A区第8面60号溝



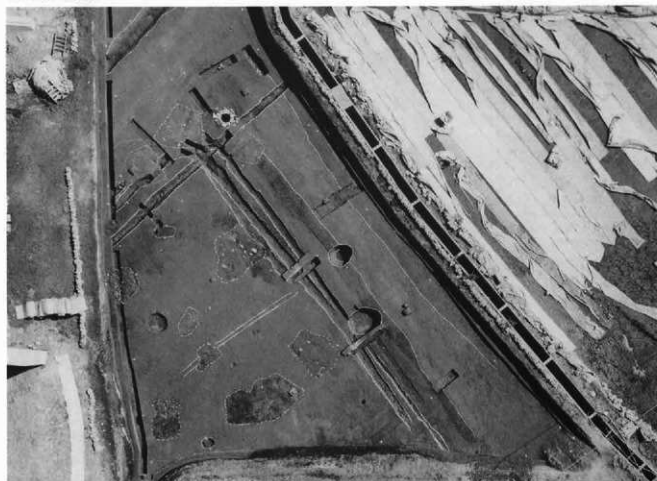
9. A区第8面61号溝



10. A区第8面62号溝



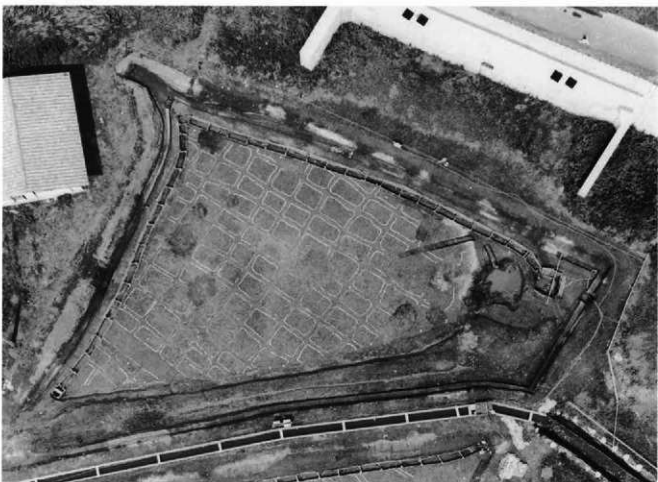
1.B区第1面全景



2.B区第2面全景



1.B区第3面全景



2.B区第4面全景



1. B区第1面全景



2. B区第1面畦畔



3. B区第1面畦畔



4. B区第1面2号土坑



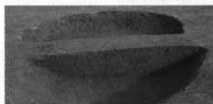
5. B区第1面3号土坑



6. B区第1面4号・5号土坑



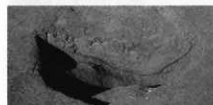
7. B区第1面2号土坑断面



8. B区第1面3号土坑断面



9. B区第1面6号土坑断面



10. B区第1面7号土坑断面



1. B区第1面6号・7号土坑



2. B区第1面9号土坑



3. B区第1面1号・2号溝



4. B区第1面1号・2号灰掻き穴断面



5. B区第1面1号・2号溝断面



6. B区第2面作業場遺構



7. B区第1面10号土坑断面



8. B区第2面11号土坑



1. B区第2面3号溝



2. B区第2面4号溝



3. B区第2面3号溝断面



4. B区第2面4号溝断面



5. B区第2面5号溝断面



6. B区第2面6号溝断面



7. B区第2面4号・7号・8号溝断面



8. B区第2面7号・8号溝断面



9. B区第2面5号溝



10. B区第2面7号・8号・10号溝



11. B区第2面7号・8号・10号溝



12. B区第2面11号溝



1. B区第2面11号溝断面



2. B区第3面全景



3. B区第3面全景



4. B区第3面馬歯出土状況



5. B区第3面12号土坑



6. B区第3面13号土坑



7. B区第1面3号井戸



8. B区第1面3号井戸遺物出土状況



1. B区第4面全景



2. B区第4面水田



3. B区第4面15号溝



4. B区第4面16号・17号溝



5. B区第5面全景



6. B区第5面18号溝



7. B区第5面19号～21号溝



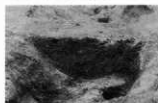
8. B区第5面22号溝



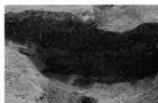
1. B区第5面23号溝



2. B区第5面24号溝



3. B区第5面23号溝断面



4. B区第5面25号溝断面



5. B区第5面25号溝



6. B区第5面26号溝



7. B区第5面14号・15号土坑



8. B区第6面全景



9. B区第6面近景



1. B区第6面大畦畔



2. B区第7面水田近景



3. B区第7面大畦畔



4. B区第7面大畦畔断面



5. B区第8面27号~29号溝



6. B区第8面27号~29号溝



7. B区第9面30号・31号溝



8. B区第9面32号溝



1. C区第1面全景



2. C区第1面1号土坑



3. C区第1面2号土坑



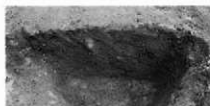
4. C区第1面3号土坑



5. C区第1面4号土坑



6. C区第1面5号土坑



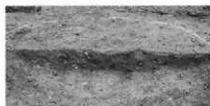
7. C区第1面1号土坑断面



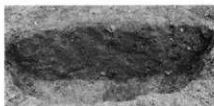
8. C区第1面6号土坑断面



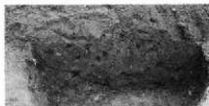
9. C区第1面7号土坑断面



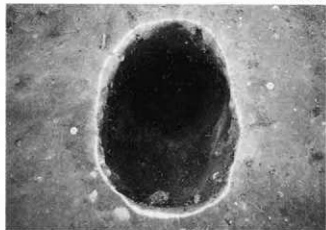
10. C区第1面8号土坑断面



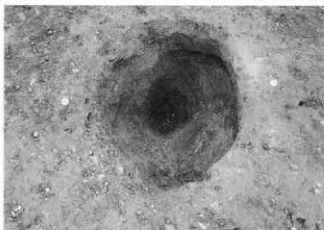
11. C区第1面9号土坑断面



12. C区第1面10号土坑断面



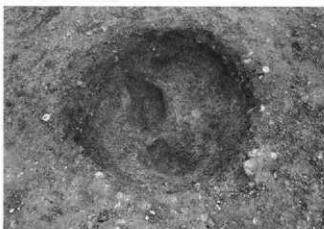
1.C区第1面6号土坑



2.C区第1面7号土坑



3.C区第1面8号土坑



4.C区第1面9号土坑



5.C区第1面10号土坑



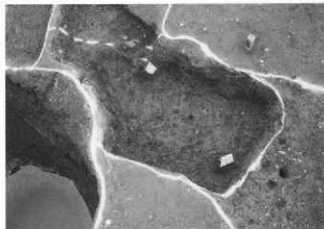
6.C区第1面12号土坑



7.C区第1面12号土坑遺物出土状況



8.C区第1面13号土坑



1.C区第1面14号土坑



2.C区第1面1号井戸



3.C区第1面2号井戸



4.C区第1面4号井戸



5.C区第1面5号井戸



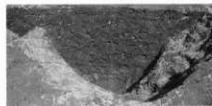
6.C区第1面6号井戸



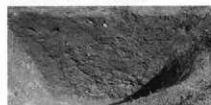
7.C区第1面12号土坑断面



8.C区第1面1号井戸断面



9.C区第1面2号井戸断面



10.C区第1面3号井戸断面



11.C区第1面4号井戸断面



12.C区第1面5号井戸断面



1.C区第1面7号井戸



2.C区第1面8号井戸



3.C区第1面9号井戸



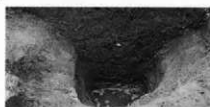
4.C区第1面10号井戸



5.C区第1面6号井戸断面



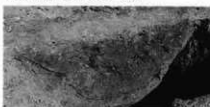
6.C区第1面7号井戸断面



7.C区第1面8号井戸断面



8.C区第1面9号井戸断面



9.C区第1面10号井戸断面



10.C区第1面1号・6号溝



11.C区第1面3号溝



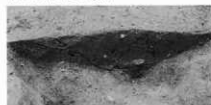
1.C区第1面4号溝



2.C区第1面7号溝



3.C区第1面8号溝



4.C区第1面1号溝断面



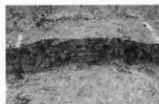
5.C区第1面2号・5号溝



6.C区第1面4号溝断面



7.C区第1面4号・8号溝断面



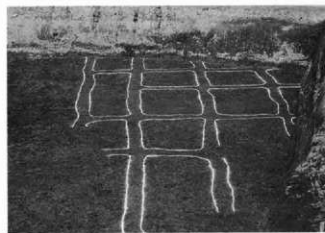
8.C区第2面大畦畔断面



9.C区第2面大畦畔



10.C区第2面全景



11.C区第2面水田



1.C区第3面全景



2.C区第3面水田近景



3.C区第3面大畦畔



4.C区第4面全景



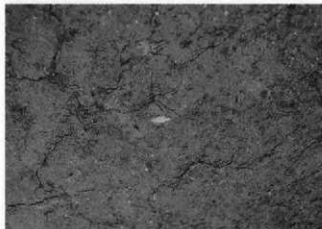
5.C区第4面近景



6.C区第4面水田面



7.C区第5面全景



8.C区第5面遺物出土状況



1図5溝-1



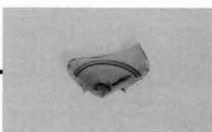
1図6溝-1



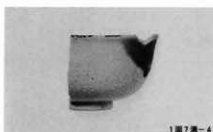
1図7溝-1



1図7溝-2



1図7溝-3



1図7溝-4



1図7溝-5



1図7溝-6



1図7溝-7



1図7溝-8



1図7溝-9



1図7-8溝-12



1図7溝-11



1図9溝-1



1図7溝-10



1図9溝-2



1図9溝-4



1図10溝-1



1図10溝-2



1図11溝-1



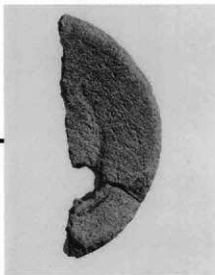
1図14溝-4

西横手遺跡群

PL121



1面14溝-5



1面14溝-6

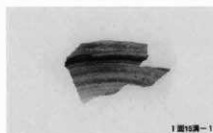


2面17溝-2

2面17溝-3



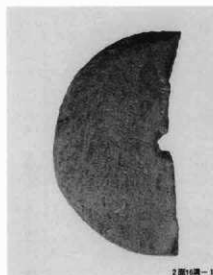
2面16溝-2



1面15溝-1



2面11溝-1



2面16溝-1



1面1溝-5



1面4土-2



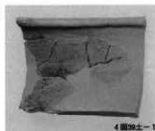
1面4土-3



2面34土-1



1面6土-2



4面30土-1



4面31土-1



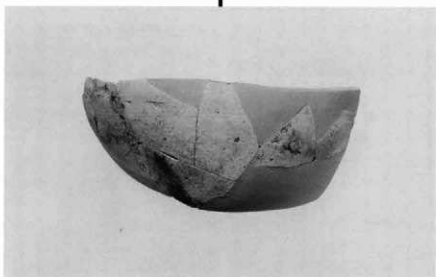
1面1溝-1



4圖41土-1



1圖2弁-1



1圖3弁-1



1圖3弁-2



1圖3弁-3



1圖3弁-4



1圖6弁-1



1圖3弁-5



1圖3弁-6



1圖3弁-7



1圖2弁-8



1圖5弁-1



1圖6并-2



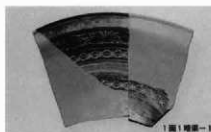
2圖8并-1



2圖8并-2



1圖地-2



1圖1地第-1



1圖1地第-2



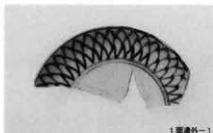
1圖1地第-3



1圖1地第-4



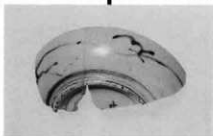
1面1層部-5



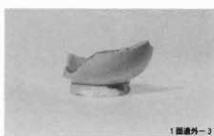
1面遺外-1



1面遺外-2



1面遺外-3



1面遺外-4



1面遺外-5



1面遺外-8



1面遺外-10



1面遺外-11



1面遺外-12



1面遺外-12



2面遺外-1



2面遺外-2



2面遺外-2



2面遺外-5



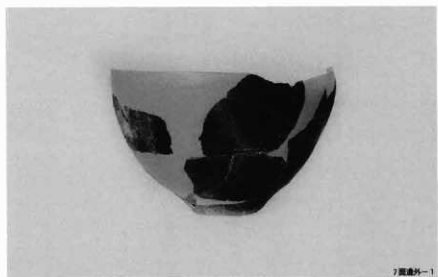
2面遺外-6



2圖遺外-7



1圖1器-3



7圖遺外-1



1圖1器-6



1圖1器-8



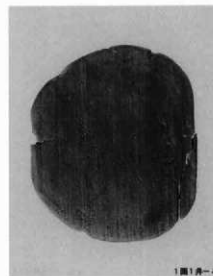
1圖1器-3



1圖1器-7



1圖3器-14



1圖1器-4



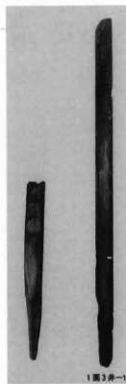
1圖3器-18



1圖3器-12



1圖3器-10



1圖3器-13



1 圖 3 井-16



1 圖 3 井-17



1 圖 3 井-18



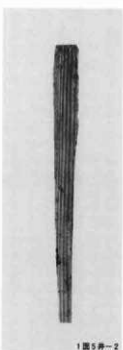
1 圖 3 井-19



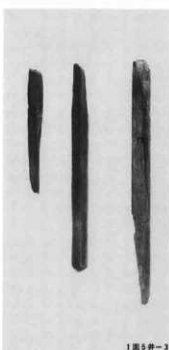
1 圖 3 井-21



1 圖 3 井-20



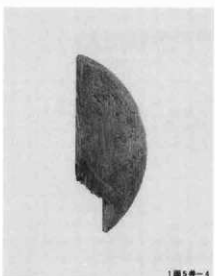
1 圖 5 井-2



1 圖 5 井-3



1 圖 7 井-5



1 圖 5 井-4



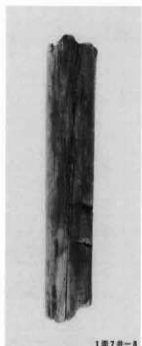
1 圖 7 井-9



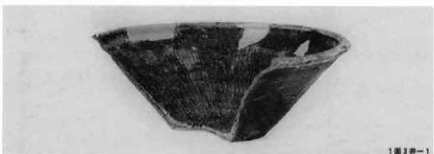
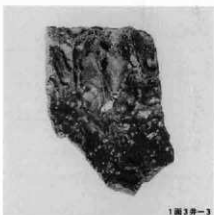
1 圖 7 井-6



1 圖 7 井-7



1 圖 7 井-8

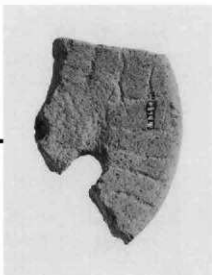




3圖6井-2



3圖6井-3



1圖遺外-6



1圖遺外-4



2圖遺外-5



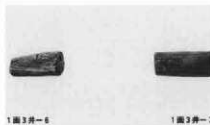
1圖1溝-2



1圖3井-5



2圖5井-1



1圖3井-6

1圖3井-7



1圖3井-10

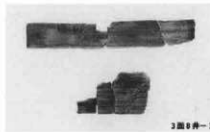
1圖3井-9



1圖3井-8



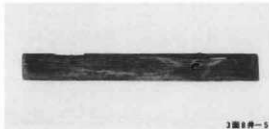
3圖6井-4



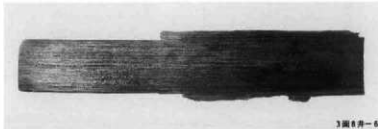
3圖8井-3



3圖8井-7



3圖8井-5



3圖8井-6



5 圖土遺



5 圖土遺



5 圖土遺



5 圖土遺



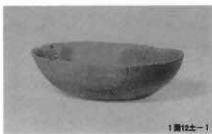
1 圖遺外-5



4 圖遺外



1 圖7 遺-1



1 圖12土-1



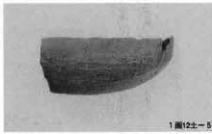
1 圖12土-2



1 圖12土-3



1 圖12土-4



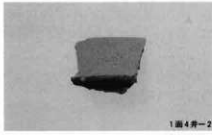
1 圖12土-5



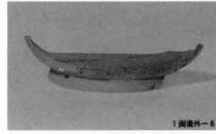
1 圖13土-1



1 圖14土-2



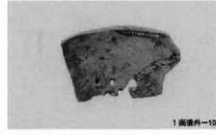
1 圖4 骨-2



1 圖遺外-6



1 圖遺外-9



1 圖遺外-10



5 圖遺外-1



1 圖遺外-11

▼C区出土遺物

群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告第310集

宿横手三波川遺跡
西横手遺跡群



平成15年(2003年)3月20日 印刷

平成15年(2003年)3月26日 発行

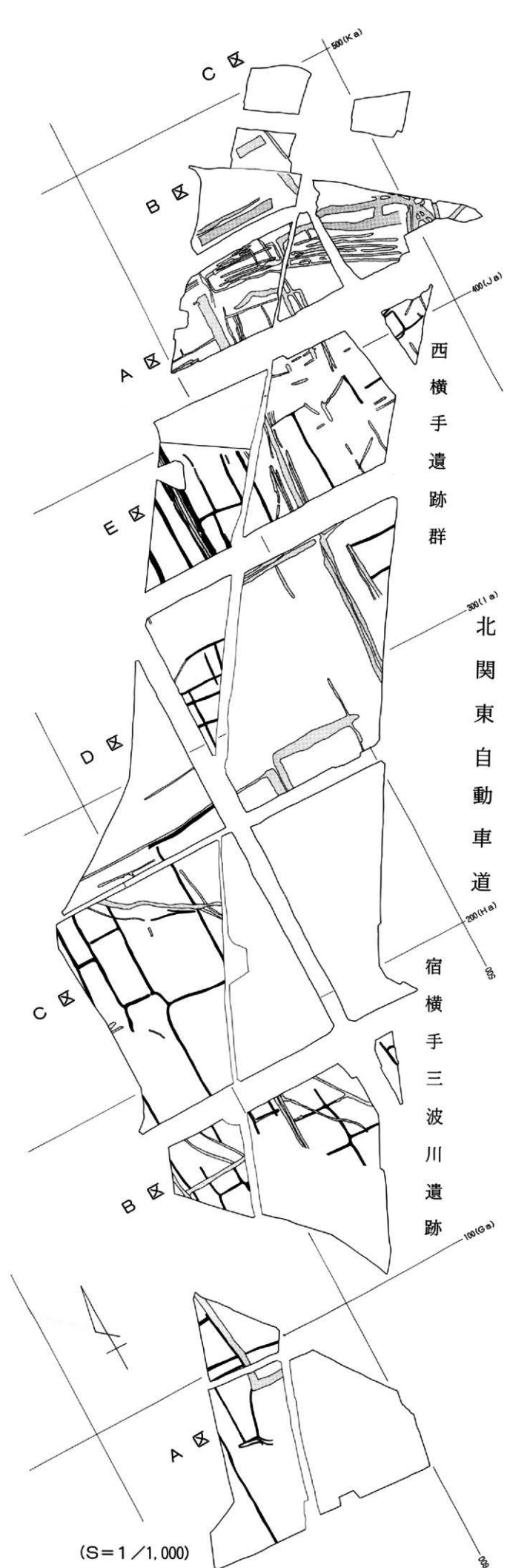
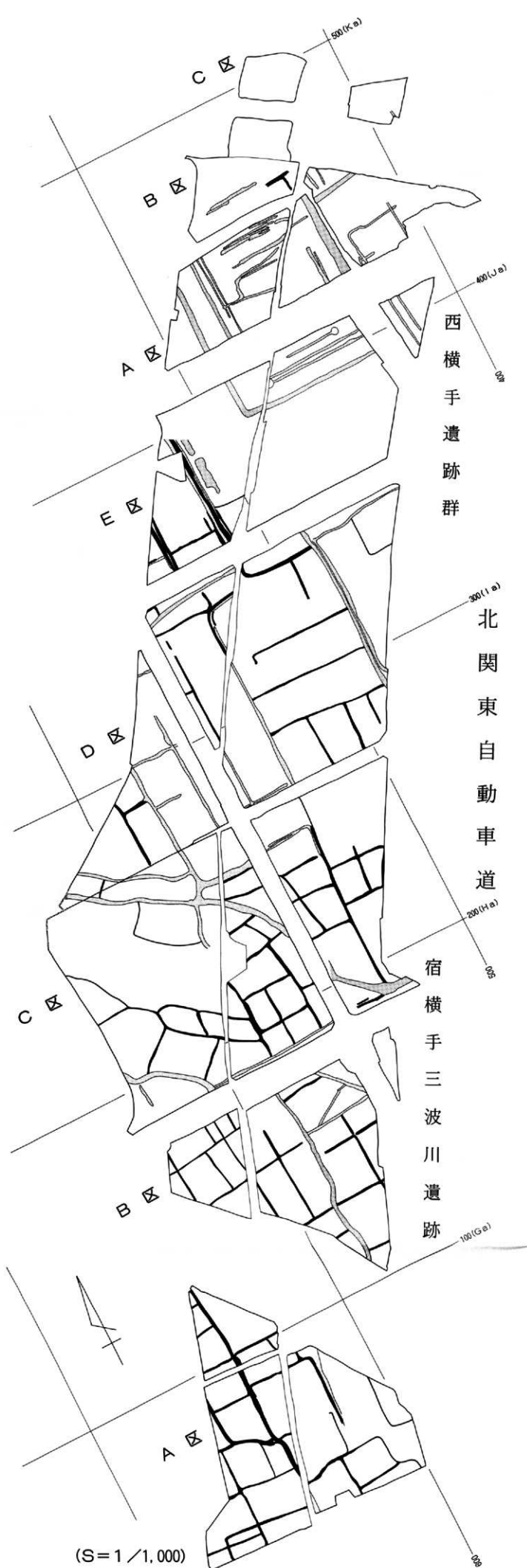
編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県勢多郡北横村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

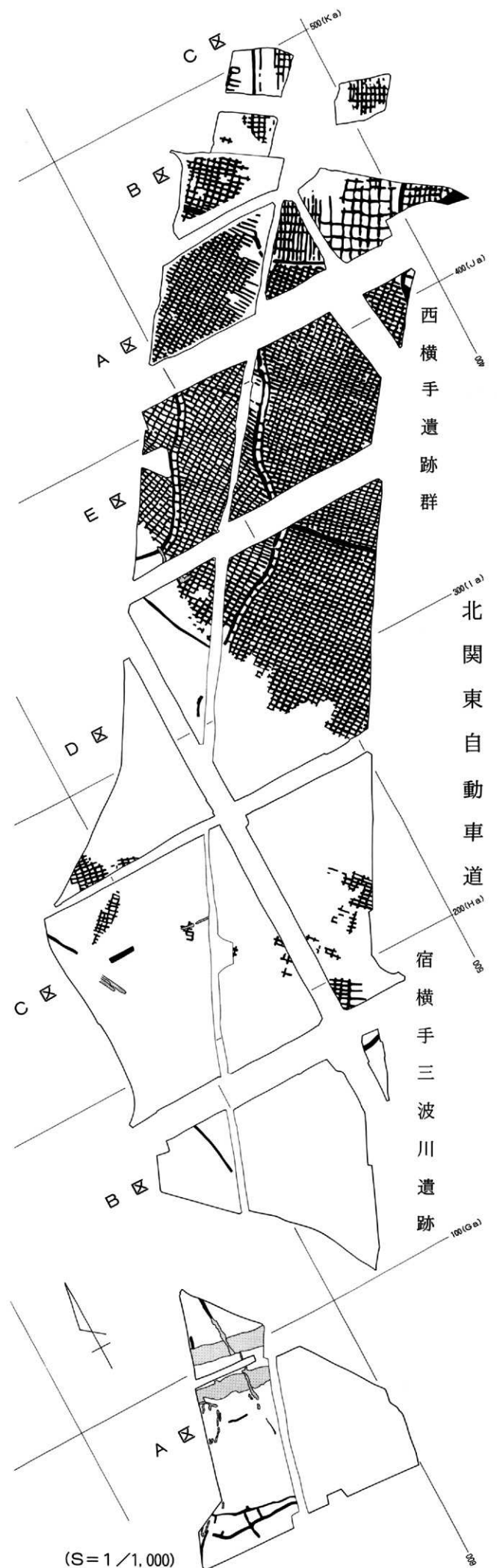
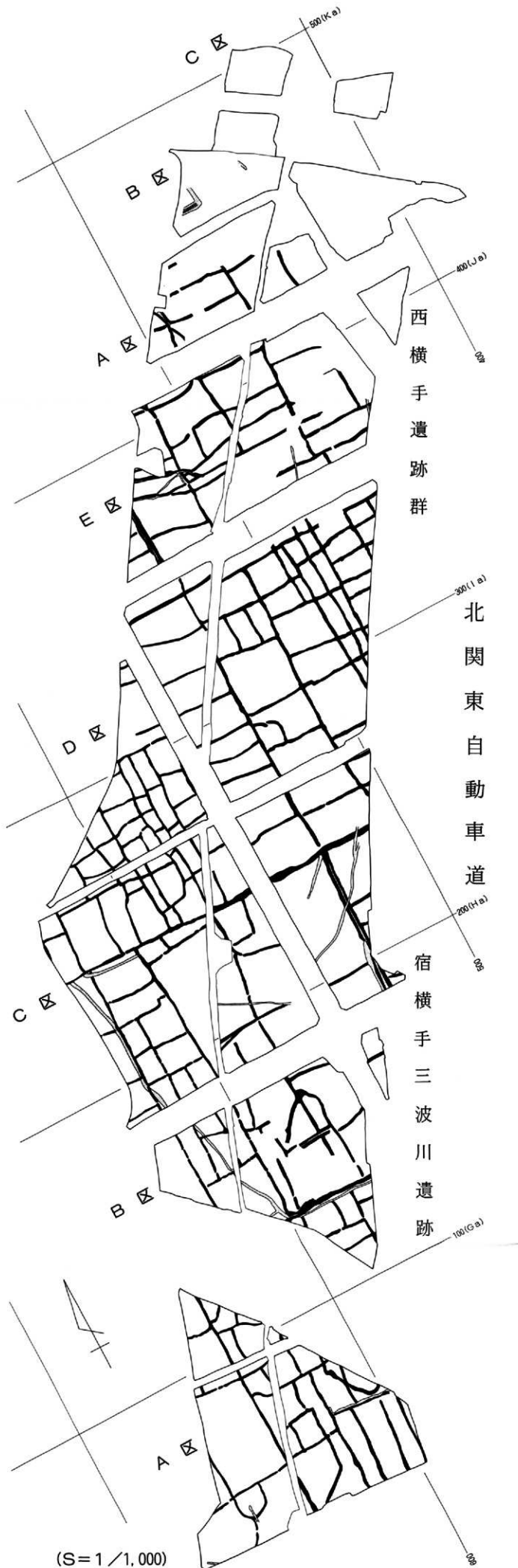
印刷／川島美術印刷株式会社



As-B混面 畦畔・溝全体図

As-B混面 畦畔・溝全体図

付図1 宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群全体図



As-B下面 畦畔・溝全体図

Hr-FP下面 畦畔・溝全体図

付図2 宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群全体図